

TIBCO FOCUS®

Db2 Web Query for i Developer Workbench 利用 ガイド

バージョン 2.3.0
January 2022



目次

1. Db2 Web Query Developer Workbench の概要	9
Developer Workbench の概要	9
Developer Workbench の機能.....	10
Db2 Web Query のアーキテクチャ.....	12
Db2 Web Query のネットワークへの統合.....	12
Db2 Web Query コンポーネント.....	12
Developer Workbench のアーキテクチャ.....	13
Db2 Web Query および Developer Workbench の処理.....	13
Developer Workbench の起動	14
2. Developer Workbench インターフェースのナビゲート	15
ファイル関連コマンドのアプリケーションメニューを開く	16
オプションダイアログボックスでのユーザ設定の指定.....	18
よく使用するコマンドへのアクセス	31
キャンバスエリアでのアプリケーションの作成	35
グラフの作成 - グラフキャンバスの使用.....	38
カスケードスタイルシートの作成 - カスケードスタイルシートキャンバスの使用.....	39
JavaScript キャンバスおよび CSS キャンバスの使用.....	39
コンポーネントコードの編集 - テキストエディタキャンバスの使用.....	39
HTML ページの作成 - HTML キャンバスの使用.....	39
レポートの作成とスタイル設定 - レポートキャンバスの使用.....	40
キャンバスのカスタマイズ.....	40
リボン形式の機能へのアクセス	42
アプリケーションの作成 - ホームタブの使用.....	43
データの管理 - データグループの使用.....	43
アプリケーションの作成 - コンテンツグループの使用.....	44
画面表示の制御 - 表示グループの使用.....	46
インターフェース外観のカスタマイズ - スタイルメニューの使用.....	47
Developer Workbench ヘルプコンテンツへのアクセス.....	47
環境ツリーパネルの使用	48

構成済み環境ツリーでのノードの表示.....	51
構成済み環境ツリーでファイルを開く.....	58
Db2 Web Query 環境へのアクセスの設定.....	58
Web コンポーネントプロパティの指定.....	62
Db2 Web Query プロパティ.....	64
データサーバプロパティ.....	65
マネージャモード.....	65
環境の詳細パネルの使用	66
ファイルとフォルダのプロパティ表示	67
ファイル/フォルダのプロパティパネルでのプロパティ値のコピー.....	68
ファイル/フォルダのプロパティパネルでのプロパティの編集.....	68
アプリケーションパスダイアログボックス.....	71
表示タブでの機能エリアの編集	72
ページレイアウトのデザイン - デザイン表示タブの使用.....	72
パラメータ値の作成と変更 - パラメータ表示タブの使用.....	72
JavaScript およびカスケードスタイルシートの作成 - JavaScript 表示タブおよび CSS 表示タブの使用.....	73
パネルのカスタマイズ	76
ハンドルの使用.....	78
3. レポートの作成	81
レポートウィザードの起動	81
4. グラフの作成	89
グラフウィザードの起動	89
ビジュアライゼーションの作成	95
5. HTML ページの作成	99
HTML/ドキュメントウィザードの起動	99
HTML ページのコンポーネントへのアクセス	101
HTML ページへのコンポーネントの挿入 - コンポーネントタブの使用.....	101
HTML ページへのレポートまたはグラフの挿入 - レポートグループの使用.....	102
HTML ページへの基本要素の追加 - 一般要素グループの使用.....	104

HTML ページへのコンテナの追加 - コンテナグループの使用.....	110
タブ、アコーディオン、ウィンドウの順序変更.....	113
HTML ページへのオブジェクトの追加 - オブジェクトグループの使用.....	115
HTML オブジェクト操作によるロード順序の変更.....	116
複数オブジェクトの DOM 表示順序のアクセシビリティサポート.....	117
HTML ページへのコントロールの挿入 - コントロールタブの使用.....	119
コントロールへのページ/検索機能の追加.....	123
HTML ページへのページ/検索コントロールの追加.....	126
コントロール値のロード順序の定義.....	128
スライダコントロールの使用.....	137
複数選択リストの使用.....	140
ブラウザセッションでのコントロール選択値の保存.....	141
ツリーコントロールの使用.....	142
HTML ページでのオブジェクトの配置 - 配置タブの使用.....	148
HTML ページでのオブジェクトの位置揃え - 配置グループの使用.....	148
HTML ページでのオブジェクト間の関係設定 - 関係グループの使用.....	150
HTML ページでのテキストの位置揃え - テキスト配列グループ.....	151
HTML ページのレスポンスデザインの有効化 - レスポンスデザイングループ の使用.....	151
HTML ページプロパティの変更 - ユーティリティタブの使用.....	151
HTML ページでのオブジェクト間の連鎖設定 - 連鎖グループの使用.....	152
HTML ページでの Analytic Document の同期 - Analytic Document グループの使用	152
HTML ページのテンプレートのロック解除 - テンプレートグループの使用.....	153
HTML キャンバスでのその他グループの使用.....	153
HTML 出力のプレビュー表示 - プレビューグループの使用.....	154
HTML ページでの各種パネルの表示 - 表示グループの使用.....	155
パラメータの使用	156
パラメータタブでの作業.....	156
未バインドパラメータの追加.....	158
値の静的リスト作成.....	161

値の動的リスト作成.....	169
フィールドへの動的値の自動挿入.....	176
静的または動的パラメータ値リストの作成.....	177
オブジェクト属性の表示.....	185
HTML オブジェクトのプロパティパネルのカスタマイズ - プロパティツールバーの使 用.....	186
HTML コンポーネントのサイズ変更 - 子要素の自動サイズ変更オプションの使用.....	187
子要素の自動サイズ変更オプションの使用.....	189
HTML キャンバスへのコンポーネントの追加.....	189
コンテナの使用.....	191
オブジェクト設定の編集.....	192
設定パネルの選択エリアの使用.....	193
タスクとアニメーションパネルの使用.....	194
タスクの実行 - タスクセクションの使用.....	195
jQuery アニメーションの実行 - jQuery アニメーションセクションの使用.....	200
リクエストとデータソースパネルの使用.....	210
ブラウザのデフォルト設定の指定.....	213
HTML キャンバスでの連鎖の設定.....	218
新規パラメータダイアログボックスによるパラメータの自動連鎖.....	218
ポップアップコントロールの作成.....	220
連鎖の区切りと行区切りの使用.....	227
パラメータタブのコントロール連鎖.....	228
複数コントロールの整列.....	229
連鎖への条件適用.....	231
HTML キャンバスページでの JavaScript コードの使用.....	238
lbComposer_removeSelectOption 関数.....	239
lbComposer_runAnimation 関数.....	240
lbComposer_triggerExecution 関数.....	240
lbComposer_getRequestRefProcedure 関数.....	242
lbComposer_getRequestTarget 関数.....	242

IbComposer_populateDynamicCtrl 関数.....	243
IbComposer_getComponentById 関数.....	244
IbComposer_getCurrentSelection 関数.....	244
IbComposer_getCurrentSelectionEx 関数.....	245
IbComposer_getClickedRow 関数.....	246
IbComposer_getClickedColumn 関数.....	246
IbComposer_getClickedCellValue 関数.....	247
IbComposer_setCurrentSelection 関数.....	247
IbComposer_setCurrentSelection2 関数.....	248
IbComposer_execute 関数.....	249
IbComposer_isSelected 関数.....	250
IbComposer_showHtmlElement 関数.....	250
IbComposer_enableHtmlElement 関数.....	251
IbComposer_ResetDownChainControls 関数.....	252
IbComposer_selectTab 関数.....	252
IbComposer_selectTemplateTab 関数.....	253
IbComposer_goToPageOfMultiPageControl 関数.....	253
IbComposer_getAllAmpersValues 関数.....	255
IbComposer_showLayer 関数.....	256
IbComposer_preventModifyIfFrameDocument 関数.....	256
IbComposer_setCalendarDatesRange 関数.....	256
IbComposer_goToPortalPage 関数.....	258
IbComposer_isSelectionRequired 関数.....	258
IbComposer_getNumberOfRecordsReturned 関数.....	259
IbComposer_doSelectionByTableRow 関数.....	260
IbComposer_loadNextGroup 関数.....	261
IbComposer_loadPrevGroup 関数.....	263
IbComposer_isCompleteReloading 関数.....	264
IbComposer_setCalendarDate 関数.....	265
IbComposer_saveSelectedFile 関数.....	266

IbComposer_loadFromSelectedFile 関数.....	267
関数 - getImageScale.....	268
イベントハンドラ.....	269
レスポンシブ Web ページの作成.....	271
レスポンシブコンテナの折り返し動作.....	271
レスポンシブページの作成方法の選択.....	274
レスポンシブテンプレートによるページの作成.....	276
レスポンシブテンプレートの理解.....	276
レスポンシブモードの HTML キャンバスでのページ作成.....	290
スマートフォン向けコンテンツの作成.....	300
モバイルレイアウト機能によるスマートフォン向け出力のデザイン.....	301
HTML ファイルでのモバイルレイアウトの有効化.....	306
ベーシックおよびアドバンスドモバイルレイアウトの使用.....	307
スマートフォンでのモバイル出力の表示.....	313
モバイルコンポーネントの CSS クラスマッピングリスト.....	314
カスケードスタイルシートクラスのマッピングリスト.....	315
6. ソース構文の編集.....	319
テキストエディタへのアクセス.....	319
テキストの検索と置換 - 検索グループの使用.....	320
ブックマークの操作 - ブックマークグループの使用.....	322
カーソルの配置 - 位置グループの使用.....	322
テキストの大文字と小文字の変換 - 大文字小文字/コメントグループの使用.....	323
テキストのフォーマット設定 - オプショングループの使用.....	324
テキストエディタステータスバーでのコンテキスト情報の表示.....	324
Legal and Third-Party Notices.....	327

1

Db2 Web Query Developer Workbench の概要

Db2 Web Query は、データアクセスおよびレポート作成を一体化した Web ベースのレポートリングシステムです。ユーザはこの製品を通じて各種データに接続することができます。Db2 Web Query は、使用するプラットフォームやデータフォーマットの種類に関係なく、あらゆる情報にアクセスして処理し、Web ブラウザを通じてユーザに情報を提供します。

企業が社内外のユーザに情報を提供する必要性が高まる中、要求されるソース数、情報量、ユーザ数が増大し、BI の継続的な進化が望まれています。従業員、顧客、サプライヤ、パートナーなどの利害関係者の増加により、洗練された BI コンテンツの要求が高まり、開発者はこの要求を満たすための強力かつ柔軟なツールを必要としています。

Db2 Web Query Developer Workbench は、高度なレポートアプリケーションを作成するための Windows ベースのグラフィカルユーザインターフェース (GUI) 環境です。Db2 Web Query Developer Workbench は、今日の業界で最も強力な BI アプリケーション開発プラットフォームです。

トピックス

- ☐ [Developer Workbench の概要](#)
- ☐ [Developer Workbench の起動](#)

Developer Workbench の概要

Developer Workbench は、業界で広く普及している Microsoft Office リボンインターフェースを基盤に開発され、ユーザ操作やワークフローが簡素化されたことで、開発者は習得に費用や時間をかけずにアプリケーションコンテンツを即座に作成することができます。また、開発者が BI アプリケーションを作成する際に複数のツールを使い分ける必要がないため、開発の効率性が大幅に向上します。

Developer Workbench には次の特長があります。

- ☐ **迅速な展開** インストールと設定を短時間で簡単に行えます。
- ☐ **使いやすさ** ユーザが使い慣れたリボン形式のインターフェースを使用します。ユーザの好みに応じてインターフェースをカスタマイズすることで、操作の効率性が高まります。

- ❑ **高い柔軟性** 特定のアプリケーションの規定を超えた adhoc クエリ (即時クエリ) を作成して展開することができます。元のデータソースは変更されないため、開発者は他のクエリに影響を与えることなく、いつでもデータ構造にディメンションを追加することができます。
- ❑ **複雑なリクエストのサポート** 他の BI 開発環境では、非常に単純なリクエストの処理を除いて複雑なコードを使用する必要がありますが、Developer Workbench では、リクエストの複雑さに関係なく、常に直観的に操作できるインターフェースであらゆるリクエストを作成することができます。

Developer Workbench では、他の大部分の開発ソリューションで見られる複雑なマルチツールパラダイムが排除され、完全に統合された単一環境で、レポート、ダッシュボード、InfoApps など、さまざまなタイプの BI アプリケーションやコンテンツをすばやく設計、作成することができます。以下はその例です。

- ❑ **表形式レポートおよび財務レポート** - 損益計算書やバランスシートなど、さまざまなタイプのレポートがあります。
- ❑ **グラフ** - すべての情報コンシューマの要求を満たす 120 種類を超える HTML5 グラフのライブラリを備えています。
- ❑ **ダッシュボード** - 単一ソースのデータや複数の異種システムのデータを視覚的に表示します。ダッシュボードは、完全なインタラクティブ機能および分析機能を備え、オンライン表示することも、切断モードでオフライン表示することもできます。
- ❑ **InfoApps** - 使用方法が極めてシンプルなフォーム駆動型 BI アプリケーションです。すべての利害関係者に情報を提供する場合や、カスタム実装や SaaS 実装の場合でも、最も効果的な方法で情報活用が可能になります。
- ❑ **モバイル BI アプリケーション** - あらゆるデバイスおよびプラットフォームで実行されます。
- ❑ **レスポンシブデザイン** - デバイスの寸法や形状に順応するデザインのため、ユーザ操作性が向上します。
- ❑ **メタデータの作成とモデル化** - マルチファクタースタースキーマ、JOIN、ビジネスビューなどを作成できます。

Developer Workbench の機能

Developer Workbench では、次のことを行えます。

データおよびデータ記述へのアクセス データ管理コンソールを使用して、新しいシノニムを作成したり、既存のシノニムを表示、編集したりできます。シノニムにより、レポートアプリケーションで使用するデータソースへのアクセスと解釈が可能になります。スキーマを視覚的にモデル化してメタデータを設計、作成する機能も備えています。

レポートアプリケーションの作成 レポートキャンバス、グラフキャンバス、HTML キャンバスでレポートプロシジャを作成します。作成可能なコンポーネントには次のものがあります。

- ❑ **レポート** データを表形式で表示します。スタンドアロンのレポートプロシジャを作成したり、レポートをドキュメントや HTML ページに挿入したりできます。
- ❑ **グラフ** データを視覚的な形式で表示します。複雑なデータでも、分かりやすい視覚的表現に変換することができます。多くの場合、視覚的表現により、情報を別の視点から捉えることが可能になります。スタンドアロンのグラフプロシジャを作成したり、グラフをドキュメントや HTML ページに挿入したりできます。
- ❑ **HTML ページ** ユーザが Web ページを開いて、データを表示、分析するための HTML ページを作成します。HTML ページには、複数のレポートやグラフのプロシジャを追加したり、データを操作するためのコントロールを追加したりできます。また、カスケードスタイルシート (CSS)、JavaScript ファイル、jQuery アニメーションを使用することで、スタイルを適用することもできます。
- ❑ **ビジュアライゼーション** データを視覚的に表現するためのグラフ、マップ、リストを作成します。複数のビジュアルをキャンバスに追加して、これらを一体化したビジュアライゼーションを作成することができます。また、作成したビジュアライゼーションは、データ要求の変化に応じていつでも更新、変更、修正することができます。

レポートアプリケーションのカスタマイズ スタイルや色を適用することでレポートアプリケーションをカスタマイズできるほか、次のコンポーネントをプロシジャに追加することもできます。

- ❑ **一時項目 (DEFINE または COMPUTE ステートメント)** データソースに格納されている実フィールドと同様に扱える一時フィールドを作成します。
- ❑ **DEFINE FUNCTION** プロシジャのコンポーネントで使用可能なユーザ関数を作成します。保存された関数は、[関数のパラメータ] ダイアログボックスから取得することができます。
- ❑ **JOIN** 2 つ以上のデータソースの関係を定義します。これにより、これらのデータソースすべてのデータをレポートで同時に使用することが可能になります。MATCH キャンバスで論理式を作成することで、複数のデータソースを統合することもできます。

Db2 Web Query のアーキテクチャ

ここでは、主要な Db2 Web Query コンポーネントと実装について簡単に説明します。Db2 Web Query についての詳細は、Db2 Web Query のマニュアルを参照してください。

Db2 Web Query のネットワークへの統合

Db2 Web Query は、Web サーバをユーザのデータに接続することにより既存のネットワークに統合されます。エンドユーザは、Web ブラウザを介して Db2 Web Query アプリケーションにアクセスするため、必要なものは次の要素のみです。

- ❑ **Web ブラウザ** ユーザが Db2 Web Query アプリケーションにアクセスするには、ブラウザと Web サーバ間の TCP/IP 接続が必要です。
- ❑ **Web サーバ** WebSphere Liberty は、ファイルをブラウザに送信したり、その他の機能を提供するプロセスを実行したりすることで、リクエストを処理します。Db2 Web Query の機能は、Java Servlet 呼び出しを使用して Web サーバに接続することで提供されます。
- ❑ **データ** Db2 Web Query では、ほとんどの場所のデータにアクセスすることができます。データアクセスの構成およびデータの記述が完了すると、そのデータからレポートを作成することができます。

Db2 Web Query コンポーネント

主要な Db2 Web Query コンポーネントは、次の 2 つです。

- ❑ **Db2 Web Query Client** Db2 Web Query Client は、Web サーバに常駐し、Java Servlet を介して Db2 Web Query を Web 環境に接続します。ユーザが Developer Workbench またはブラウザからリクエストを実行すると、Db2 Web Query Client がそのリクエストを受信して処理し、Reporting Server に転送します。
- ❑ **Db2 Web Query Reporting Server** Reporting Server は、データへのアクセスが可能なマシン上に常駐します。Reporting Server は、データアクセス、数値演算、レポート生成の機能を提供します。

Developer Workbench のアーキテクチャ

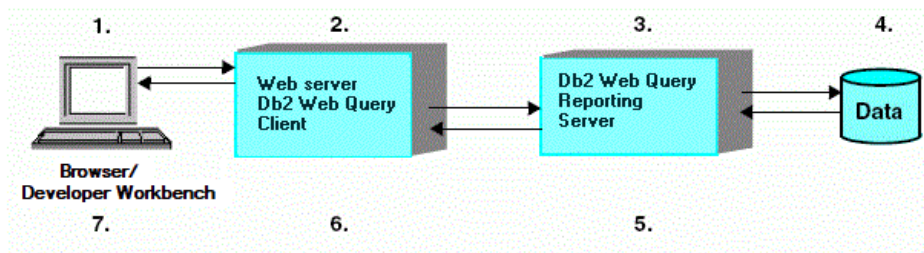
ここでは、Developer Workbench の主要コンポーネントおよび実装について簡単に説明します。

- **Developer Workbench グラフィカルユーザインターフェース (GUI)** アプリケーションの作成で使用するグラフィカルな開発機能およびコード生成機能を提供します。Developer Workbench からは、メタデータ管理またはアプリケーション作成の開始前に、Db2 Web Query 環境に接続する必要があります。

注意： Developer Workbench は、64 ビットアプリケーションです。Developer Workbench は、32 ビットのオペレーティングシステムをサポートしません。

Db2 Web Query および Developer Workbench の処理

下図は、Db2 Web Query および Developer Workbench がリクエストを処理する方法を示しています。各手順が、図の番号に対応しています。



1. ユーザは、Web ページ上のリンクやフォーム、または Developer Workbench から Db2 Web Query Servlet を呼び出すことで、リクエストとパラメータを送信します。
2. リクエストとパラメータは、Web サーバまたは Application Server 上の Client に送信されます。ここでパラメータが処理され、Db2 Web Query Reporting Server に送信するリクエストが作成されます。
3. Reporting Server は、リクエストを受信して処理し、必要なデータにアクセスします。
4. リクエストの処理に必要なデータがデータソースから取得されます。
5. Reporting Server は、取得したデータを使用してユーザからのリクエストを処理します。
6. リクエストの結果が、Web サーバまたは Application Server 上の Db2 Web Query Client に返されます。
7. リクエストの結果が、ユーザに返されます。

Developer Workbench の起動

Developer Workbench のインストール後、このアプリケーションを起動してアプリケーションの開発を開始することができます。

- ❑ [スタート] メニューから [Db2 Web Query for i] プログラムグループ、[Db2 Web Query for i Developer Workbench 82] フォルダを順に展開し、[Db2 Web Query for i Workbench] をダブルクリックします。

注意：使用するマシンで Db2 Web Query 環境がすでに構成されている場合、Developer Workbench の起動時にそれらの環境が表示されます。

2

Developer Workbench インターフェース のナビゲート

Developer Workbench は、レポート、グラフ、HTML ページを作成するための、操作が簡単なインターフェースを備えています。


Developer Workbench をはじめて起動した際は、デフォルトのインターフェースが開きます。デフォルトのインターフェースは、アプリケーションウィンドウの外観をカスタマイズしたり、インターフェースの主要コンポーネントを並び替えたりすることで変更することができます。

これらの変更は自動的に保存され、製品の次回起動時にも変更が保持されます。

トピックス

- ❑ [ファイル関連コマンドのアプリケーションメニューを開く](#)
 - ❑ [よく使用するコマンドへのアクセス](#)
 - ❑ [キャンバスエリアでのアプリケーションの作成](#)
 - ❑ [リボン形式の機能へのアクセス](#)
 - ❑ [環境ツリーパネルの使用](#)
 - ❑ [環境の詳細パネルの使用](#)
 - ❑ [ファイルとフォルダのプロパティ表示](#)
 - ❑ [表示タブでの機能エリアの編集](#)
 - ❑ [パネルのカスタマイズ](#)
-

ファイル関連コマンドのアプリケーションメニューを開く

[アプリケーション] ボタン (Developer Workbench アイコン)  をクリックすると、[アプリケーション] メニューが開き、ファイル関連のコマンドが表示されます。このメニューを使用して、作業中のドキュメントを保存、印刷することができます。[オプション] ボタンをクリックすると、[Developer Workbench オプション] ダイアログボックスが開き、ここでユーザ設定を変更することができます。[アプリケーション] メニューには、最近開いたドキュメントのリストも表示されます。[アプリケーション] ボタンは常に表示されます。このボタンは、Developer Workbench インターフェースの左上にあります。

ヒント：[アプリケーション] ボタンをダブルクリックすると、Developer Workbench が終了します。この方法で Developer Workbench を終了した場合、作業中のアプリケーションは保存されません。

[アプリケーション] メニューから、次の操作を実行することができます。

- ❑ **保存** 作業中のドキュメントを保存します。
- ❑ **名前を付けて保存** 作業中のドキュメントに新しい名前を付けて保存します。
- ❑ **すべて保存** 現在開いているドキュメントのすべてを現在の名前で保存します。ファイル名の入力を要求するプロンプトは表示されません。
- ❑ **実行** レポート、グラフ、HTML ページを実行します。[実行] メニューをクリックすると、[メッセージビューアオプション] サブメニューが開きます。

[メッセージビューアオプション] サブメニューから、レポート、グラフ、HTML ページの実行時に Developer Workbench ビューアに影響する 4 つのメッセージビューアオプションのいずれかを選択することができます。次のオプションがあります。

 - ❑ [メッセージビューアオフ] を選択してレポートを実行すると、[Developer Workbench ビューア] ウィンドウにレポートは表示されますが、メッセージは表示されません。
 - ❑ [メッセージビューアオン] を選択してレポートを実行すると、[Developer Workbench ビューア] ウィンドウにレポートとメッセージの両方が表示されます。
 - ❑ [コマンドラインの表示] を選択してレポートを実行すると、[Developer Workbench ビューア] ウィンドウにレポートとコマンドラインが表示されます。
 - ❑ [ダイアログマネージャコマンドの表示] を選択してレポートを実行すると、[Developer Workbench ビューア] ウィンドウに、レポート、ダイアログマネージャコマンド、およびその評価結果が表示されます。

- ❑ **印刷** 作業中のドキュメントを印刷します。[印刷] メニューをクリックすると、[ドキュメントのプレビューと印刷] サブメニューが表示されます。

[ドキュメントのプレビューと印刷] サブメニューから、作業中のドキュメントを現在の印刷オプションで印刷したり、印刷前にプレビューを表示したりできます。また、印刷オプションを構成することもできます。

注意：[印刷] および [クイック印刷] オプションは、コンテンツをテキストエディタで編集する場合、またはタブにテキストが含まれている場合にのみ使用できます。

- ❑ **閉じる** 作業中のドキュメントを閉じます。
- ❑ **すべて閉じる** 現在開いているドキュメントをすべて閉じます。ファイルに変更が加えられている場合、その変更を保存するかどうかの確認メッセージが表示されます。
- ❑ **オプション** [オプション] ダイアログボックスを開き、ユーザ設定を変更することができます。
- ❑ **終了** 作業中のドキュメントを閉じ、Developer Workbench を終了します。

注意

- ❑ [アプリケーション] メニューで使用する「ドキュメント」および「作業中のドキュメント」という用語には、Developer Workbench で作成可能なすべてのファイルが含まれます。
- ❑ ファイル名とプロシジャ名にブランクを含めることはできません。レポート、グラフ、HTML ページの各ウィザードまたは [名前を付けて保存] ダイアログボックスでファイル名およびプロシジャ名にブランクを含めると、そのブランクはアンダースコア () に置き換えられます。プロシジャ名にはブランクとアンダースコア () の両方を使用することはできず、スペースバーを押しても何も入力されません。ドメイン内の項目がタイトル名で表示されるよう設定されている場合でも、各ウィザード、[開く] ダイアログボックス、[名前を付けて保存] ダイアログボックスでは、ブランクを含めずに正しい名前を入力する必要があります。

参照

名前を付けて保存ダイアログボックス

[アプリケーション] メニューから [名前を付けて保存] を選択すると、[名前を付けて保存] ダイアログボックスが開きます。このダイアログボックスを使用して、ファイルを別の場所に保存したり、ファイルに別の名前を付けたりすることができます。

構成済み環境リスト

構成済み環境のリストが表示されます。さまざまな環境の中から特定の環境、開発エリア、フォルダに移動し、そのフォルダに格納されているファイル群をファイルリストに表示することができます。

ファイルリスト

選択したフォルダに格納されている、特定のタイプのファイルがすべて表示されます。

ファイル名テキストボックス

このテキストボックスに、開くファイルの名前を入力します。

注意：[Workspace] エリアで [構成済み環境] ツリーがタイトル表示に設定されている場合でも、[名前を付けて保存] ダイアログボックスではファイルの名前を入力する必要があります。

ファイルタイプドロップダウンリスト

ファイルタイプ別のフィルタが表示されます。

詳細表示の切り替え

ファイルリストにファイルを表示する際に、詳細表示 (例、最終更新日、サイズ) とリスト表示を切り替えます。デフォルト設定では、ファイルリストは詳細表示で表示されます。

注意：詳細表示またはリスト表示のいずれかを選択すると、次に [ファイルを開く] ダイアログボックスを開く際に、設定された表示方法が保持されます。たとえば、[ファイルを開く] ダイアログボックスをはじめて開いた際に、ファイルリストを詳細表示で表示するよう選択した場合、次に [ファイルを開く] ダイアログボックスを開く際は、ファイルリストが詳細表示で表示されます。

リフレッシュボタン

このボタンをクリックすると、利用可能なファイルのリストがリフレッシュされます。

オプションダイアログボックスでのユーザ設定の指定

[Developer Workbench オプション] ダイアログボックスでは、以下のタブを使用して特定のユーザ設定を変更し、Developer Workbench をカスタマイズすることができます。[オプション] ダイアログボックスを開くには、[アプリケーション] メニューの [オプション] をクリックします。

参照

全般タブ

[全般] タブには、Developer Workbench の起動時にメインウィンドウを最大化するオプションやその他の設定オプションが表示されます。次のオプションがあります。

新規ウィンドウオプション

オプション	説明
ウィンドウを最大化	各セッションの開始時にアプリケーションウィンドウを最大化します。

その他の設定

オプション	説明
「ようこそ」画面を表示	Developer Workbench の起動時に「ようこそ」画面を表示するかどうかを制御します。
閉じるときに確認	Developer Workbench を終了するかどうかを確認するメッセージを表示します。
最近使ったファイル数	[最近使ったファイル] リストに表示するファイル数を設定します。デフォルト値は 25 です。
Ping 間隔 (分)	現在の接続のタイムアウトを回避するためにリクエストを Web サーバまたは Application Server に送信する頻度を設定します。デフォルト値は 5 分です。
ドキュメント回復情報を保存 (分)	作業のコピーを自動保存する頻度を設定します。デフォルト値は 5 分です。

オプション	説明
すべてのメッセージボックスをリセット	すべてのメッセージボックスをデフォルトの状態に戻します。たとえば、メッセージボックスのいずれかで [今後このメッセージを表示しない] のチェックをオンにした場合、このボタンをクリックすると、すべてのメッセージボックスがデフォルトの状態に戻ります。このボタンを一度クリックすると、いずれかのメッセージボックスで [今後このメッセージを表示しない] のチェックをオンにするまで、このボタンは無効になります。
すべてのオプションをデフォルトに戻す	Developer Workbench のすべてのオプションをデフォルト設定に戻します。
デフォルトファイルエディタ	<p>ファイルエディタのオプションの一覧を表示します。以下はその例です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> Developer Workbench キャンバスで編集 <input type="checkbox"/> テキストエディタで編集 <input type="checkbox"/> Windows に登録されたツールで編集 <p>注意： [Windows に登録されたツールで編集] オプションは、アクセスするファイルタイプに Windows アプリケーションが関連付けられている場合にのみ表示されます。</p> <p>表示されるコンテキストメニューオプションと、ファイルをダブルクリックまたは右クリックしたときのデフォルト動作は、使用するファイルエディタによって決まります。</p>

オプション	説明
言語	<p>ドロップダウンリストを使用して、Developer Workbench 画面に表示されるテキストの言語を変更することができます。言語を変更した後、その変更を有効にするには、Developer Workbench を再起動する必要があります。言語のリストには、Db2 Web Query 管理コンソールの [言語の切り替え] 設定で選択された言語が表示されます。</p> <p>デフォルト設定では、[WebQuery に同期] のチェックはオンになっています。このチェックをオンにした場合、Developer Workbench と Db2 Web Query で使用される言語が、[言語] ドロップダウンリストから選択した言語で同期されます。このチェックをオフにした場合、Developer Workbench では [言語] ドロップダウンリストから選択した言語が使用され、Db2 Web Query では [環境] ダイアログボックスで選択した言語が使用されます。変更を加えた場合、その変更を有効にするには、Developer Workbench を再起動する必要があります。</p>

参照

HTML ページタブ

[HTML ページ] タブでは、HTML ページのグリッド設定、レポートとグラフのプレビュー表示の設定、シングルレイヤまたはマルチレイヤの設定、サムネールのリフレッシュ間隔の変更を行います。

注意：[Developer Workbench オプション] ダイアログボックスで [HTML ページ] の設定に変更を加えた場合 (例、グリッドの設定、プレビューの設定)、現在開いている HTML ページに変更を反映させるには、F5 キーを押して HTML ページをリフレッシュする必要があります。

次のオプションがあります。

グリッドの設定

オプション	説明
グリッドの表示	HTML ページを作成する際にグリッドを表示します。デフォルト設定で [グリッドの表示] のチェックはオンになっています。グリッドを非表示にするには、このチェックをオフにします。
グリッドに吸着	オブジェクトを配置する際に、オブジェクトが近傍のグリッドに吸着されます。デフォルト設定で [グリッドに吸着] のチェックはオンになっています。[グリッドに吸着] オプションを無効にするには、このチェックをオフにします。
幅	グリッドの幅をカスタマイズします。デフォルト値は 10 ピクセルです。
高さ	グリッドの高さをカスタマイズします。デフォルト値は 10 ピクセルです。

フォームタイプ

オプション	説明
なし	HTML ページにフォームオブジェクトを使用しません。
シングルレイヤ	HTML ページにシングルレイヤフォームを使用します。この設定がデフォルト値です。
マルチレイヤ	HTML ページにマルチレイヤフォームを使用します。
フォームの設定	[フォームの設定] ダイアログボックスを開きます。

タブ文字

オプション	説明
ブランクの挿入	Tab キーを押した際に、[タブサイズ] オプションで指定された数のブランクを挿入します。これがデフォルト設定です。
タブを保持する	Tab キーを押した際に、タブ文字を挿入します。
タブサイズ	Tab キーを押した際に挿入するブランク数を指定します。デフォルト設定は 4 です。

チェックボックス

オプション	説明
[新規パラメータ] ダイアログボックスを表示	HTML ページで [新規パラメータ] ダイアログボックスを表示するよう設定します。この設定がデフォルト値です。
デフォルトキャッシュオプション	HTML ページで [デフォルトキャッシュ] オプションを実行するよう設定します。デフォルト設定では、このオプションは選択されていません。
オブジェクトの自動整列	HTML ページで複数のオブジェクトが自動的に整列されるよう設定します。この設定がデフォルト値です。

プレビューの設定

オプション	説明
レポートとグラフのプレビュー	HTML ページを保存して展開する前に、レポートとグラフのプレビューを表示します。この設定がデフォルト値です。
サンプルデータ	HTML ページ内のレポートとグラフのプレビューが Db2 Web Query のサンプルデータに基づいて表示されます。

オプション	説明
ライブデータ	ドキュメント内のレポートとグラフのプレビューがライブデータに基づいて表示されます。この設定がデフォルト値です。
レポートの最大レコード数	レポートの最大レコード数を設定します。値の範囲は、-1 から 999 までです。デフォルト設定は 500 です。
入力コントロールの最大レコード数	入力コントロールの最大レコード数を設定します。値の範囲は、-1 から 999 までです。デフォルト設定は 10 です。
接頭語の使用	HTML ページの各レポートコンポーネントまたはグラフコンポーネントの前に接頭語が追加されます。
サムネールのリフレッシュ間隔 (秒ごと)	サムネールをリフレッシュする時間間隔を設定します。値の範囲は、0 (ゼロ) から 999 までです。デフォルト設定は 20 です。
デフォルトテーマ	HTML ページのデフォルトテーマを設定します。デフォルト値は [デフォルト] です。
HTML	HTML ページのタイプを設定します。デフォルト値は [カスタム] です。

参照

フォームの設定ダイアログボックス

下表は、[フォームの設定] ダイアログボックスに表示されるオプションの説明です。

オプション	説明
入力の左	プロンプトを入力コントロールの左側に配置します。
入力の上	プロンプトを入力コントロールの上側に配置します。この設定がデフォルト値です。

オプション	説明
プロンプトと入力の間隔	プロンプトと入力ボックスの間隔を設定します。値の範囲は、0 (ゼロ) から 99 ピクセルです。デフォルト設定は 10 ピクセルです。
コントロールの横間隔	コントロールの横間隔を設定します。値の範囲は、0 (ゼロ) から 99 ピクセルです。デフォルト設定は 10 ピクセルです。
コントロールの縦間隔	コントロールの縦間隔を設定します。値の範囲は、0 (ゼロ) から 99 ピクセルです。デフォルト設定は 10 ピクセルです。
列数	フォームオブジェクトの列数を設定します。デフォルト設定は 4 です。
スケジュールボタンの追加	<p>フォームオブジェクトにスケジュールボタンを追加します。この設定がデフォルト値です。</p> <p>スケジュールボタンは、[新規パラメータ] ダイアログボックスから挿入することもできます。</p>
ディファードボタンの追加	<p>ディファードレポートの実行を可能にします。この設定がデフォルト値です。</p> <p>ディファードボタンは、[新規パラメータ] ダイアログボックスから挿入することもできます。</p>
各連鎖を別の行に配置	複数の連鎖をそれぞれ別の行に配置します。この設定がデフォルト値です。

参照 ドキュメントタブ

[ドキュメント] タブでは、ドキュメントのグリッド設定、レポートとグラフのプレビュー表示の設定、サムネールのリフレッシュ間隔の変更を行えます。次のオプションがあります。

グリッドの設定

オプション	説明
グリッドの表示	ドキュメントを作成する際にグリッドを表示します。デフォルト設定で [グリッドの表示] のチェックはオンになっています。グリッドを非表示にするには、このチェックをオフにします。
グリッドに吸着	オブジェクトを配置する際に、オブジェクトが近傍のグリッドに吸着されます。デフォルト設定で [グリッドに吸着] のチェックはオンになっています。[グリッドに吸着] オプションを無効にするには、このチェックをオフにします。
幅	グリッドの幅をカスタマイズします。デフォルト設定は 10 ピクセルです。
高さ	グリッドの高さをカスタマイズします。デフォルト設定は 10 ピクセルです。

タブ文字

オプション	説明
ブランクの挿入	Tab キーを押した際に、[タブサイズ] オプションで指定された数のブランクを挿入します。これがデフォルト設定です。
タブを保持する	Tab キーを押した際に、タブ文字を挿入します。
タブサイズ	Tab キーを押した際に挿入するブランク数を指定します。デフォルト設定は 4 です。

プレビューの設定

オプション	説明
レポートとグラフのプレビュー	ドキュメントを保存して展開する前に、レポートとグラフのプレビューを表示します。この設定がデフォルト値です。
サンプルデータ	ドキュメント内のレポートとグラフのプレビューが Db2 Web Query のサンプルデータに基づいて表示されます。
ライブデータ	ドキュメント内のレポートとグラフのプレビューがライブデータに基づいて表示されます。この設定がデフォルト値です。
レポートの最大レコード数	レポートの最大レコード数を設定します。値の範囲は、-1 から 999 までです。デフォルト設定は 500 です。
接頭語の使用	ドキュメントの各レポートコンポーネントまたはグラフコンポーネントの前に接頭語が追加されます。
サムネールのリフレッシュ間隔 (秒ごと)	サムネールをリフレッシュする時間間隔を設定します。値の範囲は、0 (ゼロ) から 999 までです。デフォルト設定は 20 です。

参照

環境タブ

注意： 環境タブは、Db2 Web Query には適用されません。[環境] タブのオプションは、[構成済み環境] ツリーに表示する環境エリアを制御する場合に使用します。少なくとも 1 つのオプションを選択して、構成済みのすべての環境に適用する必要があります。

次のオプションがあります。

環境の設定

オプション	説明
[データサーバ] エリアを表示する	[構成済み環境] ツリーに [データサーバ] エリアを表示します。これがデフォルト設定です。

オプション	説明
[ドメイン] エリアを表示する	[構成済み環境] ツリーに [ドメイン] エリアを表示します。これがデフォルト設定です。
[Web アプリケーション] エリアを表示する	[構成済み環境] ツリーに [Web アプリケーション] エリアを表示します。これがデフォルト設定です。
[すべてのコンテンツファイルを表示] にマスターファイルを表示する	環境ツリーパネルのツールバーで [すべてのファイル] オプションを選択した場合に、マスターファイルを表示します。

参照

ヘルプの構成タブ

[ヘルプの構成] タブでは、Web ベースの Developer Workbench ヘルプシステムのパスを構成します。このタブでは、使用する環境からオンラインヘルプシステムにアクセスするための Developer Workbench ヘルプ構成情報を変更することができます。次のオプションがあります。

オプション	説明
プロトコル	プロトコルを指定します。HTTP または HTTPS のいずれかです。
ホスト	ヘルプが存在するマシンの名前を入力します。
ポート	Web サーバまたは Application Server のポート番号を入力します。
ヘルプコンテキストルート	ヘルプのホスト先となるコンテキストルートを入力します。

参照

出力ビューアの設定タブ

[出力ビューアの設定] タブでは、出力に使用するブラウザを設定したり、出力のナビゲーションオプション (新規ウィンドウで実行、同一ウィンドウで実行) を設定したりします。次のオプションがあります。

ブラウザの設定

オプション	説明
ブラウザの設定	<p>出力に使用するブラウザを選択します。</p> <p>注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ❑ [ブラウザの設定] セクションのブラウザリストには、Developer Workbench マシンにインストールされているブラウザが自動的に表示されます。 ❑ Developer Workbench で使用可能なブラウザには、Mozilla Firefox、Google Chrome、Microsoft Edge があります。Windows 10 オペレーティングシステムでは、デフォルトブラウザは Microsoft Edge です。 <p>注意：2021 年 4 月 1 日をもって、Internet Explorer のサポートは終了しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ❑ 外部ブラウザとして Microsoft Edge を使用する場合、DevWorkbench /bin フォルダに msedgedriver.exe がインストールされ、最新バージョンに更新されていることを確認してください。 ❑ このダイアログボックスを閉じる際に選択されているブラウザが、実行時に使用されるブラウザになります。
ブラウザの実行パス	<p>ブラウザの実行パスを設定します。このテキストボックスには、選択したブラウザに基づいてパスが自動的に挿入されます。</p>
Web ドライバのパス	<p>ブラウザの Web ドライバのパスを設定します。このテキストボックスには、選択したブラウザに基づいてパスが自動的に挿入されます。</p>
URL のテスト	<p>ブラウザ設定のテストに使用するテスト URL を指定します。デフォルト URL は「http://www.tibco.com」です。</p>
ブラウザ設定のテスト	<p>テスト URL を使用して、ブラウザの設定をテストします。テストに成功した場合、指定した Web ページがブラウザに表示され、成功メッセージが表示されます。テストに失敗した場合、失敗メッセージが表示されます。</p>

オプション	説明
タイムアウト	ブラウザ設定のテストに使用するタイムアウト間隔を秒単位で設定します。

ナビゲーションオプション

オプション	説明
新規ウィンドウ/タブで実行 *	出力を新しいウィンドウまたはタブで実行するように設定します。
同一ウィンドウで実行	出力を同一ウィンドウで実行するように設定します。これがデフォルト設定です。

参照

ファイル拡張子タブ

[ファイル拡張子] タブには、現在サポートされているファイル拡張子のリストが表示されます。デフォルト設定では、すべてのファイル拡張子のチェックがオンに指定されています。特定のファイルタイプがサーバから取得されないよう設定するには、そのファイル拡張子のチェックをオフにします。

注意：新しい設定を有効にするには、Developer Workbench を終了し、再起動する必要があります。

オプション	説明
ファイルタイプ	特定のファイルタイプの拡張子です。
表示	チェックをオンにすると、そのファイルタイプが Developer Workbench 全体で表示されます。

よく使用するコマンドへのアクセス

クイックアクセスツールバーには、よく使用するコマンドが配置されています。また、ツールバーをカスタマイズするオプションを使用することで、ユーザがよく使用するコマンドをツールバーに配置することもできます。下図のように、デフォルト設定でクイックアクセスツールバーに表示されるボタンは、[上書き保存]、[すべて保存]、[クイック印刷]、[元に戻す]、[やり直し]、[切り取り]、[コピー]、[貼り付け]、[実行]、[クイックアクセスツールバーのカスタマイズ] です。



注意

- ❑ [元に戻す] および [やり直し] コマンドを使用する際は、これらの操作が、各パネルで変更されたオプションや情報に反映されない場合があることに注意してください。また、同一パネルで複数のオプションを変更した後、[元に戻す] または [やり直し] コマンドを使用すると、指定された変更のすべてが 1 回の操作で元に戻ります。
- ❑ [切り取り]、[コピー]、[貼り付け] コマンドは、テキストに対して使用できるほか、HTML キャンバスおよびドキュメントキャンバス上のオブジェクトや、レポートキャンバス上のフィールドにも使用することができます。

[クイックアクセスツールバーのカスタマイズ] ボタンは、クイックアクセスツールバーの右端に下向き矢印として表示され、このボタンをクリックすると、[クイックアクセスツールバーのカスタマイズ] メニューが開きます。このメニューには、ツールバーのデフォルトコマンドのリストが表示されます。これらのコマンドのいずれかをツールバーから削除するには、そのコマンドのチェックをオフにします。また、[カスタマイズ] ダイアログボックスでコマンドをさらに追加するオプション、クイックアクセスツールバーをリボンに下に移動するオプション、リボンを非表示にするオプションもあります。

[カスタマイズ] ダイアログボックスを使用してコマンドを追加することもできます。[カスタマイズ] ダイアログボックスにアクセスするには、[クイックアクセスツールバーのカスタマイズ] メニューから [その他のコマンド] を選択します。[カスタマイズ] ダイアログボックスでは、クイックアクセスツールバーに追加または削除するコマンドを選択したり、コマンドの表示順序を変更したりできます。

クイックアクセスツールバーは常に表示されます。デフォルト設定では、クイックアクセスツールバーは Developer Workbench インターフェースの左上に表示されます。クイックアクセスツールバーをリボンの下に移動するには、下向き矢印ボタンをクリックし、[リボンの下に表示] を選択します。

参照 カスタマイズダイアログボックス

[カスタマイズ] ダイアログボックスを使用して、クイックアクセスツールバーにコマンドを追加したり、コマンドを削除したりできます。また、このダイアログボックスから [キーボードのユーザー設定] ダイアログボックスにアクセスし、よく使用する操作にキーボードショートカットを設定することで、キーボードの動作をカスタマイズすることもできます。

コマンドの選択

Developer Workbench で使用される領域のリストが表示されます。[コマンド] セクションには、選択した領域に関連するコマンドのリストが自動的に表示されます。

コマンド

Developer Workbench の特定の領域に関連するコマンドのリストです。コマンドを選択し、[追加] または [削除] ボタンを使用して、そのコマンドをクイックアクセスツールバーに追加したり、削除したりすることができます。リボンに配置されるコマンドは、アイコンとして表示されます。アイコンとして表示されず、下向き矢印のみが表示される場合、そのコマンドはコマンドグループです。アイコンとして表示され、アイコンの横に矢印が表示される場合、そのコマンドはサブメニュー付きコマンドです。クイックアクセスツールバーには、コマンド、コマンドグループ、サブメニュー付きコマンドをすべて追加することができます。

追加

[コマンド] リストで選択したコマンドをクイックアクセスツールバーに追加します。

削除

選択したコマンドをクイックアクセスツールバーから削除します。コマンドが選択されていない場合、クイックアクセスツールバーの最後のコマンドが削除されます。

上へ移動

コマンドを 1 つ上に移動し、クイックアクセスツールバーに表示される順序を変更します。

下へ移動

コマンドを 1 つ下に移動し、クイックアクセスツールバーに表示される順序を変更します。

リセット

クイックアクセスツールバーのコマンドを元の状態に戻し、デフォルトのコマンドを使用します (例、[開く]、[上書き保存]、[クイック印刷]、[実行])。

クイックアクセスツールバーをリボンの下に表示する

このチェックをオンにすると、クイックアクセスツールバーがリボンの下に表示されます。

カスタマイズ

[キーボードのカスタマイズ] ダイアログボックスを開きます。[キーボードのカスタマイズ] ダイアログボックスについての詳細は、34 ページの「[キーボードのユーザー設定ダイアログボックス](#)」を参照してください。

OK

クイックアクセスツールバーに加えた変更を適用します。

キャンセル

クイックアクセスツールバーに加えた変更を適用せずに [カスタマイズ] ダイアログボックスを閉じます。

ヘルプ

Developer Workbench ヘルプを開きます。

手順

クイックアクセスツールバーにコマンドを追加するには

クイックアクセスツールバーにコマンドを追加するには、リボン、グループ、または各コマンドを右クリックし、[クイックアクセスツールバーに追加] を選択するか、以下の手順を実行します。

1. クイックアクセスツールバー右端の下向き矢印をクリックし、[その他のコマンド] を選択します。

[カスタマイズ] ダイアログボックスが開きます。

2. [コマンドの選択] リストから、コマンドグループを選択します。
3. コマンド名を選択し、[追加] をクリックします。

選択したコマンド名がクイックアクセスツールバーのリストに表示されます。

コマンドグループまたはサブメニュー付きコマンドを選択すると、そのコマンドに関連付けられたすべてのコマンドがクイックアクセスツールバーからアクセス可能になります。

クイックアクセスツールバーのリストからコマンド名を削除するには、コマンドを選択し、[削除] をクリックします。

4. リスト内のコマンドの順序を変更するには、上下の矢印ボタンをクリックします。

この操作で、カスタマイズ後のクイックアクセスツールバーに表示されるコマンドボタンの配列も変更されます。

5. [OK] をクリックし、変更を保存します。

参照

キーボードのユーザー設定ダイアログボックス

コマンドへのキーボードショートカットを作成、編集するには、[キーボードのユーザー設定] ダイアログボックスを使用します。[キーボードのユーザー設定] ダイアログボックスにアクセスするには、クイックアクセスツールバーから [カスタマイズ] ダイアログボックスを開き、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。

分類

Developer Workbench で使用される領域のリストが表示されます。選択した領域に関連するコマンドが [コマンド] セクションに表示されます。

コマンド

Developer Workbench の特定の領域に関連するコマンドのリストです。コマンドを選択した後、そのコマンドに割り当てるキーボードショートカットを指定します。

現在のキー

選択したコマンドに割り当てられている現在のキーボードショートカットが表示されます。

割り当てるキーを押してください

選択したコマンドに割り当てるキーボードショートカットキーを押します。[割り当て] ボタンをクリックすると、指定したキーボードショートカットが、選択したコマンドの [現在のキー] リストに表示されます。

アクセラレータの設定

アクセラレータを [既定値]、[HTML ページ]、[ドキュメント] のいずれかに設定することができます。

説明

選択したコマンドの説明が表示されます。

割り当て

コマンドにキーボードマッピングを割り当てます。

削除

割り当て済みキーボードマッピングを削除します。

すべてリセット

コマンドのキーボードマッピングのすべての割り当てをリセットします。この操作を実行するかどうかの確認メッセージが表示されます。

閉じる

[キーボードのユーザー設定] ダイアログボックスを閉じ、[カスタマイズ] ダイアログボックスに戻ります。

手順

キーボードショートカットを作成するには

1. 次の手順のいずれかを実行して、[カスタマイズ] ダイアログボックスを開きます。
 - ❑ クイックアクセスツールバー右端の下向き矢印をクリックし、[その他のコマンド] を選択します。
 - ❑ リボン上またはクイックアクセスツールバー上で右クリックし、コンテキストメニューから [クイックアクセスツールバーのカスタマイズ] を選択します。
2. [カスタマイズ] ボタンをクリックします。

[キーボードのユーザー設定] ダイアログボックスが開きます。
3. [分類] リストから、ショートカットを作成するコマンドが含まれた領域を選択します。
4. [コマンド] リストからコマンドを選択します。
5. [割り当てるキーを押してください] エリアで、選択したコマンドに使用するキーの組み合わせを入力します。

ショートカットキーには、最大で 3 つのキーストロークを組み合わせることができます (例、Ctrl+Shift+R)。
6. [割り当て] をクリックします。

これで、選択したコマンドにショートカットキーが割り当てられます。
7. [閉じる] をクリックして、[キーボードのユーザー設定] ダイアログボックスを閉じます。

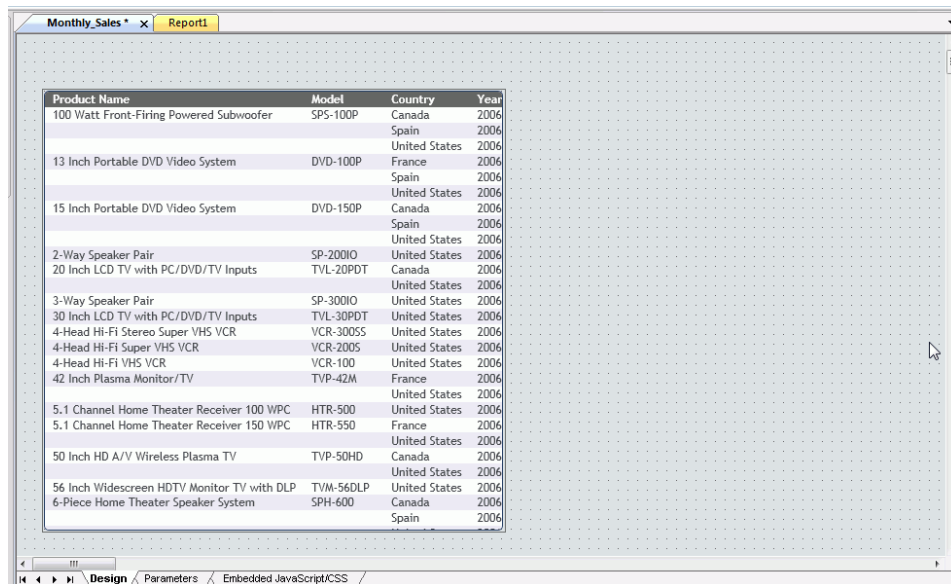
キャンバスエリアでのアプリケーションの作成

Developer Workbench の機能を使用してアプリケーションを作成するには、キャンバスエリアを使用します。キャンバスは、デザイン時のオプションを最大限に活用できるように設計されています。実行時にブラウザに表示される各要素は、それぞれの要素がキャンバスに追加された順序で、左から右、上から下に表示されます。デザイン時のキャンバスの外観を実行時のブラウザの外観と一致させることもできますが、両方の外観を一致させる必要はありません。必要に応じてキャンバス上のさまざまなエリアに要素をドラッグすることで、作業を容易にすることができます。

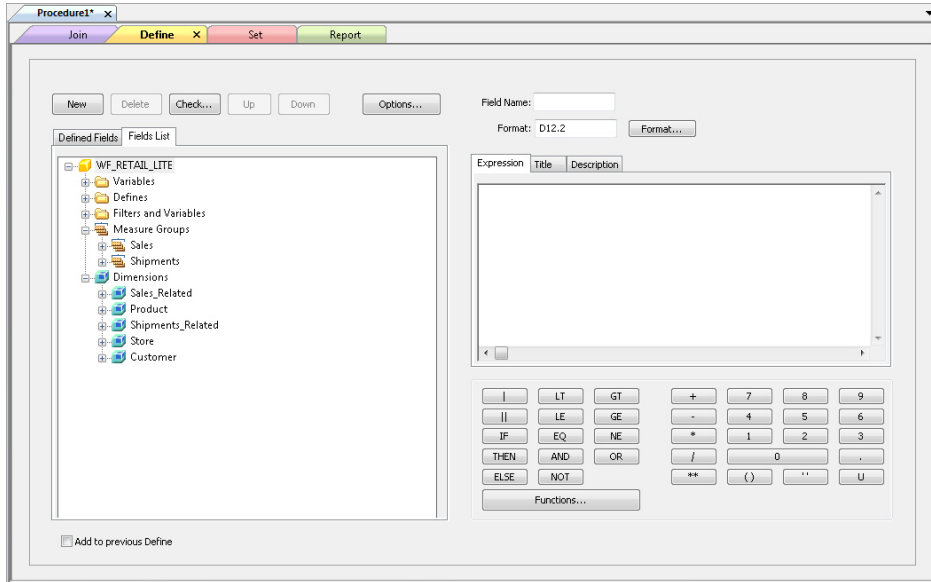
キャンバスのサイズは、インターフェースウィンドウ周囲に配置されたパネルおよびその位置によって異なります。

Developer Workbench で開発を行う際は、キャンバスエリアにさまざまなタブが開きます。レポートを作成すると同時に HTML ページを作成することもできるため、各キャンバスに色分けされたタブが開きます。各キャンバス上部で色分けされたタブには、作成中のファイルの名前が表示されます。

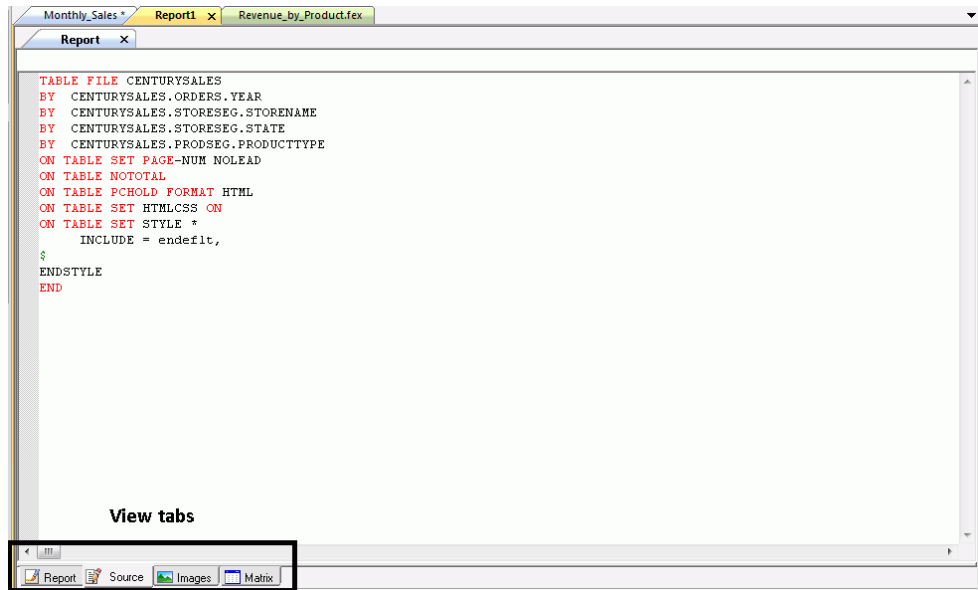
コンテンツの作成後にファイルに名前を付ける場合は、下図のように、タブにデフォルトファイル名 (例、レポート 1) が表示されます。



複数のコンポーネントで構成されたプロシジャを作成する際は、一連のタブが 2 段目に表示されます。たとえば、必要に応じて SET、DEFINE、JOIN コンポーネントをプロシジャに追加することができます。下図のように、これらのキャンバスは、レポートプロシジャまたはグラフプロシジャの下側にタブとして表示されます。



色分けされたタブ以外に、一部のキャンバスには表示タブも表示されます。表示タブはキャンバスの下に表示され、キャンバス上に表示される情報を切り替えます。下図のように、表示タブを切り替えて、同一のコンポーネントをさまざまな視点から表示します。



表示タブを使用すると (例、HTML キャンバスの表示タブ)、アプリケーションをカスタマイズするための追加機能が提供されます。たとえば、HTML キャンバスの [埋め込み JavaScript] 表示タブで、HTML ページに JavaScript 機能を追加することができます。

Developer Workbench コンテンツは、次のキャンバスで作成することができます。

グラフの作成 - グラフキャンバスの使用

グラフキャンバスでは、さまざまなタイプのグラフを作成することができます。多数のグラフタイプおよび出力フォーマットからいずれかを選択した後、グラフにカスタム機能を追加することができます。グラフキャンバスにアクセスするには、[ホーム] タブの [コンテンツ] グループで [グラフ] をクリックします。グラフウィザードが開きます。

カスケードスタイルシートの作成 - カスケードスタイルシートキャンバスの使用

カスケードスタイルシートキャンバスでは、カスケードスタイルシートを作成することができます。カスケードスタイルシートキャンバスにアクセスするには、[環境ツリー] パネルでフォルダまたはファイルを右クリックし、コンテキストメニューから [新規作成]、[テキストエディタ]、[カスケードスタイルシート] を順に選択します。

JavaScript キャンバスおよび CSS キャンバスの使用

[埋め込み JavaScript] キャンバスおよび [埋め込み CSS] キャンバスには、Microsoft IntelliSense やその他のコードエディタで提供される機能に類似した、コードセグメントの作成を支援するオートコンプリート機能が組み込まれています。文字列、配列、数値、またはユーザー定義オブジェクトの入力を開始すると、これらのコードセグメントに関連した利用可能 JavaScript メソッドのリストが表示されます。

オートコンプリート機能は、デフォルト設定でオンに指定されています。この機能をオフにするには、カスケードスタイルシートキャンバス内で右クリックし、コンテキストメニューから [オートコンプリート] を選択してチェックをオフにします。

注意：構文エラーがある場合、オートコンプリート機能は表示されません。

コンポーネントコードの編集 - テキストエディタキャンバスの使用

テキストエディタキャンバスでは、コンポーネントのコードを編集することができます。テキストエディタキャンバスにアクセスするには、任意のプロシジャを選択し、[プロシジャビュー] パネルで [コメント] コンポーネントを右クリックし、[テキストエディタで開く] を選択します ([表示] の [プロシジャビュー] が選択されている必要があります)。

HTML ページの作成 - HTML キャンバスの使用

HTML キャンバスでは、Db2 Web Query 向けの HTML ページを作成することができます。HTML キャンバスはビジネスユーザを対象に設計されているため、HTML、CSS、XML、JavaScript の経験は必要ありません。HTML キャンバスは、使いやすいグラフィカルインターフェースです。

注意：HTML キャンバスファイルは、HTML キャンバスでのみ作成、編集するよう設計されています。HTML キャンバスで作成された HTML ページを編集することも、テキストエディタを使用して HTML ページを作成することもできます。これらのページをキャンバスで開く際に、メッセージが表示され、ファイルをキャンバスで開くか、テキストエディタで開くかを選択することができます。

Web 開発者が HTML キャンバスを使用せずにユーザ独自のコードを記述する場合は、任意のオーサリングツールを使用することができます。また、RESTful Web サービスを使用することも可能です。

注意：HTML キャンバス以外で作成された HTML ページを開く場合、Windows で関連付けられたツールでファイルを開くかどうかを確認するプロンプトが表示されます。

HTML キャンバスにアクセスするには、[ホーム] タブの [コンテンツ] グループで [HTML/ドキュメント] をクリックします。HTML/ドキュメントウィザードが開き、利用可能なオプションから [HTML ページ] を選択します。HTML キャンバスが開きます。

HTML キャンバスでは、HTML5 DTD (Document Type Definition) が使用されます。

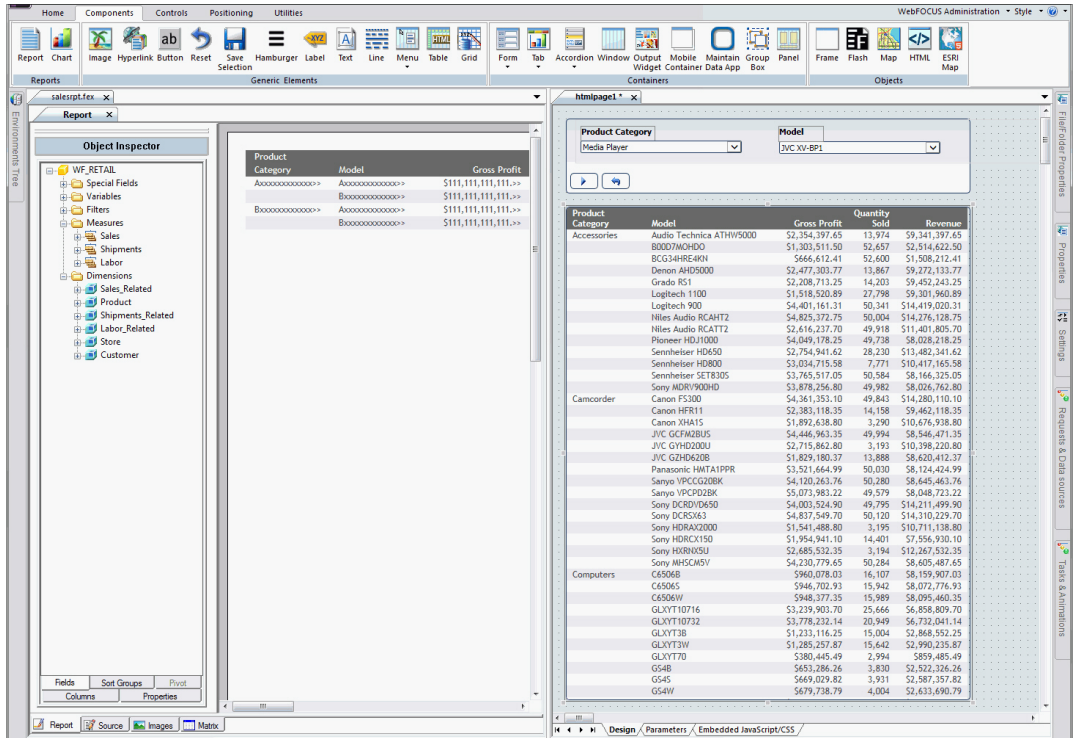
レポートの作成とスタイル設定 - レポートキャンバスの使用

レポートキャンバスには、レポートの作成やスタイル設定に使用する機能が多数用意されています。レポートキャンバスにアクセスするには、[ホーム] タブの [コンテンツ] グループで [レポート] をクリックします。レポートウィザードが開きます。これは、Web Query ブラウザインターフェースで使用可能な InfoAssist ツールです。レポートウィザードの指示に従って、新しいレポートを作成します。レポートキャンバスが開きます。

キャンバスのカスタマイズ

キャンバス上部で色分けされたタブをクリックすることで、表示するキャンバスを切り替えることができます。また、複数のキャンバスを横に並べて表示することもできます。

下図では、HTML キャンバスとレポートキャンバスが横に並べて表示されています。



手順

複数のキャンバスを横に並べて表示するには

複数のキャンバスを横に並べて表示するには、次の手順を実行します。

1. 1つ目のキャンバスのタブをドラッグし、別の位置に移動します。



ドキュメントアイコンのポインタが表示されます。

2. ドキュメントアイコンのポインタをキャンバスの右上にドラッグします。

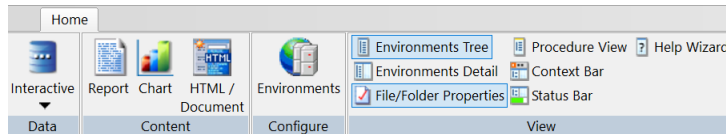
これで、2つのキャンバスが横に並べて表示されます。

ヒント：別のキャンバスをさらに横に並べて表示するには、上記の手順を繰り返します。

リボン形式の機能へのアクセス

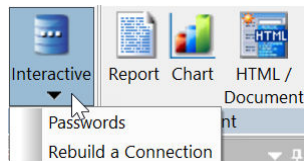
Developer Workbench では、従来のツールバーの代わりにリボンが採用され、さまざまなコマンドやコントロールが一連の固定型タブと状況依存型タブに分類された単一コマンドバーが使用されます。リボンからは、[スタイル] メニュー、[ヘルプ] メニューにアクセスすることができます。

下図は、デフォルトのリボンを示しています。



固定型タブまたは状況依存型タブに関係なく、リボンの各タブには、さまざまなコマンドやコントロールが、その機能性および関連性に基づいてグループ別に分類されています。すべてのタブおよびグループには、名前が付けられています。各グループのコントロールおよびコマンドは、アイコンで表されます。デフォルト設定では、すべてのアイコンに名前が付けられています。

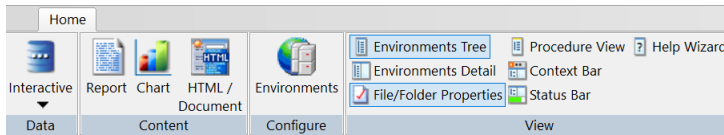
リボンには 1 回のクリックで実行できるコマンド以外に、関連する矢印をクリックすると、サブメニューにオプションが表示されるコマンドもあります。これらの矢印は、ラベルの下または横に表示されます。下図の例は、サブメニューにオプションが表示される [インタラクティブ] コマンドを示しています。



注意: デフォルトのリボンサイズは設定されていません。モニタまたはアプリケーションウィンドウのサイズが変更されると、リボン上のコマンドおよびコントロールのサイズも、利用可能な領域に合わせて変更されます。モニタまたはアプリケーションウィンドウのサイズが大きい場合、アイコンが大きくなり、グループ全体が表示されます。モニタまたはアプリケーションウィンドウのサイズが小さい場合、グループはラベルのみが表示された単一アイコンとして表示され、このアイコンをクリックするとサブメニューが開きます。

アプリケーションの作成 - ホームタブの使用

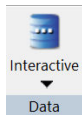
[ホーム] タブでは、アプリケーションの作成、新しいコンポーネントの作成、既存のコンポーネントを開く、既存のコンポーネントの実行、コンポーネントの編集に必要な機能にアクセスすることができます。[ホーム] タブには、[データ]、[コンテンツ]、[構成]、[表示] グループがあります。[ホーム] タブは、常に表示される固定型タブです。このタブは、下図のように Developer Workbench インターフェースの左上、クイックアクセスツールバーの下に表示されます。



注意：[ホーム] タブは、Developer Workbench で唯一の固定型タブです。

データの管理 - データグループの使用

[データ] グループには、データファイルのアクセスとリビルドに使用可能なツールが含まれています。下図は、[データ] グループを示しています。



[データ] グループには、次のコマンドがあります。

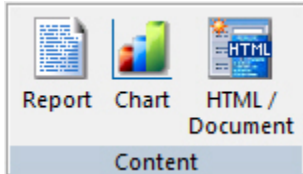
インタラクティブ

次のオプションがあります。

- ☐ **パスワード** [パスワード] ダイアログボックスが表示されます。[環境ツリー] パネルで選択したデータソースのパスワードを入力することができます。
- ☐ **接続のリビルド** [リビルド] ダイアログボックスが開きます。ファイルの再編成、ファイル内の特定のフィールドのインデックス化、ファイルの整合性のチェックを行えます。

アプリケーションの作成 - コンテンツグループの使用

[コンテンツ] グループには、アプリケーションの作成に使用するコンポーネントおよびツールがあります。これらは、[レポート]、[グラフ]、[HTML/ドキュメント] コマンドです。下図は、[コンテンツ] グループを示しています。



[コンテンツ] グループには、次のコマンドがあります。

レポート

レポートウィザードでプロシジャ名を入力し、レポートの格納先を選択した後、レポートキャンバスがレポートモードで開きます。

レポートモードでは、単純なレポートや複雑なレポートの作成とスタイル設定、レポートキャンバスへのデータの追加、レポートページをグラフィカルに表現するためのデータのスタイル設定を行えます。レポートモードでは、実行時にレポートがどのように表示されるかを確認することができます。

レポートモードでは、次のことを行えます。

- ☐ データの表示とソート
- ☐ レコードの選択
- ☐ 合計、中間合計、フィールドの計算、見出し、脚注、イメージの挿入
- ☐ フィールドのフォーマット設定
- ☐ フォント、色、罫線のスタイル設定
- ☐ 詳細レポートおよび URL へのドリルダウン機能の追加
- ☐ 表示や再利用のための多様なフォーマットでの出力保存
- ☐ Analytic Document の作成

グラフ

グラフウィザードでプロシジャ名を入力し、グラフの格納先を選択した後、グラフキャンバスが開きます。

グラフモードでは、ほとんどのタイプのデータを効果的なカスタムグラフに簡単に変換することができます。棒グラフ、折れ線グラフ、散布図、円グラフなど、ユーザがさまざまな視点でデータを分析するためのグラフが多数用意されています。データのパラメータを定義することで、選択条件を含めることもできます。また、ドリルダウン機能や条件付きスタイルを適用することで、グラフ上の特定のデータを強調表示することができます。

グラフキャンバスのリボンに配置された機能やオプションを使用して、グラフにデータを追加したり、データにスタイルを設定したりします。状況依存型タブは、Developer Workbench リボン上ではなく、グラフキャンバス内に開きます。

HTML/ドキュメント

HTML/ドキュメントウィザードを開きます。

HTML モードでは、ユーザがデータをインタラクティブに操作できる HTML ページを作成するための機能が用意されています。HTML キャンバスでは、リボンの状況依存型タブを使用してページにオブジェクトを追加することで、HTML ページを作成、カスタマイズすることができます。HTML モードは、JavaScript およびカスケードスタイルシート (CSS) と完全に統合されています。

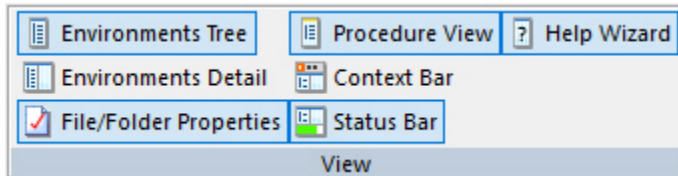
HMTL キャンバスでは、次のことを行えます。

- ☐ HTML 起動ページを作成する。
- ☐ アプリケーション内の Db2 Web Query レポートを起動するためのプッシュボタン、ハイパーリンク、その他のコントロールを追加する。
- ☐ パラメータを含む 1 つまたは複数のレポートの起動ページを作成する。
- ☐ 複数のレポートやグラフで構成された HTML ページを作成する。
- ☐ イメージ、フレーム、その他の Web オブジェクトを含めた高度なレポートレイアウトを作成する。
- ☐ ページレイアウト内のすべてのオブジェクトの位置、サイズ、プロパティを変更する。
- ☐ 背景、フォント、その他のページプロパティを設定する。

ドキュメントキャンバスでは、複数のレポートやグラフで構成されるレイアウトを作成し、単一のドキュメントとして出力することができます。また、レポートやグラフをページ上の任意の位置に配置したり、単一のドキュメント内で複数のレイアウトを組み合わせたりすることもできます。ドキュメントキャンバスで複合レポートを作成する場合は、出力フォーマットとして、PDF、HTML、Analytic Document、Analytic PDF、PowerPoint、Excel が使用可能です。

画面表示の制御 - 表示グループの使用

[表示] グループでは、画面上のパネルやバーの表示を制御することができます。たとえば、[環境ツリー] パネルや [ヘルプウィザード] パネルの表示と非表示を切り替えます。下図は、[表示] グループを示しています。



[表示] グループには、次のコマンドがあります。

環境ツリー

[環境ツリー] パネルの表示と非表示を切り替えます。このパネルは画面の左側に配置され、環境に関する情報が表示されます。

環境の詳細

[環境の詳細] パネルの表示と非表示を切り替えます。

ファイル/フォルダのプロパティ

[ファイル/フォルダのプロパティ] パネルの表示と非表示を切り替えます。

プロシジャビュー

[プロシジャビュー] パネルの表示と非表示を切り替えます。

コンテキストバー

コンテキストバーの表示と非表示を切り替えます。コンテキストバーは、リボンの下に表示されます。

ステータスバー

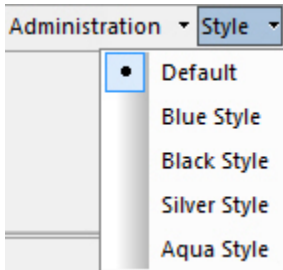
ステータスバーの表示と非表示を切り替えます。ステータスバーは、画面の下部に表示されます。

ヘルプウィザード

ヘルプウィザードの表示と非表示を切り替えます。ヘルプウィザードのコンテンツは、ユーザが現在操作中のインターフェースの現在位置に応じて動的に変化します。

インターフェース外観のカスタマイズ - スタイルメニューの使用

Developer Workbench インターフェースの外観をカスタマイズするには、[スタイル] メニューを使用します。このメニューから、Developer Workbench インターフェースの外観をカスタマイズするテーマを選択します。選択可能なテーマは、Microsoft Office 用にインストールされているテーマに基づいて決定されます。[スタイル] メニューは常に表示されます。Developer Workbench インターフェース右上の [スタイル] をクリックすると、下図のような [スタイル] メニューが表示されます。

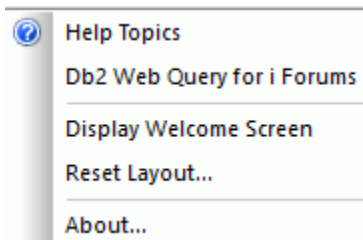


注意

- ❑ 選択したテーマは、Developer Workbench を閉じる際に保存されるため、次回起動時にもそのテーマが表示されます。
- ❑ [デフォルト] 以外のスタイルを使用すると、各種パネルのタイトルバーからドロップダウン矢印が削除されます。パネルのタイトルバーを右クリックすることで、同一のメニューにアクセスすることができます。

Developer Workbench ヘルプコンテンツへのアクセス

[ヘルプ] メニューから、Developer Workbench ヘルプコンテンツ、Db2 Web Query for i フォーラム、Developer Workbench ライセンス情報にアクセスすることができます。[ヘルプ] ボタンは常に表示されます。Developer Workbench インターフェース右上の [ヘルプ] をクリックすると、下図のような [ヘルプ] メニューが表示されます。



[ヘルプ] メニューを使用して、次のことを行えます。

- ❑ オンラインヘルプシステムにアクセスする。Developer Workbench の [ヘルプ] ウィンドウを開くには、[ヘルプ項目] を選択します。
- ❑ IBM developerWorks フォーラムにアクセスする。[Db2 Web Query for i フォーラム] をクリックして、弊社のオンラインデベロッパーセンターであり、単なる掲示板を超えたサービスにアクセスすることができます。
- ❑ 「ようこそ」画面を閉じた後に、この画面を再表示する。「ようこそ」画面を再表示するには、[ようこそ画面の表示] を選択します。
- ❑ インターフェースのレイアウトをリセットする。Developer Workbench インターフェース (例、リボン、クイックアクセスツールバー、パネル、スタイル) をデフォルト設定に戻すには、[レイアウトのリセット] を選択します。この変更は、Developer Workbench の再起動後に有効になります。
- ❑ ライセンス情報および製品情報を表示する。[Db2 Web Query for i Developer Workbench について] ダイアログ ボックスを開くには、[バージョン情報] を選択します。

環境ツリーパネルの使用

[環境ツリー] パネルは、Developer Workbench でのナビゲートを容易にする主要ウィンドウです。このパネルを使用すると、現在作業中のリポジトリまたは Web アプリケーションの位置を常に確認することができます。このパネルを使用して、フォルダ間でのオブジェクトの移動やコピー、フォルダのコピー、他の Developer Workbench ユーザとのコンテンツの共有、コンテンツの非表示などの操作を行えます。

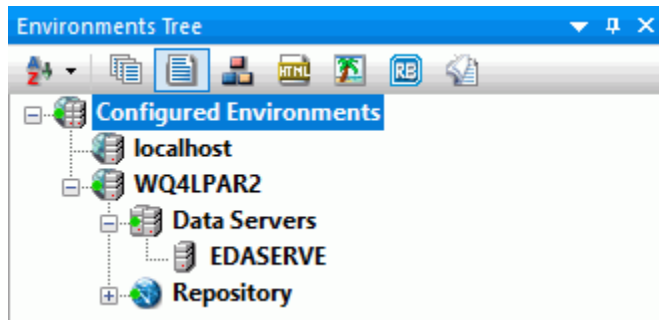
注意

- ❑ [コンテンツ] フォルダを 1 つの環境から別の環境にコピーして貼り付ける際は、十分な注意が必要です。ソース環境のメタデータがターゲット環境のメタデータと一致しない場合は、コンテンツが影響を受ける可能性があります。Developer Workbench で 1 つの環境から別の環境にフォルダやファイルを移動する場合は、変更管理パッケージの使用をお勧めします。
- ❑ [リポジトリ] エリアからオブジェクトをコピーし、[データサーバ] エリアに貼り付けると、IBFS プロパティ (メタデータ) が失われ、機能がなくなります。同一の問題は、[リポジトリ] エリアからオブジェクトをコピーしてデスクトップに貼り付ける場合や、デスクトップからオブジェクトをコピーして [データサーバ] エリアに貼り付ける場合にも発生します。

[環境ツリー] パネルでは、次のことを行えます。

- ❑ パネルの外観をカスタマイズする。
- ❑ [構成済み環境] ツリーの Db2 Web Query 環境下に表示されたコンテンツにフィルタを適用する。
- ❑ 構成済み Db2 Web Query 環境にアクセスして、新しいコンテンツを作成したり、既存のコンテンツを変更したりする。
- ❑ [構成済み環境] ツリーでアプリケーションまたはフォルダをリフレッシュして、新しいファイルや更新済みファイル情報を表示したり、削除済みファイルを除外したりする。

下図は、[環境ツリー] パネルを示しています。





[環境ツリー] パネルは、Developer Workbench の起動と同時に開きます。

参照 環境ツリーパネルのツールバー





[環境ツリー] パネルのツールバーには、構成済み環境ツリーに表示された情報をナビゲート、フィルタ、ソートするためのメニューとボタンが配置されています。

表示オプション

下表は、項目の表示オプション (例、名前順にソート、グループ化) を示しています。

オプション	名前	機能
	項目を名前順にソートして表示	ファイルを A から Z の名前順にソートします。
	項目を名前の逆順にソートして表示	ファイルを Z から A の名前順にソートします。

オプション	名前	機能
	項目を日付時間順 (古い順) にソートして表示	ファイルが最後に保存された日付に基づいて、ファイルを古い順にソートします。
	項目を日付時間の逆順 (新しい順) にソートして表示	ファイルが最後に保存された日付に基づいて、ファイルを新しい順にソートします。
	項目をファイルタイプ別にグループ化して表示	ファイルをファイルタイプ別にソートします。
	ソート順プロパティを優先	[ファイル/フォルダのプロパティ] パネルで指定された [ソート順] プロパティ値を使用します。これがデフォルト値です。
	項目をタイトル順に表示	ファイルをタイトル別に表示し、タイトル順にファイルをソートします。項目にタイトルが存在しない場合は、項目の名前が表示されます。
	項目を名前順に表示	ファイルを名前別に表示し、名前順にファイルをソートします。項目にタイトルが存在しない場合は、項目の名前が表示されます。
	表示のリフレッシュ	[構成済み環境] ツリーに表示されているファイルおよびフォルダをすべてリフレッシュします。 [表示のリフレッシュ] を使用すると、選択したファイルまたはフォルダに従属するファイルやフォルダも表示されます。
	すべてのコンテンツファイルを表示	ツリーにフィルタを適用せずに、マスターファイル以外のすべてのコンテンツファイルタイプを表示します。マスターファイルを表示するには、[マスターファイルのみ表示] をクリックします。
	プロジェクトファイルのみ表示	ツリーにフィルタを適用して、このファイルタイプのみを表示します。
	マスターファイルのみ表示	ツリーにフィルタを適用して、このファイルタイプのみを表示します。

オプション	名前	機能
	HTML ファイルのみ表示	ツリーにフィルタを適用して、このファイルタイプのみを表示します。
	イメージファイルのみ表示	ツリーにフィルタを適用して、このファイルタイプのみを表示します。
	Report Broker ファイルのみ表示	ツリーにフィルタを適用して、このファイルタイプのみを表示します。
	その他のファイル	ツリーにフィルタを適用して、その他のファイルタイプのみを表示します。

構成済み環境ツリーでのノードの表示

[構成済み環境] ツリーには、[リポジトリ]、[データサーバ] ノードが表示されます。これらのノードは、コンテンツの作成が可能な開発エリアです。

[構成済み環境] ツリーのノードに下位の項目 (例、プロジェクト、フォルダ、データサーバ) が作成され、コンテンツが格納されている場合、ノードアイコンに緑色の丸印が表示されます。ノードに下位の項目が作成されているが、コンテンツが格納されていない場合、ノードアイコンに赤色の丸印が表示されます。ノードに下位の項目が作成されていない場合は、そのノードにコンテンツが格納されているかどうかを特定できないため、ノードアイコンに丸印は表示されません。

注意：デフォルト設定では、[構成済み環境] ツリーのファイルおよびフォルダはタイトル別にソートされます。ソートオプションを [項目を名前順に表示] に変更すると、ファイルおよびフォルダの名前が表示されます。項目の表示方法としてタイトル別または名前別のどちらを選択した場合でも、[リポジトリ]、[データサーバ] ノードの表示方法は変更されません。

[構成済み環境] ツリーで各ノードを展開することで、構成済み環境、フォルダ、アプリケーションファイルを表示することができます。ツールバーのフィルタコマンドを使用して、ファイルを名前順にソートできるほか、名前別またはタイトル別に表示したり、関連するパスに存在するファイルを含めて表示したりできます。

[構成済み環境] ツリーでは、各 Db2 Web Query 環境のコンテンツを管理することができます。たとえば、新しいフォルダやファイルの作成、既存ファイルを開く、ファイルのコピーなどの操作を行えます。ノード、フォルダ、ファイルのいずれかを右クリックすると、コンテキストメニューにオプションが表示されます。ファイルをダブルクリックすることで、そのファイルを開くこともできます。

[下位項目のリフレッシュ] オプションを使用して、特定のアプリケーションまたはフォルダをリフレッシュすることもできます。リフレッシュするアプリケーションまたはフォルダを右クリックし、[下位項目のリフレッシュ] を選択します。

注意

- ❑ 任意のファイルのコンテキストメニューから [新規作成] を選択し、作成するコンテンツのタイプを選択することで、選択したファイルと同一の場所に新しいコンテンツを作成することができます。

ユーザのデスクトップから [構成済み環境] ツリーにファイルをコピーすることができます。

[構成済み環境] ノードからアクセス可能なコンテキストメニューオプションには、次のものがあります。

- ❑ **追加** [Db2 Web Query 環境のプロパティ] ダイアログボックスを開き、別の環境を追加することができます。

[環境ツリー] パネルの Db2 Web Query 環境からアクセス可能なコンテキストメニューオプションには、次のものがあります

- ❑ **Db2 Web Query for i ホームページ** Db2 Web Query ホームページを開きます。ホームページでは、データの使用、コンテンツの作成、構成、共有、レポートおよびプロシジャのスケジュール、管理タスクの実行をすべて一元管理することができます。
- ❑ **ログイン** Db2 Web Query 環境にログインすることができます。このオプションは、Db2 Web Query 環境にログインしていない場合にのみ表示されます。
- ❑ **ログアウト** Db2 Web Query 環境からログアウトすることができます。このオプションは、Db2 Web Query 環境にログインしている場合にのみ表示されます。

注意： Developer Workbench に存在しないファイルをコピーし、[構成済み環境] ツリーに貼り付けることで、そのファイルをアプリケーションの作成時に使用することができます。

参照

データサーバ

[データサーバ] ノードには、Web Query からアクセス可能な Reporting Server のリストが表示されます。このノードを順に展開すると、Db2 Web Query アプリケーションの開発に使用可能なファイルが表示されます。

[データサーバ] ノード下でファイルのアプリケーションパスを自動的に挿入する処理は、バックグラウンドスレッドで実行されます。このバックグラウンドスレッドの実行中は、ツリー内を移動し、フォルダを展開してファイルを作成することができます。ただし、新しいファイルを保存する操作や、新規スタイルシートの作成などのパスリストを必要とする操作はすべて、バックグラウンドスレッドが完了するまで実行することはできません。[構成済み環境] ツリーの [データサーバ] ノード下に表示されているデータサーバエリアでは、ファイルのアプリケーションパスが自動的に挿入されます。

[データサーバ] ノード下のデータサーバからアクセス可能なコンテキストメニューオプションには、次のものがあります。

- ❑ **Db2 Web Query Reporting Server コンソール** Reporting Server コンソールを開きます。このコンソールを使用して、アプリケーション、データソース、サーバの管理を行えます。
- ❑ **下位項目のリフレッシュ** [構成済み環境] ツリー下のアプリケーションやフォルダのコンテンツをリフレッシュして、削除済みファイルを除外したり、新しいファイルやファイル情報 (例、日付、時間、サイズ) を表示したりします。

[アプリケーション] フォルダからアクセス可能なコンテキストメニューオプションには、次のものがあります。

- ❑ **新規アプリケーションディレクトリ** 新しいアプリケーションフォルダを作成します。
- ❑ **アプリケーションパスの構成** [アプリケーションパス] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスでは、アプリケーションの作成、検索パスへのアプリケーションの追加、アプリケーションのマッピングおよび順序変更、パスからのアプリケーションおよびマッピングの削除を行えます。
- ❑ **下位項目のリフレッシュ** [構成済み環境] ツリー下のアプリケーションやフォルダのコンテンツをリフレッシュして、削除済みファイルを除外したり、新しいファイルや更新済みファイル情報 (例、日付、時間、サイズ) を表示したりします。

[アプリケーション] フォルダまたはファイルからアクセス可能なコンテキストメニューオプションには、次のものがあります。

- ❑ **新規作成** 新しいフォルダまたはファイルを作成します。[新規作成] を選択後、次のコンテキストメニューオプションが表示されます。
 - ❑ **アプリケーション** 現在のアプリケーションフォルダ下に新しいアプリケーションフォルダを作成します。
 - ❑ **複製の作成** [データサーバ] ノード下で選択したファイルのコピーを作成します。
 - ❑ **コピー** 選択したファイルをクリップボードにコピーします。コピーしたファイルは、別のノードに貼り付けることができます。

- ❑ **貼り付け** 切り取りまたはコピーしたファイルを貼り付けます。
- ❑ **名前の変更** 選択したフォルダまたはファイルの名前を変更します。
- ❑ **削除** 選択したフォルダまたはファイルを削除します。削除を確認するメッセージが表示されます。項目を削除しない場合は [いいえ]、削除処理を中止する場合は [キャンセル] をクリックします。複数の項目を一括削除する際に、[キャンセル] をクリックして削除処理を中止すると、残りの項目すべての削除も中止されます。
- ❑ **プロパティ** [データサーバ] ノード下のフォルダのプロパティを表示します。
- ❑ **下位項目のリフレッシュ** [構成済み環境] ツリー下のアプリケーションやフォルダのコンテンツをリフレッシュして、削除済みファイルを除外したり、新しいファイルや更新済みファイル情報 (例、日付、時間、サイズ) を表示したりします。

参照

リポジトリ

[リポジトリ] ノードは、データや情報を格納する領域です。このノード下では、Developer Workbench を使用して Db2 Web Query 環境での管理および開発を行えます。Developer Workbench の完全インストールを実行した場合、[リポジトリ] ノード下で、リモートサーバ上およびローカルマシン上のリソースとアプリケーションを管理することができます。すべてのリモートサーバ上でのアプリケーションファイルの作成や編集を、アクセスが簡単な 1 つのインターフェースから実行できます。また、レポートの作成および管理は、Web ブラウザではなく、Windows アプリケーションから行えます。

[Db2 Web Query] ノードからアクセス可能なコンテキストメニューオプションには、次のものがあります。

- ❑ **インパクト分析** 特定のマスターファイルやマスターファイル内の特定のフィールドにアクセスするプロシジャを識別し、それらのプロシジャのリストを生成します。
- ❑ **フォルダの作成** 新しいフォルダを作成します。
- ❑ **マネージャモード** 適切な認可が設定されている場合に、プライベートファイルを編集することができます。
- ❑ **物理表示または共有表示** 2 つの表示方法を切り替えることができます。[共有表示] では、すべてのフォルダが (ブランクフォルダを含む)、共有コンテンツが含まれた階層に表示されます。[物理表示] では、ブランクフォルダが除外され、共有コンテンツが含まれた階層に表示されます。[物理表示] では、共有コンテンツが格納されているフォルダがすべて表示されます。

- ❑ **下位項目のリフレッシュ** [構成済み環境] ツリー下のアプリケーションやフォルダのコンテンツをリフレッシュして、削除済みファイルを除外したり、新しいファイルや更新済みファイル情報 (例、日付、時間、サイズ) を表示したりします。

[リポジトリ] ノード下のフォルダまたはファイルからアクセス可能なコンテキストメニューオプションには、次のものがあります。

- ❑ **インパクト分析** 特定のマスターファイルやマスターファイル内の特定のフィールドにアクセスするプロシジャを識別し、それらのプロシジャのリストを生成します。
- ❑ **新規作成** 新しいフォルダまたはファイルを作成します。[新規作成] を選択後、次のコンテキストメニューオプションが表示されます。
 - ❑ **プロシジャ (InfoAssist)** 現在のアプリケーションフォルダに、新しいプロシジャファイルを作成します。
 - ❑ **レポート** サブメニューを展開すると、次のオプションが表示されます。
 - ❑ **レポート** 新しいレポートを作成します。
 - ❑ **SQL レポート** 新しい SQL レポートを作成します。
 - ❑ **HTML ファイル** 新しい HTML ページを作成します。
 - ❑ **InfoAssist** サブメニューを展開すると、次のオプションが表示されます。
 - ❑ **グラフ** グラフキャンバスを使用してグラフを新規作成します。
 - ❑ **SQL グラフ** 新しい SQL グラフを作成します。
 - ❑ **ビジュアライゼーション** ビジュアライゼーションを新規作成します。
 - ❑ **テキストエディタ** サブメニューを展開すると、次のオプションが表示されます。
 - ❑ **カスケードスタイルシート** 新しいカスケードスタイルシートを作成します。
 - ❑ **Db2 Web Query スタイルシート** 新しい Db2 Web Query スタイルシートを作成します。
 - ❑ **フォルダ** 新しいフォルダを作成します。
- ❑ **公開/非公開** 選択したフォルダ内のすべてのファイルへのパブリックアクセスを許可するかどうかを制御します。Ctrl キーを押しながらフォルダを順に選択して、複数のフォルダを同時に選択することができます。

- ❑ **非表示/表示** 選択したフォルダへのアクセスが許可されているユーザに対して、そのフォルダ内のすべてのファイルを表示するかどうかを制御します。Ctrl キーを押しながらフォルダを順に選択して、複数のフォルダを同時に選択することができます。[ファイル/フォルダのプロパティ] パネルの [ユーザに非表示] プロパティを変更することで、このコンテンツを表示できるユーザを制御することができます。
- ❑ **複製の作成** [ドメイン] ノード下で選択したファイルのコピーを作成します。
- ❑ **コピー/貼り付け** フォルダまたはファイルをコピーして貼り付けます。
- ❑ **名前の変更** 選択したフォルダまたはファイルの名前を変更します。

元の名前および参照先のインスタンスがすべて更新されるようにするためには、[名前を付けて保存] オプションを使用して HTML ページの名前を変更することをお勧めします。
- ❑ **削除** 選択したフォルダまたはファイルを削除します。削除を確認するメッセージが表示されます。項目を削除しない場合は [いいえ]、削除処理を中止する場合は [キャンセル] をクリックします。複数の項目を一括削除する際に、[キャンセル] をクリックして削除処理を中止すると、残りの項目すべての削除も中止されます。
- ❑ **プロパティ** [リポジトリ] ノード下のフォルダのプロパティを表示します。
- ❑ **下位項目のリフレッシュ** [構成済み環境] ツリー下のアプリケーションやフォルダのコンテンツをリフレッシュして、削除済みファイルを除外したり、新しいファイルや更新済みファイル情報 (例、日付、時間、サイズ) を表示したりします。

参照

ノード下のコンテンツ有無の識別

[構成済み環境] ツリーでは、各ノードにコンテンツが格納されているかどうかをアイコンで識別することができます。[構成済み環境] ツリーでノードをダブルクリックすると、そのノード下のコンテンツの有無が確認されます。ノード下のコンテンツの有無に応じて、ノードアイコンの表示が変わります。ノードに下位の項目 (例、プロジェクト、フォルダ、データサーバ) が作成され、ファイルが格納されている場合は、ノードアイコンに緑色の丸印が表示されます。ノードに下位の項目が作成されているが、ファイルが格納されていない場合は、ノードアイコンに赤色の丸印が表示されます。

ノードに下位の項目が作成され、コンテンツが格納されている場合、そのコンテンツを削除すると、緑色の丸印が赤色に変わります。逆に、ノードに下位の項目が作成されているが、コンテンツが格納されていない場合、そのノード下にコンテンツを作成すると、赤色の丸印が緑色に変わります。

参照

マスターファイルのコンテキストメニューオプション

マスターファイルから選択可能なコンテキストメニューオプションには、次のものがあります。

- ❑ **テキストエディタで開く** テキストエディタキャンバスでマスターファイルを開きます。
- ❑ **Windows に関連付けられたツールで編集** Windows に関連付けられたツールでマスターファイルを開きます。このオプションは、選択したファイルを開くためのツールが Windows で関連付けられている場合にのみ表示されます。
- ❑ **サンプルデータ** マスターファイルのサンプル出力を表示します。
- ❑ **インパクト分析** 特定のマスターファイルやマスターファイル内の特定のフィールドにアクセスするプロシジャを識別するレポートを生成することができます。
- ❑ **印刷** マスターファイルを印刷します。
- ❑ **確認** マスターファイルの有効性をテストします。
- ❑ **アクセスファイルをテキストとして編集** アクセスファイルのシノニムを表示したり、手動で編集したりできます。
- ❑ **新規作成** 新しいフォルダまたはファイルを作成します。[新規作成] を選択後、次のコンテキストメニューオプションが表示されます。
 - ❑ **アプリケーションディレクトリ** 現在のアプリケーションフォルダ下に新しいアプリケーションフォルダを作成します。
- ❑ **複製の作成** 選択したファイルのコピーを作成します。
- ❑ **コピー/貼り付け** 選択したファイルをクリップボードにコピーします。コピーしたファイルは、別のノードに貼り付けることができます。
- ❑ **名前の変更** 選択したファイルの名前を変更します。
- ❑ **削除** 選択したファイルを削除します。削除を確認するメッセージが表示されます。項目を削除しない場合は [いいえ]、削除処理を中止する場合は [キャンセル] をクリックします。複数の項目を一括削除する際に、[キャンセル] をクリックして削除処理を中止すると、残りの項目すべての削除も中止されます。
- ❑ **プロパティ** [ファイル/フォルダのプロパティ] パネルにフォルダのプロパティを表示します。

注意：マスターファイルをテキストエディタキャンバスまたはシノニムエディタで開いた場合、そのマスターファイルのコンテキストメニューから、その他の [開く] オプションは使用できなくなります。

構成済み環境ツリーでファイルを開く

[アプリケーション] メニューやクイックアクセスツールバーからファイルを開く以外に、[構成済み環境] ツリーの開発エリアからファイルを開くこともできます。

- ❑ ファイル固有のキャンバスでファイルを開くには、ファイルをダブルクリックするか、ファイルを右クリックし、[開く] を選択します。
- ❑ テキストエディタキャンバスでファイルを開くには、ファイルを右クリックし、[テキストエディタで開く] を選択します。
- ❑ Windows に関連付けられたツールでファイルを開くには、ファイルを右クリックし、[Windows に関連付けられたツールで編集] を選択します。Windows に関連付けられたツールで編集このオプションは、Windows でツールが関連付けられている場合にのみ表示されます。この機能にアクセスすると、関連付けられた Windows ツールが起動し、ファイルが別のダイアログボックスに開きます。

注意：一度に開くことのできるファイルは、Developer Workbench の 1 つのエリアに限定されます。これにより、そのファイルに加えた変更が、別のエリアで開いた同一ファイルで上書きされることが回避されます。ただし、ファイルを Developer Workbench で開くと同時に、Windows に関連付けられたツールでそのファイルを開くことは可能です。変更が正しく保存されるようにするには、どちらか一方のツールで開いたファイルのみに変更を加える必要があります。

Db2 Web Query 環境へのアクセスの設定

Db2 Web Query 環境へのアクセスを設定すると、その設定は wfscm.xml ファイルに保持されます。通常、Db2 Web Query 環境設定は、次の場所に格納されます。

```
drive:¥Users¥user_id¥AppData¥Roaming¥Information Builders¥wfscm.xml
```

説明

`user_id`

Windows のユーザ ID です。

注意

- ❑ このファイルおよびディレクトリは、デフォルト設定では表示されない場合があります。このディレクトリを表示するには、Windows のコントロールパネルを開き、[フォルダーオプション] をクリックしてから [表示] タブを選択します。[隠しファイル、隠しフォルダー、および隠しドライブを表示する] を選択し、[OK] をクリックします。
- ❑ wfscom.xml に保存されるユーザ ID とパスワードは、機密保持のために暗号化されます。
- ❑ Db2 Web Query 環境のプロパティは、現在の Developer Workbench 構成に適用されます。

手順**Db2 Web Query 環境を追加するには**

Db2 Web Query 環境は、Web サーバ、Db2 Web Query Client、Web Query Reporting Server で構成されます。Db2 Web Query 環境を追加すると、開発、テスト、実稼動インスタンスなどの複数の環境を作成、管理することができます。

次の手順に従って、Db2 Web Query 環境を追加します。

- ❑ Web サーバのホスト名およびポート番号を指定する。
- ❑ Db2 Web Query Client にアクセスするための HTML エイリアス (コンテキストルート) を構成する。
- ❑ サーバ認証が必要な場合に適切なユーザ認証情報を指定する。

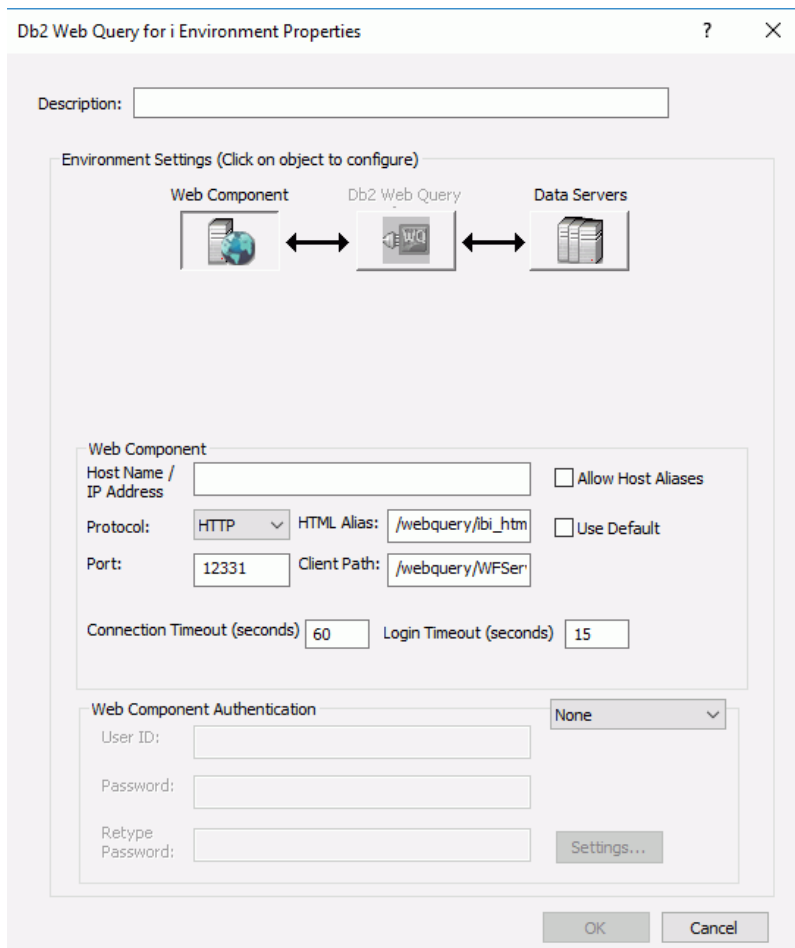
Db2 Web Query 環境を追加するには、次の手順を実行します。

1. [ホーム] タブの [構成] グループで、[環境] をクリックします。

[環境リスト] ダイアログボックスが開きます。このダイアログボックスには、Developer Workbench 用に定義された Db2 Web Query 環境がすべて表示されます。

2. [追加] をクリックします。

下図のように、[Db2 Web Query 環境のプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。



ダイアログボックスの上部に [説明] テキストボックスが表示され、その下に [環境設定] エリアが表示されます。[環境設定] エリアには、Db2 Web Query 環境の各コンポーネントを表す一連のボタンと、その環境を構成するための必須パラメータが表示されます。環境を構成する際にこれらのボタンの下に表示されるエリアは、必須パラメータに応じて変わります。

3. [説明] テキストボックスに、Db2 Web Query 環境の説明を入力します。この説明は、[構成済み環境] ツリーに表示されます。

注意：説明には、「/、¥、?、*」などの特殊文字を含めることはできません。制限された文字のいずれかが検証時に検知されると、使用不可の文字に関するメッセージが表示されます。

4. [Web コンポーネント] エリアで、Web サーバの情報を指定します。

環境によっては、一度 Web サーバを指定すると、その他の設定がすべてデフォルト値に設定されるものもあります。アクセスする Db2 Web Query 環境でデフォルト設定を使用しない場合、またはコンポーネントで認証が必要とされる場合は、[環境設定] エリアの該当するボタンをクリックし、パラメータを指定します。次に、各コンポーネントで使用可能なパラメータについて説明します。

注意：Db2 Web Query 環境のプロパティは、特定の順序で指定する必要があります。たとえば、Web サーバのセキュリティが有効になっている場合、Web サーバの有効なログイン情報が指定されるまで、Db2 Web Query Client のスクリプト名を設定することはできません。同様に、Db2 Web Query Client のパスが指定されるまで Web Query Reporting Server のリストを取得することはできません。

[Db2 Web Query 環境のプロパティ] ダイアログボックスのコンポーネントボタンを選択すると、Developer Workbench がダイアログボックスの下部にコンポーネントのプロパティを表示する前に、必要な情報があるかどうかを確認します。必要な情報が不足している場合、次のコンポーネントへ進むことはできません。

5. [OK] をクリックします。

[Db2 Web Query ログイン - Db2 Web Query] ダイアログボックスが開き、Db2 Web Query ID およびパスワードの入力が要求されます。

ログインダイアログボックスには、ID とパスワードを記憶させておくためのチェックボックスオプションがあります。デフォルト設定では、このチェックはオフになっています。このチェックをオンにすると、認証情報が暗号化されて wfscm.xml ファイルに格納されます。このファイルは、Developer Workbench 通信レイヤで処理される情報を格納するローカル構成ファイルです。

格納されている認証情報をクリアするには、[Db2 Web Query 環境リスト] ダイアログボックスを開き、変更を加える環境を選択して [プロパティ] をクリックします。[Db2 Web Query] をクリックします。[Db2 Web Query 認証情報] 下の [ユーザ ID] および [パスワード] の情報を削除した上で、[資格情報の共有] のチェックをオフにします。

注意：アクセスする Db2 Web Query 環境で実装されているセキュリティに応じて、Web サーバ、Application Server、または Reporting Server に接続するためのログインダイアログボックスが開く場合があります。

6. ユーザ ID およびパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。
[Db2 Web Query 環境のプロパティ] ダイアログボックスが閉じます。
7. [環境リスト] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

Web コンポーネントプロパティの指定

通常、[Web コンポーネント] ボタンはデフォルト設定で選択されています。[Web コンポーネント] プロパティでは、Developer Workbench から Web サーバにアクセスする方法を指定します。Web サーバは、どのコンポーネントよりも先に指定する必要があります。

次のプロパティが利用可能です。

- ❑ **ホスト名/IP アドレス** Web サーバが実行されているホスト名または IP アドレスを指定します。このテキストボックスには、必ず値を入力します。デフォルト値は設定されていません。
- ❑ **ホストエイリアスの許可** このチェックをオンにすると、同一のホストマシンにインストールされた複数の Db2 Web Query インスタンスを構成することができます。
- ❑ **プロトコル** Web サーバへのアクセスに使用するプロトコルです (HTTP または HTTPS)。
- ❑ **ポート** Web サーバにアクセスするための TCP/IP ポート番号です。デフォルトのポート番号は 8080 です。
- ❑ **HTML エイリアス** Db2 Web Query 環境の ibi_html ディレクトリからコンテンツにアクセスする際に使用するエイリアスを指定します。Developer Workbench では、ibi_html エイリアスを構成する必要はありません。ibi_html コンテンツは、webquery エイリアス経由でアクセスされます。このエイリアスの構成は次のとおりです。

`/webquery/ibi_html`

説明

`webquery`

カスタマイズ可能です。

`ibi_html`

固定値です。

- ❑ **クライアントパス** Developer Workbench から Web サーバを呼び出す方法を指定します。デフォルト設定では、新しい Db2 Web Query 環境を追加する際に、デフォルト webquery コンテキストパスで Db2 Web Query Servlet が使用されます。

`/webquery/WFServlet`

説明

`webquery`

カスタマイズ可能です。

`WFServlet`

固定値です。

Db2 Web Query 環境でデフォルト以外のコンテキストパスを使用する場合は、[デフォルトの使用] のチェックをオフにし、正しいクライアントパスを指定します。以下はその例です。

`/webquery/WFServlet`

環境のクライアントパスに誤りがあると、ページ上部の [Db2 Web Query] ボタンをクリックした際、または [OK] をクリックして変更を保存してダイアログボックスを閉じる際に、エラーが表示されます。

パスが不明な場合は、Db2 Web Query 管理者に問い合わせるか、接続する環境の Db2 Web Query 管理コンソールで確認してください。環境のクライアントパス設定を確認するには、[構成] タブの [アプリケーションの設定] 下の [アプリケーションコンテキスト] をクリックします。

- ❑ **デフォルトの使用** デフォルトの `ibi_html` エイリアスを使用するかどうかを指定します。[HTML エイリアス] 値を変更していない場合は、このチェックをオンにしておきます。

注意

- ❑ [クライアントパス] がブランクの状態です。[デフォルトの使用] オプションを選択すると、Db2 Web Query Client との接続に問題が発生します。使用する Web サーバが起動していること、および [Web コンポーネント] ページにプロパティが正しく入力されていることを確認してください。接続できない場合は、Db2 Web Query 管理者に連絡してください。
- ❑ カスタムの HTML エイリアスおよびクライアントパスを入力した際に、誤った情報のために接続が失敗し、クライアントパスが削除された場合は、[デフォルトの使用] のチェックをオフにして、入力した値に戻すことができます。[デフォルトの使用] のチェックをオフにして HTML エイリアスおよびクライアントパスを編集し、正しい情報を入力します。カスタムの `webquery` エイリアスまたはコンテキストパスを使用する場合は、その値を [HTML エイリアス] および [クライアントパス] テキストボックスの両方に入力する必要があります。以下はその例です。

HTML エイリアス

`/webquery/ibi_html`

クライアントパス

`/webquery/WFServlet`

- ❑ **接続タイムアウト** Db2 Web Query 環境に接続する際のデフォルト時間は 60 秒です。動作の遅いシステムの場合は、タイムアウト時間が経過したことによる接続の失敗を回避するために、この値を増加させる必要があります。タイムアウトの問題が発生する場合は、この値を 240 以上に設定することをお勧めします。タイムアウト時間を増加させることで、動作の遅い環境や開発時に多くのリソース (アプリケーション、ファイル) を使用する環境で発生する問題に対処することもできます。
- ❑ **ログインタイムアウト** Developer Workbench がログイン認証情報の検証結果を待機する最大時間を指定します。デフォルト時間は 15 秒です。必要に応じて、この値を増加させることができます。この設定は、環境ごとに構成することが可能です。
- ❑ **Web コンポーネント認証情報** Web サーバで認証が必要かどうかを指定します。セキュリティを設定するには、ドロップダウンリストから [Basic] を選択し、Web サーバの [ユーザ名] と [パスワード] を入力します。[None] に設定する場合、Web サーバの匿名アクセスが許可されている必要があります。

Web サーバを X.509 などのブラウザベースの認証プロトコルを使用する環境用に構成するには、ドロップダウンリストから [ブラウザベースログイン] を選択します。

Db2 Web Query プロパティ

[Db2 Web Query] ボタンをクリックすると、Developer Workbench は Web サーバに接続し、Db2 Web Query 環境の接続情報を取得します。このため、最初に Web コンポーネントプロパティを指定する必要があります。また、Web サーバが起動している必要があります。

構成を確認するために Db2 Web Query にログインするよう要求されます。また、[OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じる際にも、Db2 Web Query にログインするよう要求されます。

次のプロパティが利用可能です。

- ❑ **クライアントパス** [Web コンポーネント] プロパティエリアで指定され、このウィンドウには参考用としてのみ表示されます。このテキストボックスに値を入力することはできません。この値は、[Web コンポーネント] プロパティエリアでのみ変更することができます。
- ❑ **言語を選択** Db2 Web Query Client の言語を指定します。
- ❑ **資格情報の共有** Db2 Web Query に接続して環境にアクセスする際に認証情報を入力して格納するかどうかを指定します。

Db2 Web Query Client パスを正しく指定すると、残りのコンポーネントのプロパティを指定できるようになります。

データサーバプロパティ

認証を設定し、使用可能な Reporting Server を表示するには、[データサーバ] ボタンをクリックします。[データサーバ] を選択すると、Developer Workbench は Db2 Web Query Client に接続し、通信構成ファイル (odin.cfg) からサーバのリストを取得します。

次のプロパティが利用可能です。

- **資格情報の共有** チェックがオンの場合は、選択されている Db2 Web Query Reporting Server の ユーザ ID およびパスワードを入力することができます。[設定] をクリックすると、環境プロパティの資格情報が格納され、入力された ID がリストのサーバの隣に表示されます。この認証情報は、[設定] ボタンのクリック時ではなく、次にそのサーバ上で機能を使用するときに確認されます。

手順

既存の Db2 Web Query 環境を編集するには

1. [ホーム] タブの [構成] グループで、[環境] をクリックします。
[環境リスト] ダイアログボックスが開きます。
2. 編集する環境を選択します。
3. [プロパティ] をクリックします。
[Db2 Web Query 環境のプロパティ] ダイアログボックスが開きます。
4. Db2 Web Query 環境を編集し、[OK] をクリックして変更を確定します。
5. [環境リスト] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

マネージャモード

[Manage Private Resources (プライベートリソース管理)] 権限を所有しているユーザは、マネージャモードを使用してプライベートファイルを表示、編集することができます。マネージャモードを有効にするには、[リポジトリ] ノードを右クリックし、[マネージャモード] を選択します。現在の表示がリフレッシュされ、[リポジトリ] ノード下のプライベートファイルがすべて表示されます。これらのプライベートファイルを開き、必要に応じて変更を加えることができます。作業の完了後、[リポジトリ] ノードを右クリックし、[標準モード] を選択します。現在の表示がリフレッシュされ、[リポジトリ] ノード下のプライベートファイルがすべて非表示になります。

注意: [リポジトリ] ノード下の特定のファイルが共有され、ユーザが元のファイルを保存する権限を所有していない場合、ファイルを保存するには [名前を付けて保存] を使用する必要があります。この方法では、元のファイルを上書きせずに、ファイルに別の名前を付けて保存することができます。

環境の詳細パネルの使用

[環境の詳細] パネルは、必要に応じて使用するパネルです。ここには、パネルのカスタマイズコマンド、[環境の詳細] ツールバー、[構成済み環境] ツリー、[詳細] ウィンドウが表示されます。[環境の詳細] パネルを表示するには、[ホーム] タブの [表示] グループで [環境の詳細] ボタンを選択します。

[環境の詳細] パネルは [環境ツリー] パネルに類似していますが、異なる点は、コンテンツが [構成済み環境] ツリーのノード下に表示される代わりに、[詳細] ウィンドウに表示されることです。

[環境の詳細] パネルでは、次のことを行えます。

- ❑ パネルの外観をカスタマイズする。
- ❑ [構成済み環境] ツリーの Db2 Web Query 環境下に表示されたコンテンツにフィルタを適用する。
- ❑ 構成済み Db2 Web Query 環境にアクセスして、新しいコンテンツを作成したり、既存のコンテンツを変更したりする。
- ❑ [構成済み環境] ツリーでアプリケーションまたはフォルダをリフレッシュして、新しいファイルや更新済みファイル情報を表示したり、削除済みファイルを除外したりする。

[構成済み環境] ツリーでフォルダのいずれかを選択すると、そのフォルダ内のコンテンツが [詳細] ウィンドウに表示されます。

参照

環境の詳細パネルのツールバー

[環境の詳細] パネルのツールバーには、[構成済み環境] ツリーに表示された情報をナビゲート、フィルタするためのメニューとボタンが配置されています。

表示オプション

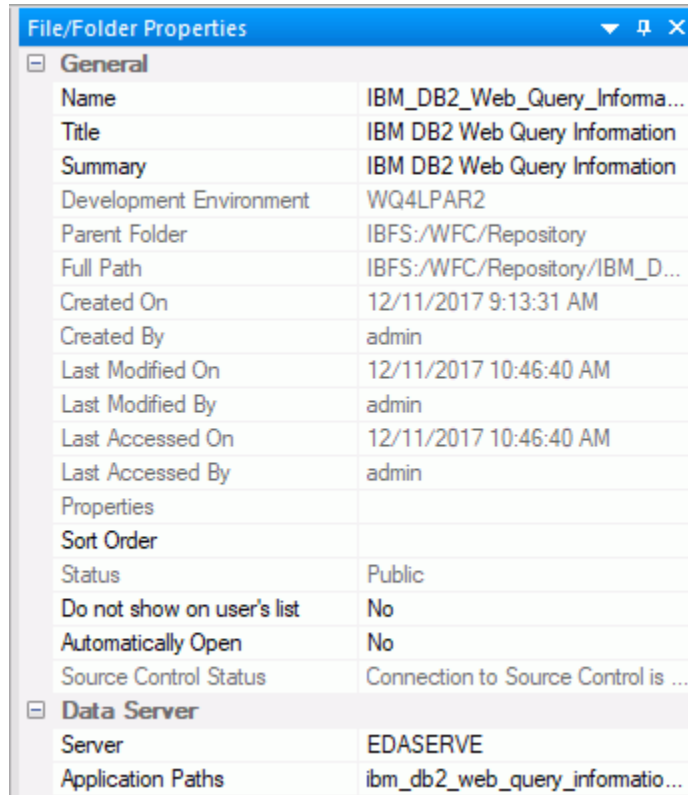
項目の表示オプションのリストが表示されます (例、名前順にソート、グループ化)。詳細は、49 ページの「[環境ツリーパネルのツールバー](#)」を参照してください。[環境の詳細] パネルのツールバーと [環境ツリー] パネルのツールバーに表示されるアイコンは共通です。

注意：[環境の詳細] パネル右側の [詳細] ウィンドウでコンテンツをソートする場合、[表示オプション] コマンドは使用しません。代わりに、[詳細] ウィンドウ上部の [名前]、[サイズ]、[タイプ]、[最終更新日]、[位置] 列のタイトルをクリックします。

ファイルとフォルダのプロパティ表示

[ファイル/フォルダのプロパティ] パネルには、[環境ツリー] パネルで選択したフォルダまたはファイルのプロパティが表示されます。たとえば、[環境ツリー] パネルでフォルダを選択すると、[ファイル/フォルダのプロパティ] パネルには、そのフォルダの名前、タイトル、最終更新日などの情報が表示されます。[環境ツリー] パネルでレポートファイルを選択すると、[ファイル/フォルダのプロパティ] パネルには、そのレポートでオートリンクやオートドリルダウンが有効であるかどうかなどの情報が表示されます。

下図は、[ファイル/フォルダのプロパティ] パネルを示しています。



このパネルに表示されるオプションは、選択したファイルまたはフォルダのタイプに応じて異なります。表示可能なプロパティは、[構成済み環境] ツリーの [データサーバ] および [リポジトリ] エリアに存在するファイルまたはフォルダのプロパティです。

ファイル/フォルダのプロパティパネルでのプロパティ値のコピー

[ファイル/フォルダのプロパティ] パネルからプロパティ値をコピーすることができます。プロパティ値を右クリックし、[コピー] を選択してプロパティ値をクリップボードにコピーします。この機能は、現在開いているファイルのフルパスをコピーする場合に使用すると便利です。

ファイル/フォルダのプロパティパネルでのプロパティの編集

下表は、[ファイル/フォルダのプロパティ] パネルでノードごとに編集可能なプロパティを示しています。

注意：[ファイル/フォルダのプロパティ] パネルで加えた変更は、パネルの外側をクリックするまで [構成済み環境] ツリーに反映されません。

データサーバ

要素	パネルで編集可能なプロパティ
ノード	<div><input type="checkbox"/> タイトル [構成済み環境] ツリーの [データサーバ] ノードのタイトルを変更します。</div> <div><input type="checkbox"/> サーバパス サーバの完全修飾パスを表示します。</div>
主フォルダ	<div><input type="checkbox"/> タイトル [構成済み環境] ツリーの主フォルダのタイトルを変更します。</div> <div><input type="checkbox"/> サーバパス サーバの完全修飾パスを表示します。</div>
サブフォルダ	<div><input type="checkbox"/> 名前 [構成済み環境] ツリーで選択したサブフォルダの名前を変更します。</div>
ファイル	<div><input type="checkbox"/> 名前 [構成済み環境] ツリーで選択したファイルの名前を変更します。</div>

リポジトリ

要素	パネルで編集可能なプロパティ
ノード	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> タイトル [構成済み環境] ツリーのリポジトリノードのタイトルを変更します。 <input type="checkbox"/> サーバパス サーバの完全修飾パスを表示します。
フォルダ	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 名前 [構成済み環境] ツリーで選択したフォルダの名前を変更します。 <input type="checkbox"/> タイトル [構成済み環境] ツリーで選択したフォルダのタイトルを変更します。 <input type="checkbox"/> 概要 フォルダのプロパティに概要情報を追加します。 <input type="checkbox"/> ソート順 選択したフォルダまたは項目をツリー内で表示する順序を指定します。 <input type="checkbox"/> 自動的に開く デフォルト値は [いいえ] に設定されています。[はい] を選択すると、Developer Workbench の次回セッション時にこのフォルダが自動的に展開されます。 <input type="checkbox"/> サーバ デフォルト値は、現在使用中のサーバです。ドロップダウンリストを使用して、このフォルダに別のサーバを関連付けることができます。 <input type="checkbox"/> アプリケーションパス デフォルト値は、選択したフォルダで指定されているアプリケーションパスです。この値は、必要に応じて変更することができます。

要素	パネルで編集可能なプロパティ
ファイル	<ul style="list-style-type: none"> ❑ 名前 [構成済み環境] ツリーで選択したファイルの名前を変更します。 ❑ タイトル [構成済み環境] ツリーで選択したファイルのタイトルを変更します。 ❑ 概要 フォルダのプロパティに概要情報を追加します。 ❑ ソート順 選択したファイルをツリー内で表示する順序を指定します。 ❑ その他のユーザに表示 デフォルト値は [はい] に設定されています。[はい] を選択すると、ユーザのリストにこのファイルが表示されます。[いいえ] を選択すると、他のユーザにこのフォルダは表示されません。 ❑ パラメータ実行 デフォルト値は [はい] に設定されています。[いいえ] を選択すると、パラメータのプロンプトは表示されません。 ❑ デファードレポートとしてのみ実行 デフォルト値は [いいえ] に設定されています。[はい] を選択すると、レポートまたはプロシジャがデファードレポートとしてのみ実行されます。 ❑ デファードレポートのタイトルの使用 デフォルト値は [いいえ] に設定されています。[はい] を選択すると、デファードレポートの説明として、名前の代わりにタイトルが使用されます。 ❑ スケジュールのみ デフォルト値は [いいえ] に設定されています。[はい] を選択すると、ユーザはレポートまたはプロシジャのスケジュールのみを行えます。 ❑ オートリンク有効 デフォルト値は [いいえ] に設定されています。[はい] を選択すると、互いに参照可能な多数のレポートやグラフを作成し、これらをリンクさせることができます。 ❑ オートリンクターゲット ファイルをオートリンクドリルダウンのターゲットとして設定するかどうかを指定します。デフォルト値は [いいえ] に設定されています。

要素	パネルで編集可能なプロパティ
ファイル	<ul style="list-style-type: none"> ❑ オートドリルダウンを有効にする デフォルト値は [いいえ] に設定されています。[はい] を選択すると、データソースのディメンション階層レベルの段階的な移動が可能になります。 ❑ サーバ デフォルト値は、現在使用中のサーバです。ドロップダウンリストを使用して、このファイルに別のサーバを関連付けることができます。 ❑ アプリケーションパス この値は、デフォルト設定で、選択したファイルで指定されているアプリケーションパスになります。この値は、必要に応じて変更することができます。

アプリケーションパスダイアログボックス

[Db2 Web Query] フォルダのアプリケーションパスは、このフォルダを選択した際に、[ファイル/フォルダのプロパティ] パネルに表示されます。[アプリケーションパス] ダイアログボックスを使用して、関連アプリケーションパスを追加、削除、順序変更することができます。

[アプリケーションパス] ダイアログボックスを開くには、[アプリケーションパス] テキストボックス横の [...] (参照) ボタンをクリックします。[アプリケーションパス] ダイアログボックスには、ドメインへの関連付けが可能なアプリケーションのリストと、ドメインに現在関連付けられているアプリケーションのリストが表示されます。

アプリケーションの追加または削除

ドメインにアプリケーションを追加するには、[利用可能] リストでアプリケーション名をダブルクリックします。[OK] をクリックして、[ファイル/フォルダのプロパティ] パネルで変更を確認します。

ドメインからアプリケーションを削除するには、[選択済み] リストでアプリケーション名をダブルクリックします。[OK] をクリックして、[ファイル/フォルダのプロパティ] パネルで変更を確認します。

アプリケーションの順序変更

[選択済み] リストでアプリケーションの順序を変更するには、アプリケーション名を選択し、上下の矢印をクリックします。[OK] をクリックして、[ファイル/フォルダのプロパティ] パネルで変更を確認します。

表示タブでの機能エリアの編集

表示タブを使用して、同一ファイルを機能エリア別に編集することができます。これらのタブには、他の表示タブからはアクセスできない情報が表示されます。

ページレイアウトのデザイン - デザイン表示タブの使用

[デザイン] 表示タブは、HTML ページを作成する際に表示されます。このタブで、キャンバスにコントロールやコンポーネントを追加することで、ページのレイアウトをデザインすることができます。HTML ページを作成する際は、このタブがデフォルト設定で選択されます。

パラメータ値の作成と変更 - パラメータ表示タブの使用

[パラメータ] 表示タブは、HTML ページまたは Analytic Document ダッシュボードを作成する際に表示されます。このタブでは、パラメータ値や入力コントロールを作成、編集したり、パラメータ条件をカスタマイズしたりできます。また、パラメータをコントロールにバインドしたり、コントロール間に連鎖を設定したりすることもできます。

[パラメータ] タブは、次のコンポーネントで構成されます。

❑ 入力コントロールオブジェクト

入力コントロールオブジェクトを選択し、コントロールのプロパティと設定の表示や編集を行うことができます。

- ❑ [デザイン] 表示で入力コントロールを作成すると、[パラメータ] タブでバインドパラメータを作成するよう要求されます。
- ❑ 新規パラメータに入力コントロールを設定したときに挿入された入力コントロールを編集します。

❑ 新規パラメータの追加

[パラメータ] タブで任意の位置を右クリックし、新規パラメータを追加することができます。

注意：パラメータを手動で追加した場合、未バインドのパラメータが作成されます。

❑ 未解決パラメータのリフレッシュ

[パラメータ] タブでは、すべてのパラメータが 2 分ごとに解析され、パラメータに未解決のものがないかどうか確認されます。未解決のパラメータが存在する場合、そのパラメータの周囲に赤色の多角形が表示されます。未解決のパラメータを必要に応じて確認する場合は、右クリックして [未解決項目のリフレッシュ] を選択します。

❑ コントロールとパラメータのバインド

[パラメータ] タブで、入力コントロールとパラメータのバインドの設定と解除が行えます。

パラメータにコントロールをバインドしたり、パラメータをコントロールにバインドしたりすることができます。

- コントロールにパラメータをバインドすると、そのパラメータはコントロールに入力される「入力パラメータ」になります。[パラメータ] タブで、パラメータオブジェクトをコントロールオブジェクトにドラッグすることができます。
- パラメータにコントロールをバインドすると、そのパラメータに値が入力されます。[パラメータ] タブで、コントロールオブジェクトをパラメータオブジェクトにドラッグすることができます。

□ 複数のコントロールの連鎖

連鎖を設定すると、連鎖内で前のコントロールで選択した値に基づいて、コントロールに値が入力されます。静的コントロールおよび動的コントロールに連鎖を設定することや、連鎖の一部へのリンクの設定と解除、連鎖内のリンクの設定、条件の作成が可能です。[パラメータ] タブでは、連鎖はコントロールオブジェクトを接続する線として表示されます。連鎖のリンクの矢じり部分をクリックすると、[プロパティと設定] ダイアログボックスで、連鎖のプロパティや条件の設定と変更を行うことができます。

注意：連鎖は、パラメータではなく、コントロールにのみ適用されます。

JavaScript およびカスケードスタイルシートの作成 - JavaScript 表示タブおよび CSS 表示タブの使用

[埋め込み JavaScript] および [埋め込み CSS] 表示タブは、HTML ページを作成する際に表示されます。このタブで、HTML ページで使用する JavaScript コードやカスケードスタイルシート (CSS) を作成することができます。既存のカスケードスタイルファイルや JavaScript ファイルを参照するには、[設定] パネルの [URL/ファイルの検索] エリアに URL を入力します。また、CSS または JavaScript コマンドを使用することで、これらのファイルを検索することもできます。

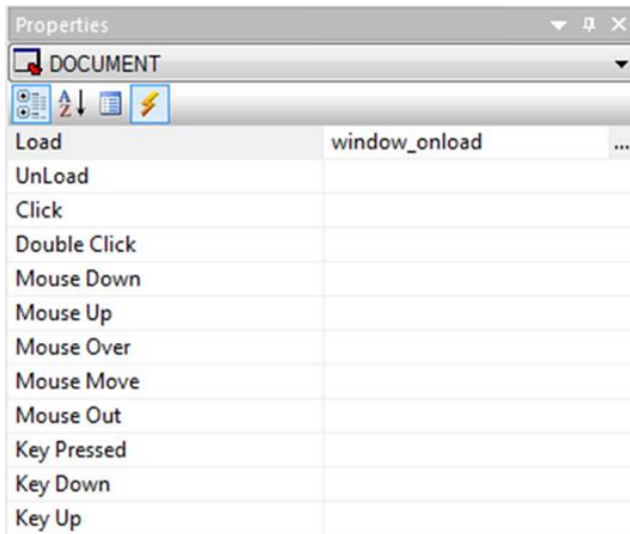
埋め込みコードは、ホスト HTML ファイルでのみ使用されます。外部コードは、複数のファイルで使用可能です。

手順 jQuery ツールヒントを使用してタイトルをカスタマイズするには

次の手順では、jQuery および内部 CSS を使用してタイトルをカスタマイズする方法について説明します。

1. HTML ページを作成します。
2. ページにコンポーネントまたはコントロールを追加します。

3. [プロパティ] パネルを開きます。
4. [基本属性] セクション下の [タイトル] プロパティに値を入力します。
5. キャンバスをクリックして、[DOCUMENT] オブジェクトが選択された状態にします。
6. [プロパティ] パネルのツールバーで、稲妻アイコンをクリックしてイベントリストを表示します。
7. 下図のように、[ロード時] イベントの右側の列をクリックして [...] (参照) ボタンを表示します。



8. HTML キャンバスで [埋め込み JavaScript] 表示タブを選択します。
9. 下図のように、コメント行の後に新しい行を追加し、次のコードを入力します。

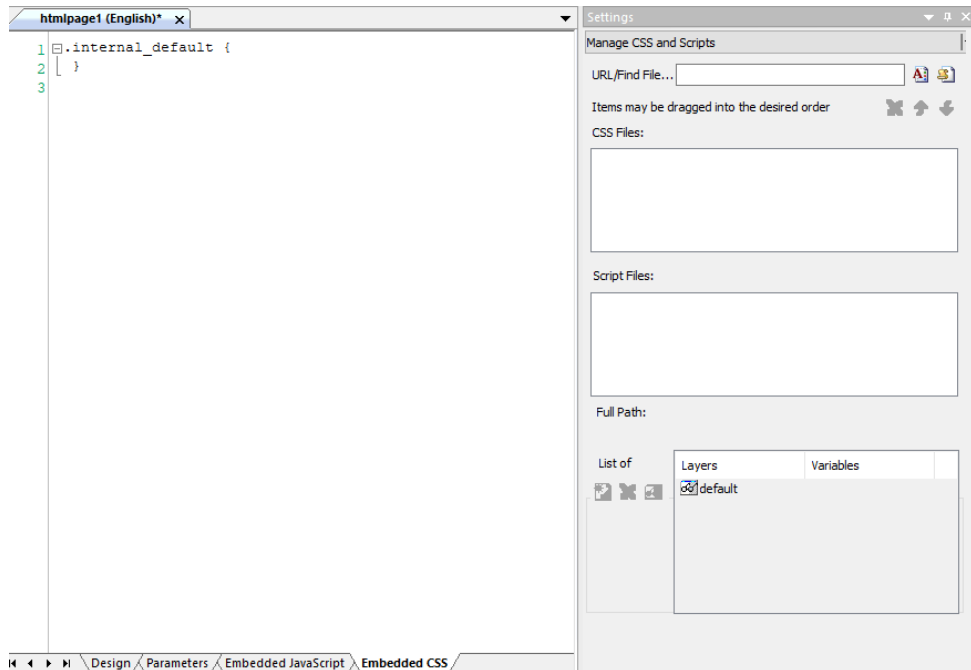
```
$(document).tooltip();
```

```
//Begin function window_onload
function window_onload() {

    UpdateData();

    // TODO: Add your event handler code here
    //add onInitialUpdate() function to make changes before initial run of the reports
    $(document).tooltip();
}
//End function window_onload
```

10. 下図のように、[埋め込み CSS] タブに移動します。



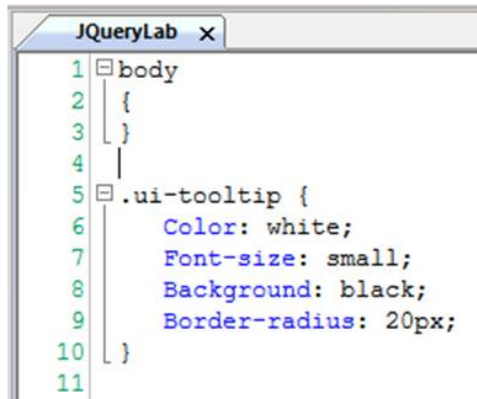
11. 1 つ目のクラス定義の後に新しい行を追加し、新しいクラス名として次のように入力します。

```
.ui-tooltip
```

12. 下図のように、以下の CSS スタイルを追加します。

- ☐ Color: white;
- ☐ Font-size: small;
- ☐ Background: black;

❑ Border-radius: 20px;



注意：必要に応じて、任意のスタイルを追加することができます。

13. HTML ページを保存して実行します。オブジェクト上にマウスポインタを置いて、スタイルが設定されたツールヒントを表示します。

パネルのカスタマイズ


リボンのタブと同様に、パネルには Developer Workbench の機能が表示され、アプリケーションの作成を支援する追加オプションが提供されます。すべてのパネルが同時に開くことはなく、各パネルで提供されるオプションはそれぞれ異なります。Developer Workbench をはじめて起動した際は、[環境ツリー] パネルのみが、キャンバスの端にドッキングされた状態で表示されます。[ファイル/フォルダのプロパティ] パネルも開きますが、自動的に最小化されます。

[環境ツリー] パネルを除いて、すべてのパネルはデフォルト設定で自動的に最小化されます。パネルカスタマイズオプションを使用することもできます。このオプションは、パネルの右上に表示され、パネルの外観およびキャンバス周囲のパネルの位置を変更することができます。

手順

キャンバス上のパネルの位置を変更するには

パネルのプロパティメニューを使用してキャンバス上のパネルの位置を変更するには、次の手順を実行します。

1. [ウィンドウの位置] ボタン  をクリックします。

パネルのプロパティメニューが開きます。

2. パネルのプロパティメニューからオプションを選択します。

次のオプションがあります。



- ❑ **フローティング** パネルのドッキングを解除し、キャンバスの周囲に自由に移動できるようにします。
- ❑ **ドッキング** パネルをキャンバスの端にドッキングします。ドッキング先は、そのパネルが最後にドッキング表示されていた位置になります。
- ❑ **タブ付きドキュメント** パネルをキャンバスエリアにタブとして表示します。現在、Developer Workbench ではこのオプションは使用できません。
- ❑ **自動的に隠す** パネルを最小化し、キャンバスの端にタブとして表示します。タブの上にマウスポインタを置くと、パネルが再度開きます。
- ❑ **非表示** パネルを閉じます。

注意：パネルのプロパティメニューは、パネルのタイトルバーを右クリックして開くこともできます。

手順


キャンバスにパネルを固定または固定解除するには

キャンバスにパネルを固定することで、アプリケーションの作成中にパネルを開いた状態にすることができます。パネルの固定を解除すると、パネルが再び最小化され、キャンバスの端にタブとして表示されます。このタブの上にマウスポインタを置くと、パネルが開きます。

- ❑ キャンバスにパネルを固定するには、[自動的に隠す] (横向き押しピン) ボタン  をクリックします。
- ❑ キャンバスからパネルの固定を解除するには、[自動的に隠す] (縦向き押しピン) ボタン  をクリックします。

手順

パネルを閉じるまたは再び開くには

- ❑ パネルを閉じるには、パネル右上の [閉じる] ボタン  をクリックします。
- ❑ パネルを再び開くには、[ホーム] タブの [表示] グループで、対応するパネル名のパネルボタンを選択します。
- ❑ HTML キャンバスでパネルを再び開くには、[ユーティリティ] タブの [表示] グループで、対応するパネル名のチェックをオンにします。

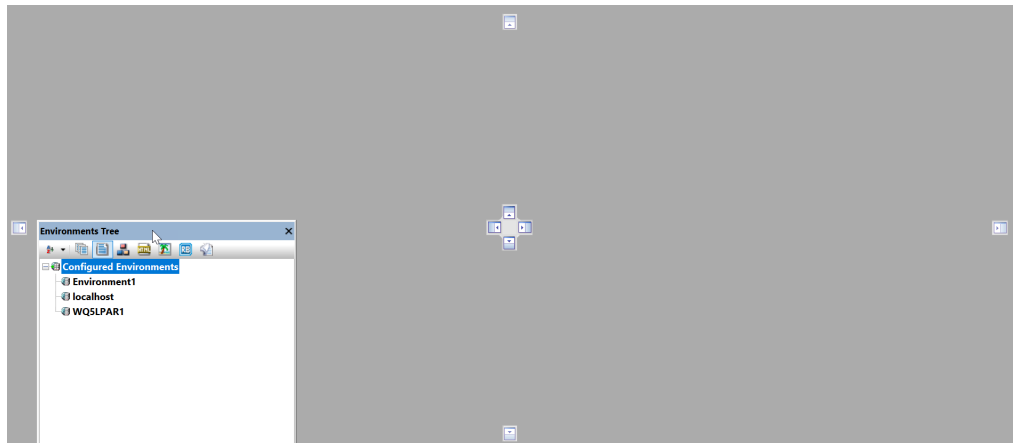
ハンドルの使用

フローティングパネルは、アクセスを容易にするためにキャンバスの端にドッキングすることができます。Developer Workbench キャンバス上でパネルをドラッグすると、一連のハンドルが表示されます。これらのハンドルを使用すると、パネルの配置が容易になります。パネルをドラッグしながらハンドル上にマウスポインタを置くと、パネルがキャンバスの端に自動的にドッキングされます。

手順 ハンドルを使用してパネルをキャンバスの周囲にドッキングするには

1. パネルのカスタマイズツールバーで下向き矢印をクリックし、[フローティング] を選択します。
2. キャンバス上でパネルをドラッグし、マウスポインタをハンドルの上に置きます。

ハンドルの上にマウスポインタを置くと、影の付いた領域が表示されます。下図のように、マウスボタンを離したときのパネルの移動先が、影の付いた領域としてプレビュー表示されます。

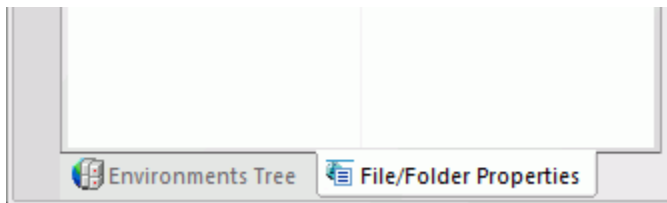


3. プレビュー表示されたパネルの位置が適切であれば、マウスボタンを離します。

パネルがキャンバスの端に自動的にドッキングされます。

アプリケーションを作成中に別のパネルが開く場合があります。キャンバス周囲の作業領域を確保するために、これらのパネルを結合することができます。フローティングパネルをドラッグし、ドッキングされた別のパネル上にマウスポインタを置くと、十字形のタブ付きハンドルが表示されます。

このハンドルを使用すると、複数のパネルが結合され、1つのコンテナ内にタブ付きパネルとして表示されます。パネルの表示を切り替えるには、コンテナ下部のタブをクリックします。下図は、[環境ツリー] パネルと [ファイル/フォルダのプロパティ] パネルが結合され、1つのコンテナ内でタブ付きパネルとして表示された例を示しています。



3

レポートの作成

レポートは、ビジネスインテリジェンスおよびビジネス分析の基盤です。レポートを作成することで、データに内在する有益な情報を抽出し、経営上の意思決定の向上に役立てることができます。Developer Workbench では、レポートキャンバスを使用してレポートを作成、編集することができます。レポートキャンバスは、同一の InfoAssist ツールで実行され、Db2 Web Query ブラウザのインターフェースで使用することができます。新しいレポートを作成する際は、レポートウィザードを使用します。レポートモードでは、単純なレポートや複雑なレポートの作成とスタイル設定、レポートキャンバスへのデータの追加、レポートページをグラフィカルに表現するためのデータのスタイル設定を行います。レポートモードでは、実行時にレポートがどのように表示されるかを確認することができます。

ここでは、レポート作成の概要、Developer Workbench で作成可能なレポートのタイプ、レポートウィザードを起動してレポートを作成する方法、各タイプのレポートの作成時に使用可能なサンプル GUI プロシジャおよび関連する Db2 Web Query 構文について説明します。

レポートウィザードについての詳細は、81 ページの「[レポートウィザードの起動](#)」を参照してください。

トピックス

□ [レポートウィザードの起動](#)

レポートウィザードの起動

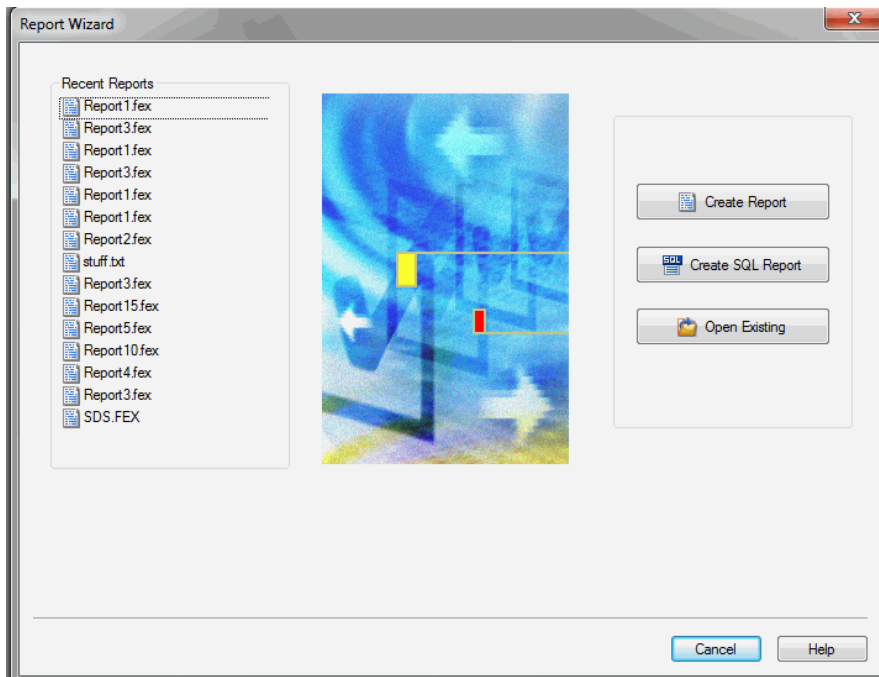
レポートウィザードを使用して、新しいレポートプロシジャや SQL レポートプロシジャを作成したり、既存のレポートを開いたりすることができます。

レポートウィザードを起動するには、次の手順を実行します。

- [ホーム] タブの [コンテンツ] グループで、[レポート] をクリックします。
- [環境ツリー] パネルでアプリケーションフォルダを右クリックし、[新規作成]、[レポート]、[レポート] を順に選択します。

注意：[環境ツリー] パネルのコンテキストメニューから新しいレポートを作成するよう選択した場合、レポートウィザードの最初の画面は省略されます。 レポートを作成するか、SQL レポートを作成するかを指定する必要はありません。代わりに、[データソースの選択] ウィンドウが開き、レポートの作成先として選択したディレクトリのパスが表示されます。

下図のように、レポートウィザードが開きます。



レポートウィザードでは、新しいレポートプロシジャまたは SQL レポートプロシジャを作成することも、最近使用したプロシジャを開くこともできます。

手順

レポートウィザードを使用してレポートを作成するには

レポートウィザードの起動後、レポートプロシジャの作成を開始することができます。

注意：[環境ツリー] パネルのコンテキストメニューから新しいレポートを作成するよう選択した場合、レポートウィザードの最初の画面は省略されます。 レポートを作成するか、SQL レポートを作成するかを指定する必要はありません。代わりに、[データソースの選択] ウィンドウが開き、レポートの作成先として選択したディレクトリのパスが表示されます。

1. [レポートの作成] ボタンをクリックします。

[レポートウィザード - プロシジャパスの選択] ウィンドウが開きます。

2. 新しいレポートの作成先ディレクトリに移動し、[次へ] をクリックします。

[データソースの選択] ウィンドウが開きます。

3. アプリケーションフォルダツリー下でアプリケーションフォルダを選択し、マスターファイルリストでマスターファイルを選択します。選択したアプリケーションフォルダ内のデータソースのみを表示し、修飾ファイル名参照を生成するには、[修飾パスの使用] のチェックをオンにします。
4. [完了] をクリックします。

レポートキャンバスと [プロシジャビュー] パネルが開きます。

5. オブジェクトインスペクタでフィールドをダブルクリックするか、フィールドをキャンバスにドラッグして、そのフィールドをレポートに追加します。
6. [レポート]、[フォーマット]、[データ]、[レイアウト]、[表示]、[イメージ]、[フィールド]、[外観] タブのオプションを使用して、レポートにフォーマットを設定します。
7. レポートを保存するには、クイックアクセスツールバーの [上書き保存] をクリックするか、[アプリケーション] メニューから [保存] または [名前を付けて保存] を選択します。
8. レポートを実行するには、クイックアクセスツールバーの [実行] をクリックするか、[アプリケーション] メニューから [実行] を選択します。

手順

外部 .sql ファイルから SQL レポートを作成するには

レポートウィザードの起動後、SQL レポートプロシジャの作成を開始することができます。このオプションを選択すると、ドメインに存在する外部プロシジャを参照して選択することができます。

注意：[環境ツリー] パネルのコンテキストメニューから新しい SQL レポートを作成する場合、レポートウィザードの最初の画面は省略されます。レポートを作成するか、SQL レポートを作成するかを指定する必要はありません。代わりに、[SQL レポートウィザード - ようこそ] ウィンドウが開きます。

1. [SQL レポートの作成] をクリックします。

[レポートウィザード - 新規 SQL レポートパスの選択] ウィンドウが開きます。

2. SQL レポートの作成先ディレクトリを選択し、[次へ] をクリックします。

[SQL レポートウィザード - ようこそ] ウィンドウが表示されます。

3. [外部 '.sql' ファイルを取り込む] オプションをクリックします。

4. [次へ] をクリックします。

[SQL レポートウィザード - データアクセス情報] ウィンドウが開きます。

5. [SQL データベースエンジン] エリアのドロップダウンリストから、データベースを選択します。ドロップダウンリストに表示されるオプションは、Reporting Server 構成に応じて異なります。
6. [接続情報] エリアのドロップダウンリストから、選択したエンジンで使用可能な接続を選択します。
7. [次へ] をクリックします。

[SQL レポートウィザード - 外部 SQL ファイルの取り込み] ウィンドウが開きます。

8. [参照] ボタンをクリックして外部 SQL ファイル名を選択するか、テキストボックスに外部 SQL ファイル名を入力します。

必要に応じて、[SQL を実行] をクリックし、レコード件数を制限して SQL を実行します。デフォルト設定では、[レコードを制限して実行] のチェックはオンになっています。選択したエンジンでサポートされている場合は、レコード数を制限してプロシジャをテストすることができます。チェックボックスの横に表示されたテキストボックスに、読み取りレコード数を入力することができます。デフォルトの制限数は 100 です。

9. [次へ] をクリックします。

[SQL レポートウィザード - SQL オプションの確認] ウィンドウが開きます。指定したオプションを確認し、[次へ] をクリックすると、[レポートウィザード - SQL データソース] ウィンドウが開きます。

10. 新しいプロシジャの作成先ディレクトリに移動します。

11. [プロシジャ名を入力] テキストボックスに、SQL レポートの名前を入力します。

注意：新しいレポートを作成する際の、プロシジャ名の入力とは必須ではありません。[プロシジャ名を入力] テキストボックスにプロシジャ名を入力しなかった場合、そのプロシジャを保存するまでデフォルトのプロシジャ名が表示されます。

12. [完了] をクリックします。

レポートキャンバスと [プロシジャビュー] パネルが開きます。リボンの各タブを使用して、レポートにデータを追加し、データのフォーマットを設定することができます。

手順

SQL パススルーを使用してリレーショナルデータベースに SQL コマンドを渡すには

レポートウィザードの起動後、SQL コマンドを入力して SQL レポートプロシジャの作成を開始することができます。これらの SQL コマンドは、SQL パススルー機能を使用して RDBMS に渡されます。

注意：[環境ツリー] パネルのコンテキストメニューから新しい SQL レポートを作成する場合、レポートウィザードの最初の画面は省略されます。レポートを作成するか、SQL レポートを作成するかを指定する必要はありません。代わりに、[レポートウィザード - 新規 SQL レポートパスの選択] ウィンドウが開き、レポートの作成先として選択したディレクトリのパスが表示されます。

1. [SQL レポートの作成] をクリックします。

[レポートウィザード - 新規 SQL レポートパスの選択] ウィンドウが開きます。

2. SQL レポートの作成先ディレクトリを選択し、[次へ] をクリックします。

[SQL レポートウィザード - ようこそ] ウィンドウが表示されます。

3. [SQL ステートメントをこのレポートリクエスト内に入力する] をクリックします。

4. [次へ] をクリックします。

[SQL レポートウィザード - データアクセス情報] ウィンドウが開きます。

5. [SQL データベースエンジン] エリアのドロップダウンリストから、データベースを選択します。ドロップダウンリストに表示されるオプションは、Reporting Server 構成に応じて異なります。

6. [接続情報] エリアのドロップダウンリストから、選択したエンジンで使用可能な接続を選択します。

7. [次へ] をクリックします。

[SQL レポートウィザード - SQL ステートメントの入力] ウィンドウが開きます。

8. テキストボックスに、データベースに渡す SQL ステートメントを入力します。

必要に応じて、[SQL を実行] をクリックし、レコード件数を制限して SQL を実行します。デフォルト設定では、[レコードを制限して実行] のチェックはオンになっています。選択したエンジンでサポートされている場合は、レコード数を制限してプロシジャをテストすることができます。チェックボックスの横に表示されたテキストボックスに、読み取りレコード数を入力することができます。デフォルトの制限数は 100 です。

9. [次へ] をクリックします。

[SQL レポートウィザード - SQL オプションの確認] ウィンドウが開きます。

10. 選択したオプションを確認し、[次へ] をクリックします。

[レポートウィザード - SQL データソース] ウィンドウが開きます。

11. 新しいプロシジャの作成先ディレクトリに移動します。

12. [プロシジャ名を入力] テキストボックスに、SQL レポートの名前を入力します。

注意：新しいレポートを作成する際の、プロシジャ名の入力必須ではありません。[プロシジャ名を入力] テキストボックスにプロシジャ名を入力しなかった場合、そのプロシジャを保存するまでデフォルトのプロシジャ名が表示されます。

13. [完了] をクリックします。

レポートキャンバスと [プロシジャビュー] パネルが開きます。リボンの各タブを使用して、レポートにデータを追加し、データのフォーマットを設定することができます。

手順

既存の .sql ファイルから SQL コマンドをインポートするには

既存の .sql ファイルからコマンドをインポートすることができます。これにより、作成中のプロシジャに外部ファイルをインポートした後で、SQL コードを編集することが可能になります。コードの一部を使用してリクエストを編集することができます。

注意：[環境ツリー] パネルのコンテキストメニューから新しい SQL レポートを作成する場合、レポートウィザードの最初の画面は省略されます。レポートを作成するか、SQL レポートを作成するかを指定する必要はありません。代わりに、[レポートウィザード - 新規 SQL レポートパスの選択] ウィンドウが開き、レポートの作成先として選択したディレクトリのパスが表示されます。

1. [SQL レポートの作成] をクリックします。

[レポートウィザード - 新規 SQL レポートパスの選択] ウィンドウが開きます。

2. SQL レポートの作成先ディレクトリを選択し、[次へ] をクリックします。

[SQL レポートウィザード - ようこそ] ウィンドウが表示されます。

3. [既存の '.sql' ファイルからインポートする] をクリックし、[次へ] をクリックします。

[SQL レポートウィザード - データアクセス情報] ウィンドウが開きます。

4. [SQL データベースエンジン] エリアのドロップダウンリストから、データベースを選択します。ドロップダウンリストに表示されるオプションは、Reporting Server 構成に応じて異なります。

5. [接続情報] エリアのドロップダウンリストから、選択したエンジンで使用可能な接続を選択します。

6. [次へ] をクリックします。

[SQL レポートウィザード - 外部 SQL ファイルのインポート] ウィンドウが開きます。

7. SQL ファイル名を入力するか、[参照] ボタンをクリックしてファイルを選択します。

必要に応じて、[SQL を実行] をクリックし、レコード件数を制限して SQL を実行します。デフォルト設定では、[レコードを制限して実行] のチェックはオンになっています。選択したエンジンでサポートされている場合は、レコード数を制限してプロシジャをテストすることができます。チェックボックスの横に表示されたテキストボックスに、読み取りレコード数を入力することができます。デフォルトの制限数は 100 です。これらのオプションはここで編集することも、次のステップで編集することもできます。

8. [次へ] をクリックします。

[SQL レポートウィザード - SQL ステートメントの入力] ウィンドウが開きます。

9. テキストボックスに、データベースに渡す SQL ステートメントを入力します。

10. [次へ] をクリックします。

[SQL レポートウィザード - SQL オプションの確認] ウィンドウが開きます。

11. 選択したオプションを確認し、[次へ] をクリックします。

[レポートウィザード - SQL データソース] ウィンドウが開きます。

12. 新しいプロシジャの作成先ディレクトリに移動します。

13. [プロシジャ名を入力] テキストボックスに、SQL レポートの名前を入力します。

注意：新しいレポートを作成する際の、プロシジャ名の入力 は必須ではありません。[プロシジャ名を入力] テキストボックスにプロシジャ名を入力しなかった場合、そのプロシジャを保存するまでデフォルトのプロシジャ名が表示されます。

14. [完了] をクリックします。

レポートキャンバスと [プロシジャビュー] パネルが開きます。リボンの各タブを使用して、レポートにデータを追加し、データのフォーマットを設定することができます。

4


グラフの作成

データの意味を伝える場合、そのデータを表形式で表現するよりも、グラフを使用した方が分かりやすい場合がよくあります。グラフを使用すると、量的情報を視覚的に伝達することができます。グラフデータに形状やフォームを適用することで、多数のデータ値間のパターンや関係を明らかにすることができます。グラフでは、詳細な調査を要する異常値が明確になります。

データの表示に適したグラフを選択することが重要です。Developer Workbench には、基本グラフと詳細グラフの両方が含まれたグラフライブラリが用意されています。多種多様なグラフから、データの表示に最適なグラフを選択することができます。

Developer Workbench では、グラフキャンバスを使用してグラフを作成、編集することができます。グラフキャンバスは、同一の InfoAssist ツールで実行され、Db2 Web Query ブラウザのインターフェースで使用することができます。新しいグラフを作成する際は、グラフウィザードを使用します。

ここでは、Db2 Web Query Developer Workbench で作成可能なグラフタイプの概要、およびグラフウィザードを起動してグラフを作成する方法について説明します。

ビジュアライゼーションの作成についての詳細は、 アイコンをクリックしてオンラインヘルプを参照してください。

トピックス

- [グラフウィザードの起動](#)
 - [ビジュアライゼーションの作成](#)
-

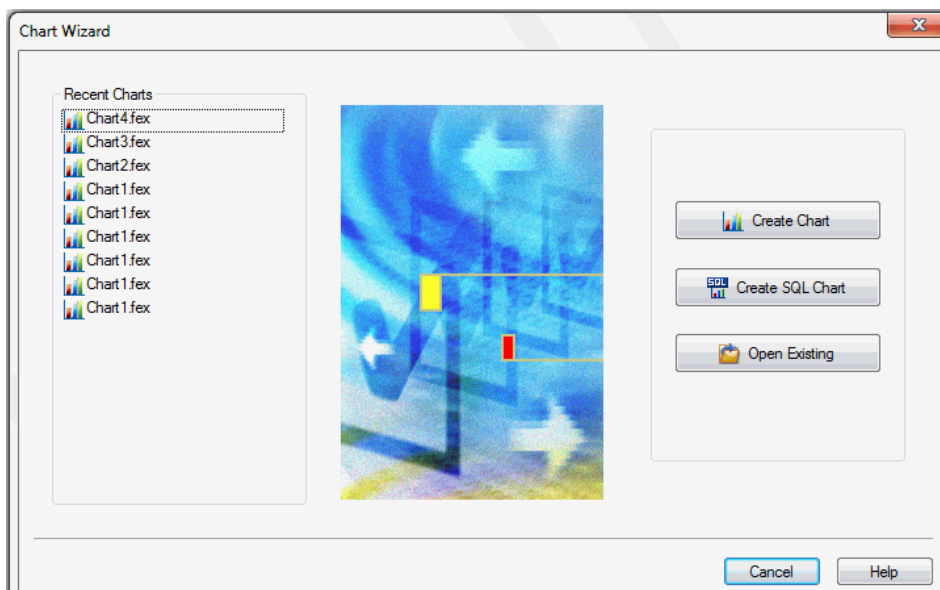
グラフウィザードの起動

グラフウィザードを起動するには、次の手順を実行します。

- [ホーム] タブの [コンテンツ] グループで、[グラフ] をクリックします。グラフキャンバスを使用してグラフを作成する場合、このオプションを使用します。
- [環境ツリー] パネルでアプリケーションフォルダを右クリックし、[新規作成] を選択後、[InfoAssist] を選択して [グラフ] または [SQL グラフ] をクリックし、グラフキャンバスでグラフを作成するか、[DESIGNER] を選択して [グラフ] をクリックし、DESIGNER でグラフを作成します。

注意：[環境ツリー] パネルのコンテキストメニューから新しいグラフを作成するよう選択した場合、グラフウィザードの最初の画面は省略されます。グラフを作成するか、SQL グラフを作成するかを指定する必要はありません。これらのオプションはすでに選択済みです。代わりに、[データソースの選択] ウィンドウが開き、グラフの作成先として選択したディレクトリのパスが表示されます。

下図のように、グラフウィザードが開きます。



グラフウィザードでは、新しい グラフプロシジャまたは SQL グラフプロシジャを作成することも、最近使用したプロシジャを開くこともできます。

手順

グラフキャンバスを使用してグラフを作成するには

グラフウィザードの起動後、グラフプロシジャの作成を開始することができます。

注意：[環境ツリー] パネルのコンテキストメニューから新しいグラフを作成するよう選択した場合、グラフウィザードの最初の画面は省略されます。 グラフを作成するか、SQL グラフを作成するかを指定する必要はありません。代わりに、[データソースの選択] ウィンドウが開き、グラフの作成先として選択したディレクトリのパスが表示されます。

1. グラフキャンバスを使用してグラフを作成するには、[グラフの作成] をクリックします。
[グラフウィザード - 新規グラフのパスを選択] ウィンドウが開きます。
2. 新しいグラフの作成先ディレクトリに移動し、[次へ] をクリックします。

[データソースの選択] ウィンドウが開きます。

3. アプリケーションフォルダツリーでアプリケーションフォルダを選択し、マスターファイルリストでマスターファイルを選択します。選択したアプリケーションフォルダ内のデータソースのみを表示するには、[修飾パスの使用] のチェックをオンにします。
4. [完了] をクリックします。
グラフキャンバスが開きます。
5. [データ] パネルでフィールドをダブルクリックして、そのフィールドをグラフに追加します。
グラフキャンバス上部のリボンの機能を使用して、グラフのフォーマットを設定します。
6. グラフを保存するには、クイックアクセスツールバーの [上書き保存] をクリックするか、[アプリケーション] メニューから [保存] を選択します。
7. グラフを実行するには、Developer Workbench クイックアクセスツールバーの [実行] をクリックします。

手順

外部 .sql ファイルから SQL グラフを作成するには

グラフウィザードの起動後、SQL グラフプロシジャの作成を開始することができます。

注意：[環境ツリー] パネルのコンテキストメニューから新しい SQL グラフを作成するよう選択した場合、グラフウィザードの最初の画面は省略されます。 グラフを作成するか、SQL グラフを作成するかを指定する必要はありません。代わりに、[SQL グラフウィザード - ようこそ] ウィンドウが開き、グラフの作成先として選択したディレクトリのパスが表示されます。

1. [SQL グラフの作成] を選択します。
[グラフウィザード - 新規グラフのパスを選択] ウィンドウが開きます。
2. 新しいグラフの作成先ディレクトリに移動し、[次へ] をクリックします。
[SQL グラフウィザード - ようこそ] ウィンドウが表示されます。
3. [外部 '.sql' ファイルを取り込む] オプションをクリックします。このオプションを選択すると、[データサーバ] または [ドメイン] エリアのフォルダに存在する外部プロシジャを参照して選択することができます。
4. [次へ] をクリックします。
[SQL グラフウィザード - データアクセス情報] ウィンドウが開きます。
5. [SQL データベースエンジン] エリアのドロップダウンリストから、データベースを選択します。ドロップダウンリストに表示されるオプションは、Reporting Server 構成に応じて異なります。

6. [接続情報] エリアのドロップダウンリストから、選択したエンジンで使用可能な接続を選択します。

7. [次へ] をクリックします。

[SQL グラフウィザード - 外部 SQL ファイルの取り込み] ウィンドウが開きます。

8. [参照] ボタンをクリックして外部 SQL ファイル名を選択するか、テキストボックスに外部 SQL ファイル名を入力します。

必要に応じて、[SQL を実行] をクリックし、レコード件数を制限して SQL を実行します。デフォルト設定では、[レコードを制限して実行] のチェックはオンになっています。選択したエンジンでサポートされている場合は、レコード数を制限してプロシジャをテストすることができます。チェックボックスの横に表示されたテキストボックスに、読み取りレコード数を入力することができます。デフォルト値は 100 です。

9. [次へ] をクリックします。

[SQL グラフウィザード - SQL オプションの確認] ウィンドウが開きます。

10. 選択したオプションを確認し、[完了] をクリックします。

[SQL グラフウィザード - SQL データソース] ウィンドウが開きます。

11. 新しいプロシジャの作成先ディレクトリに移動します。

12. グラフを保存するには、クイックアクセスツールバーの [上書き保存] をクリックするか、[アプリケーション] メニューから [保存] を選択します。

注意：新しいグラフの作成時の、プロシジャ名の入力は必須ではありません。[プロシジャ名を入力] テキストボックスにプロシジャ名を入力しなかった場合、そのプロシジャを保存するまでデフォルトのプロシジャ名が表示されます。

13. グラフを実行するには、クイックアクセスツールバーの [実行] をクリックします。

グラフキャンバスと [プロシジャビュー] パネルが開きます。リボンのタブを使用して、グラフにデータを追加し、データにフォーマットを設定することができます。

手順

SQL パススルーを使用してリレーショナルデータベースに SQL コマンドを渡すには

グラフウィザードの起動後、SQL グラフプロシジャの作成を開始することができます。

注意：[環境ツリー] パネルのコンテキストメニューから新しい SQL グラフを作成するよう選択した場合、グラフウィザードの最初の画面は省略されます。 グラフを作成するか、SQL グラフを作成するかを指定する必要はありません。代わりに、[グラフウィザード - 新規 SQL グラフのパスを選択] ウィンドウが開き、グラフの作成先として選択したディレクトリのパスが表示されます。

1. [SQL グラフの作成] をクリックします。

[グラフウィザード - 新規 SQL グラフのパスを選択] ウィンドウが開きます。

2. SQL グラフの作成先ディレクトリに移動し、[次へ] をクリックします。

[SQL グラフウィザード - ようこそ] ウィンドウが表示されます。

3. [SQL ステートメントをこのレポートリクエスト内に入力する] をクリックします。これにより、SQL パススルー機能を使用して、入力した SQL コマンドをリレーショナルデータベースに渡すことが可能になります。

4. [次へ] をクリックします。

[SQL グラフウィザード - データアクセス情報] ウィンドウが開きます。

5. [SQL データベースエンジン] エリアのドロップダウンリストから、データベースを選択します。ドロップダウンリストに表示されるオプションは、Reporting Server 構成に応じて異なります。

6. [接続情報] エリアのドロップダウンリストから、選択したエンジンで使用可能な接続を選択します。

7. [次へ] をクリックします。

[SQL グラフウィザード - SQL ステートメントの入力] ウィンドウが開きます。

8. テキストボックスに、データベースに渡す SQL ステートメントを入力します。

必要に応じて、[SQL を実行] をクリックし、レコード件数を制限して SQL を実行します。デフォルト設定では、[レコードを制限して実行] のチェックはオンになっています。選択したエンジンでサポートされている場合は、レコード数を制限してプロシジャをテストすることができます。チェックボックスの横に表示されたテキストボックスに、読み取りレコード数を入力することができます。デフォルトの制限数は 100 です。

9. [次へ] をクリックします。

[SQL グラフウィザード - SQL オプションの確認] ウィンドウが開きます。

10. 選択したオプションを確認し、[完了] をクリックします。

[SQL グラフウィザード - SQL データソース] ウィンドウが開きます。

11. 新しいプロシジャの作成先ディレクトリに移動します。
12. グラフを保存するには、クイックアクセスツールバーの [上書き保存] をクリックするか、[アプリケーション] メニューから [保存] を選択します。

注意：新しいグラフの作成時の、プロシジャ名の入力とは必須ではありません。[プロシジャ名を入力] テキストボックスにプロシジャ名を入力しなかった場合、そのプロシジャを保存するまでデフォルトのプロシジャ名が表示されます。

13. グラフを実行するには、クイックアクセスツールバーの [実行] をクリックします。

グラフキャンバスと [プロシジャビュー] パネルが開きます。リボンのタブを使用して、グラフにデータを追加し、データにフォーマットを設定することができます。

手順

既存の .sql ファイルから SQL コマンドをインポートするには

既存の .sql ファイルからコマンドをインポートすることができます。

注意：[環境ツリー] パネルのコンテキストメニューから新しい SQL グラフを作成する場合、グラフウィザードの最初の画面は省略されます。グラフを作成するか、SQL グラフを作成するかを指定する必要はありません。代わりに、[グラフウィザード - 新規グラフのパスを選択] ウィンドウが開き、グラフの作成先として選択したディレクトリのパスが表示されます。

1. グラフウィザードを起動し、[SQL グラフの作成] をクリックします。
[グラフウィザード - 新規グラフのパスを選択] ウィンドウが開きます。
2. 新しいグラフの作成先ディレクトリに移動し、[次へ] をクリックします。
[SQL グラフウィザード - ようこそ] ウィンドウが表示されます。
3. [既存の '.sql' ファイルからインポートする] をクリックし、[次へ] をクリックします。これにより、作成中のプロシジャに外部ファイルをインポートした後で、SQL コードを編集することが可能になります。コードの一部を使用してリクエストを編集することができます。
[SQL グラフウィザード - データアクセス情報] ウィンドウが開きます。
4. [SQL データベースエンジン] エリアのドロップダウンリストから、データベースを選択します。ドロップダウンリストに表示されるオプションは、Reporting Server 構成に応じて異なります。
5. [接続情報] エリアのドロップダウンリストから、選択したエンジンで使用可能な接続を選択します。
6. [次へ] をクリックします。
[SQL グラフウィザード - 外部 SQL ファイルのインポート] ウィンドウが開きます。

7. SQL ファイル名を入力するか、[参照] ボタンをクリックしてファイルを選択します。

必要に応じて、[SQL を実行] をクリックし、レコード件数を制限して SQL を実行します。デフォルト設定では、[レコードを制限して実行] のチェックはオンになっています。選択したエンジンでサポートされている場合は、レコード数を制限してプロシジャをテストすることができます。チェックボックスの横に表示されたテキストボックスに、読み取りレコード数を入力することができます。デフォルトの制限数は 100 です。これらのオプションはここで編集することも、次のステップで編集することもできます。
8. [次へ] をクリックします。

[SQL グラフウィザード - SQL ステートメントの入力] ウィンドウが開きます。
9. テキストボックスに、データベースに渡す SQL ステートメントを入力します。
10. [次へ] をクリックします。

[SQL グラフウィザード - SQL オプションの確認] ウィンドウが開きます。
11. 選択したオプションを確認し、[次へ] をクリックします。

[SQL グラフウィザード - SQL データソース] ウィンドウが開きます。
12. 新しいプロシジャの作成先ディレクトリに移動します。
13. グラフを保存するには、クイックアクセスツールバーの [上書き保存] をクリックするか、[アプリケーション] メニューから [保存] を選択します。

注意：新しいグラフの作成時の、プロシジャ名の入力必須ではありません。[プロシジャ名を入力] テキストボックスにプロシジャ名を入力しなかった場合、そのプロシジャを保存するまでデフォルトのプロシジャ名が表示されます。
14. グラフを実行するには、クイックアクセスツールバーの [実行] をクリックします。

グラフキャンバスと [プロシジャビュー] パネルが開きます。リボンのタブを使用して、グラフにデータを追加し、データにフォーマットを設定することができます。

ビジュアライゼーションの作成

Developer Workbench では、ビジュアライゼーションを作成、編集することができます。ビジュアライゼーションは、特定の戦略目標に関するデータをさまざまなビューで表現することで、情報を一元的に提供する視覚化手法です。たとえば、特定の期間や地域におけるデータの傾向や変動を確認したい場合があります。

ビジュアライゼーションを使用すると、単一画面に統合された情報が一目瞭然になります。ビジュアライゼーションでは、さまざまなタイプのグラフ、マップ、リストがサポートされます。たとえば、棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフを使用して、同一データを異なるビューで表示することができます。また、特定のビジュアルを補足するために、別のタイプの関連データを異なるタイプのビジュアルで表示することもできます。さらに、ビジュアライゼーションにテキストセルを追加して、他のユーザが参照できるよう説明テキストや情報を提供することもできます。ビジュアライゼーションを使用することで、データの変化をモニタすることもできます。ビジュアライゼーションでは、元のデータや他のコンポーネントの変更に応じて、リアルタイムで情報が提供されます。データニーズの変化に伴い、ビジュアライゼーションをいつでも更新、変更、修正することができます。

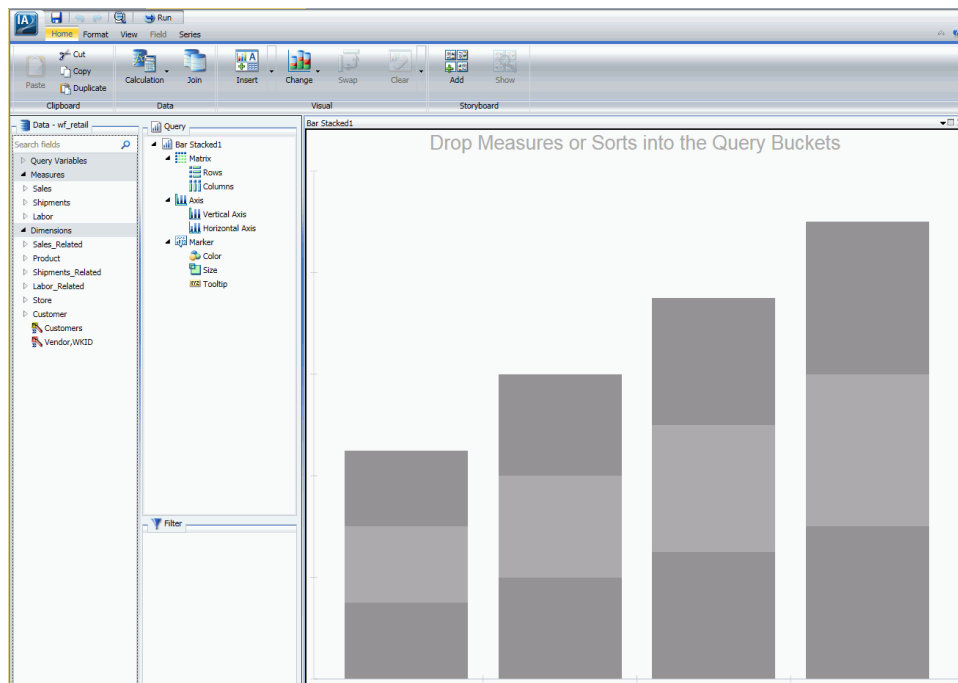
手順

新しいビジュアライゼーションを作成するには

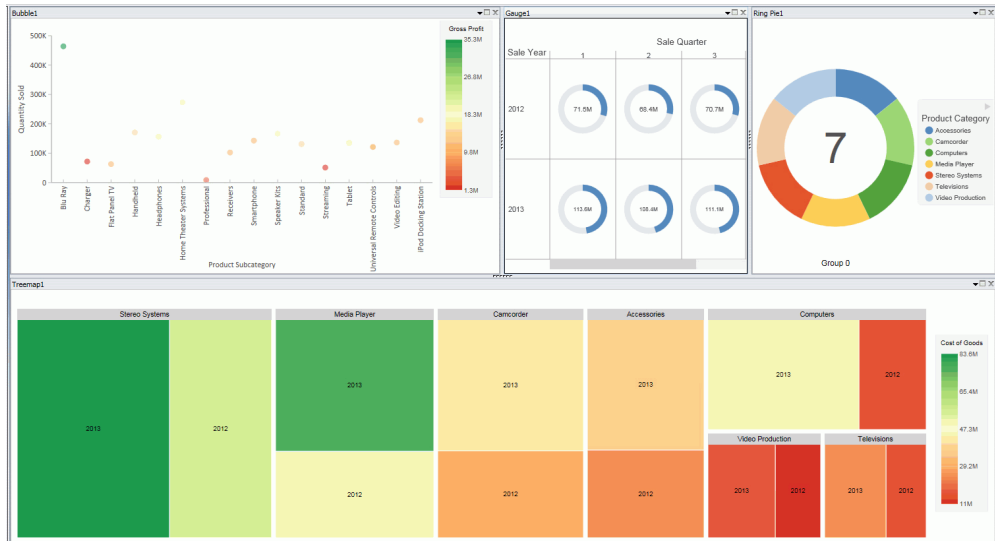
ビジュアライゼーションは、[環境ツリー] パネルまたは [環境の詳細] パネルの [リポジトリ] ノードから作成することができます。


1. [環境ツリー] パネルまたは [環境の詳細] パネルの [リポジトリ] ノード下でフォルダを右クリックし、[新規作成]、[InfoAssist]、[ビジュアライゼーション] を順に選択します。
2. リストからマスターファイルを選択し、[開く] をクリックします。

下図のように、Db2 Web Query のインターフェースが開きます。ここで、グラフ、マップ、リストを作成して、データを視覚的に表現することができます。



下図は、複数のビジュアル (バブルグラフ、メータグラフ、リンググラフ、ツリーマップ) で構成されたビジュアライゼーションを示しています。



注意: ビジュアライゼーションの作成についての詳細は、 アイコンをクリックしてオンラインヘルプを参照してください。

5

HTML ページの作成

Developer Workbench では、HTML キャンバスを使用して HTML ページを作成、編集することができます。新しい HTML ページを作成する際は、HTML/ドキュメントウィザードを使用します。

ここでは、HTML/ドキュメントウィザードを起動して HTML ページを作成する方法について説明します。また、HTML キャンバスで HTML ページを作成する際に使用可能なタブおよびパネルについても説明します。

注意：Developer Workbench で HTML キャンバスを使用する場合、PC の拡大縮小率およびレイアウト画面設定を 100 パーセントにすることをお勧めします。これにより、Developer Workbench での表示が適正になります。

トピックス

- ❑ [HTML/ドキュメントウィザードの起動](#)
- ❑ [リクエストとデータソースパネルの使用](#)
- ❑ [HTML ページのコンポーネントへのアクセス](#)
- ❑ [ブラウザのデフォルト設定の指定](#)
- ❑ [パラメータの使用](#)
- ❑ [HTML キャンバスでの連鎖の設定](#)
- ❑ [オブジェクト属性の表示](#)
- ❑ [HTML キャンバスページでの JavaScript コードの使用](#)
- ❑ [オブジェクト設定の編集](#)
- ❑ [レスポンシブ Web ページの作成](#)
- ❑ [タスクとアニメーションパネルの使用](#)
- ❑ [スマートフォン向けコンテンツの作成](#)
- ❑ [カスケードスタイルシートクラスのマッピングリスト](#)

HTML/ドキュメントウィザードの起動

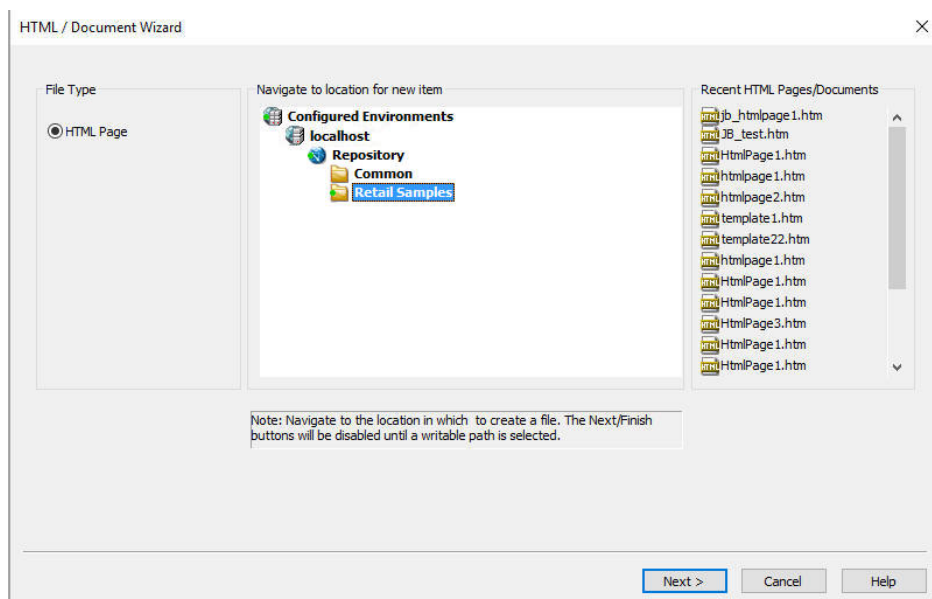
HTML/ドキュメントウィザードを使用して、新しい HTML ページを作成したり、最近使用したプロシジャを開いたりすることができます。

HTML/ドキュメントウィザードを起動するには、次の手順を実行します。

- ❑ [ホーム] タブの [コンテンツ] グループで、[HTML/ドキュメント] をクリックします。
- ❑ [環境ツリー] パネルでアプリケーションフォルダを右クリックし、[新規作成]、[HTML ファイル] を順に選択します。

注意：[環境ツリー] パネルのコンテキストメニューから新しい HTML ページを作成するよう選択した場合は、HTML ページの作成先フォルダがすでに選択されているため、ナビゲータウィンドウは省略されます。

下図のように、HTML/ドキュメントウィザードが開きます。



HTML/ドキュメントウィザードでは、最近使用した HTML ページ/ドキュメントを開くことも、新しい HTML ページ/ドキュメントを作成することもできます。

手順

HTML/ドキュメントウィザードを使用して HTML ページを作成するには

HTML/ドキュメントウィザードを起動後、HTML ページの作成を開始することができます。

1. [ファイルタイプ] エリアで、[HTML ページ] を選択します。
2. 新しいプロシジャの作成先フォルダを選択するか、最近使用したプロシジャを選択し、[次へ] をクリックします。

注意

- ☐ [次へ] ボタンは、有効なパスを選択した後に使用可能になります。
 - ☐ [環境ツリー] パネルからコンテキストメニューを使用して HTML ページを作成する場合、作成先フォルダはすでに選択されています。
3. 必要に応じて、HTML ページにテーマおよびページ設定を追加することができます。

4. [完了] をクリックします。

HTML キャンバス、[ファイル/フォルダのプロパティ] パネル、[プロパティ] パネル、[設定] パネル、[リクエストとデータソース] パネル、[タスクとアニメーション] パネルが開きます。ここで、リボンのタブを使用して、HTML ページにデータを追加し、データにフォーマットを設定することができます。

5. HTML ページを保存するには、クイックアクセスツールバーの [上書き保存] をクリックするか、[アプリケーション] メニューから [保存] を選択します。
6. HTML ページを実行するには、クイックアクセスツールバーの [実行] をクリックするか、[アプリケーション] メニューから [実行] を選択します。

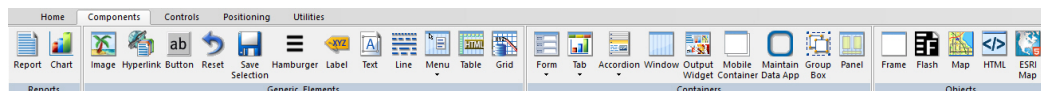
HTML ページのコンポーネントへのアクセス

ここでは、HTML キャンバスで HTML ページを作成する際に使用可能なタブおよびパネルについて説明します。

HTML ページへのコンポーネントの挿入 - コンポーネントタブの使用

[コンポーネント] タブのコマンドグループから、さまざまなコンポーネントを HTML ページに追加することができます。たとえば、ユーザがデータをリフレッシュするためにクリックするプッシュボタンを HTML ページに追加します。プッシュボタンはコンポーネントの 1 つです。[コンポーネント] タブの [一般要素] コマンドグループから [プッシュボタン] を選択し、ページの任意の位置にプッシュボタンを追加します。

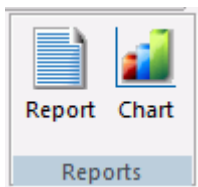
下図のように、[コンポーネント] タブには [レポート]、[一般要素]、[コンテナ]、[オブジェクト] グループがあります。



リボン上でコマンドのいずれかをクリックすると、マウスポインタが十字カーソルに変わり、HTML キャンバスでのオブジェクトの描画が可能になります。コマンドを誤ってクリックした場合は、Esc キーを押して十字カーソルをマウスポインタに戻します。

HTML ページへのレポートまたはグラフの挿入 - レポートグループの使用

[レポート] グループから、HTML ページにレポートまたはグラフを追加することができます。下図は、[レポート] グループを示しています。



[レポート] グループには、次のコマンドがあります。

レポート

レポートオブジェクトを挿入します。HTML キャンバスにレポートを追加すると、HTML ページの実行時に、そのレポートが HTML ページの一部として表示されます。レポートは、リポジトリ内の既存のレポートを参照して追加することができます。

また、レポートにパラメータを含めておくと、HTML キャンバスで追加するコントロールにそのパラメータ値を割り当てることができます。

グラフ

グラフオブジェクトを挿入します。HTML キャンバスにグラフを追加すると、HTML ページの実行時に、そのグラフが HTML ページの一部として表示されます。グラフは、リポジトリ内の既存のグラフを参照して追加することができます。

手順

HTML ページに新しいレポートまたはグラフを追加するには

1. 次の操作のいずれかを実行し、レポートまたはグラフオブジェクトを挿入します。
 - ☐ [コンポーネント] タブの [レポート] グループで、[レポート] または [グラフ] をクリックします。
 - ☐ レイアウト内で右クリックし、コンテキストメニューから [新規レポート] を選択します。マウスポインタが十字カーソルに変わります。
2. 十字カーソルをドラッグして、レポートオブジェクトまたはグラフオブジェクトを作成し、必要なサイズに調整します。

レイアウト内にレポートまたはグラフオブジェクトが作成され、それぞれに「reportn」または「chartn」という名前が付けられます。ここで、末尾の n には番号が割り当てられます。オブジェクトは灰色と白で表示され、そのオブジェクトのプレースホルダにレポートまたはグラフが関連付けられていないことを示します。レポートまたはグラフがオブジェクトに関連付けられると、[Developer Workbench オプション] ダイアログボックスの [HTML ページ] タブの設定に応じて、ライブデータまたはサンプルデータがオンに設定されている場合は (デフォルト値はライブデータ)、そのオブジェクトにレポートまたはグラフのコンテンツが表示され、プレビューがオフに設定されている場合は、色付きのプレースホルダが表示されます。

3. 次の操作のいずれかを実行して、レポートまたはグラフを作成します。

- ❑ プレースホルダをダブルクリックします。

または

- ❑ プレースホルダを右クリックし、レポートを開く場合は [新規レポート]、グラフを開く場合は [新規グラフ] をそれぞれ選択します。

[データソースの選択] ダイアログボックスが表示されます。

4. 使用するマスターファイルを選択し、[OK] をクリックします。

レポートの場合はレポートキャンバス、グラフの場合はグラフキャンバスが開きます。

5. レポートまたはグラフを作成後、必要に応じて [プロパティ] パネルに表示されたプロパティを変更することができます。

手順

レイアウトに既存のレポートまたはグラフを追加するには

1. 次の操作のいずれかを実行し、レポートまたはグラフオブジェクトを挿入します。

- ❑ [コンポーネント] タブの [レポート] グループで、[レポート] または [グラフ] をクリックします。

- ❑ レイアウト内で右クリックし、コンテキストメニューから [新規レポート] を選択します。

マウスポインタが十字カーソルに変わります。十字カーソルをドラッグして、レポートオブジェクトまたはグラフオブジェクトを作成し、必要なサイズに調整します。

レイアウト内にレポートまたはグラフオブジェクトが作成されオブジェクトは灰色と白で表示され、そのオブジェクトのプレースホルダにレポートまたはグラフが関連付けられていないことを示します。レポートまたはグラフがオブジェクトに関連付けられると、[Developer Workbench オプション] ダイアログボックスの [HTML ページ] タブの設定に応じて、ライブデータまたはサンプルデータがオンに設定されている場合は (デフォルト値はライブデータ)、そのオブジェクトにレポートまたはグラフのコンテンツが表示され、プレビューがオフに設定されている場合は、色付きのプレースホルダが表示されます。

2. レポートまたはグラフを右クリックします。

☐ [既存プロシジャの参照] を選択します。

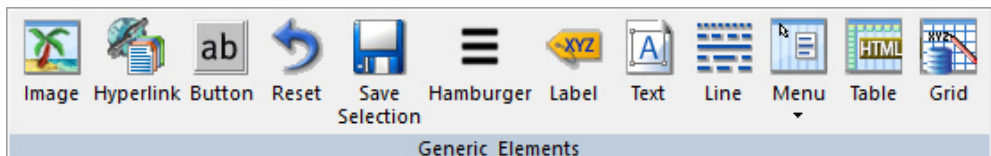
[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。

- 3.
4. [OK] をクリックします。

HTML キャンバスに、レポートオブジェクトまたはグラフオブジェクトが表示されます。

HTML ページへの基本要素の追加 - 一般要素グループの使用

さまざまな基本要素を追加することができます。下図は、[一般要素] グループを示しています。



[一般要素] グループには、次のコマンドがあります。

イメージ

イメージを挿入します。レイアウトにイメージを追加することができます。イメージの追加は、会社のロゴのようなグラフィックを挿入する場合に役立ちます。

レイアウトにイメージを挿入した後、そのイメージにハイパーリンクを追加することができます。ハイパーリンクやプッシュボタンをクリックする場合と同様に、レポートの実行後にイメージをクリックして URL を起動したり、レポートを実行したりすることができます。

注意：イメージを挿入する場合は、そのイメージが特定のディレクトリパスから参照されている必要があります。

ハイパーリンク

ハイパーリンクを挿入します。

プッシュボタン

プッシュボタンを挿入します。プッシュボタンをクリックしたときにレポートを実行したり、URL や HTML ページを開いたりすることができます。この動作は、ハイパーリンクの動作に類似しています。

注意：ダブルクリックしてテキストを変更することも、[プロパティ] パネルの [テキスト] プロパティを使用することもできます。

リセット

リセットボタンを挿入します。リセットボタンを使用すると、ページ全体を初期設定に戻すことができます。

選択の保存

[選択項目を保存] ボタンを挿入します。ユーザは、実行時に特定のパラメータ値を選択し、[選択の保存] ボタンをクリックすることで、選択したパラメータ値を即座に保存することができます。この操作では、デフォルト設定で静的な HTML ファイルが作成され、ソースファイルと同一のフォルダに保存されます。

[選択の保存] ボタンをクリックして保存された静的ファイルは、HTML キャンバスで編集することも、テキストエディタで編集することもできません。[選択の保存] ボタンをクリックして保存されたファイルであることを確認するには、次の手順を実行します。

1. [構成済み環境] ツリーでファイルを右クリックし、コンテキストメニューから [プロパティ] を選択します。

[ファイル/フォルダのプロパティ] パネルが開きます。

2. [プロパティ] 属性の値が「tool=saveparam」であることを確認します。この値は、ファイルを HTML キャンバスおよびテキストエディタで編集できないことを示しています。

ハンバーガー

ハンバーガーコントロールを挿入します。このアイコンは、フォームまたはコントロールパネルの表示と非表示の切り替えに使用します。コントロールパネルは、[コントロールパネル] プロパティを有効にしたパネルコンポーネントです。

ハンバーガーコントロールを使用するには、これをページに追加、選択し、[プロパティ] パネルを開きます。[特殊ハンバーガー] セクションで、[ナビゲーションとコントロールパネル] ドロップダウンリストからページ上のフォームまたはコントロールパネルを選択します。また、[プロパティ] パネルを使用して、ハンバーガーコントロールをクリックした際に使用するアニメーションを設定することも、リクエスト実行時にページ上のフォームまたはコントロールパネルが自動的に非表示になるように設定することもできます。

HTML ページを実行する場合、ハンバーガーコントロールをクリックするまで、選択したフォームまたはコントロールパネルが表示されません。再度ハンバーガーコントロールをクリックすると、非表示にできます。

ラベル

ラベルを挿入します。ラベルコンポーネントを使用すると、ラベルを作成して名前を付け、そのラベルをコントロールと関連付けることができます。ラベルをコントロールに関連付けるには、[プロパティ] パネルの [ラベルオブジェクト] ドロップダウンリストから値を選択するか、ラベルとコントロールの両方を選択した状態で、コンテキストメニューから [ラベルのバインディング] オプションを選択します。

テキスト

テキストボックスを挿入します。レイアウトにテキストを追加することができます。テキストの追加は、Web ページに見出しを挿入したり、レポートまたはグラフに指示や説明を追加したりする場合に役立ちます。

線

線を挿入します。レイアウトに横または縦の線を追加することができます。線の追加は、起動ページまたは表示ページの各セクションを区別する場合に役立ちます。

メニュー

メニューを挿入します。レイアウトに横方向または縦方向のメニューを追加することができます。

テーブル

テーブルを挿入します。

罫線

罫線を挿入します。

手順

ハンバーガーコントロールを使用してフォームの表示を切り替えるには

ハンバーガーコントロールを使用して、フォームの表示と非表示を切り替え、HTML ページの領域を節約することができます。

1. HTML ページを作成します。
2. ページにグラフコンポーネントまたはレポートコンポーネントを追加し、少なくとも 1 つのパラメータを含むプロシジャを参照します。
[新規パラメータ] ダイアログボックスが表示されます。
3. [OK] をクリックして、デフォルトオプションを使用したページにフォームを作成します。
4. [コンポーネント] タブの [一般要素] グループで [ハンバーガー] をクリックし、ページ上にハンバーガーコントロールを描画します。

注意: ハンバーガーコントロールをクリックすると、このアイコンの右下にフォームが表示されます。フォーム全体を表示するためには、ハンバーガーコントロールとページの右端との間に十分な領域を確保する必要があります。

5. ハンバーガーコントロールを選択し、[プロパティ] パネルを開きます。
6. ハンバーガーコントロールをフォームにリンクさせます。[プロパティ] パネルの [特殊ハンバーガー] セクションで、[ナビゲーションとコントロールパネル] プロパティのドロップダウンリストをクリックし、ハンバーガーコントロールを使用してアクセスするフォームを選択します。

ハンバーガーコントロールは、コントロールパネルにリンクすることもできます。コントロールパネルを作成するには、[コンポーネント] タブの [コンテナ] グループで [パネル] をクリックし、ページ上にパネルを描画します。このパネルを選択し、[プロパティ] パネルで [コントロールパネル] プロパティを [はい] に設定します。

7. 必要に応じて、[アニメーション] および [パネルの自動非表示] のプロパティを設定します。

[アニメーション] プロパティでは、フォームの表示で起動するアニメーションを設定することができます。

[パネルの自動非表示] プロパティを有効にした場合、フォームの [送信] ボタンをクリックするとパネルが非表示になります。[パネルの自動非表示] が有効でない場合は、ハンバーガーコントロールをクリックするとフォームを再度非表示にすることができます。

8. HTML ページを実行します。デフォルト設定でフォームが非表示となり、ハンバーガーコントロールをクリックすると表示されます。

手順

HTML ページのテキストに書式を設定するには

テキストオブジェクト内の語句や特定の文字に、さまざまな書式設定またはスタイルオプションを適用することができます。

注意: テキストオブジェクト内の特定のテキスト文字列に書式設定およびスタイル設定が適用されている場合、その設定は保持されます。テキストオブジェクト全体に変更を加えると、その変更は書式設定が適用されていない部分にのみ適用されます。

1. [コンポーネント] タブの [一般要素] グループで、[テキスト] をクリックします。

マウスポインタが十字カーソルに変わります。

2. キャンバス上でマウスポインタをドラッグして、テキストオブジェクトを作成します。

テキストオブジェクトが作成され、デフォルトのテキストとして「テキストを入力してください」が表示されます。

3. 次の方法で、書式を設定するテキストを選択します。
 - ❑ テキスト要素全体に書式を設定するには、レイアウトのテキストオブジェクトを 1 回クリックします。
 - ❑ テキスト内の特定の語句または文字に書式を設定するには、テキストオブジェクト内でテキストの一部を選択します。
4. テキストを右クリックし、[スタイル]、[フォント] を順に選択します。
[スタイル] ダイアログボックスが開き、[フォント] ウィンドウが自動的に表示されます。
注意：フォントの書式設定オプションには、[プロパティ] パネルからアクセスすることもできます。
5. 書式設定オプションを選択します。フォント名、スタイル、色、サイズ、文字飾りを変更することができます。
注意：[指定] テキストボックスにフォントサイズを入力すると、デフォルト設定で単位は px (ピクセル) になります。
6. [OK] をクリックして [スタイル] ダイアログボックスを閉じます。
選択した書式設定オプションがテキストに適用されます。

手順

テキスト要素に箇条書きリストまたは番号付きリストを挿入するには

テキストオブジェクトに箇条書きリストまたは番号付きリストを挿入するには、次の手順を実行します。

1. [コンポーネント] タブの [一般要素] グループで、[テキスト] をクリックします。
マウスポインタが十字カーソルに変わります。
2. キャンバス上でマウスポインタをドラッグして、テキストオブジェクトを作成します。
テキストオブジェクトが作成され、デフォルトのテキストとして「テキストを入力してください」が表示されます。
3. テキストオブジェクトに複数行のテキストを追加します。
4. リストに含めるテキストを反転表示して右クリックします。
5. コンテキストメニューから、次のリストオプションのいずれかを選択します。
 - ❑ 箇条書き
 - ❑ 黒丸
 - ❑ 丸

- ☐ 四角
- ☐ なし
- ☒ 番号付け
 - ☐ 番号
 - ☐ 小文字
 - ☐ 大文字
 - ☐ ローマ数字 (小文字)
 - ☐ ローマ数字 (大文字)
 - ☐ なし

注意

- ☐ 別の方法として、最初に箇条書きタイプを選択してからリストのテキストを入力することもできます。Enter キーを押すと、リストの次の項目が別の行から開始されます。
- ☐ 既存リストの箇条書きまたは番号付きリストタイプを変更するには、変更するリストレベルにカーソルを置き、箇条書きまたは番号付きリストタイプを再度選択します。
[なし] を選択すると、そのレベルでの箇条書きまたは番号が削除され、ネストされていたリストが 1 つ上のレベルに移動します。箇条書きと番号付きを切り替えるには、最初に [なし] を選択して現在のリストオプションを削除した後、新しいリストオプションを選択する必要があります。

手順

テキスト要素にネスト化リストを挿入するには

テキストオブジェクトにネスト化リストを挿入するには、次の手順を実行します。

1. [コンポーネント] タブの [一般要素] グループで、[テキスト] をクリックします。
マウスポインタが十字カーソルに変わります。
2. キャンバス上でマウスポインタをドラッグして、テキストオブジェクトを作成します。
テキストオブジェクトが作成され、デフォルトのテキストとして「テキストを入力してください」が表示されます。
3. テキストオブジェクトにリストを追加します。詳細は、108 ページの「[テキスト要素に箇条書きリストまたは番号付きリストを挿入するには](#)」を参照してください。
4. リスト項目の後ろにカーソルを置きます。
5. 右クリックして [ネスト化リスト] を選択し、箇条書きまたは番号付きリストオプションを選択します。

現在のリスト内で新しい行が開始され、そのリストレベルでテキスト入力が可能になります。

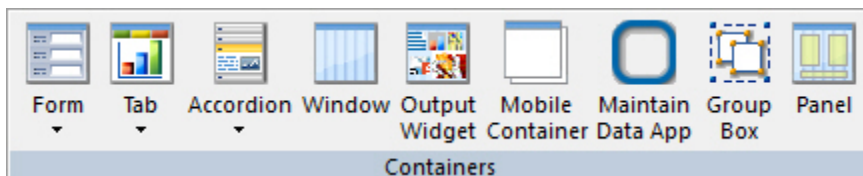
注意：リスト項目の行にカーソルを置いた状態で Tab キーを押すと、その項目が 1 つ下のレベルに移動し、ネストされたリストになります。選択される箇条書きまたは番号のタイプは、右クリックのコンテキストメニューに表示された並び順で次のタイプになります。たとえば、箇条書きリストで黒丸タイプを使用している場合、Tab キーを押して項目を 1 つ下のレベルに移動すると、ネストされたリストは箇条書きの丸タイプになります。

他のリストでも、上記と同様の方法でリストをネストすることができます。

注意：リストレベルをスキップすることはできません。たとえば、下位のいずれかのレベルに箇条書きリストまたは番号付きリストをネストする場合、そのリストの 1 つ上のレベルにリストが存在している必要があります。

HTML ページへのコンテナの追加 - コンテナグループの使用

HTML ページ上の複数のオブジェクトをグループ化するためのコンテナを追加することができます。下図は、[コンテナ] グループを示しています。



[コンテナ] グループには、次のコマンドがあります。

フォーム

マルチレイヤフォームまたはシングルレイヤフォームを挿入します。

タブ

タブコントロールを挿入します。タブコントロールを使用すると、1 つの HTML フォームに複数のページを作成して、補助的な情報を効果的に表示することができます。選択可能なオプションには、[上揃え]、[下揃え]、[左揃え]、[右揃え] があります。このオプションを選択することで、コントロールの上下左右のいずれかにタブが表示されたタブコントロールを追加することができます。

[プロパティ] パネルで [ドラッグ有効] および [サイズ変更有効] プロパティを [はい] に設定すると、実行時にこのオブジェクトのドラッグおよびサイズ変更が可能になります。

見出しのテキストを変更する場合は、このテキストをダブルクリックして変更することも、[選択したページ：タイトル] プロパティに値を入力することもできます。

レイアウトにタブコントロールオブジェクトを追加する場合、各タブコントロールは次の要素で構成されます。

□ タブ項目

タブ項目とは、タブに付けるラベルのことです。タブ項目の名前およびスタイルを編集したり、複数のタブ項目を追加したりすることができます。タブ項目は、タブ本体に関連付けられます。

□ タブ本体

タブ本体とは、レポートまたはグラフオブジェクト、イメージ、線などのコンポーネントに関連付けるタブページのことです。

タブコントロールは、HTML ページの全体または一部に表示することができます。

アコーディオン

アコーディオンスタイルのボックスを挿入します。[横] または [縦] を選択することができます。[プロパティ] パネルで [ドラッグ有効] および [サイズ変更有効] プロパティを [はい] に設定すると、実行時にこのオブジェクトのドラッグおよびサイズ変更が可能になります。

見出しのテキストを変更する場合は、このテキストをダブルクリックして変更することも、[選択したページ：タイトル] プロパティに値を入力することもできます。

ウィンドウ

ウィンドウを挿入します。[プロパティ] パネルで [ドラッグ有効] および [サイズ変更有効] プロパティを [はい] に設定すると、実行時にこのオブジェクトのドラッグおよびサイズ変更が可能になります。

見出しのテキストを変更する場合は、このテキストをダブルクリックして変更することも、[選択したページ：タイトル] プロパティに値を入力することもできます。

出力ウィジェット

出力ウィジェットを挿入します。出力ウィジェットコンテナのウィジェットタイトルバーには、フィルタコントロールの表示と非表示を切り替えるボタン、表示を最大化してフルスクリーンにするボタン、表示を最小化して元のサイズに戻すボタンが表示されます。

モバイルコンテナ

出力ウィジェットを格納するモバイルコンテナを挿入します。モバイルコンテナを右クリックして複数のページを追加し、[ページへ移動] アクションを使用してページ間を移動するためのタスクを作成することができます。モバイルコンテナで任意のページを右クリックし、[選択したページをプロトタイプに設定] を選択すると、その後に追加されたページが、プロトタイプページの複製として作成されます。

モバイルコンテナページの出力ウィジェットにはハンバーガーコントロールが使用されます。このアイコンを使用して、折りたたみ可能なフォームおよびコントロールパネルにアクセスし、実行時にページをインタラクティブ操作することができます。

モバイルコンテナを使用する HTML ページでレスポンスデザインを有効にすると、モバイルコンテナおよび出力ウィジェットがモバイルデバイス上で適切にサイズ調整されます。

MAINTAIN DATA アプリケーション

MAINTAIN DATA アプリケーションウィンドウを挿入します。この構成要素は、MAINTAIN の機能を必要とするため、Db2 Web Query には適用されません。

グループボックス

グループボックスを挿入します。グループボックスを使用して、複数オブジェクトのグループ (例、フォーム、レポートとグラフ) の周囲に境界を作成することができます。

パネル

複数のオブジェクトをグループ化するためのパネルを挿入します。実行時にはこのパネルは表示されません。

手順

フォームオブジェクトを使用してポップアップダイアログボックスを作成するには

フォームオブジェクトを使用してポップアップダイアログボックスを作成することができます。

1. フォームオブジェクトを作成します。
2. ボタンを作成します。
3. フォームを選択します。
4. [プロパティ] パネルで [コンテナの表示] プロパティを [ポップアップダイアログ表示] に変更します。
5. [タスクとアニメーション] パネルの [タスク] セクションで、新しいタスクを作成します。
6. [トリガタイプ] を [クリック時] に設定して、作成したボタンをトリガとして使用します。
7. [リクエスト/アクション] リストから [表示の切り替え] を選択して、このボタンオブジェクトをクリックしたときに、作成したフォームが表示されるよう設定します。
8. ページを実行した後、このボタンをクリックして、フォームをダイアログボックスとして表示します。

手順 フォームコントロールからポップアップダイアログボックスまたはポップアップウィンドウを作成するには

1. HTML ページにボタンオブジェクトを追加します。
2. HTML ページにフォームコントロールを追加します。
3. フォームコントロールとともに作成された実行ボタンおよび戻るボタンを削除します。
4. フォームコントロールを選択し、[プロパティ] パネルで [コンテナの表示] プロパティを [ポップアップダイアログ表示] または [ポップアップウィンドウ表示] に変更します。

[ポップアップダイアログ表示] に設定すると、フォームがポップアップダイアログボックスとして表示されます。ダイアログボックスが表示された後、HTML ページに戻るには、[閉じる] をクリックする必要があります。

[ポップアップウィンドウ表示] に設定すると、フォームがポップアップウィンドウとして表示されます。ウィンドウが表示された後、ウィンドウのサイズを変更したり、画面上でウィンドウを移動したりできます。

5. [タスクとアニメーション] パネルの [タスク] セクションで新しいタスクを作成し、ボタンオブジェクトをクリックしたときに、作成したフォームが表示されるよう設定します。
6. HTML ページを実行します。

HTML ページに追加したボタンをクリックすると、上記の手順で選択したオプションに応じて、フォームがポップアップダイアログボックスまたはポップアップウィンドウとして表示されます。

タブ、アコーディオン、ウィンドウの順序変更

タブ、アコーディオン、ウィンドウの順序を変更するには、先頭に表示するページをドラッグし、割り込み先のページ上にドロップします。たとえば、Tab1、Tab2、Tab3 という 3 つのタブが表示されている場合、Tab3 を Tab1 上にドラッグすると、Tab1 の前に Tab3 が表示されます。その結果、これらのタブは Tab3、Tab1、Tab2 の順序になります。複数のウィンドウが並べて表示されている場合にも、同様の方法でウィンドウの順序を変更することができます。

手順 モバイルコンテナでページ間を移動するには

HTML ページでモバイルコンテナに複数ページを追加し、展開可能なフォームおよびコントロールパネルを備えたさまざまなコンテンツを追加することができます。[ページへ移動] アクションを使用してタスクを追加し、ページ間の移動を可能にすることができます。

1. 新しい HTML ページを作成します。
2. [プロパティ] パネルを開き、選択した [DOCUMENT] オブジェクトで、[レスポンシブデザイン] セクションの [レスポンシブ有効] プロパティを [はい] に設定します。

レスポンシブデザインを使用すると、ページ上のコンテンツがモバイルデバイスで使用しやすくなります。

3. [コンポーネント] タブの [コンテナ] グループで [モバイルコンテナ] をクリックし、ページ上にモバイルコンテナを描画します。

モバイルコンテナには、デフォルト設定で 1 ページが格納されています。

4. モバイルコンテナの最初のページで出力ウィジェットをクリックし、[プロパティ] パネルを開きます。[ウィジェットタイトル] プロパティを使用して、ページの新しいタイトルを入力します。

[ページへ移動] アクションは、ウィジェットタイトルでページを識別するため、ページごとに異なるタイトルを使用することで、移動先のページを正しく選択することができます。

5. 出力ウィジェット内の最初のページにコンテンツを追加します。
6. 2 ページ目に移動するためのボタンを含むコントロールパネルを作成します。コントロールパネルには、ページ上のコンテンツをインタラクティブ操作するためのフィルタコントロールを追加することもできます。

- a. [コンポーネント] タブの [コンテナ] グループで [パネル] をクリックし、ページ上にパネルを作成します。
- b. [コンポーネント] タブの [一般要素] グループで [プッシュボタン] をクリックし、パネル内にボタンを描画します。

必要に応じて、このボタンをダブルクリックし、テキストを変更します。

- c. ボタンを含むパネルを選択し、[プロパティ] パネルを開きます。[コントロールパネル] プロパティを [はい] に設定します。

これによりパネルがコントロールパネルに変わり、モバイルコンテナ出力ウィジェットのハンバーガーコントロールを使用してアクセスすることができます。

7. モバイルコンテナ出力ウィジェットを選択し、[プロパティ] パネルを開きます。[ナビゲーションとコントロールパネル] プロパティ横のメニューから、作成したコントロールパネルを選択します。
8. 出力ウィジェットの外側でモバイルコンテナを右クリックし、[ページの追加] をクリックします。

出力ウィジェットを含む 2 ページ目が、モバイルコンテナ内に作成されます。

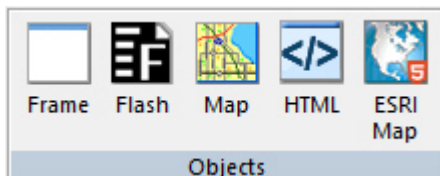
9. 手順 4 から 7 を繰り返して、2 ページ目を作成します。ページをさらに追加する場合は、上記の手順を再度実行します。

10. [ページへ移動] アクションを使用して、新しい 2 つのタスクを作成し、1 ページ目と 2 ページ目の間を移動します。
- [タスクとアニメーション] パネルを開きます。
 - [新規作成] ボタンをクリックし、新しいタスクを作成します。
 - [トリガタイプ] は [クリック時] のままにします。
 - [トリガ ID] として、作成した 1 つ目のボタンを選択します。このボタンは、モバイルコンテナの最初のページの折りたたみ可能なパネル内にあります。
 - [リクエストの選択] ボタン横の矢印をクリックして [ページへ移動] を選択します。モバイルコンテナの名前をクリックし、モバイルコンテナの 2 ページ目の名前を選択します。
- これにより、1 ページ目からアクセス可能なボタンで 2 ページ目にアクセスすることができます。
- [新規作成] ボタンをクリックし、2 つ目のタスクを作成します。
 - [トリガタイプ] は [クリック時] のままにします。
 - 2 つ目のタスクの [トリガ ID] として、モバイルコンテナの 2 ページ目からアクセス可能なボタンを選択します。
 - [リクエストの選択] ボタン横の矢印をクリックして [ページへ移動] を選択します。モバイルコンテナの名前をクリックし、モバイルコンテナの 1 ページ目の名前を選択します。
- これにより、2 ページ目からアクセス可能なボタンを使用して 1 ページ目に戻ることができます。
11. HTML ページを保存し、モバイルデバイスからアクセスします。

ハンバーガーコントロールをタップすると、ボタンを備えたパネルが開きます。ボタンをタップすると、モバイルコンテナを使用して作成した他のページにアクセスできます。

HTML ページへのオブジェクトの追加 - オブジェクトグループの使用

レポート、グラフ、一般要素、コンテナ以外のオブジェクトを追加して、HTML ページをカスタマイズすることができます。下図は、[オブジェクト] グループを示しています。



[オブジェクト] グループには、次のコマンドがあります。

フレーム

フレームオブジェクトを挿入します。フレームを使用して、追加の Web ソースを埋め込んだり、レポートを実行したりすることができます。また、ドリルダウンレポートの出力先としてフレームを使用することもできます。さらに、フレームを使用して、目次レポート、OLAP レポート、PDF レポート、Excel レポートを実行することもできます。

Flash

Flash コンポーネントを挿入します。HTML ページのレポートまたはグラフに、Adobe Flash Player と互換性のある SWF ファイルを追加することができます。

注意 Flash アニメーションを挿入する場合、HTML キャンバスを使用して実行できるファイルは、1 メガバイト以下のファイルのみです。

マップ

マップオブジェクトを挿入します。HTML ページに追加可能なマップには、Google マップまたは ESRI マップがあります。これらのマップは、強力でユーザフレンドリな地図作成テクノロジーを提供するサービスです。このカスタマイズ可能なサービスを使用することで、ドリルダウン機能を備えたピンを地図上に表示することができます。レポートまたはグラフにマップをバインドするには、マップのプロパティをカスタマイズします。この機能は、Db2 Web Query には適用されません。マップの挿入は、ESRI マップとしてフォーマットされた既存のグラフを挿入して実行することができます。

HTML

HTML オブジェクトを挿入します。開発者は、[設定] パネルを使用して、HTML オブジェクトに使用する有効な HTML コードの一部を入力することができます。たとえば、特定のファイルを参照するための HTML コードを入力します。

ESRI マップ

ESRI マップオブジェクトを挿入します。[設定] パネルを使用して、プロパティおよびコンポーネントを構成することができます。この機能は、Db2 Web Query には適用されません。マップの挿入は、ESRI マップとしてフォーマットされた既存のグラフを挿入して実行することができます。

HTML オブジェクト操作によるロード順序の変更

HTML ページの各オブジェクトは、これらのオブジェクトがキャンバスに追加された順序でロードされます。HTML コードを直接操作する開発者は、ソースコードを編集することでロード順序を変更することができます。この編集方法では、HTML および XML ドキュメント向けのドキュメントオブジェクトモデル (DOM) を活用することができます。

ただし、Developer Workbench でそのソースコードを編集することはできません。そのため、必要に応じてロード順序を変更できるように [HTML オブジェクトの操作] メニューが用意されています。

ロード順序を変更するには、HTML キャンバスで複数のオブジェクトまたはコンポーネントを選択し、右クリックして [HTML オブジェクトの操作] を選択します。次のメニューオプションが表示されます。

- ❑ **選択項目の追加** 複数オブジェクトの選択時に最後に選択したオブジェクトがコンテナの場合にのみ使用できます。このオプションは、選択した 1 つまたは複数のオブジェクトをコンテナ内に移動する場合に使用します。
- ❑ **選択項目の入れ替え** 選択した 2 つのオブジェクトの位置を入れ替えます。
- ❑ **コンテナのみ削除** コンテナのみ削除します。
- ❑ **コンテナの統合** コンテナを統合します。

複数オブジェクトの DOM 表示順序のアクセシビリティサポート

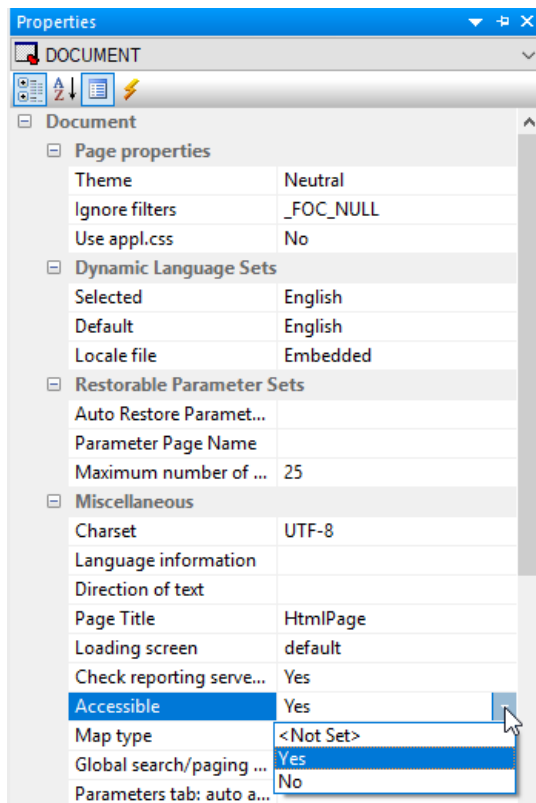
複数の要素やオブジェクトを画面読み込み順序と無関係に追加し、その後のデザイン作業時に、これらの要素やオブジェクトの順序を変更することができます。

DOCUMENT レベルの [プロパティ] パネルに表示される [アクセス] プロパティを使用して、ページ上の複数のオブジェクトを左から右、上から下の順序でドキュメントオブジェクトモデル (DOM) を書き換えるよう指定することができます。また、すべてのタブインデックス値は -1 に設定されます。

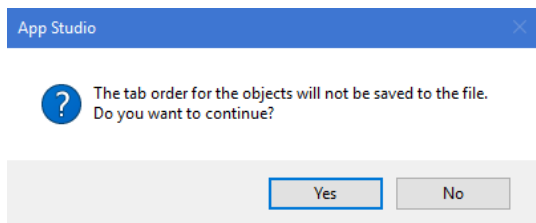
手順 複数のオブジェクトを DOM 順序で表示するには

1. 新しい HTML ページを作成し、ページ上に複数のコントロールを配置します。

2. 下図のように、DOCUMENT レベルの [プロパティ] パネルで、[アクセス] プロパティのドロップダウンリストから [はい] を選択します。



下図のように、タブオーダーの警告メッセージが表示されます。



注意：この警告メッセージは、[アクセス] プロパティを [はい] に設定した際に一度だけ表示されます。

[はい] を選択すると、ページ上の複数オブジェクトのタブオーダーが、左から右、上から下の順序に書き換えられます。[いいえ] を選択すると、ページのタブオーダーが保持されます。

HTML ページへのコントロールの挿入 - コントロールタブの使用

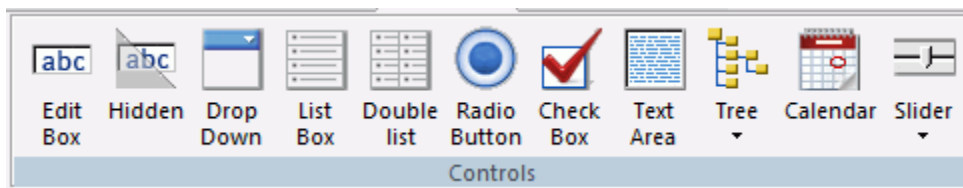
[コントロール] タブの [コントロール] グループを使用して、HTML ページにコントロールを挿入することができます。コントロールを使用すると、ユーザにパラメータ値の入力を要求することができます。レポートまたはグラフの一部としてパラメータを作成すると、HTML キャンバスがそのパラメータに対応するコントロール、[実行] ボタン、[リセット] ボタンを自動的にレイアウトに追加します。また、そのパラメータが [パラメータ] タブに表示されます。入力コントロールを追加し、パラメータにバインドすることもできます。

コントロールを使用すると、テキストボックスの場合を除いて、値の動的リストまたは静的リストでユーザに値を提供することができます。

- ❑ 動的リストには、リクエストの実行時に特定のデータソースから値が取得されます。
- ❑ 静的リストには、事前に指定した値が表示されます。静的リストの値は、手動で変更しない限り変更されません。

Analytic Document コントロールには、Analytic Document メニュー項目と同一の Analytic Document 値が表示されます。Analytic Document コントロールは、レイアウト内のどのパラメータとも関連付けることはできません。このタイプのコントロールは、レイアウト内の Analytic Document にのみ関連付けることができます。

コントロールのプロパティおよび各コントロールに関連付けられたパラメータは、[プロパティ] パネルおよび [設定] パネルで制御することができます。下図は、[コントロール] タブを示しています。



次のコントロールがあります。

テキストボックス

テキストボックスを挿入します。テキストボックスを使用すると、ユーザは入力ボックスに値を直接入力することができます。[設定] パネルで受容値の静的リストまたは動的リストを指定することができます。また、実行時にユーザがテキストボックスに値の先頭文字を入力すると、オートコンプリート機能により値の候補がリスト表示されます。

テキストボックスコントロールの [タイプ] プロパティを [ファイル] に変更することで、テキストボックスを使用してユーザシステムのファイルを参照することができます。また、これを [パスワード] に変更してパスワード入力時にテキストを自動的にマスクしたり、[非表示] に変更してコントロールを非表示にしたりできます。

非表示

非表示コントロールを挿入します。非表示の入力コントロールを使用することで、ユーザに表示されないパラメータ値をコントロールで使用することができます。非表示の入力コントロールを使用する場合、その時点でパラメータに割り当てられている入力コントロールは表示されません。このパラメータ値は、[パラメータ] タブの [プロパティ] パネルで入力するか、連鎖を使用して入力することができます。

ドロップダウンリスト

ドロップダウンリストを挿入します。ドロップダウンリストを使用すると、ユーザは提供された値のリストから 1 つまたは複数の値を選択することができます。複数の値を提供するには、複数の値を受容するようにプロシジャを設定する必要があります。

- ☐ 単一選択ドロップダウンリストを使用すると、ユーザは実行するリクエスト 1 件につき 1 つの値のみを選択することができます。
- ☐ 複数選択ドロップダウンリストを使用すると、ユーザは値の横のチェックボックスを使用して、複数の値を選択することができます。

ドロップダウンリストには、動的または静的な値リストを使用することができます。

注意：ドロップダウンリストの高さは、リスト内のテキストのフォントサイズで決定されます。コントロールオブジェクトの [高さ] プロパティでは決定されません。

リストボックス

リストボックスを挿入します。ユーザはリストボックスから単一値を選択することも、複数の値を同時に選択することもできます。

- ☐ 単一選択リストを使用する場合、ユーザは実行するリクエスト 1 件につき 1 つの値のみを選択することができます。
- ☐ 複数選択リストを使用する場合、ユーザは値を選択する際に Ctrl キーを使用して、複数の値を選択することができます。

複数の値を提供するには、複数の値を受容するようにプロシジャを設定する必要があります。

リストボックスの値には、動的な値または静的な値のいずれかを指定することができます。

ダブルリストコントロール

ダブルリストコントロールを挿入します。このコントロールには、複数選択値が表示されます。これにより、利用可能な値をリスト表示し、これらの値を別のリストに追加したり、リストから削除したりすることが可能になります。実行時は、リストに追加した値に基づいてレポートが作成されます。

ラジオボタン

ラジオボタンを挿入します。ラジオボタンを使用すると、ユーザは提供された値のリストから 1 つの値を選択することができます。ラジオボタンの値には、静的な値または動的な値のいずれかを指定することができます。

ラジオボタンの外観を制御するには、[タイプ] プロパティを使用します。[タイプ] テキストボックスのドロップダウンリストから [標準] を選択すると、標準のラジオボタンが表示されます。

[タイプ] テキストボックスのドロップダウンリストから [プッシュボタン] を選択すると、プッシュボタンが表示されます。

チェックボックス

チェックボックスを挿入します。チェックボックスを使用すると、ユーザは提供された値のリストから 1 つの値を選択することができます。グループ化された複数のチェックボックス入力コントロールが存在する場合は、各コントロールの [複数値の選択] プロパティを選択することができます。[複数値の選択] により、各チェックボックスコントロールから値を選択することができます。チェックボックスの値には、動的な値または静的な値のいずれかを指定することができます。

チェックボックスの外観を制御するには、[タイプ] プロパティを使用します。[タイプ] テキストボックスのドロップダウンリストから [標準] を選択すると、標準のチェックボックスが表示されます。

[タイプ] テキストボックスのドロップダウンリストから [プッシュボタン] を選択すると、プッシュボタンが表示されます。

テキスト領域

テキスト領域を挿入します。テキスト領域は、単一選択のコントロールで、1 つの変数に割り当てるテキストを複数行で入力することができます。テキスト領域の動作はテキストボックスに類似していますが、テキストボックスとは異なり、入力するテキストは 1 行に限定されません。たとえば、プロシジャが参照する変数に段落 (複数行のテキスト) を割り当てる場合、[パラメータ] タブの [プロパティ] パネルを使用してテキスト領域に段落を追加することができます。

コントロールでテキストを表示する場合は、次のようになります。

- ❑ ハードラップを有効にした場合は、実行時に指定したポイントで改行が表示されます。
- ❑ ソフトラップの場合は、テキスト領域のコントロールのサイズに基づいて自動的に改行されます。

コントロールで値を送信する場合は、次のようになります。

- ❑ 単一選択のテキスト領域コントロールでは、行の末尾までの最初の値のみが送信されます。
- ❑ 複数選択のテキスト領域コントロールでは、次のようになります。
 - ❑ OR または AND で区切られた値がすべて送信されます (例、"ENGLAND" OR "FRANCE")。
 - ❑ カンマ (,) を使用して 1 つの値を示すには、「ENGLAND,FRANCE」と入力します。
 - ❑ カンマ (,) を使用して 2 つの値を示すには、「"ENGLAND","FRANCE"」と入力します。
 - ❑ 値をそれぞれ別の行に入力して、2 つの値を示します。以下はその例です。

ENGLAND

FRANCE

ツリー

[シングルソースツリーコントロール] または [マルチソースツリーコントロール] を挿入します。HTML レポートでツリー構造を使用して、親子モデルを使用するマルチディメンションデータソース (例、SAP BW) の階層データを表示することができます。また、非階層データソースでは、ツリーコントロールを使用することもできます。レベル階層はサポートされていません。ツリーコントロールの動作は、パラメータの定義に統合されています。パラメータを単一値として定義し、このパラメータをツリーコントロールに割り当てた場合、コントロールは階層の各ノードに対してラジオボタンを使用します。パラメータが [複数選択 OR] および [複数選択 AND] として定義され、ツリーコントロールにバインドされている場合、各階層ノードのチェックボックスで、複数のノードを選択することができます。

カレンダー

カレンダーを挿入します。組み込みカレンダーコントロールを使用する日付パラメータを追加すると、ユーザはポップアップの動的カレンダーから特定の日付または日付範囲を選択することができます。HTML キャンバスで追加または参照するプロシジャに日付パラメータを含めると、[新規パラメータ] ダイアログボックスで [カレンダー] コントロールタイプが使用可能になります。[カレンダー] コントロールタイプを選択すると、レイアウトのデザイン表示にテキストボックスとカレンダーアイコンが表示されます。カレンダーに使用できるコントロールは、このテキストボックスのみです。カレンダーアイコンは、常にテキストボックスの右側に表示されます。カレンダーアイコンがテキストボックスから離れて表示されることはありません。プログラムを使用してカレンダーの日付を取得する場合、その日付は Db2 Web Query 日付フォーマットで指定する必要があります。[設定] パネルの [カレンダーの設定] セクションでサポートされるデータタイプのいずれかと完全に一致する日付フォーマットを指定します。

スライダー

横方向または縦方向のスライダーコントロールを挿入します。スライダーコントロールには、レポートまたはグラフで使用される値の範囲が表示されます。これにより、スライダーバーを使用して特定の範囲から値を選択することができます。

コントロールへのページ/検索機能の追加

リストボックス、ドロップダウンリスト、またはダブルリストの左側コントロールには、ページ機能および検索機能を追加することができます。これらの機能は、多数の有効値が表示されるコントロールを対象にした追加機能で、次のことが可能になります。

- ☐ 値を選択する前に広範囲の値リストをページ単位で移動する。
- ☐ コントロール内の値を検索する。

ページ上でフィルタを適用する値 (または値の一部) が分かっている場合は、これらのオプションを使用することで、選択する値を簡単に特定することができます。

HTML キャンバスでこの機能を使用するには、リストボックス、ドロップダウンリスト、またはダブルリストの左側コントロールを右クリックし、コンテキストメニューから [ページ/検索コントロールの追加] を選択します。

これらの機能は、特定のコントロールの機能を個別に強化する場合に使用します。ページ上の複数のコントロールに適用される [ページ/検索] オプションを作成する場合は、126 ページの「[HTML ページへのページ/検索コントロールの追加](#)」を参照してください。

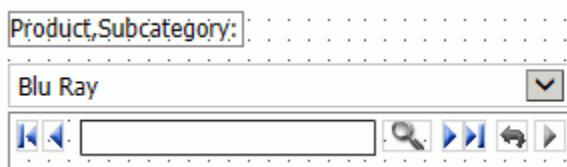
ページ/検索コントロールの検索機能のみを備えた検索コントロールを作成することもできます。

手順 コントロールにページ/検索機能を追加するには

多数の有効値が表示されるコントロールにページ機能および検索機能を追加するには、次の手順を実行します。

1. HTML キャンバスで、リストボックス、ドロップダウンリスト、またはダブルリストの左側コントロールを右クリックし、コンテキストメニューから [ページ/検索コントロールの追加] を選択します。

ページ/検索コントロールがキャンバスに追加され、選択した入力コントロールの下側に配置されます。下図では、[製品 (詳細区分)] フィールドのドロップダウンリストの下側にページ/検索コントロールが追加されています。



ここでは、青色の左矢印および右矢印の各ボタンはページの移動用です。灰色の拡大鏡ボタンと矢印ボタンは検索用です。

実行時には、ページ/検索コントロールに、各ページの値の範囲が表示されます。デフォルト範囲は 1-50 です。つまり、入力コントロールには、1 件目の値から 50 件目の値まで、1 ページあたり 50 件の範囲で値が表示されます。

2. 必要に応じて、[プロパティ] パネルの [検索/ページコントロール] セクションの選択したナビゲータオブジェクトで、ページ/検索コントロールの次のデフォルト検索オプションを選択することもできます。
 - ☐ **接頭語の一致** 各値の先頭文字列に一致する値が検索されます。このオプションが有効でない場合、任意の位置の検索文字列が一致します。
 - ☐ **大文字と小文字の区別** 大文字と小文字を区別して検索します。
 - ☐ **単語単位で検索** 検索文字列に単語全体が一致する項目のみが返されます。
 - ☐ **インスタント検索** 入力コントロールに文字を入力すると同時に、その入力文字列に一致する値が自動的に検索されます。
 - ☐ **選択値を保持** このオプションを選択すると、各ページで選択した値または検索した値は、他のページに移動しても保持され、元のページに戻った際に再度表示されます。リクエストを実行する場合は、選択値の全履歴が使用されます。

❑ **設定の表示** 検索オプションが、デフォルト設定で、ページ/検索コントロールに表示されます。検索矢印ボタンをクリックすると、コントロール内の検索オプションの表示と非表示が切り替わります。

❑ **数または範囲** コントロールに表示する値の最初の数値または値の範囲を指定します。

3. HTML ページを実行します。

ページ/検索コントロールに、指定した範囲が表示されます。たとえば、「1-50」と表示されます。

4. 矢印ボタンを使用して、入力コントロールに表示される値をページ単位で閲覧します。 [最初]、[戻る]、[次へ]、[最後] を選択することができます。

検索機能を使用するには、ページ/検索コントロールに検索文字列を入力し、Enter キーを押すか、検索 (拡大鏡) ボタンをクリックします。

検索条件を表示するには、右端の検索矢印ボタンをクリックします。検索条件リストが表示されます。次のオプションのいずれかを選択します。

❑ **接頭語の一致** 入力コントロールの値の接頭語と一致する値が検索されます。

❑ **大文字と小文字の区別** 入力コントロールの値と完全に一致する値が検索されます。

❑ **単語単位で検索** 検索する単語が含まれる文字列が検索されます。

❑ **インスタント検索** 入力コントロールに文字を入力すると同時に、その入力文字列に一致する値が自動的に検索されます。

❑ **選択値を保持** このオプションを選択すると、各ページで選択した値または検索した値は、他のページに移動しても保持され、元のページに戻った際に再度表示されます。リクエストを実行する場合は、選択値の全履歴が使用されます。

検索条件リストの表示と非表示を切り替えるには、検索矢印ボタンをクリックします。

5. [実行] ボタンをクリックすると、レポートが更新され、入力コントロールで選択した値が表示されます。

HTML ページへのページ/検索コントロールの追加

グローバルページ/検索コントロールを使用して、複数のコントロール (リストボックス、ドロップダウンリスト、またはダブルリストの左側コントロール) が配置された HTML ページにさらに機能を追加することができます。これらの機能は、多数の有効値が表示されるコントロールを対象にした追加機能で、次のことが可能になります。

- ❑ 値を選択する前に広範囲の値リストをページ単位で移動する。
- ❑ 複数のコントロールを対象に値を検索する。

グローバルページ/検索コントロールは、[プロパティ] パネルの [検索/ページ] セクションに DOCUMENT レベルのプロパティとして追加されます。

このオプションは、HTML ページの機能を強化する場合に使用します。特定のコントロールの機能を個別に強化する場合は、123 ページの「[コントロールへのページ/検索機能の追加](#)」を参照してください。

手順

HTML ページにページ/検索コントロールを追加するには

この手順では、複数のコントロールが配置された HTML ページにグローバルページ/検索機能を追加する方法について説明します。

グローバルページ/検索コントロールの検索オプションは、各コントロールのオプションを上書きします。たとえば、グローバルページ/検索コントロールで [選択値を保持] のチェックをオンすると、[選択値を保持] を個別に有効にしたかどうかに関係なく、このオプションがページ上のすべてのコントロールに適用されます。

1. DOCUMENT オブジェクトの [プロパティ] パネルの [検索/ページコントロール] セクションで、[有効] プロパティをクリックし、ドロップダウンリストから [はい] を選択します。
2. 必要に応じて、[プロパティ] パネルの [検索/ページコントロール] セクションで、ページ/検索コントロールの次のデフォルト検索オプションを選択することもできます。
 - ❑ **接頭語の一致** 各値の先頭文字列に一致する値が検索されます。このオプションが有効でない場合、任意の位置の検索文字列が一致します。
 - ❑ **大文字と小文字の区別** 大文字と小文字を区別して検索します。
 - ❑ **単語単位で検索** 検索文字列に単語全体が一致する項目のみが返されます。
 - ❑ **インスタント検索** 入力コントロールに文字を入力すると同時に、その入力文字列に一致する値が自動的に検索されます。

- ❑ **オートリンク** このオプションを有効にした場合、ページの入力コントロールを選択すると、グローバルページ/検索コントロールに自動的に接続されます。このオプションを無効にした場合、入力コントロールを選択後、グローバルページ/検索コントロールをクリックすることでグローバルページ/検索コントロールに接続されます。
 - ❑ **選択値を保持** このオプションを選択すると、各ページで選択した値または検索した値は、他のページに移動しても保持され、元のページに戻った際に再度表示されます。リクエストを実行する場合は、選択値の全履歴が使用されます。
 - ❑ **設定の表示** 検索オプションが、デフォルト設定で、グローバルページ/検索コントロールに表示されます。検索矢印ボタンをクリックすると、コントロール内の検索オプションの表示と非表示が切り替わります。
 - ❑ **数または範囲** コントロールに表示する値の最初の数値または値の範囲を指定します。
3. HTML ページを実行します。
- グローバルページ/検索コントロールがウィンドウの右上に表示されます ([ホーム] の位置)。
4. 入力コントロールをクリックします。
- グローバルページ/検索コントロールが、選択した入力コントロールの下側に表示されます。
- 入力コントロールには、その入力コントロールとのリンクが設定されていることを示すラベルが表示されます。入力コントロールにラベルが関連付けられていない場合は、「combobox1」など入力コントロールの一意の ID が表示されます。
- 複数のページを指定する場合は、[検索/ページ] テキストボックスに「1-2 / 4」などの範囲を入力し、Enter キーを押します。
5. [検索/ページ] ウィンドウの [設定の表示] ボタンをクリックしてウィンドウを拡張し、検索とページのオプションを表示します。
- [検索/ページ] には、次のオプションがあります。
- ❑ **接頭語の一致** 入力コントロールの値の接頭語と一致する値が検索されます。
 - ❑ **大文字と小文字の区別** 入力コントロールの値と完全に一致する値が検索されます。
 - ❑ **単語単位で検索** 検索する単語が含まれる文字列が検索されます。
 - ❑ **インスタント検索** 入力コントロールに文字を入力すると同時に、その入力文字列に一致する値が自動的に検索されます。

- ❑ **選択したコントロールとのリンクを自動設定** 検索/ページコントロールと選択したコントロール間のリンクを設定します (デフォルト)。
- ❑ **選択値を保持** このオプションを選択すると、各ページで選択した値または検索した値は、他のページに移動しても保持され、元のページに戻った際に再度表示されます。リクエストを実行する場合は、選択値の全履歴が使用されます。

上向き矢印ボタンをクリックして、[検索/ページ] ウィンドウのオプションの表示と非表示を切り替えます。[検索/ページ] ウィンドウの [ホーム] アイコンをクリックして、[ホーム] ウィンドウに戻ります。

コントロール値のロード順序の定義

コントロールに値を入力するタイミングを指定することができます。コントロールが、多数の値を表示するよう構成されている場合、ページコンテンツのロード後に値を入力するよう設定し、ページのロード時間を短縮することができます。

コントロール値のロード順序を指定するには、コントロールを選択後、[プロパティ] パネルで [プロシジャロード時] プロパティの値を選択します。次の値のいずれかを選択します。

- ❑ **初期ロード時** ページの初期ロード時にコントロールの値が入力されます。これがデフォルト値です。
- ❑ **初期ロード後** コントロール値以外のページコンテンツがロードされた後に、Load タスクを実行すると、コントロールの値が入力されます。
- ❑ **オンデマンド** コントロールの値は自動的に入力されません。コントロールの値を入力するには、[タスクとアニメーション] パネルでタスクを作成し、[リクエストの選択] メニューから [リフレッシュ] を選択して、コントロールをターゲットに設定するか、`lbComposer_populateDynamicCtrl` 関数を使用します。
- ❑ **オンデマンド (最初は隠す)** コントロールの値は自動的に入力されません。また、入力されるまで表示されません。コントロールの値を入力し、表示するには、[タスクとアニメーション] パネルでタスクを作成し、[リクエストの選択] メニューから [リフレッシュ] を選択して、コントロールをターゲットに設定するか、`lbComposer_populateDynamicCtrl` 関数を使用します。

注意： 入力コントロールとして扱われるすべてのオブジェクト (例、テーブル、リスト、マップ) に [プロシジャロード時] プロパティを設定することができます。

手順 ボタンを使用してコントロールに値を挿入するには

[プロシジャロード時] プロパティを使用して、実行時にコントロールの値を入力するタイミグを指定することができます。次の例は、初期状態ではブランクで表示され、ボタンをクリックすると値が入力されるコントロールの作成方法を示しています。

1. HTML キャンバスで、ページにコントロールを追加します。[コントロール] タブの [コントロール] グループで、コントロールのタイプを選択し、ページ上に描画します。
2. コントロールに値を追加します。コントロールを選択し、[設定] パネルを開きます。コントロールの値のリストに使用するデータタイプを選択し、コントロールに値を入力します。

必要に応じて、HTML ページで参照されるリクエストのパラメータにコントロールをバインドします。
3. 値が自動的にロードされるのではなく、実行時に入力が必要されるようにコントロールを設定します。
 - a. コントロールを選択し、[プロパティ] パネルを開きます。
 - b. [プロシジャロード時] プロパティを設定します。[オンデマンド] または [オンデマンド (最初は隠す)] を選択し、コントロールに値が自動的に入力されないようにします。[オンデマンド (最初は隠す)] を選択した場合は、値のロードが要求されるまでコントロールが表示されません。
4. コントロール値のロードのトリガとなるボタンまたはその他の項目をページに追加します。
5. [タスクとアニメーション] パネルを開き、コントロールオブジェクトの入力を実行する新しいタスクを作成します。次のようにタスクのプロパティを設定します。
 - a. タスクの [トリガタイプ] を設定します。たとえば、[クリック時] を指定した場合、[トリガ ID] をクリックするとタスクが実行されます。
 - b. [トリガ ID] をボタンに設定するか、コントロール値のロードのトリガとして使用するその他のオブジェクトに設定します。
 - c. [リクエスト/アクション] 下の [リクエストの選択] メニューで、[リフレッシュ] をクリックします。
 - d. [ターゲットのタイプ] を [入力コントロール] に変更します。
 - e. [ターゲットフレーム] メニューからコントロールオブジェクトを選択します。
6. HTML ページを保存して実行します。

[プロシジャロード時] プロパティが [オンデマンド] に設定されている場合、ページの初期ロード時に空のコントロールオブジェクトが表示されます。コントロールをリフレッシュするタスクを実行すると (例、ボタンのクリック)、コントロールに値が入力されます。

[プロシジャロード時] プロパティが [オンデマンド (最初は隠す)] に設定されている場合、ページの初期ロード時にコントロールが表示されません。コントロールをリフレッシュするタスクを実行すると、コントロールが表示され、値が入力されます。

手順 テキストボックスにマスクデータを入力するには

実行時に値を入力するテキストボックスに [テキストを隠す] プロパティを設定することができます。これにより、入力したテキストが通常のテキストで表示されるのではなく、デフォルトのマスク文字で表示されます。パスワードなどの機密情報を入力する場合にこの方法を使用することをお勧めします。

1. テキストボックスオブジェクトを選択し、[プロパティ] パネルで、関連するプロパティを表示します。
2. [テキストを隠す] プロパティのドロップダウンリストから [はい] を選択します。
3. レポートを実行し、テキストボックスに値を入力します。

入力した値がマスクテキストとして表示されます。

手順 テキストボックスを使用してアプリケーションフォルダにファイルをアップロードするには

テキストボックスの [タイプ] プロパティを [ファイル] に変更すると、テキストボックスを使用してシステム上のファイルを参照することができます。次に、`lbComposer_saveSelectedFile` 関数を使用して、[データサーバ] エリアの選択したディレクトリにファイルをアップロードすることができます。

1. HTML ページを作成します。
2. [コントロール] タブで [テキストボックス] をクリックし、ページ上にテキストボックスを描画します。
3. [プロパティ] パネルで、テキストボックスの [タイプ] プロパティを [ファイル] に変更します。

[参照] ボタンが、テキストボックスに追加されます。

4. 必要に応じて、テキストボックスの [プロパティ] パネルで [受容] プロパティを使用して、選択可能なファイルのタイプを指定します。この場合、ファイルタイプ指定子をカンマ区切りのリストにします。

これらのファイルタイプ指定子は、.jpg または .fex などピリオドを含む拡張子にすることも、image/* または text/html など MIME タイプの文字列にすることもできます。

5. [プロパティ] パネルで、[ファイルのコピー先] プロパティの [...] (参照) ボタンをクリックし、アップロードしたファイルを保存する [データサーバ] エリアのディレクトリを選択して [選択] をクリックします。

6. [コンポーネント] タブの [一般要素] グループで [プッシュボタン] をクリックし、ページ上にボタンを描画します。
7. ボタンを選択し、[プロパティ] パネルを開きます。
8. [プロパティ] パネル上部の [イベント] ボタンをクリックします。
9. [クリック時] の横の [...] (参照) ボタンをクリックし、クリック時イベントを追加します。
10. [埋め込み JavaScript] タブの新規クリック時イベントに、次の JavaScript 関数を追加します。

```
IbComposer_saveSelectedFile("uniqueID")
```

ここでの uniqueID は、テキストボックスの一意の識別子です。

11. ページを実行し、テキストボックスの [参照] ボタンをクリックします。
アップロードするファイルを選択します。
12. ページ上のボタンをクリックして、IbComposer_saveSelectedFile 関数を実行します。
選択したファイルが、テキストボックスの [ファイルのコピー先] プロパティで指定したフォルダにアップロードされます。

手順

ダブルリストボックスを作成するには

ダブルリストボックスは、2つのリストに値を表示します。左側のリストは利用可能な未使用の値を示し、右側のリストは、パラメータ値として使用するために選択された値を示します。値は、2つのリストの間にある矢印ボタンを使用してリスト内またはリスト間で移動することができます。Ctrl キーを押しながら値を選択してから、一重右矢印ボタンをクリックして一度に複数の値を選択することも、1つずつ値を追加することもできます。

パラメータにダブルリストボックスを使用するには、パラメータが複数値を受容するように設定しておく必要があります。パラメータ値の [変数タイプ] が、プロシジャで「複数選択 OR」または「複数選択 AND」に設定されていることを確認します。

1. HTML キャンバスで、複数値を受容するパラメータを使用したレポートを挿入します。
たとえば、パラメータの [変数タイプ] として [複数選択 OR] を選択し、マスターファイルから値の動的リストを受容するよう定義されたパラメータを使用してレポートを作成します。
2. [新規パラメータ] ダイアログボックスで、[コントロールタイプ] 列の値を右クリックして [ダブルリストコントロール] を選択し、[OK] をクリックします。
レイアウト内にリストボックスが作成され、「listboxn」というユニーク ID が付けられます。ここで、末尾の n には番号が割り当てられます。

3. HTML ページを保存して実行します。
4. 利用可能リストの任意の値を一重右矢印を使用して選択するか、利用可能リストのすべての値を二重右矢印を使用して選択します。選択済みリストの値を一重左矢印をクリックして選択解除するか、二重左矢印をクリックしてすべての値を選択解除します。値を選択解除する場合、元のソートされた順序で利用可能リストに戻されます。

上下矢印を使用して、選択済みリストの値を並べ替えることができます。一重上矢印または一重下矢印を使用すると、選択した値を 1 つ上または 1 つ下に移動します。二重上矢印または二重下矢印を使用すると、選択した値を一番上または一番下に移動します。
5. [実行] ボタンをクリックし、選択した値のパラメータを使用してレポートを実行します。

手順 ラジオボタンおよびチェックボックスコントロールでの選択済みおよび未選択プッシュボタンのフォーマットを設定するには

この手順では、ラジオボタンコントロールまたはチェックボックスコントロールからプッシュボタンを作成する方法について説明します。また、プッシュボタンに背景色を適用して、選択済みの値と未選択の値を区別する方法についても説明します。

1. HTML キャンバスで、リボンの [コントロール] タブの [ラジオボタン] または [チェックボックス] をクリックし、ラジオボタンコントロールまたはチェックボックスコントロールを作成します。コントロールに複数の値を追加します。
2. コントロールを選択し、[プロパティ] パネルを開きます。
3. [プロパティ] パネルの [タイプ] ドロップダウンリストから [プッシュボタン] を選択します。

[選択済みプッシュボタンの背景色] および [未選択プッシュボタンの背景色] プロパティが表示されます。

4. [選択済みプッシュボタンの背景色] プロパティのドロップダウンリストから背景色を選択します。
5. [未選択プッシュボタンの背景色] プロパティのドロップダウンリストから背景色を選択します。
6. HTML ファイルを保存して実行します。

指定した背景色が選択済みの値と未選択の値に適用されます。

手順 静的コンテンツのラジオボタンにイメージを追加するには

次の手順は、静的コンテンツのラジオボタンにイメージを追加する方法を示しています。

1. HTML キャンバスで、[コントロール] タブの [ラジオボタン] をクリックし、コントロールボックスを描画してラジオボタンコントロールを作成します。

2. [設定] パネルで、[表示イメージを追加する] のチェックをオンにします。
 - a. [新規作成] ボタンをクリックし、コントロールボックスに複数の値を入力します。
注意: デフォルト設定で、最初の値は [選択済み] に設定されていますが、このチェックはオフにすることができます。
 - b. 値の [画面] 列で右クリックし、この値を追加するイメージを選択します。[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。
 - c. イメージに移動して選択します。[画面] 列にイメージのパスが追加されます。
 - d. [画面] 列のテキストを変更または削除するには、これをダブルクリックし必要な変更を慎重に加えます。
 - e. HTML ページを実行します。[設定] パネルで [カメラ] ラジオボタンの [選択済み] のチェックがオンに設定されているため、下図のように、ページの実行時にこのイメージがデフォルトとして表示されます。



手順

カレンダーのプロパティを設定するには

1. [コントロール] タブの [カレンダー] コマンドをクリックして、HTML ページにカレンダーを追加します。

マウスポインタを HTML キャンバス上に移動します。マウスポインタが十字カーソルに変わります。

2. 十字カーソルをドラッグしてカレンダーオブジェクトを作成し、必要なサイズに調整します。

レイアウト内にカレンダーのプレースホルダが作成され、「calendar_n」という名前が付けられます。ここで、末尾の _n には番号が割り当てられます。

3. 必要に応じて、[プロパティ] パネルに表示された各プロパティを調整することで、カレンダーのプロパティを変更します。

[プロパティ] パネルには、次のカレンダーコントロールのプロパティが表示されます。

- ❑ **月数** カレンダーコントロールに同時に表示する月数を指定することができます。単一行で月数を表示するには、単一の整数値を入力します。指定した行数および列数で月数を表示するには、2つの整数をカンマ区切りで入力します。デフォルト設定では、1つの月が表示されます。
- ❑ **移動月数** カレンダーコントロールで右矢印または左矢印をクリックした際に、スキップする月数を指定します。これは、一度に複数の月を表示し、コントロールのナビゲート時にクリック回数を省略したい場合に便利です。デフォルト設定では、一度に1か月ずつ移動します。
- ❑ **表示オン** カレンダーコントロールの展開方法を指定します。デフォルト設定は [ボタンクリック時] です。この設定では、カレンダーアイコンをクリックするとカレンダーが表示されます。[フォーカス時] に設定するとカレンダーアイコンは表示されませんが、カレンダーテキストボックスをクリックするとカレンダーコントロールが表示されます。[両方] を選択すると、テキストボックスかアイコンのいずれかをクリックしてカレンダーコントロールを表示することができます。
- ❑ **週の表示** [はい] を選択すると、カレンダーコントロールに各年の週番号が表示されます。デフォルト値は [いいえ] です。
- ❑ **[ボタン] ウィンドウの表示** [はい] を選択すると、カレンダーコントロール下部に [ボタン] ウィンドウが追加されます。[ボタン] ウィンドウには、コントロールで現在の日付を選択するための [今日] ボタン、およびコントロールを閉じるための [完了] ボタンが表示されます。デフォルト値は [いいえ] です。
- ❑ **週の開始日** カレンダーコントロールで週の開始日となる曜日を指定します。
- ❑ **カレンダーのイメージ** デフォルト設定のカレンダーアイコンを、ユーザ環境で使用可能なイメージに変更することができます。イメージはカレンダーアイコンのサイズにトリミングされます。
- ❑ **アニメーション** カレンダーアイコンの表示に使用するアニメーションを指定します。デフォルト値は [表示] です。

4. 既存のパラメータをカレンダーにバインドします。

パラメータをカレンダーコントロールにバインドすると、入力パラメータが作成されます。入力パラメータ値は、Db2 Web Query 日付フォーマットで指定します。カレンダーのプロパティでサポートされるデータタイプのいずれかと完全に一致する日付フォーマットを指定する必要があります。入力パラメータ値により、カレンダーに日付値が入力されます。

- ❑ [パラメータ] 表示タブをクリックします。
- ❑ パラメータ名オブジェクトの中央を選択し、そのパラメータをカレンダーオブジェクトの中央にドラッグします。マウスボタンを離して、バインドを完成させます。
- ❑ カレンダーからパラメータのバインドを解除するには、矢じり部分を選択して右クリックし、[バインディングの解除] を選択します。

5. カレンダーをパラメータにバインドします。

カレンダーをパラメータにバインドすると、パラメータに日付値が入力されます。

- ❑ [パラメータ] 表示タブをクリックします。

[設定] パネルが開き、[カレンダーの設定] セクションにカレンダーの設定オプションが表示されます。カレンダーの設定オプションにより、実行時にユーザが選択可能な日付範囲を設定することができます。選択可能な日付は、アクティブなハイパーリンク (下線付きの青色) として表示されます。選択不可の日付は、下線の付いていない黒色で表示されます。

注意：カレンダーの [設定] パネルに表示されるオプションは、選択したデータタイプにより異なります。

- ❑ カレンダーの値を作成します。静的な値または動的な値を作成することができます。

[現在/開始日] のチェックをオンにすると、実行時のカレンダーコントロールで現在の日付が使用されます。

カレンダーの設定で選択可能な日付範囲オプションには、次のものがあります。

- ❑ **静的** このオプションを選択して、静的な日付範囲を設定します。開発者は、ポップアップカレンダーアイコンを使用するか、コントロールから月、日、年をクリックして開始日と終了日を選択します。

ポップアップカレンダーアイコンは、[日付範囲] で [静的] を選択した場合に [開始日] および [終了日] セクションに表示されます。ポップアップカレンダーアイコンをクリックすると、デフォルト設定で現在の日付が選択され、赤で囲まれたポップアップカレンダーが表示されます。横方向の矢印を使用してカレンダーをスクロールする場合、表示する月を変更しても、現在の日付と同一の日付が選択された状態になります。日付をクリックすると、その日付がコントロールに追加されます。日付を選択するには、カレンダーを左右にスクロール、月、日、年をテキストとして入力、または、ドロップダウンリストおよびスピンボックスから月、日、年を選択します。

- ❑ **相対的** このオプションを選択すると、現在の日付を基準として相対的な日数、月数、年数を設定することができます。実行時においての現在の日付が常に基準日 (開始日) となり、カレンダーには現在の日付を基準とした日数、月数、年数が表示されます。日付範囲をすべて過去の日付 (例、5 年前から現在の日付) にしたり、すべて未来の日付 (例、現在の日付から 5 年先) にしたりすることも可能です。これは、デフォルトの日付範囲として選択されています。
- ❑ **動的** このオプションを選択すると、日付範囲を返すリクエストを指定することができます。[カスタムリクエストの選択] ドロップダウンリストから、既存のリクエストを選択することができます。このリクエストは、XML フォーマットの同一のデータ行に、2 つの日付値を返す必要があります。日付値を返す場合は、月および日を 2 桁、年を 4 桁で表すフォーマット (例、MM/DD/YYYY) を使用する必要があります。
- ❑ **データで制限** このオプションを選択すると、利用可能な日付がコントロールのデータソースに表示される日付に制限されます。たとえば、[設定] パネルで [データタイプ] を [動的] に設定し、コントロールに使用するデータソースと日付フィールドを選択した場合、このフィールドに表示される日付のみを選択することができます。
- ❑ カレンダーの中央を選択し、パラメータオブジェクトの中央にドラッグします。マウスボタンを離して、バインドを完成させます。

スライダコントロールの使用

スライダコントロールは、数値を選択する際に使用されます。スライダコントロールを使用して、使用可能な値の範囲から単一の数値を選択することができます。スライダ内の点をクリックして選択することも、スライダの両端にある矢印ボタンを使用してスライダを 1 増分値ずつ移動することもできます。静的パラメータでスライダを作成する場合、[設定] パネルを使用して最小値と最大値、およびスライダ上の値間の増分を指定することができます。動的パラメータでスライダを作成する場合、選択したデータソースおよびフィールドのすべての値がスライダ上で使用できます。

また、ダブルヘッドスライダを作成することもできます。スライダコントロールの一種であるダブルヘッドスライダコントロールを使用すると、ユーザが値の範囲を選択して、レポートまたはグラフに表示するデータを制御することができます。操作するスライダヘッドは 1 つではなく、2 つあります。ダブルヘッドスライダコントロールを使用するには、レポートまたはグラフに 2 つの変数が含まれている必要があります。これらの変数を、ダブルヘッドスライダコントロールで制御します。ダブルヘッドスライダコントロールの一方のヘッドで 1 つ目の変数を制御し、他方のヘッドで 2 つ目の変数を制御します。これらの変数は、プロシージャ内で FROM および TO として指定する必要があります。

注意：レポートキャンバスで値の範囲を受容するパラメータを作成するには、[式ビルダ] ダイアログボックスを使用します。グラフキャンバスでは、値の範囲を受容するパラメータを手動で作成する必要があります。

手順

スライダコントロールを使用する HTML ページを作成するには

1. 新しい HTML ページを作成します。
2. HTML キャンバスにレポートオブジェクトを追加します。
3. 数値を受容する変数が含まれたレポートを参照します。
[新規パラメータ] ダイアログボックスが表示されます。
4. [新規パラメータ] ダイアログボックスの [コントロールタイプ] 列で、1 つ目のパラメータを右クリックし、[スライダ] から [横] または [縦] を選択します。
5. [OK] をクリックして [新規パラメータ] ダイアログボックスを閉じ、スライダコントロールを HTML ページに追加します。

HTML キャンバス下部の [パラメータ] 表示タブをクリックすると、スライダコントロールがレポートのパラメータに連鎖されていることが分かります。また、スライダコントロールを選択して [設定] パネルを開くと、選択した値をレポートのパラメータに追加するために値の動的リストが使用されていることが分かります。

6. 必要に応じて、スライダコントロールを選択し、[プロパティ] パネルを開きます。次のプロパティは、スライダコントロール固有のプロパティです。
 - ❑ **入力の表示** [はい] を選択すると (デフォルト設定)、スライダにテキストボックスが追加され、選択した値が表示されます。また、テキストボックスに値を入力してスライダの選択値を変更することもできます。[いいえ] を選択すると、テキストボックスが非表示になり、選択した値がスライダに表示されません。[読み取り専用] を選択すると、テキストボックスは非表示になりますが、選択した値はスライダに表示されます。
 - ❑ **矢印の表示/非表示** [はい] を選択すると (デフォルト設定)、矢印ボタンが追加され、スライダ上を 1 増分値ずつ移動することができます。[いいえ] を選択すると、矢印ボタンが非表示になります。スライダ上の点をクリックして、スライダヘッドを動かすことができます。
 - ❑ **範囲** シングルヘッドスライダコントロールの場合は [いいえ] を選択し、ダブルヘッドスライダコントロールを作成する場合は [はい] を選択します。ダブルヘッドスライダを使用した HTML ページの作成についての詳細は、139 ページの「[ダブルヘッドスライダコントロールを使用する HTML ページを作成するには](#)」を参照してください。
7. HTML ページを保存して実行します。

スライダコントロールは、値の選択を可能にすることで、レポートまたはグラフの表示を制御します。

手順

リボンからダブルヘッドスライダコントロールを作成するには

1. HTML キャンバスを開き、[コントロール] タブの [コントロール] グループで [スライダ] コマンドをクリックし、[横] または [縦] を選択します。

マウスポインタが十字カーソルに変わります。
2. 十字カーソルをドラッグして、シングルヘッドスライダコントロールを作成します。
3. シングルヘッドスライダコントロールを選択し、[プロパティ] パネルで [範囲] プロパティを [いいえ] から [はい] に変更します。

[範囲] プロパティを [はい] に変更すると、シングルヘッドスライダコントロールがダブルヘッドスライダコントロールに変更されます。このコントロールを使用して、表示する値の範囲を選択することができます。

手順 新規パラメータダイアログボックスでダブルヘッドスライダコントロールを作成するには

1. HTML キャンバスでレポートオブジェクトまたはグラフオブジェクトを作成します。
マウスポインタが十字カーソルに変わります。
2. 十字カーソルをドラッグして、レポートまたはグラフを作成します。
3. FROM - TO 関係で使用される 2 つの変数が含まれたレポートまたはグラフを参照します。
[新規パラメータ] ダイアログボックスが表示されます。
4. [新規パラメータ] ダイアログボックスの [コントロールタイプ] 列で、1 つ目のパラメータを右クリックし、[スライダ] から [ダブルヘッド横] または [ダブルヘッド縦] を選択します。

2 つ目の [コントロールタイプ] 列は [上に追加] に変更されます。この場合、2 つ目のパラメータは範囲の一部であると認識され、1 つ目のパラメータで指定されたダブルヘッドスライダコントロールで制御されます。

手順 ダブルヘッドスライダコントロールを使用する HTML ページを作成するには

1. 新しい HTML ページを作成します。
2. HTML キャンバスにレポートオブジェクトを追加します。
3.
[新規パラメータ] ダイアログボックスが表示されます。
4. [新規パラメータ] ダイアログボックスの [コントロールタイプ] 列で、1 つ目のパラメータを右クリックし、[スライダ] から [ダブルヘッド横] または [ダブルヘッド縦] を選択します。

2 つ目の [コントロールタイプ] 列は [上に追加] に変更されます。この場合、2 つ目のパラメータは範囲の一部であると認識され、1 つ目のパラメータで指定されたダブルヘッドスライダコントロールで制御されます。
5. [OK] をクリックして [新規パラメータ] ダイアログボックスを閉じ、ダブルヘッドスライダコントロールを HTML ページに追加します。
6. HTML キャンバス下部の [パラメータ] 表示タブをクリックします。
7. 未バインドパラメータを [未バインドのパラメータ] ボックスの外側へドラッグします。
8. スライダコントロールの後半部分を未バインドパラメータにドラッグします。
9. スライダコントロールを選択し、[設定] パネルをクリックします。

10. [コントロールの設定] セクションで、[データタイプ] を [動的] に変更します。
11. [データソース] ドロップダウンリストから、使用するデータソースを選択します。
12. [値フィールド] テキストボックスの [...] (参照) ボタンをクリックし、ダブルヘッドスライダコントロールで制御するフィールドを選択します。
13. HTML ページを保存して実行します。

ダブルヘッドスライダコントロールを使用して、特定の値やすべての値を選択する代わりに、値の範囲を選択することで、レポートやグラフに表示するデータを制御することができます。1 つ目のヘッドで FROM 値を更新し、2 つ目のヘッドで TO 値を更新します。

複数選択リストの使用

レポートに使用可能な複数選択リストには、標準リストボックスとドロップダウンリストの 2 タイプがあります。いずれかのタイプの複数選択入力コントロールを使用してパラメータ値を提供する場合、実行時に値リストから複数值の選択を可能にするかどうかを指定するには、[複数值の選択] プロパティ値を使用します。

手順

複数選択値のリストボックスを作成するには

複数選択リストボックスを使用すると、ユーザは Ctrl キーを押しながら複数の値を選択することができます。リストボックスで複数の値を選択するには、プロシジャが複数值を受け入れるよう設定されている必要があります。パラメータ値の [変数タイプ] が、プロシジャで「複数選択 OR」または「複数選択 AND」に設定されていることを確認します。

1. HTML キャンバスで、複数值を受容するパラメータを使用したレポートを挿入します。

たとえば、パラメータの [変数タイプ] として [複数選択 OR] を選択し、マスターファイルから値の動的リストを受容するよう定義されたパラメータを使用してレポートを作成します。
2. [新規パラメータ] ダイアログボックスで、デフォルトのコントロールタイプである [リストボックス] をそのまま使用し、[OK] をクリックします。

レイアウト内にリストボックスが作成され、「listboxn」という名前が付けられます。ここで、末尾の n には番号が割り当てられます。
3. [プロパティ] パネルで、[複数值の選択] ドロップダウンリストから [複数值の選択] を選択します。

これにより、ドロップダウンリストで複数の項目を選択することができます。
4. HTML ページを保存して実行します。
5. リストボックスから値を選択する際に、Ctrl キーを押しながら複数の値を選択します。

6. [実行] ボタンをクリックし、選択した値のパラメータを使用してレポートを実行します。

手順

複数選択値のドロップダウンチェックボックスリストを作成するには

複数選択ドロップダウンリストを使用すると、ユーザは値の横のチェックボックスを使用して、複数の値を選択することができます。ドロップダウンリストで複数の値を選択するには、プロシジャが複数値を受け入れるよう設定されている必要があります。パラメータ値の[変数タイプ]が、プロシジャで「複数選択 OR」または「複数選択 AND」に設定されていることを確認します。

1. HTML キャンバスで、複数値を受容するパラメータを使用したレポートを挿入します。
たとえば、パラメータの[変数タイプ]として[複数選択 OR]を選択し、マスターファイルから値の動的リストを受容するよう定義されたパラメータを使用してレポートを作成します。
2. [新規パラメータ] ダイアログボックスで、デフォルトのコントロールタイプである[リストボックス]をそのまま使用し、[OK]をクリックします。
レイアウト内にリストボックスが作成され、「listboxn」という名前が付けられます。ここで、末尾の n には番号が割り当てられます。
3. コントロールを右クリックし、[コントロールタイプの設定]、[ドロップダウンリスト]を順に選択してコントロールを変更します。
注意：[プロパティ]パネルでは、コントロールの[複数値の選択]プロパティが自動的に[複数値の選択]に設定されます。
4. HTML ページを保存して実行します。
5. 下向き矢印をクリックした際に表示されるチェックボックスを使用して、複数の値を選択します。
6. コントロールの外側をクリックし、ドロップダウンリストを閉じます。
7. [実行] ボタンをクリックし、選択した値のパラメータを使用してレポートを実行します。

ブラウザセッションでのコントロール選択値の保存

HTML ページ上の複数のコントロールをリンクさせることで、同一ブラウザセッション中に複数のページを切り替えた場合でも、同一の選択値が自動的にデフォルト値になるよう設定することができます。複数のコントロールをリンクさせるには、リンクを設定する各コントロールの[グローバル名]プロパティに共通の値を割り当てます。

たとえば、2 つの HTML ページに地域別の売上情報に関するコントロールが含まれている場合を想定します。リンクを設定する各コントロールの [グローバル名] プロパティに値を割り当てます (例、Region)。同一ブラウザセッションでこれらのページを実行し、リンクが設定された 1 つ目のコントロールで値を選択すると (例、Southeast)、別のページのコントロールがリフレッシュされ、最初に選択した値 (例、Southeast) に関する情報が表示されます。

注意： 選択した値がデフォルト値として保持されるのは、単一のブラウザセッション中のみです。ブラウザを閉じると、値はクリアされます。

手順 ブラウザセッションでコントロール選択値を保存するには

次の手順は、[グローバル名] プロパティに値を割り当てることで、ブラウザセッション中にコントロールの選択値を保存する方法を示しています。

注意： 選択した値がデフォルト値として保持されるのは、単一のブラウザセッション中のみです。ブラウザを閉じると、値はクリアされます。

1. コントロールが含まれた HTML ページを作成するか、既存の HTML ページを開きます。
2. コントロールを選択します。
3. [プロパティ] パネルの [その他] セクションで、[グローバル名] プロパティに値を入力します。この値は、任意の文字にすることができます (例、GlobalRegion1)。
4. HTML ページを保存します。
5. リンクを設定するコントロールごとに手順 1 から 4 を繰り返します。リンクを設定する各コントロールの [グローバル名] プロパティには、同一の値を割り当てる必要があります。

ツリーコントロールの使用

HTML ページにシングルソースツリーコントロールまたはマルチソースツリーコントロールを挿入することができます。

手順 既存のプロシジャを使用して HTML ページにツリーコントロールを追加するには

既存のプロシジャを選択して、HTML レポート内のツリーコントロールに追加することができます。プロシジャを選択すると、そのプロシジャは親子階層に存在するフィールドを使用して次のように設定されます。

```
TABLE FILE file
SUM FST.dispfield
BY ParentUniqueField
BY UniqueField
BY datafield
ON TABLE PCHOLD FORMAT XML
END
```

説明

file

データソース名です。

dispfield

このフィールドの値がツリーコントロールに表示されます。

ParentUniqueField

親子階層の親を表すフィールドです (PROPERTY = PARENT_OF)。

UniqueField

階層メンバーの一意の ID を表すフィールドです (PROPERTY=UID)。

datafield

このフィールドの値がパラメータ値として渡されます。

プロシジャを設定した後、次の手順を実行します。

1. [コントロール] タブからツリーコントロールを挿入します。

ヒント: シングルソースツリーコントロールまたはマルチソースツリーコントロールのいずれかを選択することができます。いずれのタイプも選択しない場合は、デフォルトのシングルソースツリーコントロールが使用されます。シングルソースツリーコントロールには、マルチディメンションデータソース (例、SAP BW、SSAS、Essbase) から値が挿入される必要があります。

マウスポインタが十字カーソルに変わります。

2. 十字カーソルをドラッグしてツリーコントロールを作成し、必要なサイズに調整します。
レイアウト内にツリーコントロールが作成され、「treecontroln」という名前が付けられます。ここで、末尾の n には番号が割り当てられます。
3. 必要に応じて、[プロパティ] パネルの [展開] プロパティで [展開] を選択することで、実行時にツリーコントロールを展開された状態で表示することができます。
4. 必要に応じて、[プロパティ] パネルの [ハイパーリンク] プロパティで [ハイパーリンク] を選択することで、実行時にツリーノードをラジオボタンではなく、ハイパーリンクとして表示することができます。

5. [設定] パネルの [データタイプ] セクションで、[動的] を選択します。
6. [外部プロシジャ (リクエストパネル)] を選択し、[リクエスト] ドロップダウンリストからプロシジャを選択します。

選択したプロシジャ名が明示的プロシジャとして追加されます。

注意：以前のバージョンでは、明示的プロシジャは「外部プロシジャ」と呼ばれていました。

7. [値フィールド] 横の [...] (参照) ボタンをクリックして階層からフィールドを選択するか、フィールド名を直接入力します。

この [値フィールド] は、値の取得元となるデータソースのフィールドです。

8. [表示フィールド] 横の [...] (参照) ボタンをクリックして階層からフィールドを選択するか、フィールド名を直接入力します。

この [表示フィールド] は、ツリーコントロールのパラメータ値を表すテキストです。

9. ページを保存して実行し、ツリーコントロールにマルチディメンションデータソースを表示します。

手順

マルチソースツリーコントロールにデータを入力するには

ツリーコントロールを使用して、非階層構造データソースのツリー構造を表示することができます。ツリーコントロールにレベル数を指定することで、ツリーコントロールのレベルごとに、それぞれ独自のプロシジャを使用してデータを入力することができます。レベル数を設定すると、ツリー構造が作成され、各レベルそれ自体のサブコントロールになり、無条件に連鎖が設定されます。

この手順では、ツリーコントロールにパラメータを追加し、レベル数のプロパティを設定する方法について説明します。

1. HTML キャンバスで、マルチソースツリーコントロールを挿入します。

❑ [コントロール] タブの [ツリーコントロール] ドロップダウンリストから、[マルチソースツリーコントロール] を選択します。

マウスポインタが十字カーソルに変わります。

2. 十字カーソルをドラッグしてツリーコントロールを作成し、必要なサイズに調整します。
レイアウト内にツリーコントロールが作成され、「treecontroln」という名前が付けられます。ここで、末尾の n には番号が割り当てられます。
3. [プロパティ] パネルで、ツリーコントロールのレベル数を入力し、Enter キーを押します。
これにより、データが入力されるレベル数が設定されます。

4. 必要に応じて、[プロパティ] パネルの [展開] プロパティで [展開] を選択することで、実行時にツリーコントロールを展開された状態で表示することができます。
5. ツリーコントロールを選択し、[パラメータ] タブをクリックします。
ツリーコントロールオブジェクトに、設定した数のレベルが表示されます。
6. ツリーコントロールの各レベルを選択し、データ入力の設定を作成します。
マルチソースツリーコントロールを作成する場合、静的データタイプは使用できません。
ツリーコントロールで静的値を作成するには、シングルソースツリーコントロールを作成する必要があります。
7. ツリーコントロールにレベルを追加する場合は、[パラメータ] タブのツリーコントロールオブジェクトを右クリックし、[レベルの追加] を選択します。
注意：[レベルの追加] は、マルチソースツリーコントロールオブジェクトにのみ表示されます。
8. 追加したレベルをクリックし、そのレベルの [設定] パネルを表示します。
9. HTML キャンバスの [デザイン] タブに切り替え、データが入力されたツリーコントロールのプレビューを表示します。
このツリーコントロールの [プロパティ] パネルのドロップダウンリストには、各レベルの入力値が表示されます。
10. ページを保存して実行します。
注意：ユーザが 1 つ目のレベルで下位ノードを選択し、2 つ目のレベルで上位ノードを選択した場合、そのプロシジャを実行すると、下位で選択された値のみが反映されます。たとえば、COUNTRY、CAR、MODEL という 3 つのレベルが存在する場合を想定します。
[ENGLAND] ノード下の [TRIUMPH] レベルで [TR7] を選択します。[FRANCE] ノード下で [PEUGEOT] を選択します。実行時には、TR7 のレコードのみが取得されます。これは、[FRANCE] ノード下で下位の MODEL 値が選択されていないためです。
ツリーコントロールの各レベルに、値が入力されます。
注意：[選択項目を保存] ボタンをクリックする前に、各レベルの値を選択する必要があります。
レベル 1 に存在しないフィールドの表示値を指定した場合は、そのレベルに先行するレベルに対しても表示値を指定する必要があります。
1 つ目および 2 つ目のレベルのみが実行時にロードされます。レベル 1 に存在するフィールドの表示値を指定した場合は、最初の 2 つのレベルの値のみが選択されます。

手順 静的な値を使用して HTML ページにツリーコントロールを追加するには

この手順では、ツリーコントロールに静的なデータタイプのパラメータを追加する方法について説明します。ここでは、ツリーコントロールの [レベル数] プロパティは設定されていません。この手順に従って、値の静的リストを追加することができます。

1. HTML キャンバスで、ツリーコントロールを挿入します。
2. [設定] パネルで、[データタイプ] として [静的] を選択します。
[静的] がデフォルト設定で選択されています。項目を選択して、その項目を削除したり、サブ項目を追加したりできます。
3. コントロールのパラメータ値を作成します。
 - ☐ [新規作成] ボタンをクリックして、一連の値を追加します。これらの値は、連続番号の付いた階層構造に追加されます。追加した最後の値が、[値] および [表示値] テキストボックスに表示されます。
 - ☐ 値を変更するには、[値] および [表示値] テキストボックスに新しい値を直接入力します。
 - ☐ [静的な値] ドロップダウンリストから [子項目の追加] をして、現在選択しているレベルに値を追加し、選択した値の子として新しい値を作成します。
 - ☐ 選択した値の前に値を挿入するには、[静的な値] ドロップダウンリストから [前に挿入] を選択します。ここで、値の番号に注目してください。
 - ☐ 選択した値の後に値を挿入するには、[静的な値] ドロップダウンリストから [後に挿入] を選択します。ここで、値の番号に注目してください。

この手順を繰り返して、必要な値をすべてリストに追加します。

 - ☐ 必要に応じて、[削除] ボタンをクリックして、値を削除します。
4. [値] テキストボックスに入力した値をデフォルト値として表示するには、[選択済み] のチェックをオンにします。
5. 実データの代わりに表示値をパラメータに送信するには、[表示値を送信する] のチェックをオンにします。
6. このページを保存して実行すると、ツリーコントロールに静的な値が挿入されます。

手順

新規パラメータダイアログボックスで新規ツリーコントロールを作成するには

レポートに 1 つまたは複数の新しい変数パラメータが含まれている場合、そのレポートを保存して HTML キャンバスに戻ると、[新規パラメータ] ダイアログボックスが開きます。[新規パラメータ] ダイアログボックスで、HTML ページのシングルソースまたはマルチソースの新しいツリーコントロールをパラメータに割り当てることができます。

各パラメータには、[名前] および [コントロールの作成] チェックボックス、[コントロールタイプ] テキストボックスのほか、コントロールタイプをシングルソースツリーコントロールまたはマルチソースツリーコントロールに設定するためのオプションが表示されます。

1. パラメータを含むレポートを参照します。

パラメータを含むレポートを参照する際に、[新規パラメータ] ダイアログボックスが表示され、コントロールタイプを作成するよう要求されます。

2. [コントロールタイプ] 列の値を右クリックし、[新規パラメータ] ダイアログボックスからツリーコントロールを選択します。

[コントロールタイプ] 列が更新されて、選択したコントロールが表示されます。

3. [OK] をクリックし、[新規パラメータ] ダイアログボックスを閉じます。

レポートが追加され、関連するパラメータがツリーコントロールにバインドされます。

参照

ツリーコントロールの連鎖使用上の注意

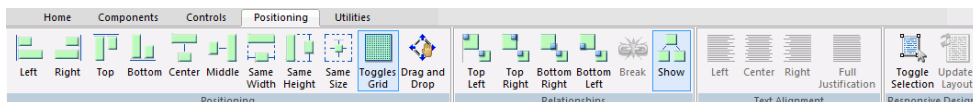
次の使用上の注意は、ツリーコントロールを連鎖する際に適用されます。コントロールの連鎖は、[新規パラメータ] ダイアログボックスおよび [パラメータ] タブで設定することができます。

- ❑ 連鎖内でマルチソースツリーコントロールがリンクになっている場合は、[新規パラメータ] ダイアログボックスを使用して、複数のパラメータで同一のマルチソースツリーコントロールを共有することができます。
- ❑ マルチソースツリーコントロールからシングルソースツリーコントロールに連鎖を設定することができます。
- ❑ シングルソースツリーコントロールから別のシングルソースツリーコントロールに連鎖を設定することができます。
- ❑ マルチソースツリーコントロールから別のマルチソースツリーコントロールに連鎖を設定することができます。
- ❑ ツリーコントロールは、ツリー以外のコントロール (例、ドロップダウンリストやリストボックス) にも連鎖を設定することができます。

- ❑ 連鎖は、フィールド名のみで設定することはできません。
- ❑ フィールド名を使用してコントロールの値を動的に入力する場合は、SYSCOLUMN コールを使用する必要があります。

HTML ページでのオブジェクトの配置 - 配置タブの使用

[配置] タブの各オプションを使用して、選択した複数のオブジェクトを、特定のオブジェクトの位置を基準に位置揃えすることができます。下図のように、[配置] タブには、[配置]、[関係]、[テキスト配列]、[レスポンスデザイン] グループがあります。



HTML ページでのオブジェクトの位置揃え - 配置グループの使用

[配置] グループには、[左揃え]、[右揃え]、[上揃え]、[下揃え]、[左右中央揃え]、[上下中央揃え]、[均等幅]、[均等な高さ]、[均等なサイズ]、[グリッドの切り替え]、[ドラッグアンドドロップ] コマンドがあります。

左揃え

複数のオブジェクトを左揃えにします。このコマンドは、相対的に位置を揃える機能です。

一方のオブジェクトの左端を基準に他方のオブジェクトの位置を揃えます。

右揃え

複数のオブジェクトを右揃えにします。このコマンドは、相対的に位置を揃える機能です。

一方のオブジェクトの右端を基準に他方のオブジェクトの位置を揃えます。

上揃え

一方のオブジェクトの上端を基準に他方のオブジェクトの位置を揃えます。このコマンドは、相対的に位置を揃える機能です。

下揃え

一方のオブジェクトの下端を基準に他方のオブジェクトの位置を揃えます。このコマンドは、相対的に位置を揃える機能です。

左右中央揃え

複数のオブジェクトを左右中央揃えにします。このコマンドは、相対的に位置を揃える機能です。

一方のオブジェクトの縦中心線を基準に他方のオブジェクトの位置を揃えます。

上下中央揃え

複数のオブジェクトを上下中央揃えにします。このコマンドは、相対的に位置を揃える機能です。

一方のオブジェクトの横中心線を基準に他方のオブジェクトの位置を揃えます。

均等幅

複数のオブジェクトの幅を均等にします。

均等な高さ

複数のオブジェクトの高さを均等にします。

均等なサイズ

複数のオブジェクトのサイズを均等にします。

グリッドの切り替え

グリッドの表示と非表示を切り替えます。

ドラッグアンドドロップ

親子関係を指定するドラッグアンドドロップ操作のオンとオフを切り替えます。

このコマンドがオフ (デフォルト) の場合、ドラッグアンドドロップ操作で HTML キャンバス上のオブジェクトの移動のみを行えます。

このコマンドがオンの場合、ドラッグアンドドロップ操作で 2 つのオブジェクト間の親子関係を指定することができます。

手順**ドラッグアンドドロップ操作で親子関係を指定するには**

HTML キャンバス上のオブジェクトを別のオブジェクトの子要素にしたい場合があります。たとえば、タブコンテナ (親) の内側にレポート (子) を配置します。

1. 2 つのオブジェクトが配置されている HTML ファイルを開きます。
2. [配置] タブをクリックします。
3. [ドラッグアンドドロップ] コマンドをクリックして、このコマンドをオンにします。

別の方法として、HTML キャンバスのコンテキストメニューから [ドラッグアンドドロップの切り替え] を選択することもできます。

[配置] タブの [ドラッグアンドドロップ] コマンドがハイライト表示 (選択済み) になります。

4. 子オブジェクトをクリックし、親オブジェクトの方向にドラッグします。
マウスポインタの下側に小さい四角形が表示されますが、子オブジェクト自体は移動しません。

5. マウスポインタを親オブジェクトに移動してドロップします。
これで、親子関係が作成されます。
6. デフォルトのドラッグアンドドロップ操作に戻すには、[ドラッグアンドドロップ] コマンドをクリックして、このコマンドをオフにします。

注意：[ドラッグアンドドロップ] コマンドがオンの場合、[タブ]、[アコーディオン]、[ウィンドウ] コンポーネントを使用する際に、タブやページコンテナの順序変更ができなくなります。

HTML ページでのオブジェクト間の関係設定 - 関係グループの使用

[関係] グループには、[左上合わせ]、[右上合わせ]、[右下合わせ]、[左下合わせ]、[関係の解除]、[関係の表示] コマンドがあります。

左上合わせ

ページ上で複数のオブジェクトに関係を設定します。2 つのオブジェクトを選択する必要があります。一方のオブジェクトの左上を基準にオブジェクト間に関係を設定します。

右上合わせ

ページ上で複数のオブジェクトに関係を設定します。2 つのオブジェクトを選択する必要があります。一方のオブジェクトの右上を基準にオブジェクト間に関係を設定します。

右下合わせ

ページ上で複数のオブジェクトに関係を設定します。2 つのオブジェクトを選択する必要があります。一方のオブジェクトの右下を基準にオブジェクト間に関係を設定します。

左下合わせ

ページ上で複数のオブジェクトに関係を設定します。2 つのオブジェクトを選択する必要があります。一方のオブジェクトの左下を基準にオブジェクト間に関係を設定します。

注意：上記の 4 つのコマンドは廃止され、Developer Workbench の今後のリリースで削除される予定です。

関係の解除

選択したオブジェクト間の関係を解除します。

関係の表示

オブジェクト間の関係の表示と非表示を切り替えます。

HTML ページでのテキストの位置揃え - テキスト配列グループ

[テキスト配列] グループには、[左揃え]、[中央揃え]、[右揃え]、[両端揃え] コマンドがあります。これらのコマンドは、HTML ページ内のテキストの位置を揃えます。

左揃え

選択したテキストを左揃えにします。

中央揃え

選択したテキストを中央揃えにします。

右揃え

選択したテキストを右揃えにします。

両端揃え

選択したテキストを両端揃えにします。テキストボックスの幅全体に合わせてテキストが拡張されます。

HTML ページのレスポンシブデザインの有効化 - レスポンシブデザイングループの使用

[レスポンシブデザイン] グループには、[選択の切り替え]、[レイアウトの更新] コマンドがあります。これらのコマンドは、[レスポンシブデザイン] プロパティを [はい] に設定した場合に有効になります。

選択の切り替え

コンテンツが含まれているコンテナを別の位置にドラッグする操作を可能にするかどうかを切り替えます。これらのコンテナの移動を禁止するには、このコマンドをオフにします。

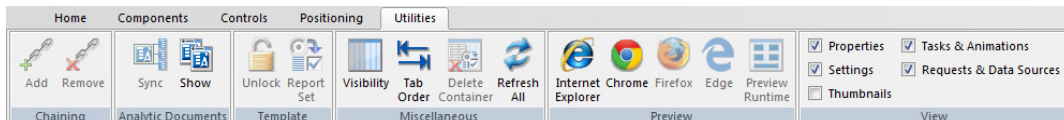
レイアウトの更新

コンテナの位置を変更した後に HTML キャンバスをリフレッシュして、各コンテナが折り返された際にどのように積み重なるかを確認します。このコマンドは、DOCUMENT レベルとオブジェクトレベルの両方で [自動サイズ変更] の [有効] プロパティが [はい] に設定されている場合に有効になります。

HTML ページプロパティの変更 - ユーティリティタブの使用

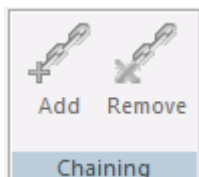
[ユーティリティ] タブを使用して、HTML ページのプロパティを変更することができます。たとえば、作成した HTML ページを特定のブラウザでテストしたい場合があります。デフォルトのブラウザ指定は、HTML ページのプロパティと見なされます。別のブラウザでページを実行するには、[ユーティリティ] タブを開き、[プレビュー] コマンドグループから特定のブラウザを選択します。

下図は、[ユーティリティ] タブを示しています。



HTML ページでのオブジェクト間の連鎖設定 - 連鎖グループの使用

[連鎖] グループを使用して、連鎖オプションを追加または削除することができます。下図は、[連鎖] グループを示しています。



次のコマンドがあります。

連鎖に追加

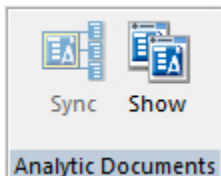
[パラメータ] タブで選択した複数のオブジェクトに連鎖を設定します。

連鎖から削除

[パラメータ] タブで選択した複数のオブジェクトの連鎖を解除します。

HTML ページでの Analytic Document の同期 - Analytic Document グループの使用

Analytic Document は、[Analytic Document] グループを使用して同期することができます。下図は、[Analytic Document] グループを示しています。



次のコマンドがあります。

同期

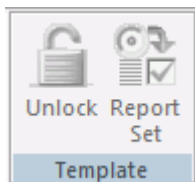
Analytic Document を同期します。

同期レポートの表示

キャンバス上に配置された Analytic Document の同期状態を表示します。

HTML ページのテンプレートのロック解除 - テンプレートグループの使用

テンプレートのロックを解除し、コントロール、テキスト、ボタンの追加を可能にします。下図は、[テンプレート] グループを示しています。



次のコマンドがあります。

ロックを解除

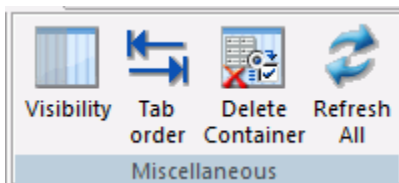
使用中のテンプレートのロックを解除し、ページのフルコントロールを可能にします。

レポートセット

テンプレートモードでこのコマンドを実行すると、タイトルバーと、コントロール、テキスト、ボタンが事前に配置されたフォームが追加されます。

HTML キャンバスでのその他グループの使用

[その他] グループには、[表示の切り替え]、[タブオーダー]、[コンテナの削除]、[すべてリフレッシュ] コマンドがあります。下図は、[その他] グループを示しています。



次のコマンドがあります。

表示の切り替え

非表示オブジェクトの表示と非表示を切り替えます。非表示オブジェクトとは、[プロパティ] パネルで [表示] プロパティが [非表示] に設定されているオブジェクトです。

[表示の切り替え] コマンドの使用についての詳細は、154 ページの「[非表示オブジェクトの表示と非表示を切り替えるには](#)」を参照してください。

タブオーダー

タブの順序を表示します。

コンテナの削除

選択したコンテナのコンテンツを削除せずに、コンテナのみを削除します。

すべてリフレッシュ

HTML ページをリフレッシュします。

手順

非表示オブジェクトの表示と非表示を切り替えるには

1. HTML キャンバスにオブジェクトを挿入します。
2. 作成したオブジェクトを選択します (選択されていない場合)。
3. [プロパティ] パネルで [表示] プロパティを [非表示] に変更します。

キャンバス上でオブジェクトが非表示になります。

4. [ユーティリティ] タブの [その他] グループで、[表示の切り替え] コマンドをクリックします。

非表示オブジェクトがキャンバス上で表示されます。オブジェクトを再び非表示にするには、[表示の切り替え] コマンドをクリックします。このオブジェクトは実行時に非表示になります。

HTML 出力のプレビュー表示 - プレビューグループの使用

下図の [プレビュー] グループを使用して、HTML 出力を Internet Explorer、Chrome、Firefox、Edge ブラウザでプレビュー表示し、作成したコンテンツが正しく表示されることを確認することができます。

[ランタイムプレビュー] オプションは、レスポンシブ HTML ページでのみ使用できます。このオプションではデフォルトブラウザが使用され、サンプルデータを使用して実行時の HTML レイアウトがプレビュー表示されます。ページに大規模なデータが表示される場合は、ページを実行するより高速になります。



注意：別の方法として、HTML キャンバスを右クリックして [プレビュー] を選択し、ブラウザのいずれかを選択するか、[ランタイムプレビュー] を選択することもできます。

次のブラウザでプレビュー表示することができます。

Internet Explorer

HTML 出力を Internet Explorer でプレビュー表示します。

注意：2021 年 4 月 1 日をもって、Internet Explorer のサポートは終了しました。

Chrome

HTML 出力を Chrome でプレビュー表示します。

Firefox

HTML 出力を Firefox でプレビュー表示します。

Edge

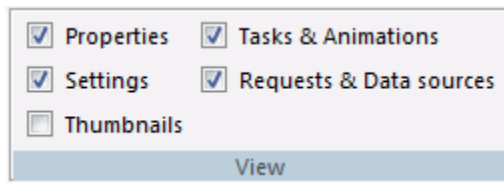
HTML 出力を Edge でプレビュー表示します。

ランタイムプレビュー

レスポンス HTML ページでのみ使用できます。このオプションではデフォルトブラウザが使用され、サンプルデータを使用して実行時の HTML レイアウトがプレビュー表示されます。

HTML ページでの各種パネルの表示 - 表示グループの使用

[表示] グループでは、HTML ページに関連するパネルの表示と非表示を切り替えることができます。このグループは、HTML キャンバスの [ユーティリティ] タブに表示されるほか、[埋め込み JavaScript] および [埋め込み CSS] 表示タブをクリックした際の [テキストエディタ] タブにも表示されます。下図は、[表示] グループを示しています。



次のコマンドがあります。

プロパティ

[プロパティ] パネルの表示と非表示を切り替えます。

設定

[設定] パネルの表示と非表示を切り替えます。

サムネール

[サムネール] パネルの表示と非表示を切り替えます。

タスクとアニメーション

[タスクとアニメーション] パネルの表示と非表示を切り替えます。

リクエストとデータソース

[リクエストとデータソース] パネルの表示と非表示を切り替えます。

パラメータの使用

広範囲のエンドユーザに提供する HTML ページを作成する際は、単一の HTML ページにパラメータ (変数) を使用する方法が適しています。たとえば、地域のパラメータを含めておくと、実行時に各ユーザがそれぞれ所属する地域を選択することができます。これにより、パフォーマンスが向上し、ユーザが無関係のデータをスクロールする手間が省けるとともに、開発者が複数のページを作成する必要がなくなります。

パラメータ値と入力コントロールは、値の動的または静的リストで作成することができます。

- ❑ 動的リストには、リクエストの実行時に特定のデータソースから値が取得されます。データソースから取得される値は常に最新です。
- ❑ 静的リストには、事前に指定した値が表示されます。静的リストの値は、手動で変更しない限り変更されません。
- ❑ Analytic Document コントロールには、Analytic Document メニュー項目と同一の Analytic Document 値が表示されます。

注意：Analytic Document コントロールは、レイアウト内のどのパラメータとも関連付けることはできません。このタイプのコントロールは、レイアウト内の Analytic Document にのみ関連付けることができます。

- ❑ TOC コントロールリストを使用すると、HTML キャンバスでレポートに目次および Web ビューアを統合することができます。

注意：TOC コントロールは、レイアウト内のどのパラメータとも関連付けることはできません。このタイプのコントロールは、レイアウト内の特定の入力コントロールにのみ関連付けることができます。

パラメータタブでの作業

[パラメータ] タブを使用して、パラメータ値と入力コントロールの作成および変更、パラメータの条件のカスタマイズを行えます。また、パラメータをコントロールにバインドしたり、コントロール間に連鎖を設定したりすることもできます。[パラメータ] タブは、次のコンポーネントで構成されます。

- ❑ 入力コントロールオブジェクト

入力コントロールオブジェクトを選択して、そのコントロールの設定を表示、編集することができます。

- ❑ [デザイン] 表示で入力コントロールを作成すると、[パラメータ] タブでバインドパラメータを作成するよう要求されます。

- ❑ 新規パラメータに入力コントロールを設定したときに挿入された入力コントロールを編集します。
- ❑ ページ上の他の入力コントロールと関連しない自動実行コントロールは、仮想コントロールとも呼ばれ、デザイン時にのみ [パラメータ] タブからアクセスできます。これらは破線の六角形で表示されます。
- ❑ 新規パラメータの追加

[パラメータ] タブで任意の位置を右クリックし、新規パラメータを追加することができます。

注意：パラメータを手動で追加した場合、未バインドのパラメータが作成されます。

- ❑ オブジェクトの手動整列

[パラメータ] タブでパラメータを移動すると、プロパティ値が自動的に設定されます。[パラメータ] タブでパラメータを移動すると、[プロパティ] パネルの [ドキュメント] セクション下で、[[パラメータ] タブ：自動整列] プロパティが自動的に [いいえ] に設定されます。この場合、[パラメータ] タブから別のタブに切り替えた後、再び [パラメータ] タブに戻った際に、パラメータの移動後の位置が保持されます。

[パラメータ] タブでパラメータおよびコントロールの順序を手動で変更すると、[[パラメータ] タブ：自動整列] プロパティが自動的に [いいえ] に設定されます。この場合、[パラメータ] タブから別のタブに切り替えた後、再び [パラメータ] タブに戻った際に、ユーザが手動で移動したオブジェクトの位置が保持されます。また、[Developer Workbench オプション] ダイアログボックスの [HTML ページ] タブで、デフォルト設定で選択されている [オブジェクトの自動整列] オプションが上書きされます。

ユーザが手動で移動したオブジェクトの位置を元に戻し、[パラメータ] タブ上のオブジェクトに自動整列機能を適用するには、[[パラメータ] タブ：自動整列] プロパティ値を [はい] に設定します。

[オブジェクトの自動整列] オプション値を継承するには、[[パラメータ] タブ：自動整列] プロパティの値を [<設定しない>] に設定します。

[[パラメータ] タブ：自動整列] プロパティは、[プロパティ] パネル [ドキュメント] セクション下にあります。このプロパティにアクセスするには、パネル上部のドロップダウンリストから [DOCUMENT] を選択する必要があります。

[パラメータ] タブでオブジェクトを選択すると、そのオブジェクトのプロパティが [プロパティ] パネルに自動的に表示されます。[プロパティ] パネル上部のドロップダウンリストからパラメータオブジェクトを選択すると、そのオブジェクトが [パラメータ] タブで選択された状態になります。

❑ 未解決パラメータのリフレッシュ

[パラメータ] タブでは、すべてのパラメータが 2 分ごとに解析され、パラメータに未解決のものがないかどうかを確認されます。存在する場合は、周囲の領域が赤色で表示されます。未解決のパラメータを必要に応じて確認する場合は、右クリックして [未解決項目のリフレッシュ] を選択します。

❑ コントロールとパラメータのバインド

[パラメータ] タブで、入力コントロールとパラメータのバインドの設定と解除が行えます。

パラメータにコントロールをバインドしたり、パラメータをコントロールにバインドしたりすることができます。

❑ コントロールにパラメータをバインドすると、そのパラメータはコントロールに入力される「入力パラメータ」になります。[パラメータ] タブで、パラメータオブジェクトをコントロールオブジェクトにドラッグすることができます。

❑ パラメータにコントロールをバインドすると、そのパラメータに値が入力されます。[パラメータ] タブで、コントロールオブジェクトをパラメータオブジェクトにドラッグすることができます。

❑ 複数のコントロールの連鎖

連鎖を設定すると、連鎖内で前のコントロールで選択した値に基づいて、コントロールに値が入力されます。静的コントロールおよび動的コントロールに連鎖を設定することや、連鎖の一部へのリンクの設定と解除、連鎖内のリンクの設定、条件の作成が可能です。[パラメータ] タブでは、連鎖はコントロールオブジェクトを接続する線として表示されます。連鎖のリンクの矢じり部分をクリックすると、[設定] パネルで、連鎖のプロパティや条件の設定と変更を行うことができます。

注意：連鎖は、パラメータではなく、コントロールにのみ適用されます。

未バインドパラメータの追加

未バインドパラメータは、他のページで使用するパラメータ値を送信する場合に役立ちます。新しいパラメータをコントロールにバインドして入力パラメータを作成したり、コントロールをパラメータにバインドすることもできます。

手順

新規未バインドパラメータを追加するには

新規パラメータを追加するには、次の手順を実行します。

1. [パラメータ] タブの任意の位置を右クリックし、[パラメータの追加] を選択します。

パラメータ値の情報を入力します。オプションには、[単一選択]、[複数選択 OR]、[複数選択 AND] があります。

2. 単一値を使用する場合は、[単一選択] を選択します。

注意：新規パラメータを追加する際は、デフォルト設定で、[単一選択] が選択されます。

- a. [表示値] に、単一の変数に割り当てる値を入力します。
- b. [名前] テキストボックスにパラメータ名を入力するか、デフォルトの名前を使用します。
- c. 必要に応じて、[フォーマット] テキストボックスを使用して、「A20」や「D12.1」など、パラメータのフォーマットを定義します。

このテキストボックスをブランクのままにしておくと、値フィールドには文字フォーマットが自動的に適用されます。

3. 複数選択値を使用する場合は、[複数選択 OR] または [複数選択 AND] を選択します。

[値]、[画面]、[選択済み] 列が表示されます。

- a. [新規作成] ボタンをクリックして、静的な値の一覧を入力します。
- b. [値] 列に、選択したパラメータに渡す値を入力します。
- c. [画面] 列に、コントロール内でパラメータ値としてユーザに表示するテキストを入力します。
- d. [選択済み] 列で、デフォルト値として表示する値のチェックをオンにします。複数の値を選択することができます。

この手順を繰り返して、必要な値をすべてリストに追加します。

4. 必要に応じて、値を選択した後、[削除] ボタンをクリックして値を削除したり、上下の矢印を使用して値の順序を変更したりします。
5. パラメータ値を変更するには、[パラメータ] タブでパラメータを右クリックし、[設定] を選択します。

ヒント：[標準] ツールバーの [元に戻す] ボタンと [やり直し] ボタンを使用することもできます。[元に戻す]、[やり直し] では、[設定] パネル全体が、1 つの操作として処理されます。

6. 必要に応じて、コントロールをパラメータにバインドすることで、コントロールにパラメータ値が自動的に挿入されるよう設定することもできます。パラメータ名オブジェクトの中央を選択し、そのパラメータをコントロールオブジェクトの中央にドラッグします。
7. 必要に応じて、新しいパラメータをコントロールにバインドして、入力パラメータを作成します。コントロールオブジェクトの中央を選択し、そのコントロールオブジェクトをパラメータオブジェクトの中央にドラッグします。

手順 プロシジャに未バインドパラメータを関連付けるには

次の手順では、プロシジャに未バインドパラメータを関連付ける方法について説明します。一例として、この手順ではレポートに見出しを追加します。

1. 新しい HTML ページを作成します。
2. [リクエストとデータソース] パネルで [新規作成] ドロップダウン矢印をクリックし、[外部リクエスト]、[InfoAssist を使用した Db2 WebQuery for i プロシジャ] を順に選択します。
3. 任意のプロシジャ (単純なプロシジャまたはパラメータ化されたプロシジャ) を選択します。

注意：この例ではレポートを使用します。

4. キャンバスにフレームを挿入します。
5. [タスクとアニメーション] パネルで [load] タスクを選択します。
6. [リクエスト/アクション] セクションの矢印をクリックして [リクエストの実行] を選択し、使用するプロシジャを選択します。
7. [ターゲットのタイプ] として [フレーム] を選択します。
8. [ターゲットフレーム] ドロップダウンリストから、挿入済みのフレームを選択します。
9. [リクエストとデータソース] パネルで、[現在のページで作成されたパラメータ] を右クリックし、[新規パラメータ] を選択します。

注意：新しい未バインドのパラメータを作成することもできます。

10. [パラメータ] タブに移動し、[Parameter1] パラメータを [未バインドパラメータ] ボックスの外側にドラッグします。
11. [Parameter1] パラメータを選択し、[設定] パネルで [フォーマット] テキストボックスに「A20」と入力します。

12. 下図のように、[適用先] ボックスで、関連付けるプロシジャのチェックをオンにします。

Settings

Parameter Created In Current Page

Name

Format

☒ Single select ☐ Multiselect OR ☐ Multiselect AND

Apply To

☒ report1

Selected Value

13. [表示値] テキストボックスに文字値を入力します。
14. プロシジャを開きます。
15. [レポート] タブの [レポート] グループで、[見出し/脚注] オプションを使用してレポート見出しを追加します。
16. [レポート見出し] テキストボックスに「&Parameter1」と入力します。
17. HTML ページを実行します。

Parameter1 の [設定] パネルで入力した値がレポート見出しに表示されます。

値の静的リスト作成

静的値リストを作成する場合、次のオプションのいずれかを選択することができます。

- ☐ 無視値の追加
- ☐ 全値の追加

- ☐ "選択なし" 値の追加
- ☐ プロシジャ値の使用
- ☐ 外部ファイルの値の使用
- ☐ ReportLibrary の値の使用
- ☐ ReportLibrary の値の使用 (バージョンを含む)

これらのオプションが [値] リストに追加された場合、表示テキストをカスタマイズすることはできますが、値の変更はできなくなります。

未バインド静的パラメータ、入力静的パラメータ (コントロールにバインドされたパラメータ)、静的パラメータにバインドされたコントロールを作成することができます。

参照

設定パネル (入力静的パラメータおよび未バインドコントロール)

[設定] パネルは、[パラメータ] タブで静的パラメータを作成または編集する際に表示されます。

このオプションは、静的値のタイプによっては利用できないことがあります。

[データタイプ] として [静的] を選択した場合、[設定] パネルには、次の項目とオプションが表示されます。

データタイプ

値の取得元として、[静的]、[動的]、[Analytic Document]、[TOC] のいずれかを選択します。

静的 提供された静的なパラメータのリストを使用します。静的な値のリストは、レポートキャンバスで作成することもできます。

静的な値

静的リストに対して指定した値のリストです。

値 選択したパラメータに渡される値です。

画面 コントロール内の値をユーザに提示する際のテキストです。 除[画面] フィールドに値を追加するには、Ctrl キーと Shift キーを押します。

選択済み デフォルト値として表示する値です。 複数選択のコントロールでは、複数の値を選択することができます。

新規作成 新しい値を作成します。

削除 リストから値を削除します。

上へ移動 選択した値をリストの上部に移動します。

下へ移動 選択した値をリストの下部に移動します。

表示値を送信する

このオプションを選択すると、パラメータに実際のデータではなく表示値が送信されます。

プロシジャ名の使用

このオプションを選択すると、コントロールにプロシジャ名が挿入されます。これにより、値を選択したときに、そのプロシジャが実行されます。[値] 列にはプロシジャ名がそのまま表示され、この値を編集することはできません。[画面] 列の値は編集することができます。

参照

設定パネル (未バインドのパラメータ)

[設定] パネルは、[パラメータ] タブで静的パラメータを作成または編集する際に表示されます。

このオプションは、静的値のタイプによっては利用できないことがあります。

単一選択で未バインドパラメータを追加する場合、[設定] パネルには、次の項目とオプションが表示されます。新規パラメータを追加する際は、デフォルト設定で [単一選択] が選択されます。

名前

パラメータに割り当てるデフォルト名です。必要に応じて、パラメータの新しい名前を入力することができます。

フォーマット

[フォーマット] テキストボックスで、「A20」、「D12.2」など、パラメータのフォーマットを定義します。

このテキストボックスの入力は、オプションです。このテキストボックスを空白のままにしておくと、値フィールドには文字フォーマットが自動的に適用されます。

表示値

パラメータに割り当てる選択済みの値を入力します。

静的な値

静的リストに対して指定した値のリストです。

値 選択したパラメータに渡される値です。

画面 コントロール内の値をユーザに提示する際のテキストです。[画面] フィールドに値を追加するには、Ctrl キーと Shift キーを押します。

選択済み デフォルト値として表示する値です。複数選択のコントロールでは、複数の値を選択することができます。

新規作成 新しい値を作成します。

削除 リストから値を削除します。

上へ移動 選択した値をリストの上部に移動します。

下へ移動 選択した値をリストの下部に移動します。

参照 設定パネル (バインド済みパラメータ)

[設定] パネルは、[パラメータ] タブでバインド済みパラメータを選択した際に表示されます。パラメータの [設定] パネルは、読み取り専用です。このパネルには、バインドされたコントロールの値が表示されます。

[設定] パネルには、読み取り専用として次の値が表示されます。

値

静的パラメータデータの値として選択された値を表示します。

画面

静的パラメータの値を表示します。

手順 新しい静的な値を追加するには

新規静的値を手動で追加するには、次の手順を実行します。

未バインド静的パラメータ、入力静的パラメータ (コントロールにバインドされたパラメータ)、静的パラメータにバインドされたコントロールを作成することができます。

1. 新しいパラメータを作成します。
 - a. [パラメータ] タブの任意の位置を右クリックし、[パラメータの追加] を選択します。
 - b. [設定] パネルで、パラメータ値の情報を入力します。オプションには、[単一選択]、[複数選択 OR]、[複数選択 AND] があります。
 - c. 単一値を使用する場合は、[単一選択] を選択します。

新規パラメータを追加する際は、デフォルト設定で [単一選択] が選択されます。

- ☐ [表示値] に、単一の変数に割り当てる値を入力します。
- ☐ [名前] テキストボックスにパラメータ名を入力するか、デフォルトの名前を使用します。
- ☐ 必要に応じて、[フォーマット] テキストボックスを使用して、「A20」や「D12.1」など、パラメータのフォーマットを定義します。

このテキストボックスをブランクのままにしておくと、値フィールドには文字フォーマットが自動的に適用されます。

- d. 複数選択値を使用する場合は、[複数選択 OR] または [複数選択 AND] を選択します。

[値]、[画面]、[選択済み] 列が表示されます。

- ☐ [新規作成] ボタンをクリックして、静的な値の一覧を入力します。
- ☐ [値] 列に、選択したパラメータに渡す値を入力します。
- ☐ [画面] 列に、コントロール内でパラメータ値としてユーザに表示するテキストを入力します。
- ☐ [選択済み] 列で、デフォルト値として表示する値のチェックをオンにします。複数の値を選択することができます。

この手順を繰り返して、必要な値をすべてリストに追加します。

- ☐ 必要に応じて、値を選択した後、[削除] ボタンをクリックして値を削除したり、上下の矢印を使用して値の順序を変更したりします。

未バインドの静的パラメータは、他のページで使用するパラメータ値を送信する場合に役立ちます。新しいパラメータをコントロールにバインドして入力パラメータを作成したり、コントロールをパラメータにバインドすることもできます。

2. 新規パラメータをコントロールにバインドします。

新規パラメータをコントロールにバインドすると、入力パラメータが作成されます。入力パラメータは、コントロールにバインドされた静的パラメータです。パラメータ値はコントロールに入力されます。

- a. [デザイン] タブを選択し、入力コントロールを作成します。たとえば、リストボックスやドロップダウンリストを挿入します。
- b. [パラメータ] タブをクリックします。

選択したコントロールの [設定] パネルが表示されます。

- c. パラメータ名オブジェクトの中央を選択し、そのパラメータをコントロールオブジェクトの中央にドラッグします。
- d. パラメータのバインドを解除するには、矢じり部分を選択して右クリックし、[バインディングの解除] を選択します。

3. パラメータにバインドされたコントロールを作成します。

静的値でコントロールを作成し、コントロールをパラメータにバインドすると、パラメータにコントロール値が入力されます。

- a. HTML キャンバスでコントロールを選択します。

マウスポインタが十字カーソルに変わります。

- b. 十字カーソルをドラッグしてコントロールオブジェクトを作成し、必要なサイズに調整します。
 - c. [パラメータ] タブをクリックします。
選択したコントロールの [設定] パネルが表示されます。
 - d. [データタイプ] として [静的] を選択します。
[静的] がデフォルト設定で選択されています。
 - e. コントロールのパラメータ値を作成します。
 - ☐ [値] テキストボックスに、コントロールに渡す値を入力します。
 - ☐ [画面] テキストボックスに、コントロールに表示する静的パラメータ値を入力します。
 - ☐ [選択済み] 列で、デフォルト値として表示する値のチェックをオンにします。複数の値を選択することができます。
この手順を繰り返して、必要な値をすべてリストに追加します。
 - ☐ 必要に応じて、値を選択した後、[削除] ボタンをクリックして値を削除したり、上下の矢印を使用して値の順序を変更したりします。
 - f. 新しいコントロールをパラメータにバインドします。コントロールオブジェクトの中央を選択し、そのコントロールオブジェクトをパラメータオブジェクトの中央にドラッグします。
 - g. コントロールのバインドを解除するには、矢じり部分を選択して右クリックし、[バインディングの解除] を選択します。
 - h. デフォルトのコントロールタイプを変更するには、コントロールオブジェクトを右クリックし、[コントロールタイプの設定] を選択します。
オプションには、[カレンダー]、[チェックボックス]、[ドロップダウンリスト]、[非表示]、[リストボックス]、[ラジオボタン]、[テキスト領域]、[テキストボックス]、[シングルソースツリーコントロール]、[マルチソースツリーコントロール] があります。
4. 静的値を変更するには、[パラメータ] タブでコントロールまたはパラメータを右クリックし、[設定] を選択します。

手順 無視値を追加するには

[無視値の追加] オプションは、実行時に `_FOC_NULL` をサーバに送信します。通常は、複雑なアプリケーションに使用します。[無視値の追加] オプションは、[複数選択 OR]、[複数選択 AND] パラメータで使用可能です。

1. HTML キャンバスで、コントロールを使用してレポートにパラメータ値を追加します。
パラメータを含むレポートを出力するには、レポートの実行時に値を選択する必要があります。
2. [パラメータ] タブをクリックします。
各コントロールに関連付けられたパラメータは、[パラメータ] タブで制御することができます。コントロールのプロパティは、[プロパティ] タブで制御することができます。
3. [パラメータ] タブで、複数選択コントロールオブジェクトを選択します。
[設定] パネルが開きます。
4. 静的な値のドロップダウンリストから、[無視値の追加] を選択します。
5. レポートのパラメータ値に実際のデータではなく表示値を送信する場合は、[表示値を送信する] を選択します。
6. [設定] パネルを閉じます。
7. HTML ページを実行し、[すべて無視] の値を選択してパラメータ値を無視します。

注意：プロシ ज्याに `_FOC_NULL` を送信すると、プロシ ज्याでその変数を使用する句はすべて無視されます。

手順 全値を追加するには

[全値の追加] オプションは、JavaScript を使用して実行時にパラメータリスト内のすべての値をサーバに送信します。[全値の追加] オプションは、[複数選択 OR]、[複数選択 AND] パラメータで使用可能です。

[全値の追加] オプションは、ダブルリストコントロールでは使用することができません。

1. HTML キャンバスで、コントロールを使用してレポートにパラメータ値を追加します。
2. [パラメータ] タブをクリックします。
3. [パラメータ] タブで、複数選択コントロールオブジェクトを選択します。
[設定] パネルが開きます。
4. 静的な値のドロップダウンリストから、[全値の追加] を選択します。

5. レポートのパラメータ値に実際のデータではなく表示値を送信する場合は、[表示値を送信する] を選択します。
6. HTML ページを実行し、[すべて選択] パラメータ値をクリックして、すべてのパラメータ値を表示します。

手順 プロシジャ値を使用するには

[プロシジャ値の使用] オプションは、デフォルト設定で選択されています。この機能を使用して、プロシジャで事前に定義済みのフィールド名の静的リストに値が入力されます。[プロシジャ値の使用] オプションは、[複数選択 OR] および [複数選択 AND] の静的パラメータを使用する場合、およびレポートキャンバスから静的フィールド値を追加する場合に使用できます。

1. HTML キャンバスで、コントロールを使用してレポートにパラメータ値を追加します。
2. [パラメータ] タブをクリックします。
3. [パラメータ] タブで、複数選択コントロールオブジェクトを選択します。
[設定] パネルが開きます。
4. 静的な値のドロップダウンリストから、[プロシジャ値の使用] を選択します。
プロシジャで定義済みのフィールド名が [設定] パネルに表示されます。
5. レポートのパラメータ値に実際のデータではなく表示値を送信する場合は、[表示値を送信する] を選択します。
6. HTML ページを実行し、プロシジャからのパラメータ値を選択します。

手順 外部ファイルの値をインポートするには

外部ファイルから値をインポートするオプションを使用すると、ローカル外部ファイルからパラメータの値を提供することができます。外部ファイルから値をインポートするオプションは、[複数選択 OR]、[複数選択 AND] 静的パラメータで利用することができます。

1. HTML キャンバスで、コントロールを使用してレポートにパラメータ値を追加します。
2. [パラメータ] タブをクリックします。
3. [パラメータ] タブで、複数選択コントロールオブジェクトを選択します。
[設定] パネルが開きます。

4. [データタイプ] を [静的] に設定し、[新規作成] ドロップダウンリストから、[外部ファイルの値の使用] を選択します。
[データソースの選択] ダイアログボックスが表示されます。
5. ローカルマシンからテキストファイルを選択し、[開く] をクリックします。
外部ファイルとして、1 行に 1 つの値が記述されたファイル、またはカンマ区切りで 1 行に 2 つの値が記述されたファイルを使用することができます。
たとえば、「BOS」がデータ値で「Boston」を表示値とすることができます。
インポートした値は、[パラメータ] タブの [静的な値] グループボックスにロードされます。
テキストファイルの行の値が 1 つの場合は、その値が戻り値と表示値の両方に挿入されます。
6. HTML ページを実行して、選択したパラメータに対してインポートした値が表示されることを確認します。

値の動的リスト作成

プロシジャのパラメータが、選択されたコントロールに関連付けられている場合、動的な値はデフォルト設定で選択されます。動的リストには、リクエストの実行時に特定のデータソースから値が取得されます。

参照

設定パネル (動的値)

[設定] パネルは、[パラメータ] タブで動的パラメータを作成または編集する際に表示されます。

[データタイプ] として [動的] を選択した場合、[設定] パネルには、次の項目とオプションが表示されます。

データタイプ

値の取得元として、[静的]、[動的]、[Analytic Document]、[TOC] のいずれかを選択します。

[動的] を選択した場合、リクエストの実行時に、選択したデータソースから取得された値のリストが使用されます。マスターファイルに ACCEPT 句を使用してプロシジャ内に変数パラメータを作成する場合、これがデフォルト値です。

デフォルト

値の取得元となるデータソースです。[データタイプ] として [動的] を選択した場合は、これがデフォルト値です。

外部プロシジャ (リクエストパネル)

呼び出される既存プロシジャです。

[パラメータ] タブの [設定] パネルで、外部プロシジャを直接変更することもできます。リクエストを変更する場合、外部プロシジャを保存して元のリクエストを上書きすることができます。

データソース

値の取得元となるデータソースです。

値フィールド

値の取得元となるデータソースのフィールドです。

表示フィールド

コントロール内でパラメータ値としてユーザに表示するテキストです。

[値フィールド] と [表示フィールド] の間には関係が必要です。[表示フィールド] は、[値フィールド] の記述的なテキストです。

ソート

[ソート] をクリックすると、動的リストコントロールの値表示ソート順を設定することができます。このオプションは、各コントロールをそれ以外とは別個にソートする場合に役立ちます。

デフォルト設定で、リクエストにより、動的表示値がリクエストの縦方向 (BY) のソートフィールドから取得されます。結果は値フィールドに基づいて値表示されます。

ソート項目

[ソート] を有効した場合、[設定] パネルの [値フィールド] または [表示フィールド] で選択したフィールドを基準に表示値をソートすることができます。デフォルト設定では、[値] が選択されています。

ソート順

[ソート] が有効のときは、[昇順]、[降順] のソート順を選択することができます。デフォルト設定では、[昇順] が選択されています。

プロシジャ/HTML ファイルの値を使用

コントロールの値がプロシジャまたは HTML ページであることを示します。[タスクとアニメーション] パネルの [プロシジャ/HTML 名の使用] リクエストオプションを使用してタスクを作成し、コントロールで選択したファイルを実行することができます。

重複する値を確認

レポートの値の動的リストを作成する場合、入力コントロールから、重複する値を除外することができます。

"すべて" オプションを追加する

データソースのすべての値を選択するためのオプションをコントロールに追加します。右側に表示されたテキストボックスの「すべて」という語句を、その他のテキストに変更することもできます。

注意：動的リストに値が 1 つしか含まれない場合、"すべて" オプションはコントロールに表示されません。

"選択なし" オプションを追加する

最初にページをロードする際に、連鎖にすべてのコントロールを入力する代わりに、コントロールを 1 つずつ入力して、パフォーマンスを最適化します。["選択なし" オプションの追加] を選択すると、コントロールの入力を、必要に応じて行うことができます。

実行データをキャッシュ

HTML ページに動的パラメータを追加する場合は、プロシジャ経由で入力コントロールによりデータが取得されます。このオプションを選択すると、選択入力コントロールの実行時データをキャッシュすることができます。この設定のデフォルト値はオフです。

この設定は、[Developer Workbench オプション] ダイアログボックスの [HTML ページ] タブで設定された [デフォルトキャッシュオプション] を上書きします

戻り値を制限する

データソースから取得するフィールド値の個数を指定します。フィールドの個数は、右側のメニューで選択します。

前回変更されたフィルタのみを使用

このオプションを選択すると、2 つのコントロールから 3 つ目のコントロールに連鎖が設定された場合に、3 つ目のコントロールに入力されるデータとして、最後に選択された値のみが使用されます。

表示値を送信する

このオプションを選択すると、パラメータに実際のデータではなく表示値が送信されます。

表示値

プロシジャの実行時にデフォルト値として表示する値を入力します。

参照**設定パネル (バインド済みパラメータ)**

[設定] パネルは、[パラメータ] タブでバインド済みパラメータを選択した際に表示されます。パラメータの [設定] パネルは、読み取り専用です。このパネルには、バインドされたコントロールの値が表示されます。

[設定] パネルには、読み取り専用として次の値が表示されます。

データソース

パラメータのデータソースとして選択されたマスターファイルが表示されます。

値フィールド

動的パラメータデータの値フィールドが表示されます。

表示フィールド

動的パラメータの表示フィールドが表示されます。

複数選択

複数選択 OR または AND の動的パラメータが存在する場合、OR または AND が表示されます。

表示値

変数に割り当て済みの表示値が存在する場合、その値が表示されます。

手順

動的値を作成するには

値の動的リストを作成するには、次の手順を実行します。

パラメータにバインドされた動的コントロールを作成することができます。動的値でコントロールを作成し、コントロールをパラメータにバインドすると、パラメータにコントロール値が入力されます。

1. HTML キャンバスの [デザイン] 表示で、[コントロール] タブの [コントロール] グループからコントロールを選択します。たとえば、リストボックスやドロップダウンリストを挿入します。

マウスポインタが十字カーソルに変わります。

2. 十字カーソルをドラッグしてコントロールオブジェクトを作成し、必要なサイズに調整します。
3. [パラメータ] タブをクリックします。

[設定] パネルが開きます。

4. [データタイプ] として [動的] を選択します。

動的値のオプションが表示されます。

5. コントロールの動的値を作成します。
 - a. デフォルトプロシジャを使用する場合は、次の手順を実行して動的値を指定します。

❑ [データソース] ドロップダウンリスト横の [...] (参照) ボタンをクリックします。

[データソースの選択] ダイアログボックスが表示されます。

- ❑ マスターファイル名を選択し、[OK] をクリックします。

- ❑ [値フィールド] 横の [...] (参照) ボタンをクリックします。

選択したマスターファイルのフィールド名でオブジェクトインスペクタが開きます。

- ❑ フィールド名をダブルクリックして [値フィールド] に追加します。

ヒント：オブジェクトインスペクタアイコンを使用してフィールドを選択し、オブジェクトインスペクタを閉じます。緑のアイコンは「OK」、赤のアイコンは「キャンセル」を示します。値をダブルクリックすると、ボタンを使用しなくても、その値が選択され、ダイアログボックスが閉じます。Esc キーを押すと、ボタンを使用しなくてもダイアログボックスの選択内容がキャンセルされます。

- ❑ 必要に応じて、[表示フィールド] の [...] (参照) ボタンをクリックして、[表示フィールド] に異なるフィールド名を選択することができます。オブジェクトインスペクタアイコンを使用してフィールドを選択し、オブジェクトインスペクタを閉じることができます。

- b. 外部プロシジャを使用する場合は、次の手順を実行し、動的値を指定します。

- ❑ [外部プロシジャ (リクエストパネル)] を選択します。

- ❑ [リクエスト] ドロップダウンリストからプロシジャを選択します。

プロシジャのパラメータ名が、自動的に [値フィールド] と [表示フィールド] に追加されます。

- ❑ [値フィールド] および [表示フィールド] の [...] (参照) ボタンをクリックして、別のフィールド名を選択することができます。

ヒント：オブジェクトインスペクタアイコンを使用してフィールドを選択し、オブジェクトインスペクタを閉じます。緑のアイコンは「OK」、赤のアイコンは「キャンセル」を示します。値をダブルクリックすると、ボタンを使用しなくても、その値が選択され、ダイアログボックスが閉じます。Esc キーを押すと、ボタンを使用しなくてもダイアログボックスの選択内容がキャンセルされます。

外部プロシジャのパラメータ名のみが選択可能です。

6. 必要に応じて、["すべて" オプションを追加する] を選択して、すべてのデータソース値をコントロールに使用する機能を追加することができます。
7. 必要に応じて、["選択なし" オプションの追加] を選択し、最初にページをロードする際に、連鎖にすべてのコントロールを入力する代わりに、コントロールを 1 つずつ入力して、パフォーマンスを最適化します。

8. 必要に応じて、[実行データをキャッシュ] を選択し、選択した入力コントロールの実行時データをキャッシュすることができます。
9. 必要に応じて、[戻り値を制限する] のチェックをオンにして、右側に表示されたボックスにデータソースから取得するフィールド値の個数を入力します。
10. 必要に応じて、[ソート] のチェックをオンにして動的リストコントロールに値を表示するソート順のオプションを有効にし、それらを選択することができます。
11. 必要に応じて、[重複する値を確認] を選択し、実行時に入力コントロールから重複値エントリをすべて削除します。
12. 新しいコントロールをパラメータにバインドします。コントロールオブジェクトの中央を選択し、そのコントロールオブジェクトをパラメータオブジェクトの中央にドラッグします。
13. コントロールのバインドを解除するには、矢じり部分を選択して右クリックし、[バインディングの解除] を選択します。
14. デフォルトのコントロールタイプを変更するには、コントロールオブジェクトを右クリックし、[コントロールタイプの設定] を選択します。

オプションには、[カレンダー]、[チェックボックス]、[ドロップダウンリスト]、[非表示]、[リストボックス]、[ラジオボタン]、[テキスト領域]、[テキストボックス]、[シングルソースツリーコントロール]、[マルチソースツリーコントロール] があります。
15. 動的値を変更するには、コントロールを右クリックして [設定] を選択し、変更を加えます。

手順

フィルタを追加して動的パラメータを作成するには

レイアウトのレポートコンポーネントまたはグラフコンポーネントにフィルタを追加して、新しい動的パラメータを作成することができます。

1. [デザイン] 表示でレポートまたはグラフに動的パラメータを作成するには、レポートオブジェクトまたはグラフオブジェクトを右クリックし、コンテキストメニューから [フィルタの追加] を選択します。

[フィルタのオプション] ダイアログボックスが表示されます。

2. パラメータとして使用するフィールド、[複数選択] のオプションをそれぞれ選択し、[OK] をクリックします。

[新規パラメータ] ダイアログボックスが表示されます。

このダイアログボックスでパラメータのコントロールタイプを選択することも、[パラメータ] タブの [設定] パネルを使用して後からコントロールタイプを調整することもできます。

[新規パラメータ] ダイアログボックスが表示されない場合は、[HTML ページ] タブで [[新規パラメータ] ダイアログボックスを表示] のチェックがオンになっていることを確認してください。[HTML ページ] タブにアクセスするには、[アプリケーション] メニューから [オプション] を選択して [Developer Workbench オプション] ダイアログボックスを開きます。[Developer Workbench オプション] ダイアログボックスで、[HTML ページ] タブをクリックします。

3. [OK] をクリックし、[新規パラメータ] ダイアログボックスを閉じます。
4. レポートオブジェクトの上部にフィルタが表示されます。

レポートに追加するパラメータごとに、この手順を繰り返します。

手順

動的値リストをソートするには

このオプションは、各コントロールをそれ以外とは別個にソートする場合に役立ちます。

注意：ソートオプションが選択されていない場合、リクエストはそのリクエスト内の BY ソートフィールドを取得し、結果には、値フィールドに基づく表示値が表示されます。デフォルト設定では、ソートオプションは選択されていません。

1. [パラメータ] タブで、動的コントロールを選択します。
[設定] パネルが開きます。
2. [ソート] のチェックをオンにして、ソートオプションを有効にします。
このコントロールの [ソート項目] および [ソート順] を選択することができます。
3. [ソート項目] のオプションを選択します。
 - ☐ [値] を選択すると、フィールドは [値] のフィールド名でソートされます。[ソート項目] では、これがデフォルト設定で選択されています。
 - ☐ [表示] を選択すると、フィールドは [表示] のフィールド名でソートされます。
4. [ソート順] のオプションを選択します。
 - ☐ [昇順] を選択すると、値は小さい順にソートされます。[ソート順] では、これがデフォルト設定で選択されています。
 - ☐ [降順] を選択すると、値は大きい順にソートされます。
5. HTML ページを実行し、ソート結果を確認します。

手順 重複する値を確認するには

レポートの値の動的リストを作成する場合、入力コントロールから、重複する値を除外することができます。これは、構造化データソースを使用しない独自のプロシジャを使用する場合に役立ちます。

[重複する値を確認] オプションは、デフォルト設定では無効になっています。

1. HTML キャンバスで、値の動的リストを含む入力コントロールを作成します。

2. 入力コントロールを選択し、[パラメータ] タブをクリックします。

選択した入力コントロールの [設定] パネルが開きます。

3. [重複する値を確認] のチェックをオンにします。

[重複する値を確認] オプションは、入力コントロールで値の動的リストを作成する場合にのみ有効になります。

4. HTML ページを保存して実行します。

入力コントロールにより、重複する値のエントリが除外されます。

フィールドへの動的値の自動挿入

動的パラメータの名前がデータソース内の対応するフィールド名と一致している場合、HTML キャンバスは、そのパラメータのフィールド名を自動的に挿入します。

デフォルト設定では、TABLE FILE コマンドまたは GRAPH FILE コマンドで指定した最初のデータソースに基づいてデータソースが挿入されます。データタイプとして [動的] を選択した場合、[パラメータ] タブの [設定] パネルの [値フィールド] および [表示フィールド] には、データソースフィールドが挿入されます。これにより、パラメータ名がフィールド名に一致している場合、すぐに実行可能なレイアウトレポートが生成されます。

例 フィールドへの動的パラメータ値の自動挿入

HTML キャンバスのプッシュボタンコントロールから次のレポートリクエストが呼び出された場合、[パラメータ] タブの [PRODUCT] パラメータの [設定] パネルには、動的に取得された PRODUCT フィールドの値が動的に挿入されます。

```
TABLE FILE GGSales
SUM UNITS
BY PRODUCT WHERE ( PRODUCT EQ '&PRODUCT.Product:.' );
END
```

静的または動的パラメータ値リストの作成

静的または動的な値リストを作成する場合、すべての値を値リストに追加し、その表示値をパラメータに送信することができます。

開発者は、["すべて" オプションを追加する] 機能を使用して、すべての値を自動的に値リストに追加することができます。この機能を使用すると、次のことが実行されます。

- 動的パラメータの場合、この機能は FOC_NONE の値を Reporting Server に送信して、パラメータをすべて無視するようにサーバに指示します。パラメータを無視すると、データソースのすべての値が返されます。
- 静的パラメータの場合、この機能は通常、JavaScript を使用してリストに表示されたすべての値を返します。これにより、ユーザがリスト内のすべての値を手動で選択する必要がなくなります。この機能を静的パラメータに使用する場合は、次のオプションを選択することができます。
 - 無視値の追加 - このオプションは、実行時に FOC_NONE をサーバに送信し、パラメータをすべて無視するようにサーバに指示します。通常、複雑なアプリケーションに使用します。
 - 全値の追加 - このオプションは、実行時に JavaScript を使用して、コントロールリスト内のすべての値をサーバに送信します。[全値の追加] オプションは、[複数選択 OR] 変数タイプを選択した場合にのみ使用します。

[データタイプ] として [動的] または [Analytic Document] を使用する場合は、プロシジャの実行時にデフォルト値として表示する値を入力することができます。

注意: [パラメータ] タブに新しい未バインドパラメータを追加する際に選択値を入力することもできます。

手順 静的および動的コントロールの表示値を送信するには

HTML キャンバスでは、パラメータに実際のデータを送信するのではなく、表示値を送信するように設定することができます。表示値は、レポート出力の見出しと脚注にも使用可能です。

1. HTML キャンバスで、パラメータを含むレポートをインポートまたは作成します。

パラメータを含むレポートをインポートする際に、[新規パラメータ] ダイアログボックスが表示され、コントロールタイプを作成するよう要求されます。

HTML キャンバスにレポートおよびコントロールが追加されます。

2. パラメータ選択時の表示値を送信するには、[デザイン] 表示でコントロールオブジェクト (例、listboxn) を選択し、[パラメータ] タブをクリックします。

3. [設定] パネルに移動します。

注意：[設定] パネルで使用可能なオプションは、作成中の値のタイプ (静的または動的) に応じて異なります。

4. 値の静的リストの場合、[設定] パネルには、[値]、[画面]、[選択済み] 列が表示されます。

- ❑ [値] テキストボックスに、コントロールに渡す値を入力します。
- ❑ [画面] テキストボックスに、コントロールに表示する静的パラメータ値を入力します。
- ❑ [選択済み] 列で、デフォルト値として表示する値のチェックをオンにします。複数の値を選択することができます。

この手順を繰り返して、必要な値をすべてリストに追加します。

- ❑ [表示値を送信する] を選択します。

ヒント：[画面] 列の値は、レポートキャンバスの [変数エディタ] ダイアログボックスで更新することもできます。

- ❑ 必要に応じて、値を選択した後、[削除] ボタンをクリックして値を削除したり、上下の矢印を使用して値の順序を変更したりします。
 - ❑ [デザイン] タブをクリックして、HTML キャンバスのコントロールオブジェクトに表示値を表示します。
5. 値の動的リストの場合、[設定] パネルには、[値フィールド] と [表示フィールド] テキストボックスが表示されます。
- ❑ [リクエストとデータソース] パネルにリクエストを追加します。
 - ❑ [外部プロシジャ (リクエストパネル)] を選択します。
 - ❑ [リクエスト] ドロップダウンリストからプロシジャを選択します。
 - ❑ [値フィールド] の [...] (参照) ボタンをクリックします。

選択したマスターファイルのフィールド名でオブジェクトインスペクタが開きます。
 - ❑ フィールド名をダブルクリックして [値フィールド] に追加します。

選択したフィールドは自動的に [表示フィールド] に追加されます。
 - ❑ 必要に応じて、[表示フィールド] の [...] (参照) ボタンをクリックして、[表示フィールド] に異なるフィールド名を選択することができます。
 - ❑ 必要に応じて、["すべて" オプションを追加する] を選択して、パラメータ値リストにすべての値を自動的に追加することができます。

- ❑ 必要に応じて、["選択なし" オプションの追加] を選択し、最初にページをロードする際に、連鎖にすべてのコントロールを入力する代わりに、コントロールを 1 つずつ入力して、パフォーマンスを最適化します。

- ❑ [表示値を送信する] を選択します。

[表示値を送信する] を選択した場合、&Variable は、実際の値ではなく、表示値を取得します。

6. レポート見出しまたはレポート脚注に「&Variable_TEXT」を追加します。

注意：レポートプロシジャに &Variable_TEXT が使用されている場合、[表示値を送信する] が選択されているかどうかに関係なく、このテキスト変数が常に送信されます。

見出しとして「Display Value: &STCD_TEXT」と入力します。ここで、店舗コード STCD は変数名です。

ヒント：この操作は、データソースから実際の値を追加する場合とは異なります。その場合は、変数名をクリックするとレポート見出しに <STCD が追加されます。

7. レポートを保存して閉じた後、HTML キャンバスに戻ります。

テキスト変数 (&Variable_TEXT) を作成する場合、この変数のコントロールタイプは不要のため、HTML キャンバスに戻る際に、コントロールタイプの設定は要求されません。

8. HTML ページを実行します。

9. パラメータを選択し、レポートを実行します。

レポート見出しに表示値が表示されます。

注意：レポートプロシジャに &Variable_TEXT が使用されている場合、[表示値を送信する] が選択されているかどうかに関係なく、このテキスト変数が常に送信されます。

手順 プロシジャ名を値として使用するには

[プロシジャ/HTML ファイルの値を使用] オプションを使用すると、コントロールにプロシジャ名または HTML ファイル名が挿入されます。プロシジャ名をクリックすると、そのプロシジャが実行されます。

1. HTML ページを作成し、リストボックス、プッシュボタン、レポートを追加します。

注意：この手順ではリストボックスを使用していますが、[プロシジャ/HTML ファイルの値を使用] オプションは、ダブルリスト、ドロップダウンリスト、ラジオボタン、チェックボックスのコントロールでも使用することができます。

2. リストボックスを選択して、[設定] パネルを開きます。

注意：[設定] パネルが開かない場合は、[ユーティリティ] タブの [表示] グループで [設定] のチェックをオンにします。

3. [データタイプ] として [静的] を選択します。
4. [設定] パネルの下部で、[プロシジャ/HTML ファイルの値を使用] のチェックをオンにします。
5. [新規作成] ドロップダウンリストから [プロシジャ/HTML ファイルの値を使用] を選択し、[ファイルを開く] ダイアログボックスを開きます。ディレクトリからプロシジャを選択します。

注意：[ファイルを開く] ダイアログボックスで複数のプロシジャを選択することで、[設定] パネルに複数のプロシジャ名を追加することができます。

6. [設定] パネルにプロシジャを追加した後、表示された値をダブルクリックして (選択されていない場合)、プロシジャ値の表示名を編集します。
7. [タスクとアニメーション] パネルを開きます。
[ハイパーリンクのプロパティ] ダイアログボックスが開きます。
8. 作成済みレポートフレーム内のコントロールから選択されたプロシジャを開くためのハイパーリンクを作成します。

- a. [リスト] エリアで [新規作成] ボタンをクリックし、[task1] を作成します。[トリガ ID] リストで [button1] オブジェクトを選択します。[リクエスト/アクション] リストから、[プロシジャ/HTML 名の使用] を選択します。

このオプションは、[設定] パネルの [プロシジャ/HTML ファイルの値を使用] オプションに同期しています。このオプションを使用すると、ハイパーリンクには単一値ではなく、プロシジャ全体が指定されます。このオプションは、HTML ページのコントロールで [プロシジャ/HTML ファイルの値を使用] オプションが使用されている場合にのみ使用可能になります。

- b. [listbox1] を選択します。

使用するコントロールが異なれば、選択するソースも異なります。たとえば、combox1、customselect1、radio1、checkbox1 になります。

- c. [ターゲットのタイプ] ドロップダウンリストから [フレーム] を選択します。

プロシジャを新しいウィンドウで開く場合は、ターゲットとして [新規ウィンドウ] を選択することもできます。

- d. [ターゲットフレーム] ドロップダウンリストから [report1] を選択します。

9. ページを実行します。

10. リストボックスからプロシジャを選択し、ボタンをクリックします。
レポートが実行されます。

手順

表示値をデフォルト値として使用するには

[データタイプ] として [動的] または [Analytic Document] を使用する場合は、プロシジャの実行時にデフォルト値として表示する値を入力することができます。

動的のプロンプト値を含むプロシジャ (.fex) をインポートすると、データソースから取得された値が入力ボックスに自動的に挿入されます。表示値がデータソースに使用される場合は、デフォルト設定でその値が選択されます。表示値がデータソースに使用されない場合は、入力した値は無視され、データソースから取得された最初の値が選択されます。

1. パラメータを含むレポートを作成またはインポートします。
HTML キャンバスにレポートおよびコントロールが追加されます。
2. 選択した値をデフォルト値として使用するには、[デザイン] 表示でコントロールオブジェクト (例、listboxn) を選択し、[パラメータ] 表示タブをクリックします。

[設定] パネルが開きます。

注意: [設定] パネルで使用可能なオプションは、作成中の値のタイプ (静的または動的) に応じて異なります。

3. 値の動的リストの場合、[設定] パネルには、[値フィールド] と [表示フィールド] テキストボックスが表示されます。
 - a. デフォルトプロシジャを使用する場合は、次の手順を実行し、動的値を指定します。

- ☐ [デフォルト] を選択します。
- ☐ [データソース] テキストボックス横の [...] (参照) ボタンをクリックします。

[データソースの選択] ダイアログボックスが表示されます。

- ☐ マスターファイル名を選択し、[OK] をクリックします。
- ☐ [値フィールド] 横の [...] (参照) ボタンをクリックします。

選択したマスターファイルのフィールド名でオブジェクトインスペクタが開きます。

- ☐ フィールド名をダブルクリックして [値フィールド] に追加します。

選択したフィールドは自動的に [表示フィールド] に追加されます。

- ☐ 必要に応じて、[表示フィールド] の [...] (参照) ボタンをクリックして、[表示フィールド] に異なるフィールド名を選択することができます。

- ❑ 必要に応じて、["すべて" オプションを追加する]を選択して、パラメータ値リストにすべての値を自動的に追加することができます。
- ❑ 必要に応じて、["選択なし" オプションの追加]を選択し、最初にページをロードする際に、連鎖にすべてのコントロールを入力する代わりに、コントロールを1つずつ入力して、パフォーマンスを最適化します。
- ❑ [表示値] テキストボックスに、データソースに格納されているパラメータ値を正確に入力します。

パラメータ値には、大文字と小文字の区別があります。

- ❑ 必要に応じて、複数の値を入力することができます。その場合は、区切り文字としてセミコロン (;) を使用します。たとえば、「CT;GA」のように入力します。

[表示値] に複数の値を入力するには、セミコロン (;) またはカンマ (,) を使用することができます。また、カンマやセミコロンが埋め込まれたデータ値を使用することもできます。これらの埋め込み文字を使用する場合は、テキストボックス内のすべての値を二重引用符 (") で囲む必要があります。以下はその例です。

ENGLAND;ITALY

ENGLAND,ITALY

“ENGLAND”,”IT,ALY”

上記の最後の例では、一方の値にのみ埋め込みカンマ (,) が使用されていますが、この場合でも両方の値を二重引用符 (") で囲む必要があります。

- b. 外部プロシジャを使用する場合は、次の手順を実行し、動的値を指定します。

- ❑ [外部プロシジャ (リクエストパネル)] を選択します。
- ❑ [リクエスト] ドロップダウンリストからプロシジャを選択します。

プロシジャのパラメータ名が、自動的に [値フィールド] と [表示フィールド] に追加され、外部プロシジャのソースコードが表示されます。

- ❑ [値フィールド] と [表示フィールド] の [...] (参照) ボタンをクリックしてフィールド名を選択するか、フィールド名を直接入力します。

注意：外部プロシジャのパラメータ名のみが選択可能です。

- ❑ 必要に応じて、["すべて" オプションを追加する]を選択して、パラメータ値リストにすべての値を自動的に追加することができます。
- ❑ [表示値] テキストボックスに、データソースに格納されているパラメータ値を正確に入力します。

パラメータ値には、大文字と小文字の区別があります。

- ❑ 必要に応じて、複数の値を入力することができます。その場合は、区切り文字としてセミコロン (;) を使用します。たとえば、「CT;GA」のように入力します。

[表示値] に複数の値を入力するには、セミコロン (;) またはカンマ (,) を使用することができます。また、カンマやセミコロンが埋め込まれたデータ値を使用することもできます。これらの埋め込み文字を使用する場合は、テキストボックス内のすべての値を二重引用符 (") で囲む必要があります。以下はその例です。

ENGLAND;ITALY

ENGLAND,ITALY

"ENGLAND","IT,ALY"

上記の最後の例では、一方の値にのみ埋め込みカンマ (,) が使用されていますが、この場合でも両方の値を二重引用符 (") で囲む必要があります。

4. [Analytic Document] を選択した場合は、[設定] パネルに [利用可能な Analytic Document]、[メニューオプションタイプ]、[共通フィールド] ボックスが表示されます。

- ❑ [利用可能な Analytic Document] リストから 1 つまたは複数の Analytic Document を選択します。選択したレポートは、レイアウト内で Analytic Document コントロールとバインドされます。

Analytic Document を選択した場合、[設定] パネルの [Analytic Document のリフレッシュ] がデフォルト設定で有効になります。

- ❑ Analytic Document フォームコントロールの各メニューオプションタイプを選択して、フィールドをソート、フィルタ、表示、選択したり、バインドされた Analytic Document およびその Analytic Document に同期されたレポートおよびグラフオブジェクトの外観スタイルを変更したりします。
- ❑ 必要に応じて、["すべて" オプションを追加する] を選択して、パラメータ値リストにすべての値を自動的に追加することができます。
- ❑ [表示値] テキストボックスに、データソースに格納されているパラメータ値を正確に入力します。

パラメータ値には、大文字と小文字の区別があります。

- ❑ 必要に応じて、複数の値を入力することができます。その場合は、区切り文字としてセミコロンを使用します。たとえば、「CT;GA」のように入力します。

[表示値] に複数の値を入力するには、セミコロン (;) またはカンマ (,) を使用することができます。また、カンマやセミコロンが埋め込まれたデータ値を使用することもできます。これらの埋め込み文字を使用する場合は、テキストボックス内のすべての値を二重引用符 (") で囲む必要があります。以下はその例です。

ENGLAND;ITALY

ENGLAND,ITALY

"ENGLAND","IT,ALY"

上記の最後の例では、一方の値にのみ埋め込みカンマ (,) が使用されていますが、この場合でも両方の値を二重引用符 (") で囲む必要があります。

5. 単一選択の未バインドパラメータの場合は、[設定] パネルに [選択値] 入力フィールドが表示されます。

- ☐ [表示値] テキストボックスに、データソースに格納されているパラメータ値を正確に入力します。

パラメータ値には、大文字と小文字の区別があります。

- ☐ 必要に応じて、複数の値を入力することができます。その場合は、区切り文字としてセミコロンを使用します。たとえば、「CT;GA」のように入力します。

[表示値] に複数の値を入力するには、セミコロン (;) またはカンマ (,) を使用することができます。また、カンマやセミコロンが埋め込まれたデータ値を使用することもできます。これらの埋め込み文字を使用する場合は、テキストボックス内のすべての値を二重引用符 (") で囲む必要があります。以下はその例です。

ENGLAND;ITALY

ENGLAND,ITALY

"ENGLAND","IT,ALY"

上記の最後の例では、一方の値にのみ埋め込みカンマ (,) が使用されていますが、この場合でも両方の値を二重引用符 (") で囲む必要があります。

単一選択パラメータであっても、複数值が指定、選択されます。

6. [実行] ボタンをクリックし、選択した値のパラメータを使用してレポートを実行します。
レポートが表示されます。

選択値がデータソースから取得可能な場合は、その値がパラメータリストに自動的に選択 (ハイライト) された状態で表示されます。

表示値がレポート出力に使用されない場合は、入力した値は無視され、データソースから取得された最初の値が表示されます。

オブジェクト属性の表示

[プロパティ] パネルには、キャンバス上で選択されたオブジェクトの属性が表示されます。たとえば、ハイパーリンクオブジェクトを選択すると、[プロパティ] パネルには、ハイパーリンクに関連するさまざまな属性 (例、[ドラッグ有効]) が表示されます。オブジェクトが選択されていない場合、HTML ページ全体の一般属性が表示されます。[プロパティ] パネルは、HTML キャンバスを使用している際に使用できます。属性は、カテゴリ別または名前順にソートすることができます。

[イベント] ボタンをクリックして、各イベントのプロパティを選択することもできます。[イベント] ボタンをクリックすると、オブジェクトへの関連付けが可能な JavaScript イベントのリストが表示されます。使用可能なイベントは、選択したオブジェクトのタイプにより異なります。たとえば、レポートオブジェクトに使用可能なイベントは、ボタンオブジェクトより多くあります。オブジェクトが選択されていない場合は、HTML ページのイベントが表示されます。各イベントの [...] (参照) ボタンをクリックすると、選択されているオブジェクトに対して、そのイベントの関数ブロックが作成されます。作成された関数は、[埋め込み JavaScript] および [埋め込み CSS] タブに表示されます。このタブで、選択したイベントが発生したときに実行する JavaScript コードを入力することができます。

[プロパティ] パネルのカスタマイズについての詳細は、186 ページの「[HTML オブジェクトのプロパティパネルのカスタマイズ - プロパティツールバーの使用](#)」を参照してください。

色の選択

[背景色]、[境界色]、[色] などの色に関係するプロパティの場合、[色の選択] ダイアログボックスを使用する代わりに、各プロパティに色の 16 進数値を直接入力することもできます。[色の選択] ダイアログボックスで色を選択した場合、選択した色の 16 進数値が、対応する色プロパティに自動的に入力されます。[色の選択] ダイアログボックスについての詳細は、192 ページの「[色の選択ダイアログボックス](#)」を参照してください。

サイズ

選択したオブジェクトのサイズプロパティは、[左]、[上]、[幅]、[高さ] テキストボックスを使用して設定することができます。デフォルト設定はピクセル単位で、これらの設定は [LOCATION: 左、上、幅、高さ] プロパティにも表示されます。[左]、[上]、[幅]、[高さ] テキストボックスでは [<設定しない>]、[自動]、[継承] のいずれかを選択することもできますが、[LOCATION] テキストボックスには値がピクセル単位でのみ表示されます。

HTML キャンバス上のオブジェクトの位置には、[位置] テキストボックスの値も影響します。デフォルト値は [絶対] ですが、次の値のいずれかに変更することができます。

- ❑ **<設定しない>** 要素は、最初に配置された ([静的] 以外) 上位要素を基準に相対的に配置されます。
- ❑ **継承** このプロパティは親要素から継承されます。 をクリックします。
- ❑ **絶対** 要素は、最初に配置された ([静的] 以外) 上位要素を基準に相対的に配置されます。これがデフォルト値です。
- ❑ **固定** 要素は、ブラウザウィンドウを基準に相対的に配置されます。
- ❑ **相対** 要素は、通常の位置を基準に相対的に配置されるため、[左] プロパティを [20px] に設定すると、要素の左端に 20 ピクセルが追加されます。
- ❑ **静的** 複数の要素は、ドキュメントフローに表示される順序で描画されます。

コントロール

HTML キャンバスの [パラメータ] タブには、コントロールの [名前] または [ユニーク ID] 属性が自動的に表示されます。

- ❑ [プロパティ] パネルでコントロールの [名前] 属性を変更すると、新しい名前が [パラメータ] タブに自動的に反映されます。
- ❑ [名前] 属性が存在しないコントロールもあります。これらのコントロールでは、[プロパティ] パネルに [ユニーク ID] 属性が自動的に表示されます。

HTML オブジェクトのプロパティパネルのカスタマイズ - プロパティツールバーの使用

[プロパティ] パネルのツールバーには、[プロパティ] パネルの表示をカスタマイズするためのボタンおよびメニューがあります。

カテゴリ別

属性をカテゴリ別に分類します。

名前順

カテゴリに関係なく、属性を名前順にソートします。

プロパティ

各プロパティの名前と値を表示します。この設定がデフォルト値です。[プロパティ] と [イベント] を同時に選択することはできません。

イベント

キャンバス上で選択したオブジェクトへの関連付けが可能な JavaScript イベントを表示します。[プロパティ] と [イベント] を同時に選択することはできません。

HTML コンポーネントのサイズ変更 - 子要素の自動サイズ変更オプションの使用

[子要素の自動サイズ変更] オプションを使用すると、HTML ページ上のすべての子コンポーネントのサイズを、そのページが表示されるモニタやデバイスの最大画面領域に収まるよう自動的に変更することができます。たとえば、利用可能領域のコンポーネント占有率は、1 つのコンポーネントでは 100 パーセントになりますが、2 つのコンポーネントではそれぞれ 50 パーセントになります。

HTML ページをさまざまなデバイス上で実行する場合にこのオプションを使用すると、コンポーネントやコントロールが画面領域外に表示されなくなります。ただし、これらのコンポーネントやコントロールを使用するには、スクロール操作が必要になります。使用するデバイスによっては、利用可能領域に適合するようコンポーネントの位置が変更される場合があります。たとえば、デスクトップモニタではレポートとグラフが左右に並んで表示されている場合でも、タブレット上で実行すると、両方のコンポーネントが上下に並べて配置される場合があります。同様に、24 インチのデスクトップモニタと 26 インチのデスクトップモニタで実行する場合にも、表示位置が変更されることがあります。

自動サイズ変更の [有効] プロパティには、ドキュメントレベルで動作するプロパティと、コンポーネントレベルで動作するプロパティがあります。

- ❑ **子要素の自動サイズ変更 - 有効** このプロパティは、ドキュメントレベルで設定します。[はい] に設定すると、ドキュメント内の一部またはすべての子コンポーネントのサイズが自動的に変更されます。

子要素の自動サイズ変更の [有効] プロパティは、フォーム、グループボックス、パネルコンテナオブジェクトのコンポーネントレベルでも設定することができます。

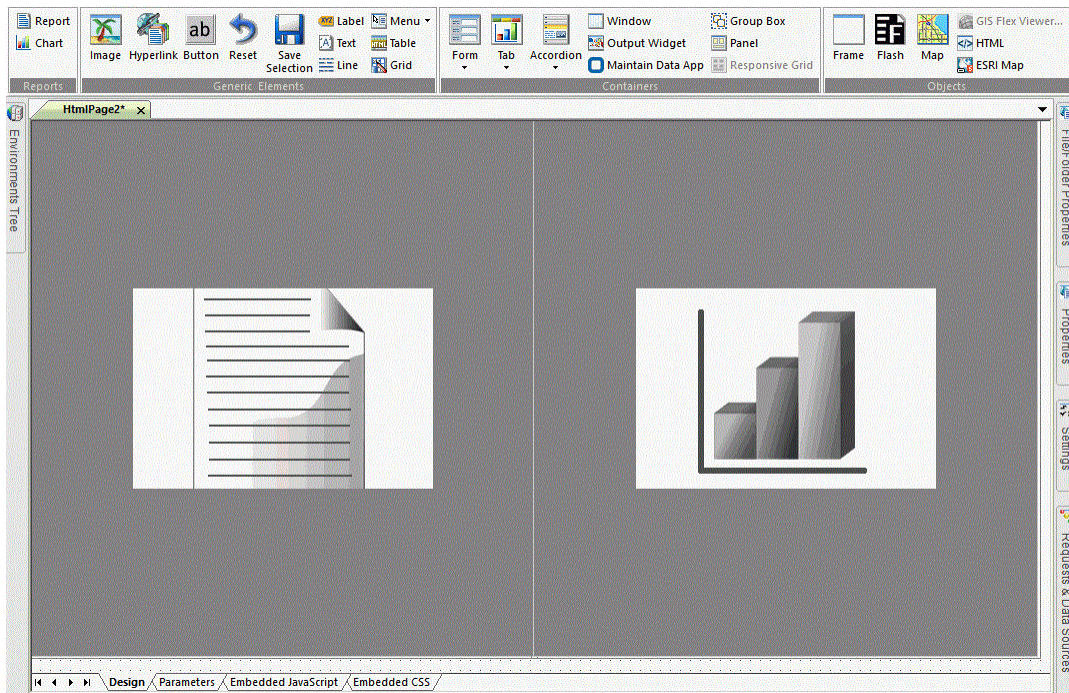
- ❑ **自動サイズ変更 - 有効** このプロパティは、ドキュメント内のコンポーネントごとに設定します。このオプションは、次のいずれかに設定することができます。

- ❑ **はい** コンポーネントのサイズを自動的に変更します。

コンポーネントの [最小幅] および [最小高さ] オプションを使用して、コンポーネントが極端に小さくなることを防止することができます。それぞれのテキストボックスに、幅、高さ、または両方の最小値をピクセル単位で入力します。コンポーネントのサイズが最小幅または最小高さに達すると、スクロールバーが表示され、コンポーネントのサイズがそれ以上に縮小されなくなります。

- ❑ いいえ ドキュメントおよび他のコンポーネントのサイズが変更された場合でも、特定のコンポーネントのサイズが自動的に変更されないようにします。HTML ページを実行すると、このオプションが設定されたコンポーネントが最初に表示されます。

下図では、[子要素の自動サイズ変更] の [有効] プロパティが [はい] に設定され、HTML キャンバスにレポートコンポーネントとグラフコンポーネントが配置されています。両方のコンポーネントが利用可能領域を均等に占有しています。



既存の HTML ファイルで [子要素の自動サイズ変更] オプションを有効することも、このオプションを有効にした新しい HTML ファイルを作成することもできます。

手順

既存の HTML ファイルで子要素の自動サイズ変更を有効にするには

1. HTML ファイルを開きます。
HTML キャンバスが開きます。
2. ドキュメントレベルの [プロパティ] パネルで、[子要素の自動サイズ変更] セクションの [有効] プロパティを [はい] に設定します。
3. ページ上の各コンポーネントのサイズを自動変更する場合は、コンポーネントごとに [自動サイズ変更の設定] の [有効] プロパティを [はい] に設定します。

4. HTML キャンバスを右クリックし、[レイアウトの更新] を選択します。

コンポーネントのサイズが自動的に変更され、キャンバス上のブランク領域全体を占有します。

手順

自動サイズ変更を有効にした新規 HTML ファイルを作成するには

1. [ホーム] タブの [コンテンツ] グループで、[HTML/ドキュメント] をクリックします。

別の方法として、コンテンツの作成がサポートされるフォルダを選択し、[アプリケーション] メニューまたは [環境ツリー] パネルのコンテキストメニューを使用して、新しい HTML ファイルを作成することもできます。

HTML/ドキュメントウィザードが開きます。

2. HTML ページの作成先ディレクトリに移動し、[次へ] をクリックします。

HTML/ドキュメントウィザードの [テーマと設定] ウィンドウが開きます。

3. [その他の設定] エリアで、[レポート/グラフサイズの自動設定] のチェックをオンにします。

このオプションを選択すると、ドキュメントレベルの [子要素の自動サイズ変更] セクションの [有効] プロパティが [はい] に設定されます。

4. [完了] をクリックします。

HTML キャンバスが開きます。

5. ページ上の各コンポーネントのサイズを自動変更する場合は、コンポーネントごとに [自動サイズ変更の設定] の [有効] プロパティを [はい] に設定します。

子要素の自動サイズ変更オプションの使用

[子要素の自動サイズ変更] オプションを使用する際は、ネイティブ HTML キャンバスの通常の作業で要求される以上の操作と条件を伴います。これは、[子要素の自動サイズ変更] オプションを有効にすると、キャンバス上でコンポーネントが自動的に移動し、サイズが変更されるためです。

HTML キャンバスへのコンポーネントの追加

[子要素の自動サイズ変更] オプションが [はい] に設定されたキャンバスに新しいコンポーネントを追加すると、新しいコンポーネントの描画領域を確保するために既存のコンポーネントが一時的に外側へ移動します。描画後に既存のコンポーネントが再配置され、サイズが自動的に変更されます。

キャンバスがリフレッシュされない場合は、キャンバスを右クリックし、[レイアウトの更新]を選択します。キャンバス領域の下側および右側には、キャンバスからコンテキストメニューにアクセスするための余白が表示されます。このキャンバス領域の余白は、実行時には表示されません。

注意：[レイアウトの更新]の実行でコンポーネントのサイズが変更されない場合は、プロパティを確認してください。ドキュメントレベルで[子要素の自動サイズ変更]の[有効]プロパティが[はい]に設定され、コンポーネントの[自動サイズ変更の設定]の[有効]プロパティが[はい]に設定されている必要があります。コンポーネントの[自動サイズ変更の設定]の[有効]プロパティが[いいえ]に設定されている場合、そのコンポーネントのサイズはキャンバス上でも、実行時にも自動変更されません。

コンポーネントの順序を変更するには、コンポーネントを別のコンポーネントの前面(手前)または左側にドラッグします。

以下は、フォーム、グループボックス、パネルコンテナに適用されます。

- ❑ フォーム、グループボックス、パネルにコンポーネントおよびコントロールが配置されている場合、これらのコンテナの[子要素の自動サイズ変更]の[有効]プロパティを[はい]に設定し、さらに[自動サイズ変更の設定]の[有効]プロパティを[はい]に設定する必要があります。
- ❑ フォーム、グループボックス、パネルの子要素であるコンポーネントの場合、そのコンポーネントの[自動サイズ変更の設定]の[有効]プロパティは自動的に[はい]に設定されます。フォーム、グループボックス、パネルの子要素であるコントロールの場合、[自動サイズ変更の設定]の[有効]プロパティを手動で[はい]に設定する必要があります。
- ❑ フォーム、グループボックス、パネルでは、配置する列数を[列数]プロパティで設定する必要があります。たとえば、3つのレポートまたはグラフを横に並べて配置する場合は、[列数]プロパティ値を3に設定します。

オブジェクトの[自動サイズ変更の設定]の[有効]プロパティが[いいえ]に設定されている場合、そのオブジェクトを利用可能領域の幅全体に表示するには、[幅]プロパティを[100%]に設定する必要があります。

注意：ページがロードされ、画面サイズが変更された後は、レポートおよびグラフは自動的に再実行されません。コンテンツをリフレッシュするには、レポートおよびグラフを再実行する必要があります。グラフの出力フォーマットがHTML5の場合は、グラフコンテンツが自動的にリフレッシュされるため、再実行する必要はありません。

手順 コンテナ内にコンテンツを追加するには

ネイティブ HTML キャンバスでは、パネルなどのコンテナの内側にコンテンツを簡単に追加することができます。ただし、[子要素の自動サイズ変更] プロパティが [はい] に設定されている場合、コンテナにコンテンツを追加しようとする際に、コンテナが移動します。この移動を防止するには、次の手順を実行します。

1. コンテンツを追加するコンテナを選択して固定します。
2. [コンポーネント] タブの [一般要素] グループで、コンテナに追加するオブジェクト (例、テキストボックス) を選択します。
3. コンテナ内を再度クリックし、オブジェクトを追加します。たとえば、テキストボックスを描画し、テキストを入力します。
4. 追加したオブジェクトを選択します。
要素のサイズを自動変更する場合は、[プロパティ] パネルで [自動サイズ変更の設定] の [有効] プロパティを [はい] に設定します。
コンテナ内で要素を固定する場合は、[いいえ] を選択します。
5. キャンバスを右クリックし、[レイアウトの更新] を選択します。
追加したコンテンツがコンテナの内側に表示されます。

コンテナの使用

オブジェクトの [自動サイズ変更の設定] の [有効] プロパティが [いいえ] に設定されている場合、そのオブジェクトを [子要素の自動サイズ変更] の [有効] プロパティが [はい] に設定されたコンテナ内に配置すると、そのオブジェクトはコンテナの左上に移動します。

コンテナの [子要素の自動サイズ変更] の [有効] プロパティが [はい] に設定されている場合、そのコンテナにレポートまたはグラフを追加すると、そのレポートまたはグラフの [自動サイズ変更の設定] の [有効] プロパティが自動的に [はい] に設定されます。

タブ、アコーディオン、ウィンドウコンテナの [子要素の自動サイズ変更] の [有効] プロパティが [はい] に設定されている場合、そのコンテナに複数のレポートまたはグラフを追加する際は、[列数] プロパティを使用します。ドロップダウンリストから列数を選択し、必要に応じてコンテナ内のコンテンツの位置を調整します。これにより、すべてのブラウザでコンテンツが同様に配列されます。[列数] プロパティを使用しない場合、ブラウザごとにコンテンツの配列が変わる場合があります。

参照 色の選択ダイアログボックス

[色の選択] ダイアログボックスには、[Web パレット]、[定義済みの色]、[システム色]、[カスタム色] タブが表示されます。これらのタブから、さまざまな色を選択することができます。

- ❑ **Web パレット** 一般的な Web 色から色を選択することができます。
- ❑ **定義済みの色** 一般的な定義済み色から色を選択することができます。
- ❑ **システム色** Developer Workbench の色に基づいて色を選択することができます。
- ❑ **カスタム色** 赤、緑、青のスライダをドラッグしてカスタム色を作成することができます。

ダイアログボックスの下部には、選択または作成した色の 16 進数値が表示されます。特定の 16 進数値を入力する場合は、[プロパティ] パネルまたは [スタイル] ダイアログボックスの色の入力ボックスに値を入力する必要があります。たとえば、[背景色] プロパティの入力ボックスに 16 進数値を入力することができます。



オブジェクト設定の編集

Developer Workbench では、[設定] パネルを使用して、コンポーネント、コントロール、パラメータの設定を変更します。[設定] パネルには、キャンバス上で選択したオブジェクトに応じて表示と非表示が切り替わる状況依存型のセクションがあります。オブジェクトのいずれかを選択すると、そのオブジェクトの設定が [設定] パネルに表示されます。

これらの設定は、次のようにセクション別に分類され、選択したコンポーネント、コントロール、パラメータに応じて、表示されるセクションおよび設定が異なります。

❑ CSS とスクリプトの管理セクション

キャンバス上でオブジェクトが選択されていない場合は、[CSS とスクリプトの管理] セクションで、カスケードスタイルシートファイルおよび JavaScript ファイルを管理することができます。[設定] パネルには、デフォルト設定でこのセクションが表示されます。

[CSS] ボタン  および [JavaScript] ボタン  を使用して、Db2 Web Query 環境に存在するカスケードスタイルシートファイルおよび JavaScript ファイルを検索することができます。Web アクセスが可能なカスケードスタイルシートファイルおよび JavaScript ファイルを参照するには、[URL/ファイルの検索] エリアにこれらのファイルの URL を入力します。

❑ 現在のページで作成したパラメータセクション

現在のページでパラメータを作成するには、[パラメータ] タブ内で右クリックし、[パラメータの追加] を選択します。[設定] パネルに [現在のページで作成したパラメータ] セクションが表示されます。パラメータの名前およびフォーマットを入力します。[単一選択]、[複数選択 OR]、[複数選択 AND] ラジオボタンのいずれかを選択します。[表示値] テキストボックスに値を入力します。

❑ 動的パラメータのデータセクション

[パラメータ] タブで動的パラメータを選択すると、[設定] パネルにデータソースファイル、値フィールド、表示フィールドが表示されます。値が複数選択の場合、[複数選択] テキストボックスのドロップダウンリストから [OR]、[AND]、[ACROSS]、[NONE] のいずれかを選択することができます。次に、[選択した値] および [プレビュー値] テキストボックスに値を入力します。

❑ コントロールの設定セクション

キャンバス上でコントロールを選択し、データタイプを [動的] に設定した場合、[リクエストとデータソース] パネルから [設定] パネルにフィールドおよびパラメータをドラッグすることができます。

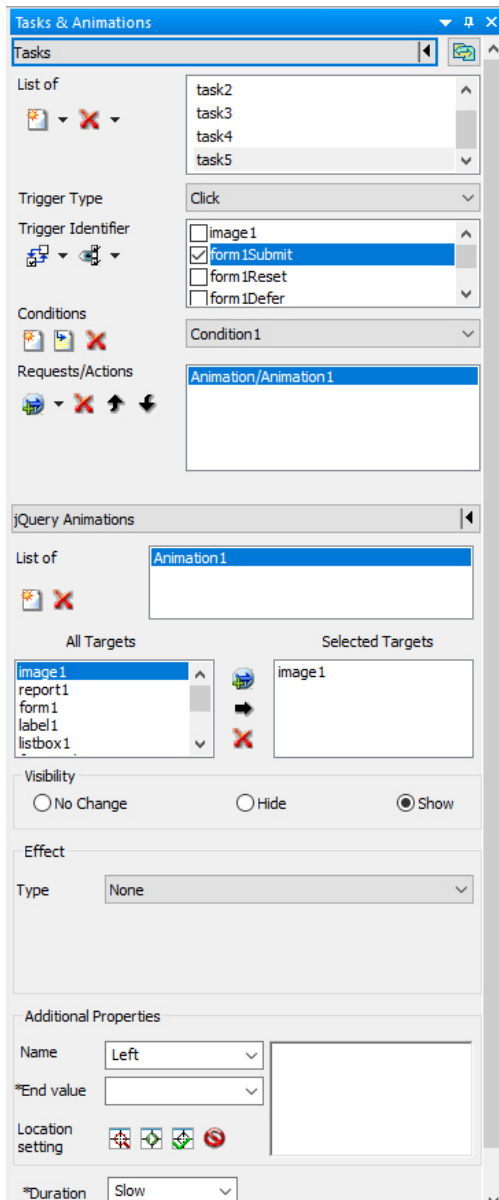
設定パネルの選択エリアの使用

[設定] パネルの [選択] エリアを使用して、コントロールおよびリストで選択した値の送信先を指定することができます。たとえば、ドロップダウンリストコントロールから選択した任意の値を特定のパラメータに送信するよう選択することができます。

[[リクエストとデータソース] パネルの使用] ボタンをクリックすると、[選択] エリアの横に [リクエストとデータソース] パネルが開きます。[リクエストとデータソース] パネルから [選択] エリアに任意のパラメータをドラッグすることができます。

タスクとアニメーションパネルの使用

[タスクとアニメーション] パネルでは、解析用のリクエストを実行したり、特定の条件に適合した場合にタスクを実行するよう設定したりできます。また、HTML ページに jQuery アニメーションを追加することもできます。下図は、[タスクとアニメーション] パネルを示しています。



[タスクとアニメーション] パネルについての詳細は、200 ページの「[jQuery アニメーションの実行 - jQuery アニメーションセクションの使用](#)」を参照してください。

タスクの実行 - タスクセクションの使用

[タスクとアニメーション] パネルの [タスク] セクションでは、特定の条件に適合した場合にリクエストを実行するタスクを作成することができます。たとえば、ボタンのクリック時に埋め込みレポートを実行するタスクを作成します。

詳細は、208 ページの「[ページのロード時にリクエストを自動的に実行するには](#)」を参照してください。

タスク

詳細の切り替え

[タスク] ダイアログボックスを開き、[タスクとアニメーション] パネルの [タスク] セクションを、縦方向ではなく、横方向で表示します。各タスクがリスト形式で表示されます。このリストには、各タスクの [タスク名]、[トリガタイプ]、[トリガ ID]、[リクエスト/アクション]、[ターゲットのタイプ]、[ターゲット名] 列が横に並んで表示されます。[タスク] ダイアログボックスを開くと、[タスクとアニメーション] パネルの [タスク] セクションは折りたたまれた状態になります。

リスト

HTML ページで定義されたタスクのリストです。

新規タスク

新しいタスクを作成します。タスクは、実行可能な項目です。

削除

選択したタスクを削除します。ドロップダウンリストを使用して、選択したタスクのみを削除することも、トリガが設定されていないタスクをすべて削除することもできます。

トリガタイプ

どの時点でタスクを開始するかを指定します。次の選択項目があります。

- ☐ ロード時、アンロード時、クリック時
- ☐ リンククリック時
- ☐ ダブルクリック時
- ☐ マウスボタンクリック時
- ☐ マウスコントロール領域内
- ☐ マウスコントロール領域外

- ☐ マウスボタン移動時
- ☐ マウスオーバー時
- ☐ マウスアウト時
- ☐ マウスアップ時
- ☐ 消失
- ☐ 選択変更時
- ☐ チェックボックス：チェックオン
- ☐ チェックボックス：チェックオフ
- ☐ TBD
- ☐ マップ：選択マーカーのドリルダウン
- ☐ マップ：任意の位置のクリック
- ☐ テーブル：セルの変更時
- ☐ テーブル：セルの選択変更時
- ☐ テーブル：セルの編集開始時
- ☐ テーブル：セルの編集完了時
- ☐ テーブル：列サイズの変更時
- ☐ テーブル：列選択の変更時

注意：TBD トリガタイプは、タスクが API コールによって実行される場合に使用することができます。

トリガ ID リスト

[トリガフィルタ] リストから選択したオプションに基づいて、選択可能なトリガのリストが表示されます。

トリガの選択をクリア

[トリガ ID] リストで選択されているオブジェクトの選択を解除します。

ボタン、イメージ、ハイパーリンク/選択した項目のみ

ボタン、イメージ、ハイパーリンク、またはその他のオブジェクトを、選択可能なトリガ ID として表示するかどうかを選択します。次のオプションがあります。

- ☐ ボタン、イメージ、ハイパーリンク

- ☐ ボタン
- ☐ イメージ
- ☐ ハイパーリンク
- ☐ メニュー項目
- ☐ すべて
- ☐ 選択した項目のみ

[すべて] を選択すると、ボタン、イメージ、ハイパーリンク以外のオブジェクトもトリガ ID として選択可能になります。たとえば、[すべて] を選択すると、テキストオブジェクトをトリガ ID として選択することができます。

[選択した項目のみ] を選択すると、キャンバス上で選択したオブジェクトが [トリガ ID] リストに表示されます。

条件

コントロールオブジェクトで選択した値に基づいて、タスクに条件を適用することができます。詳細は、208 ページの「[タスクに条件を適用するには](#)」を参照してください。

リクエスト/アクションリスト

選択したタスクで実行するリクエスト、[完了待ち] リクエスト、[リフレッシュ] リクエストの実行順序を指定するリストです。[完了待ち] リクエストを使用して、特定のリクエストが完了するまで他のリクエストが実行されないよう指定することができます。たとえば、request1 が [完了待ち] アクションの前にあり、request2 が [完了待ち] アクションの後にある場合、request1 が最初に実行され、その実行が完了した後に request2 が実行されます。

リクエストの選択

[リクエスト/アクション] リストに追加するリクエストを選択することができます。リクエストを選択すると、そのリクエストで実行可能なターゲットが [ターゲットのタイプ] テキストボックスに自動的に挿入されます。

- ☐ **リクエストの実行** プロシジャを実行することができます。プロシジャを選択可能にするには、[リクエストとデータソース] パネルで参照します。
- ☐ **リクエストのスケジュール** プロシジャのスケジュールを設定することができます。プロシジャを選択可能にするには、[リクエストとデータソース] パネルで参照します。[ターゲットフレーム] メニューからスケジュール設定方法を指定することができます。また、[Email ReportLibrary FTP] を選択して 3 つのオプションから選択することもできます。

- ❑ **プロシジャ/HTML 名の使用** ページ上の特定のコントロールオブジェクトから選択したプロシジャまたは HTML ページを実行します。実行可能なプロシジャおよび HTML ページのリストを表示するには、コントロールの [設定] パネルで [プロシジャ/HTML ファイルの値を使用] のチェックをオンにします。
- ❑ **コントロールからプロシジャをスケジュール** HTML ページの特定のコントロールオブジェクトから選択したプロシジャのスケジュールを設定します。[ターゲットフレーム] メニューからスケジュール設定方法を指定することができます。また、[Email ReportLibrary FTP] を選択して 3 つのオプションから選択することもできます。実行可能なプロシジャおよび HTML ページのリストを表示するには、コントロールの [設定] パネルで [プロシジャ/HTML ファイルの値を使用] のチェックをオンにします。
- ❑ **アニメーションの実行** 実行可能な jQuery アニメーションのリストが表示されます。
- ❑ **タスクの実行** 実行可能なタスクのリストが表示され、特定のタスク内で別のタスクを実行することができます。
- ❑ **リフレッシュ** 選択したターゲットをリフレッシュするアクションを作成します。
- ❑ **完了待ち** 1 つ目のリクエストが完了した後に 2 つ目のリクエストを開始することを指定します。
- ❑ **JavaScript コール** JavaScript コールアクションを作成します。JavaScript コールを使用する場合、返される値に応じて結果が異なります。JavaScript コールが 0 (ゼロ) を返した場合、そのコールの後続のアクションがすべて実行されます。JavaScript コールが 1 を返した場合、そのコールの後の 1 つ目のアクションが省略された上で、後続のアクションがすべて実行されます。JavaScript コールが 2 を返した場合、そのコールの後続のアクションがすべて省略されます。

削除

[リクエスト/アクション] リストからリクエストを削除します。

上へ移動

[リクエスト/アクション] リストで選択した項目を 1 つ上へ移動します。

下へ移動

[リクエスト/アクション] リストで選択した項目を 1 つ下へ移動します。

ターゲットのタイプ

[ターゲットのタイプ] オプションには、リクエストの実行が可能なターゲットのリストが表示されます。これらのターゲットには、コントロール、フレーム、ウィンドウ、配信方法 ([リクエスト] が [スケジュール] に設定されている場合) があります。これらのオプションは、指定したアクションごとに異なります。

[ウィンドウ] ターゲットタイプを選択すると、新しいウィンドウでリクエストが実行されます。

[情報ウィンドウ] ターゲットタイプを選択すると、Db2 Web Query が生成する情報ウィンドウでリクエストが実行されます。

[AJAX コール] ターゲットタイプを選択すると、リクエストが JavaScript の非同期コールとして実行されます。

[フレーム] ターゲットタイプを選択すると、選択したフレームでリクエストが実行されます。

[入力コントロール] ターゲットタイプは、[リクエスト/アクション] リストで [リフレッシュ] リクエストを選択した場合にのみ使用できます。このターゲットタイプを選択すると、入力コントロールがリフレッシュされます。リフレッシュするコントロールを指定するには、[ターゲットフレーム] リストからコントロールのいずれかを選択します。

[Analytic Document] ターゲットタイプは、[リクエスト/アクション] リストで [リフレッシュ] リクエストを選択した場合にのみ使用できます。このターゲットタイプを選択すると、Analytic Document がリフレッシュされます。リフレッシュする Analytic Document を指定するには、[ターゲットフレーム] リストからいずれかを選択します。

[BI Portal のリフレッシュ] ターゲットタイプは、[リクエスト/アクション] リストで [リフレッシュ] リクエストを選択した場合にのみ使用できます。このターゲットタイプは、リフレッシュする Db2 Web Query BI Portal ページを指定します。[ポータルすべてのページ] を選択すると、すべての BI Portal ページがリフレッシュされます。[現在のページのみ] を選択すると、現在の BI Portal ページのみがリフレッシュされます。

[JavaScript 関数] ターゲットタイプは、[リクエスト/アクション] ドロップダウンリストから [JavaScript コール] を選択した場合にのみ使用できます。このターゲットタイプを指定すると、選択したタスクから、[関数名] (Function name) テキストボックスに入力した JavaScript 関数が呼び出されます。

ターゲットフレーム

[ターゲットのタイプ] で選択したオプションに関連するオプションが表示されます。

注意：[ターゲットフレーム] テキストボックスにフレーム名を入力した際に、そのフレームが存在しない場合、新しいフレームを作成するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。

次の条件下では、このテキストボックスのタイトルは [関数名] に変わります。

- ☐ [トリガタイプ] で [TBD] を選択した場合。
- ☐ [リクエスト/アクション] で [JavaScript コール] を選択した場合。
- ☐ [ターゲットのタイプ] で [JavaScript 関数] を選択した場合。

[関数名] テキストボックスに、呼び出す関数を入力することができます。パラメータが必要な場合は、パラメータを含めることもできます。パラメータは括弧で囲み、複数のパラメータはカンマ (,) で区切る必要があります。このテキストボックスに関数名をすでに入力している場合は、ドロップダウンリストからその関数名を選択することができます。

サイズ (幅/高さ)

情報ウィンドウの幅と高さを設定します。このオプションは、[情報ウィンドウ] ターゲットタイプを選択した場合にのみ使用できます。

現在のページのみ

現在の Db2 Web Query BI Portal ページをリフレッシュします。このオプションは、Db2 Web Query BI Portal をリフレッシュするリクエストが存在する場合にのみ使用できます。

ポータルのすべてのページ

すべての Db2 Web Query BI Portal ページをリフレッシュします。このオプションは、Db2 Web Query BI Portal をリフレッシュするリクエストが存在する場合にのみ使用できます。

jQuery アニメーションの実行 - jQuery アニメーションセクションの使用

[タスクとアニメーション] パネルの [jQuery アニメーション] セクションでは、HTML ページで実行する jQuery アニメーションを追加することができます。[jQuery アニメーション] セクションのアニメーション効果は、特定の効果を単独で使用することも、複数の効果を組み合わせることで複雑なアニメーションを作成することもできます。

詳細は、203 ページの「[タスクとアニメーションパネルを使用してオブジェクトをアニメーション化するには](#)」を参照してください。

リスト

HTML ページに存在する、すべてのアニメーションのリストです。このリストは、アニメーションの追加または削除に応じて変更されます。

新規作成

HTML ページに新しいアニメーションを追加します。追加されたアニメーションは、[リスト] エリアに表示されます。

削除

HTML ページからアニメーションを削除します。削除したアニメーションは、[リスト] エリアから削除されます。

すべてのターゲット

定義する現在のアニメーションで使用可能なターゲットのリストです。

選択済みターゲット

現在のアニメーションで使用されるターゲットのリストです。

キャンバス選択の追加

キャンバス上で現在選択されているオブジェクトを [選択済みターゲット] リストに追加します。複数のオブジェクトを同時に選択して追加することもできます。

リストから追加

[すべてのターゲット] リストで選択したオブジェクトを [選択済みターゲット] リストに追加します。複数のオブジェクトを同時に選択して追加することもできます。

削除

[選択済みターゲット] でリストで選択したオブジェクトを削除します。複数のオブジェクトを同時に選択して削除することもできます。

表示

アニメーション化するターゲットを表示するかどうかを選択します。また、ターゲットをアニメーション化せずに表示することもできます。オプションには、[変更なし]、[非表示]、[表示] があります。

効果

[効果] グループには、さまざまなアニメーション効果と、これらのアニメーションをカスタマイズするオプションが表示されます。アニメーション効果を選択することで、ターゲットにバウンド、振動、点滅などの効果を適用することができます。また、選択したアニメーション効果に関連するオプションをカスタマイズすることもできます。表示されるオプションは、選択した効果に応じて異なります。たとえば、バウンド効果を選択した場合、ターゲットのバウンド回数を指定することができます。

タイプ

ドロップダウンリストから、使用するアニメーション効果を選択します。

オプション

編集するオプションを選択することができます (選択可能な場合)。たとえば、アニメーションタイプとしてバウンド効果を選択した場合、[オプション] ドロップダウンリストから [距離] または [回数] を選択することができます。[距離] または [回数] を選択した後、これらのオプションの値を [値] エリアで編集します。[回数] を選択し、[値] エリアに「3」と入力した場合、オブジェクトは 3 回バウンドします。選択可能なオプションは、選択した効果タイプに応じて異なります。

値

選択したオプションに対応する値を入力します。入力した値がアニメーションの動作に反映されます。たとえば、[Slide：スライドイン/アウト] タイプを選択し、[距離] オプションを選択した場合、[値] エリアに入力した値が、アニメーションの実行時にオブジェクトがスライドする距離になります。入力可能な値オプションは、選択した効果タイプに応じて異なります。

効果 - テキストエリア

効果のオプションを設定すると、その効果の構文がここに表示されます。この構文を手動で調整することで、アニメーションの動作を変更することもできます。

その他のプロパティ

[その他のプロパティ] グループには、ターゲットの位置とサイズを変更するオプション、およびそのターゲットのコンポーネント (テキストサイズ、テキスト幅、境界サイズ) を変更するオプションが表示されます。

名前

ドロップダウンリストから、アニメーションに適用可能なさまざまなプロパティを選択することができます。これらのプロパティには、高さ、不透明度、フォントサイズなどがあります。

終了値

[名前] ドロップダウンリストから選択したプロパティの値です。たとえば、[左] を選択し、「10」と入力した場合、アニメーション実行時にオブジェクトが左へ 10 ピクセル移動します。開始値を指定する必要はありません。これは、オブジェクトの現在位置が開始値になるためです。

位置の設定

アニメーションが開始された際のターゲットの移動とサイズを変更することができます。

選択済みターゲットの位置を使用

このボタンをクリックすると、現在選択されているターゲットの位置が使用されます。[位置の設定] ボックスに、オブジェクトの座標、高さ、幅が自動的に入力されます。このオプションは、選択済みターゲットオブジェクトを特定の位置へ移動し、アニメーションを実行しながらオブジェクトを元の位置へ戻す場合に使用します。

開始位置の設定

キャンバス上の選択済みターゲットの位置に、調整可能なプレースホルダオブジェクトを挿入します。このプレースホルダオブジェクトは、移動やサイズ変更が可能です。このオブジェクトは、アニメーションの完了時に、アニメーション化するオブジェクトの移動先およびサイズを表します。

位置設定

オブジェクトの調整可能な位置およびサイズを設定します。これにより、アニメーション化するオブジェクトの移動先およびサイズが決定されます。これは、選択したターゲットの終了位置です。

設定のキャンセル

アニメーションの位置の設定をキャンセルします。

その他のプロパティ - テキストエリア

[位置設定] コマンドで位置を設定すると、その位置の構文がここに表示されます。この構文を手動で調整することで、アニメーションの動作を変更することもできます。

長さ

アニメーションの実行速度を設定します。選択可能なオプションは、[遅く] または [速く] です。

アニメーションの切り替え

アニメーションの元の状態に戻すことができます。たとえば、ターゲットが右から左へ移動する場合、次のトリガ実行時にターゲットを右へ戻します。

手順**タスクとアニメーションパネルを使用してオブジェクトをアニメーション化するには**

次の例では、jQuery アニメーションを使用して HTML ページでアニメーションを作成する方法について説明します。

注意：[jQuery アニメーション] セクションで使用可能な jQuery アニメーションはすべて、単独で使用することも、組み合わせて使用することもできます。タイプの異なる jQuery アニメーションを組み合わせて使用すると、さらに複雑なアニメーションが作成されます。

1. HTML ページを作成します。
2. HTML ページにイメージオブジェクトとボタンオブジェクトを挿入します。
3. [タスクとアニメーション] パネルの [jQuery アニメーション] セクションで、[新規作成] をクリックします。

新しいアニメーションがアニメーションリストに追加されます。

4. 次のいずれかの方法で、image1 イメージオブジェクトをターゲットにします。

- ☐ キャンバス上でイメージオブジェクトを選択し、[キャンバス選択の追加] ボタンをクリックします。
- ☐ [すべてのターゲット] リストで [image1] を選択し、[リストから追加] ボタンをクリックします。

- ❑ [すべてのターゲット] リストで [image1] をダブルクリックして、[選択済みターゲット] リストに移動します。

image1 イメージオブジェクトが [選択済みターゲット] リストに追加されます。

5. [表示] オプションとして [非表示] を選択します。

このアニメーションオプションを選択すると、ボタンをクリックしたときにイメージが非表示になります。

6. [タスクとアニメーション] パネルの [タスク] セクションで、[新規作成] をクリックします。

新しいタスクがタスクリストに追加されます。

7. [トリガタイプ] ドロップダウンリストから、[クリック時] を選択します。

8. [トリガ ID] リストで、[button1] オブジェクトを選択します。

このボタンは、アニメーションを開始するために使用されます。

9. [リクエスト/アクション] オプションから [アニメーション 1] を選択します。

ボタンをクリックしてアニメーションを開始すると、イメージが非表示になります。

手順

アニメーションの効果を選択してオプションをカスタマイズするには

次の例は、アニメーションの効果を選択し、その効果のオプションをカスタマイズする方法を示しています。

注意：[jQuery アニメーション] セクションで使用可能な jQuery アニメーションはすべて、単独で使用することも、組み合わせて使用することもできます。タイプの異なる jQuery アニメーションを組み合わせて使用すると、さらに複雑なアニメーションが作成されます。

1. HTML ページを作成します。
2. HTML ページにイメージオブジェクトとボタンオブジェクトを挿入します。
3. [タスクとアニメーション] パネルの [jQuery アニメーション] セクションで、[新規作成] をクリックします。

新しいアニメーションがアニメーションリストに追加されます。

4. 次のいずれかの方法で、image1 イメージオブジェクトをターゲットにします。

- ❑ キャンバス上でイメージオブジェクトを選択し、[キャンバス選択の追加] ボタンをクリックします。
- ❑ [すべてのターゲット] リストで [image1] を選択し、[リストから追加] ボタンをクリックします。

- ❑ [すべてのターゲット] リストで [image1] をダブルクリックして、[選択済みターゲット] リストに移動します。

image1 イメージオブジェクトが [選択済みターゲット] リストに追加されます。

5. 効果を選択し、その効果のオプションをカスタマイズします。

- a. [タイプ] ドロップダウンリストから、[Blind：ブラインドを下ろす] を選択します。

この効果を選択すると、窓のブラインドを下ろすような動作でイメージが表示されます。

- b. [オプション] ドロップダウンリストから、[方向] を選択します。

注意：選択した効果に応じて、カスタマイズ可能なオプションが異なります。[Blind：ブラインドを下ろす] タイプでは [方向] オプション、[Bounce：バウンドとフェードイン/アウト] タイプでは [距離] および [回数] オプションのカスタマイズが可能です。

- c. [値] ドロップダウンリストから [横] を選択します。

この場合、横方向のブラインド効果でイメージがアニメーション化されます。

注意：[値] テキストボックスは、[オプション] ドロップダウンリストから選択した項目に応じて、ドロップダウンリストまたは入力ボックスになります。たとえば、[方向] を選択した場合はドロップダウンリスト、[回数] を選択した場合は入力ボックスになります。

6. [タスクとアニメーション] パネルの [タスク] セクションで、[新規作成] をクリックします。

新しいタスクがタスクリストに追加されます。

7. [トリガタイプ] ドロップダウンリストから、[クリック時] を選択します。

8. [トリガ ID] リストで、[button1] オブジェクトを選択します。

このボタンは、アニメーションを開始するために使用されます。

9. [リクエスト/アクション] オプションから [アニメーション 1] を選択します。

ボタンをクリックしてアニメーションを開始すると、ブラインドを下ろす効果のアニメーションがイメージに適用されます。

手順

移動またはサイズ変化するアニメーションを作成するには

次の例では、移動するアニメーションまたはサイズ変化するアニメーションの作成方法について説明します。

注意：[jQuery アニメーション] セクションで使用可能な jQuery アニメーションはすべて、単独で使用することも、組み合わせて使用することもできます。タイプの異なる jQuery アニメーションを組み合わせて使用すると、さらに複雑なアニメーションが作成されます。

1. HTML ページを作成します。
2. HTML ページにイメージオブジェクトとボタンオブジェクトを挿入します。
3. [タスクとアニメーション] パネルの [jQuery アニメーション] セクションで、[新規作成] をクリックします。

新しいアニメーションがアニメーションリストに追加されます。

4. 次のいずれかの方法で、image1 イメージオブジェクトをターゲットにします。
 - ☐ キャンバス上でイメージオブジェクトを選択し、[キャンバス選択の追加] ボタンをクリックします。
 - ☐ [すべてのターゲット] リストで [image1] を選択し、[リストから追加] ボタンをクリックします。
 - ☐ [すべてのターゲット] リストで [image1] をダブルクリックして、[選択済みターゲット] リストに移動します。

image1 イメージオブジェクトが [選択済みターゲット] リストに追加されます。

5. [その他のプロパティ] エリアの [位置の設定] オプションを使用して、アニメーションの開始時にオブジェクトが移動するよう設定します。
 - a. [開始位置の設定] ボタンをクリックします。

プレースホルダオブジェクトが、イメージに重なり合うように表示されます。
 - b. プレースホルダオブジェクトを HTML ページ上の別の位置に移動します。
 - c. [位置設定] ボタンをクリックします。

これにより、プレースホルダオブジェクトがクリアされ、[その他のプロパティ] テキストエリアに構文が追加されます。アニメーションが開始すると、イメージがプレースホルダオブジェクトで指定された別の位置に移動します。

6. [長さ] ドロップダウンリストから [速く] を選択します。

これにより、アニメーションの動作が高速になります。

7. [アニメーションの切り替え] のチェックをオンにします。

[アニメーションの切り替え] のチェックをオンにすると、アニメーションの実行後にボタンをクリックすることで、イメージを元の位置に戻すことができます (元の位置に戻り、非表示になります)。

8. [タスクとアニメーション] パネルの [タスク] セクションで、[新規作成] をクリックします。

新しいタスクがタスクリストに追加されます。

9. [トリガタイプ] ドロップダウンリストから、[クリック時] を選択します。
10. [トリガ ID] リストで、[button1] オブジェクトを選択します。

このボタンは、アニメーションを開始するために使用されます。

11. [リクエスト/アクション] オプションから [アニメーション 1] を選択します。

ボタンをクリックしてアニメーションを開始すると、設定した位置にイメージが移動します。ボタンを再度クリックすると、イメージが元の位置に戻ります。

手順

Developer Workbench で Db2 Web Query プロシジャにドリルダウンするハイパーリンクを作成するには

ハイパーリンクを作成するには、[ハイパーリンク] コンポーネントおよび [タスクとアニメーション] パネルを使用します。次の例は、Db2 Web Query プロシジャにドリルダウンするハイパーリンクの作成方法を示しています。

1. [コンポーネント] タブの [一般要素] グループで [ハイパーリンク] をクリックし、HTML キャンバスにハイパーリンクオブジェクトを作成します。

[タスクとアニメーション] パネルの [タスク] セクションに新しいタスクが追加され、トリガタイプとトリガ ID が自動的に選択されます。

2. [リクエストとデータソース] パネルで、Db2 Web Query プロシジャの新しい外部リクエストを作成します。
3. 作成したリクエストをキャンバスにドラッグして、フレームを作成します。
4. [タスクとアニメーション] パネルの [タスク] セクションで、[リクエスト/アクション] リストから [リクエストの実行] を選択し、手順 2 で作成したリクエストを選択します。
5. [ターゲットのタイプ] ドロップダウンリストから、[フレーム] を選択します。
6. [ターゲットフレーム] ドロップダウンリストから、手順 3 で作成したフレームを選択します。

HTML ページを実行し、ハイパーリンクをクリックすると、選択した Db2 Web Query プロシジャがフレーム内で実行されます。

手順

Developer Workbench で URL を実行するハイパーリンクを作成するには

1. [コンポーネント] タブの [一般要素] グループで [ハイパーリンク] をクリックし、HTML キャンバスにハイパーリンクオブジェクトを作成します。

[タスクとアニメーション] パネルの [タスク] セクションに新しいタスクが追加され、トリガタイプとトリガ ID が自動的に選択されます。

2. [リクエストとデータソース] パネルで [新規作成] ドロップダウン矢印をクリックし、[URL リクエスト] を選択します。
3. [URL の入力] ダイアログボックスに URL を入力します。
4. [タスクとアニメーション] パネルに移動し、ハイパーリンクのタスクを選択して、[トリガ ID] にハイパーリンクオブジェクトのユニーク ID が表示されることを確認します。
5. [リクエスト/アクション] セクションの矢印をクリックして [リクエストの実行] を選択し、URL リクエストを選択します。
6. ドロップダウンリストからターゲットタイプを選択します (例、ウィンドウ、フレーム)。
7. ドロップダウンリストからターゲットフレームを選択します。

手順

ページのロード時にリクエストを自動的に実行するには

[タスク] セクションを使用して、HTML ページのロード時に実行するリクエストを作成することができます。このリクエストを作成するには、[タスク] セクションで load タスクを使用する必要があります。load タスクは、すべてのページに自動的に追加され、ページの初期ロード時に選択済みリクエストをすべて実行します。

1. [load] タスクを選択します。
2. [トリガタイプ] ドロップダウンリストから、[ロード時] トリガタイプを選択します。load タスクでは、このオプションがデフォルト設定で選択されています。
3. [リクエスト/アクション] リストから、リクエストを選択します。
4. [ターゲットのタイプ] ドロップダウンリストから、プロシジャの出力先を選択します。たとえば、プロシジャを新しいウィンドウで実行したり、HTML ページ上のレポートフレーム内で実行したりできます。
5. プロシジャを実行するフレームを選択します。このオプションは、プロシジャを新しいウィンドウで実行するのではなく、HTML ページ上のフレーム内で実行する場合にのみ選択します。

手順

タスクに条件を適用するには

タスクに条件を適用することで、ページのコントロールで特定の値が選択された場合のみタスクを実行することができます。これにより、ユーザの選択に基づいて実行時の動作を変更することができます。

1 つのタスクに複数の条件を適用した場合、このタスクに関連するリクエストまたはアクションを実行するためには、すべての条件を満たす必要があります。条件の 1 つのみが満たされていても、このタスクは実行されません。タスクの実行は発動されたが、条件がすべて満たされていない場合、条件が満たされていないことを示す警告メッセージが表示されます。

1. コントロール、トリガ ID として使用するボタン、グラフまたはレポートを含む HTML ページを作成します。トリガ ID は、コントロールオブジェクトに設定できます。
2. コントロールを選択し、[設定] パネルを開きます。
3. コントロールに値を入力します。[静的] データタイプを使用して手動で新しい値を追加することも、[動的] データタイプを使用してデータソースから値を取得することもできます。
4. [タスクとアニメーション] パネルを開きます。
5. [タスク] セクションで [新規作成] ボタンをクリックし、新しいタスクを作成します。
6. トリガタイプを選択します。これは、タスクの開始に使用するアクションです (例、[クリック時])。
7. トリガ ID を指定します。これは、タスクを開始するために [トリガタイプ] で設定したアクションを実行するページ上のオブジェクト (例、クリック可能なボタン) です。
8. [新規条件] ボタンをクリックして、タスクの条件を作成します。
タスクは条件が満たされた場合のみ実行されます。
9. [編集] ボタンをクリックして条件を定義します。
[タスクの条件] ダイアログボックスが開きます。
10. [タスクの条件] ダイアログボックスで、次のオプションを選択します。
 - a. [入力コントロール] メニューから、値を条件に使用するページ上のコントロールを選択します。
 - b. [値の比較演算子] メニューから、条件に使用するテストを選択します。選択した値が比較値または指定する値と比較して、「等しい」、「等しくない」、「より大きい」、「以上」、「より小さい」「以下」であった場合に満たされる条件を設定します。
 - c. [複数選択演算子] メニューから、複数の比較演算子の処理方法を指定します。[すべて] を選択して、条件を満たすためにはすべての比較値を選択するか、[単一] を選択して、比較値のうち 1 つのみを選択するかを指定します。
 - d. [比較値] テキスト領域に、条件を満たすために選択される比較値を入力します。比較値は手動で 1 行に 1 つずつ入力することも、[...] (参照) ボタンをクリックしてコントロールから値を選択することもできます。
11. [OK] をクリックして変更を適用し、[タスクの条件] ダイアログボックスを閉じます。

12. 必要に応じて、[新規条件] を再度クリックして条件のリストから選択し、手順 9 から 11 を繰り返して、タスクを実行するために満たす必要のある別の条件を追加することができます。

また、[削除] ボタンをクリックして選択した条件を削除することもできます。

13. 条件が満たされた場合に実行するリクエストまたはアクションを追加します。たとえば、ページ上のレポートを実行する必要がある場合、[リクエストの選択] ボタン横の下向き矢印をクリックして [リクエストの実行] を選択し、レポートプロシジャを選択します。
14. [ターゲットのタイプ] メニューからオプションを選択します。さまざまなリクエストおよびアクションに対して、さまざまなターゲットのタイプを適用できます。ターゲットのタイプは、タスクを実行する場所と方法を指定します。
15. ページを実行します。

コントロールオブジェクトから値を選択し、タスクを実行すると、条件がテストされます。選択した値ですべての条件が満たされている場合、タスクは指定したとおりに実行されます。条件がすべて満たされない場合、警告メッセージが表示されます。

リクエストとデータソースパネルの使用

リクエストは、実行可能な対象を定義したものです。たとえば、実行可能な対象として、デフォルトプロシジャ、外部プロシジャ、HTML ページ、URL などがあります。リクエストにパラメータが含まれている場合、これらのパラメータはインデントされたリストとしてリクエスト名の下に表示されます。デフォルト設定では、すべてのパラメータが Reporting Server に送信されます。ただし、パラメータを右クリックし、コンテキストメニューから [送信しない] を選択することで、リクエストセクションのパラメータを送信しないよう選択することができます。パラメータを送信しないよう選択した場合、そのパラメータ値を送信せずにプロシジャが正しく実行されることを確認する必要があります。たとえば、プロシジャに -DEFAULT パラメータ値を含めます。

外部ファイルを使用する外部リクエストを作成する場合、その外部ファイルの名前がリクエストに継承されます。たとえば、「Parameter_Report」という名前の既存 Db2 Web Query プロシジャを使用する外部リクエストを作成すると、外部リクエストには「Parameter_Report」が継承されます。

各リクエストには、その配下に [列] および [パラメータ] フォルダが表示されます。[列] フォルダには、リクエストで使用されているフィールドのリストが表示されます。[パラメータ] フォルダには、リクエストで使用されているパラメータのリストが表示されます。デフォルト設定では、[パラメータ] フォルダは展開された状態で、[列] フォルダは折りたたまれた状態で表示されます。

[データソース] フォルダには、HTML ページ内のデフォルトプロシジャおよびデフォルトコントロール入力リクエストで使用されているデータソースがすべて表示されます。参照されているデータソースは、[リクエストとデータソース] パネルには表示されません。別のリクエストを埋め込むことで、HTML ページに別のデータソースを追加することができます。別のデータソースを追加する方法として、[データソース] フォルダを右クリックし、コンテキストメニューから [データソースの追加] を選択することもできます。

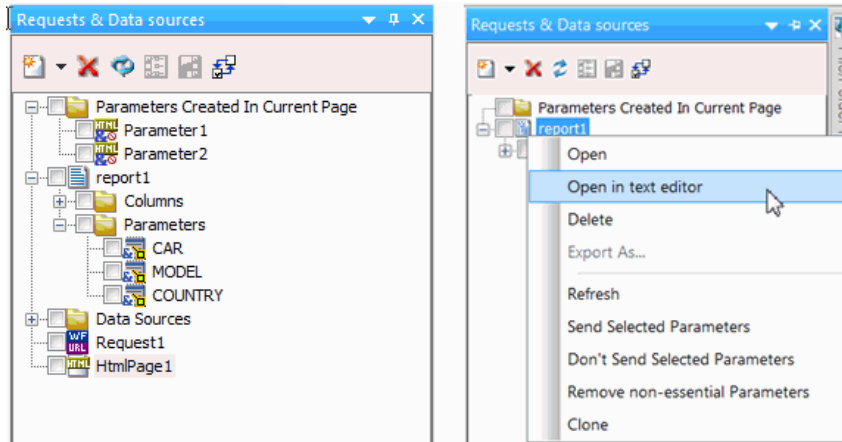
コンテキストメニューを使用して、ブランクのリクエストを除く、すべてのリクエストをリフレッシュすることができます。リクエストを右クリックし、[リフレッシュ] を選択します。

リクエストの複製を作成するには、リクエストを右クリックし、コンテキストメニューから [複製の作成] を選択します。デフォルトリクエストの複製を作成すると、そのデフォルトリクエストのコピーが作成され、「name_1」という名前が付けられます。ここで、name は元のデフォルトリクエストの名前です。たとえば、「SalesReport」という名前のリクエストの複製を作成すると、複製の名前は「SalesReport_1」になります。明示的リクエストの複製を作成した場合、参照プロシジャの 2 つ目のコピーは作成されません。

下図 (右側) のように、プロシジャのコンテキストメニューから [テキストエディタで開く] を選択することで、プロシジャを編集することもできます。デフォルトプロシジャの場合、新しいプロシジャタブが開き、仮想ファイルであることを示す .vrt 拡張子が付けられます。参照プロシジャの場合、プロシジャタブが開き、.fex 拡張子が付けられます。

[リクエストとデータソース] パネルでは、リクエストまたはパラメータのタイプは、その項目の横のアイコンで識別されます。たとえば、現在の HTML ページで作成されたパラメータのアイコンには、パラメータ記号とともに追加記号が表示されます。別の例として、外部 URL リクエストのアイコンには、「URL」が表示されます。

下図は、2つの [リクエストとデータソース] パネルの例を示しています。



パラメータおよびフィールドを [設定] パネルにドラッグすることで、選択したコンポーネントまたはコントロールを構成することができます。リクエストを [リクエストとデータソース] パネルから HTML キャンバスにドラッグして、リクエストで使用するオブジェクトおよびコントロールを作成することができます。

新規作成

新しいリクエストを作成します。リクエストは、実行可能な項目です。

削除

選択したリクエストを削除します。

パラメータのリフレッシュ

リクエストで使用されているパラメータをリフレッシュします。

入力コントロールの作成

[新規パラメータ] ダイアログボックスを開き、[パラメータ] リストボックスでチェックマークの付いたパラメータの入力コントロールを選択したり、そのパラメータのコントロールに連鎖を設定したりできます。

選択の保存

[パラメータ] リストボックスでチェックマークの付いたパラメータを保存します。送信するパラメータ数を、リクエストのプロシジャで要求される数より多くしたり、少なくしたりすることができます。送信するパラメータ数を少なくする場合は、残りのパラメータがリクエスト内で -DEFAULT、-SET などのコンストラクトで処理されるよう注意する必要があります。

選択のクリア

[リクエストとデータソース] パネルで選択した項目をすべてクリアします。

手順

Developer Workbench でデフォルトプロシジャリクエストを作成するには

1. [リクエストとデータソース] パネルに埋め込みプロシジャを追加します。[新規作成] ドロップダウンリストから [埋め込みリクエスト] を選択し、既存のプロシジャファイルを埋め込むには、[新規作成] ドロップダウンリストから [埋め込みリクエスト]、[既存項目のインポート] を順に選択します。

[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示され、プロシジャファイルを選択するよう要求されます。

注意: [埋め込みリクエスト] 下の [新規レポート]、[新規グラフ]、[新規レイアウト] のオプションはサポートされません。

2. プロシジャファイルを選択し、[OK] をクリックします。

プロシジャの選択を完了後、プロシジャを保存し、キャンバスを閉じます。

3. [リクエストとデータソース] パネルから、埋め込みリクエストをキャンバスにドラッグします。

キャンバスにプロシジャオブジェクトが作成されます。プロシジャにパラメータが含まれている場合、キャンバスにフォームコントロールも追加されます。[タスクとアニメーション] パネルの [タスク] セクションに、タスクが作成されます。

ブラウザのデフォルト設定の指定

[スタイル] ダイアログボックスを使用して、フォント、背景プロパティ、位置モード、フロー管理、マージン、リストスタイル、表示のデフォルト設定を制御することができます。

[スタイル] ダイアログボックスにアクセスするには、HTML ページ上のオブジェクトを右クリックし、コンテキストメニューから [スタイル] を選択します。

参照

スタイルダイアログボックス-フォントスタイルの指定

HTML ページを表示する際にブラウザで使用するフォントスタイルは、[スタイル] ダイアログボックスの [フォント] ウィンドウで指定します。

[スタイル] ダイアログボックスの [フォント] ウィンドウは、次の要素で構成されています。

フォント名

ブラウザに表示するフォントを指定します。

指定可能なオプションには、[ファミリー] ([フォントの選択] ダイアログボックスを表示) または [システムフォント] があります。

フォント属性

ブラウザに表示するフォントの属性を指定します。

指定可能なオプションには、[色]、[斜体]、[小型英大文字] があります。

サイズ

ブラウザに表示するフォントのサイズを指定します。

指定可能なオプションには、[指定]、[絶対]、[相対] があります。

太字

ブラウザに表示するフォントに太字を適用するかどうかを指定します。

指定可能なオプションには、[絶対] および [相対] があります。

効果

ブラウザに表示するフォントにフォント効果を適用するかどうかを指定します。

指定可能なオプションには、[なし]、[下線]、[取り消し線]、[上線]、[大文字と小文字] があります。

参照

スタイルダイアログボックス-背景プロパティの指定

HTML ページを表示する際にブラウザで使用する背景スタイルは、[スタイル] ダイアログボックスの [背景] ウィンドウで指定します。

[スタイル] ダイアログボックスの [背景] ウィンドウは、次の要素で構成されています。

背景色

HTML ページの背景色を指定します。

指定可能なオプションには、[色] および [透過] があります。

背景イメージ

ブラウザに表示する背景イメージのプロパティを指定します。

指定可能なオプションには、[イメージ]、[表示位置]、[スクロール]、[位置] (横および縦)、[背景イメージを使用しない] があります。

注意：スクロールを有効にした背景イメージを使用する場合、横方向および縦方向の位置を指定する必要があります。これらの位置を指定しないと、背景イメージは表示されません。横方向および縦方向の位置は、独立した要素ではなく、ウィンドウに対する相対位置を表す要素です。

参照 スタイルダイアログボックス-テキストスタイルの指定

HTML ページを表示する際にブラウザで使用するテキストスタイルは、[スタイル] ダイアログボックスの [テキスト] ウィンドウで指定します。

[スタイル] ダイアログボックスの [テキスト] ウィンドウは、次の要素で構成されています。

配置

テキストの配置を指定します。

指定可能なオプションには、[横]、[縦]、[配置] があります。

字間と行間

テキストの間隔を指定します。

指定可能なテキスト要素のオプションには、[字間] および [行間] があります。

文字方向

文字方向を指定します。

指定可能なオプションには、[インデント] および [文字方向] があります。

参照 スタイルダイアログボックス-位置モードの指定

HTML ページを表示する際にブラウザで使用する位置モードは、[スタイル] ダイアログボックスの [位置] ウィンドウで指定します。

[スタイル] ダイアログボックスの [位置] ウィンドウは、次の要素で構成されています。

位置モード

指定可能なオプションには、[標準フローの位置]、[標準フローからオフセット]、[絶対位置] があります。

高さと幅

[絶対位置] を選択した場合は、配置する位置を目盛りの値で指定することができます。

指定可能なオプションには、[上]、[左]、[高さ]、[幅]、[Z-インデックス] があります。

注意: [Z - インデックス] は必要に応じて指定します。このオプションは、絶対配置または相対配置されたオブジェクトの積み上げ順を設定または取得します。

参照 スタイルダイアログボックス - レイアウトスタイルの指定

HTML ページを表示する際にブラウザで使用するレイアウトスタイルは、[スタイル] ダイアログボックスの [レイアウト] ウィンドウで指定します。

[スタイル] ダイアログボックスの [レイアウト] ウィンドウは、次の要素で構成されています。

フロー管理

指定可能なオプションには、[表示]、[フロー可能なテキスト]、[表示要素]、[フロー可能なオブジェクト] があります。

コンテンツ

指定可能なオプションには、[オーバーフロー] があります。

トリミング

レイアウトをトリミング位置を [上]、[下]、[左]、[右] で指定することができます。

改ページの印刷

[前]、[後] を指定することができます。

参照 スタイルダイアログボックス - 余白スタイルの指定

HTML ページを表示する際にブラウザで使用する境界スタイルは、[スタイル] ダイアログボックスの [余白] ウィンドウで指定します。

[スタイル] ダイアログボックスの [余白] ウィンドウは、次の要素で構成されています。

マージン

[上]、[下]、[左]、[右] を指定することができます。

パディング

[上]、[下]、[左]、[右] を指定することができます。

参照 スタイルダイアログボックス - リストスタイルの指定

HTML ページを表示する際にブラウザで使用するリストスタイルは、[スタイル] ダイアログボックスの [リスト] ウィンドウで指定します。

[スタイル] ダイアログボックスの [リスト] ウィンドウは、次の要素で構成されています。

リスト

[簡条書きにする]、[簡条書きにしない] を指定することができます。

簡条書き

[スタイル]、[位置]、[行頭文字をカスタマイズする] を指定することができます。

参照

スタイルダイアログボックス-その他スタイルの指定

HTML ページを表示する際にブラウザで使用するその他スタイルおよび外観の表示は、[スタイル] ダイアログボックスの [その他] ウィンドウで指定します。

[スタイル] ダイアログボックスの [その他] ウィンドウは、次の要素で構成されています。

ユーザインターフェース

[カーソル] を指定することができます。

テーブル

[境界]、[レイアウト] を指定することができます。

参照

スタイルダイアログボックス-境界スタイルの指定

HTML ページを表示する際にブラウザで使用する境界設定は、[スタイル] ダイアログボックスの [境界] ウィンドウで指定します。

[スタイル] ダイアログボックスの [境界] ウィンドウは、次の要素で構成されています。

境界

指定可能なオプションには、[変更する辺を選択]、[スタイル]、[幅]、[色] があります。

角の丸み

境界の角に丸みを付けるかどうかを指定します。角の丸みは、それぞれの角に個別に設定することができます。指定可能なオプションには、[上左]、[上右]、[下左]、[下右]、[半径の単位]、[同一角スタイル] があります。

HTML キャンバスでの連鎖の設定

[パラメータ] タブで、複数のコントロールに連鎖を設定し、その連鎖に条件を適用することができます。連鎖を設定すると、連鎖内で前のコントロールで選択した値に基づいて、コントロールに値が入力されます。静的コントロールおよび動的コントロールに連鎖を設定することや、連鎖の一部へのリンクの設定と解除、連鎖内のリンクの設定、条件の作成が可能です。[パラメータ] タブで、連鎖はコントロールオブジェクトを接続する線として表示されます。連鎖は、パラメータではなく、コントロールにのみ適用されます。

注意

- ❑ コントロールの連鎖は [デザイン] タブで設定できますが、連鎖内のリンクに条件を作成する操作は [パラメータ] タブでのみ行うことができます。

連鎖のリンクの矢じり部分をクリックすると、[設定] パネルで、連鎖のプロパティや条件の設定および変更を行うことができます。

- ❑ 静的コントロールを使用する場合、連鎖のリンクそれぞれに、条件を適用する必要があります。連鎖元コントロールの各値に条件を作成し、それらの値を連鎖の設定先コントロールに表示される値に正しくマッピングする必要があります。

新規パラメータダイアログボックスによるパラメータの自動連鎖

自動連鎖オプションを使用して、[新規パラメータ] ダイアログボックスで選択したコントロールに、連鎖を自動的に設定することができます。連鎖を設定すると、連鎖内で前のコントロールで選択した値に基づいて、コントロールに値が入力されます。自動連鎖オプションを使用することにより、連鎖および連鎖のリンクを自動的に作成することができます。

注意：自動連鎖では、条件を含まないデフォルト機能で、基本的な連鎖が作成されます。連鎖の条件は、[パラメータ] タブを使用して作成することができます。

デフォルト設定では、HTML ページにパラメータ付きレポートをインポートまたは参照して挿入する場合、コントロールの連鎖は設定されません。[新規パラメータ] ダイアログボックスの [連鎖コントロール] 列で、連鎖にコントロールを含めるか除外するかを、個別に選択することができます。

さらに、自動連鎖のオプションを選択した場合、[新規パラメータ] ダイアログボックスのパラメータリストに、区切りが追加されます。区切り文字はコントロールを複数の連鎖に区切るために使用され、連鎖内を上下に移動することができます。

手順

新規パラメータダイアログボックスでコントロールに自動連鎖を設定するには

自動連鎖オプションを使用すると、自動的に連鎖、つまり連鎖のリンクが作成されます。自動連鎖オプションを選択すると、パラメータリストに区切りが追加されます。区切り文字はコントロールを複数の連鎖に区切るために使用され、連鎖内を上下に移動することができます。

1. HTML キャンバスで、パラメータを含むレポートを HTML ページにインポートするか、そのレポートを参照として挿入します。

[新規パラメータ] ダイアログボックスが表示されます。

2. [上記の順序でコントロールに自動連鎖を設定する] を選択します。

ヒント：このオプションを選択する前に、上向きまたは下向き矢印を使用して、選択したコントロールの順序を変更することができます。

すべてのコントロールに対して [連鎖コントロール] オプションが選択され、パラメータリストの最後のオブジェクトとして [区切り] が追加されます。

3. 複数の連鎖を作成するには、[区切り] の行をクリックし、上向きまたは下向き矢印を使用して連鎖内で区切り文字の位置を変更します。

注意：デフォルトの区切りを上に移動すると、別の区切りがリストの最後に追加されます。

4. [OK] をクリックして [新規パラメータ] ダイアログボックスを閉じ、コントロールを HTML ページに追加します。

[新規パラメータ] ダイアログボックスで複数の連鎖を作成すると、[新規パラメータ] ダイアログボックスで選択したグループ化オプションに関係なく、[デザイン] タブには連鎖が設定されたパラメータの各セットがそれぞれ別の行に配置されます。この動作は、[フォームの設定] ダイアログボックスの [各連鎖を別の行に配置] オプションで設定されます。このダイアログボックスを開くには、[Developer Workbench オプション] ダイアログボックスの [HTML ページ] タブで [フォームの設定] ボタンをクリックします。これにより、フォーム内の連鎖の関係が分かります。[各連鎖を別の行に配置] はデフォルト設定で選択されています。

[パラメータ] タブでは、連鎖はコントロールオブジェクトを接続する線で表されます。

5. 連鎖を削除するには、連鎖のリンクを選択して右クリックし、コンテキストメニューから [バインディングの解除] を選択します。

手順 新規パラメータダイアログボックスでコントロールの連鎖を設定するには

[新規パラメータ] ダイアログボックスの [連鎖コントロール] 列を使用すると、特定のコントロールを連鎖に追加したり、連鎖から除外したりすることができます。

1. HTML キャンバスで、パラメータを含むレポートを HTML ページにインポートするか、そのレポートを参照として挿入します。

[新規パラメータ] ダイアログボックスが表示されます。

2. 連鎖に含めるコントロールの [連鎖コントロール] のチェックをオンにします。

コントロールの連鎖は、[新規パラメータ] ダイアログボックスに表示されている順序で設定されます。コントロールの連鎖を設定する前に、上向きまたは下向き矢印を使用して、選択したコントロールの順序を変更することができます。

注意：コントロールのいずれかを連鎖から除外すると、連鎖のリンクは、選択されているコントロールのみを対象として自動的に設定されます。

3. [OK] をクリックして [新規パラメータ] ダイアログボックスを閉じ、コントロールを HTML ページに追加します。

[新規パラメータ] ダイアログボックスで複数の連鎖を作成すると、[新規パラメータ] ダイアログボックスで選択したグループ化オプションに関係なく、[デザイン] タブには連鎖が設定されたパラメータの各セットがそれぞれ別の行に配置されます。この動作は、[フォームの設定] ダイアログボックスの [各連鎖を別の行に配置] オプションで設定されます。このダイアログボックスを開くには、[Developer Workbench オプション] ダイアログボックスの [HTML ページ] タブで [フォームの設定] ボタンをクリックします。これにより、フォーム内の連鎖の関係が分かります。[各連鎖を別の行に配置] はデフォルト設定で選択されています。

[パラメータ] タブでは、連鎖はコントロールオブジェクトを接続する線で表されます。

4. 連鎖を削除するには、連鎖のリンクを選択して右クリックし、コンテキストメニューから [バインディングの解除] を選択します。

ポップアップコントロールの作成

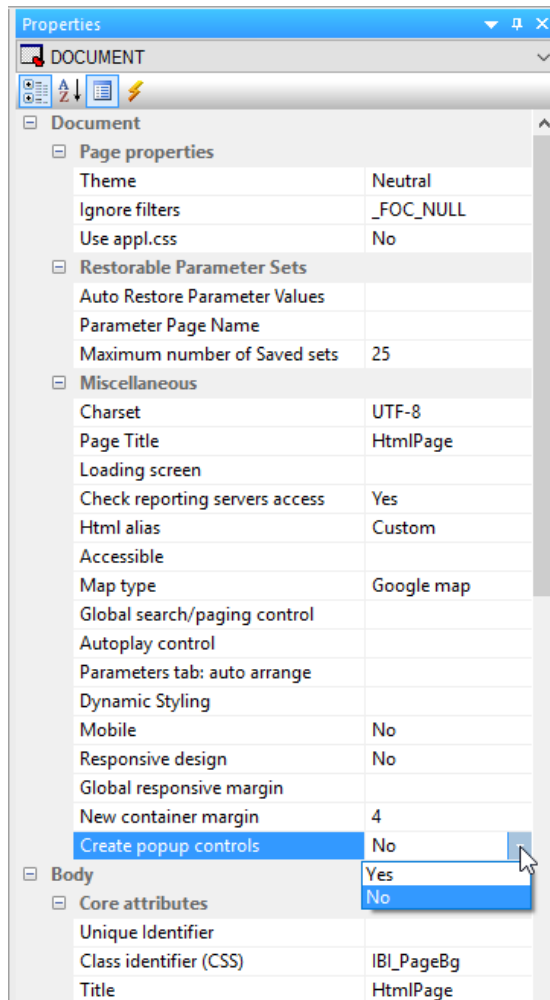
DOCUMENT オブジェクトの [ポップアップコントロールの作成] プロパティを使用して、次のことを行えます。

- ☐ あらゆるデバイスでシームレスに実行される、斬新な外観のコントロールを作成する。
- ☐ コントロールの外観は同一であるが、単一値または複数値の選択に応じて機能が異なるコントロールを作成する。

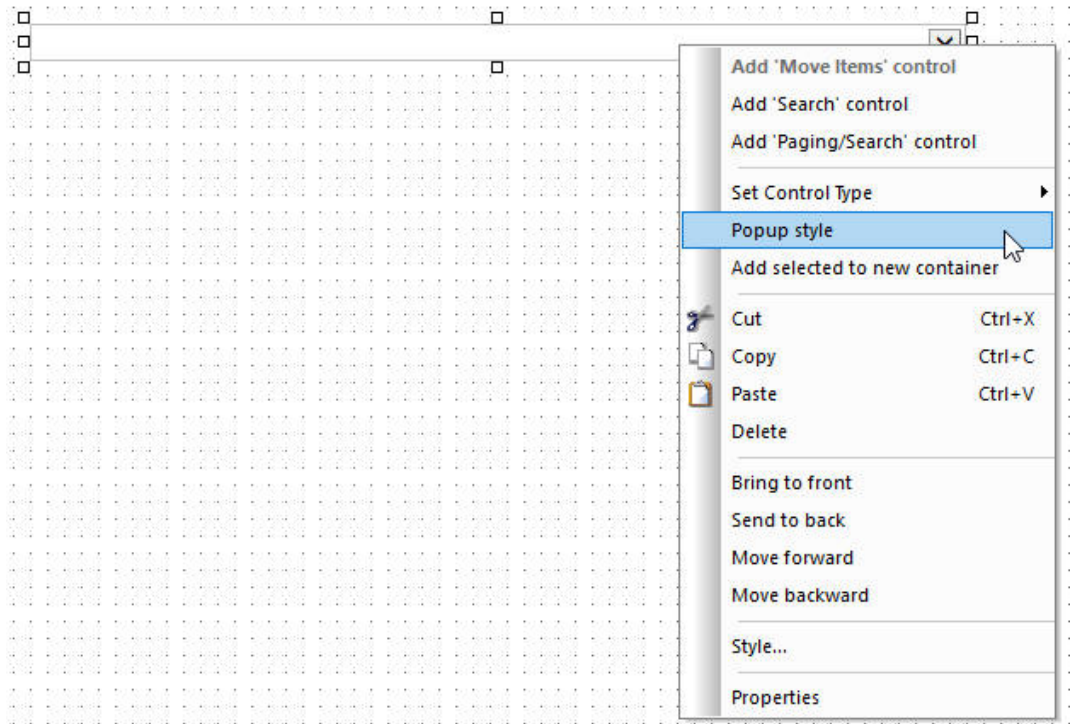
ポップアップコントロールを作成する手順は次のとおりです。

- ❑ DOCUMENT オブジェクトの [プロパティ] パネルで [ポップアップコントロールの作成] プロパティを設定する。
- ❑ 右クリックのコンテキストメニューから [ポップアップスタイル] オプションを選択して、標準のコントロールにするか、ポップアップスタイルのコントロールにするかを指定する。ただし、テキストボックス、テキスト領域、カレンダー、スライダーの場合、このオプションは表示されません。
- ❑ [新規パラメータ] ダイアログボックスで、[コントロールの作成] 列の値を [ポップアップ] に設定する。

下図は、[プロパティ] パネルの [ポップアップコントロールの作成] プロパティを示しています。選択可能な値は、[はい] または [いいえ] です。デフォルト値は [いいえ] です。



下図は、ドロップダウンリストコントロールを右クリックした際にコンテキストメニューに表示される [ポップアップスタイル] オプションを示しています。ただし、テキストボックス、テキスト領域、カレンダー、スライダーの場合、このオプションは表示されません。



下図は、[新規パラメータ] ダイアログボックスを示しています。[ポップアップ] オプションは、[コントロールの作成] 列のドロップダウンリストから選択できます。

New Parameters

Parameters

Name	Create control	Control Type	Chain control
PRODUCT_CATEGOR	Default	Drop down list	<input type="checkbox"/>
TIME_YEAR	Default	Drop down list	<input type="checkbox"/>
COUNTRY_NAME	Popup Virtual	Drop down list	<input type="checkbox"/>
PRICE_DOLLARS	Don't create	Drop down list	<input type="checkbox"/>
Chain Separator			
Line Separator			

Parameter grouping options: **New single layer form**

Controls arrangement: ☒ Auto ☐ Row ☐ Column

☐ Don't show again and use default selection ☐ Create edit box controls

☐ Auto chain controls in above specified order

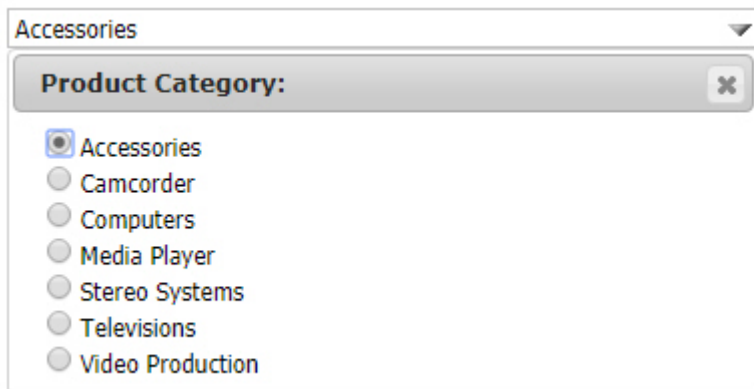
☐ Don't create run button

☒ Add Schedule Button

☒ Add Defer Button

OK Cancel

下図は、ポップアップコントロールの例を示しています。



手順 ポップアップコントロールにタイトルを追加するには

HTML ページで、ポップアップコントロールにタイトルバーを追加し、カスタマイズしたタイトルを指定することができます。

タイトルバーを追加するには、[プロパティ] パネルで [タイトルバーの表示] を [はい] に設定します。[タイトルバーの表示] を [はい] に設定すると、[タイトルテキスト] プロパティが入力可能になります。このフィールドに値を入力すると、実行時にポップアップコントロールのタイトルバーが表示されます。次の手順を実行します。

1. コントロールオブジェクトを含む HTML ページを作成します。
2. コントロールをポップアップコントロールに変更します。

これは、次のいずれかの方法で行います。

- ❑ ページにコントロールを追加する前に、[プロパティ] パネルを開きます。DOCUMENT レベルで、[ポップアップコントロールの作成] プロパティを [はい] に設定します。
このページに追加したコントロールはすべて、ポップアップコントロールとして作成されます。
- ❑ コントロールを作成する際に、[新規パラメータ] ダイアログボックスで [コントロールの作成] 列から [ポップアップ] を選択します。
- ❑ コントロールを右クリックし、[ポップアップスタイル] を選択します。

注意

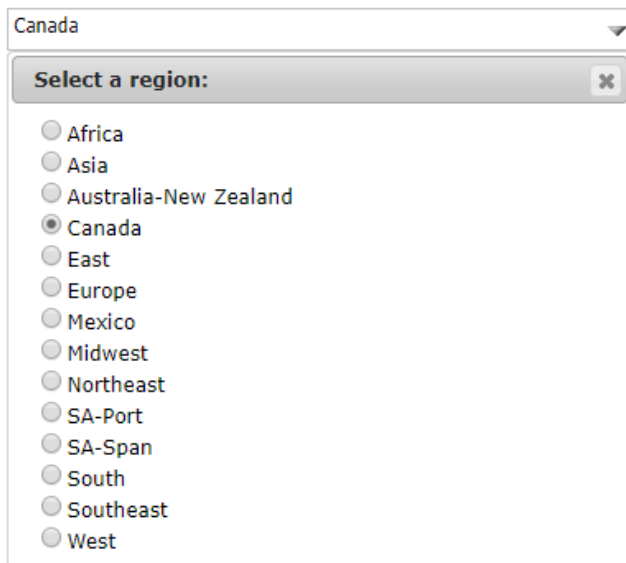
- ❑ テキストボックス、テキスト領域、カレンダー、スライダでは、ポップアップスタイルを使用することはできません。

- ❑ リストボックスでは、デフォルト設定でポップアップスタイルが使用されます。
3. コントロールを選択し、[プロパティ] パネルを開きます。コントロールにポップアップスタイルを使用するよう設定した場合、[タイトルバーの表示] プロパティが選択可能になります。
 4. [タイトルバーの表示] プロパティを [はい] に設定します。
 5. [タイトルバーの表示] プロパティを [はい] に設定すると、[タイトルテキスト] プロパティが表示されます。下図のように、このテキストボックスにコントロールのタイトルテキストを入力します。

❑ Miscellaneous	
Set focus	
Tab index	3
Language information	
Direction of text	
Loaded from saved selecti...	Yes
Multiple	
Multiple: Add quotes	
Selection & Validation	Not required/no validate
Default selection	Yes
Display Title Bar	Yes
Title Text	Select a region:
Global name	

- [タイトルテキスト] テキストボックスをブランクにすると、コントロールの一意の ID、またはコントロールに割り当てられているラベル (存在する場合) がタイトルテキストとして使用されます。
6. HTML ページを実行し、コントロールをクリックします。

下図のように、[タイトルテキスト]のプロパティで指定した文字列が、コントロールのタイトルバーとして表示されます。



連鎖の区切りと行区切りの使用

[連鎖の区切り] および [行区切り] オプションを使用すると、それぞれの設定のオンとオフを切り替えて、連鎖およびパラメータをグループ化したり、分離したりすることができます。これらの 2 つの区切りオプションを使用すると、次のような結果になります。

連鎖の区切り [各連鎖を別の行に配置] をオンに設定した場合、この区切りを基点として新しい連鎖グループが新しい行に作成されます。[各連鎖を別の行に配置] をオフに設定した場合、[新規パラメータ] ダイアログボックスでどこに区切りを配置しても、この区切りを基点として新しい連鎖が開始されます。複数のコントロールが 1 行に配置され、フォームの端で折り返されます。

注意: デフォルトの状態では、[各連鎖を別の行に配置] はオンに設定されています。このオプションは、[Developer Workbench オプション] ダイアログボックスの [HTML ページ] セクションからアクセス可能な [フォームの設定] ダイアログボックスに表示されます。

行区切り この区切りを配置した位置に改行が挿入されます。

パラメータタブのコントロール連鎖

連鎖により、2 つ以上の値を関連付けることができます。複数のコントロールに連鎖を設定すると、最初のコントロールで選択されたパラメータ値に基づいて、連鎖が設定された後続のコントロールのパラメータ値がフィルタされます。たとえば、STATE 値に PLANT パラメータを関連付けた場合は、データソース内のすべての PLANT ではなく、現在選択されている STATE パラメータの PLANT 値のみが利用可能になります。選択が行われるたびに、後続の連鎖コントロールがすべて動的に更新されます。連鎖内のコントロールの追加や削除、順序の変更を行うこともできます。

値はキャッシュメカニズムにより処理され、必要な値はすべてページをロードする前に収集されます。この方法は、必要なリクエストをすべて 1 つの HTTP リクエストに自動的に統合し、結果セットをそれぞれに該当するコントロールにマッピングするため、複数のデータリクエストの送信に要するロード時間を大幅に短縮します。

パラメータに 2 つ以上の入力バインディングが設定されている場合、最後に選択された値がパラメータとして表示されます。

注意：パラメータに 2 つ以上のコントロールから値が挿入される場合、最後に使用されたコントロール値がパラメータに割り当てられます。

手順

パラメータタブでコントロール間に連鎖を設定するには

1. 入力コントロールを使用して、パラメータ値を提供する HTML ページを作成します。
2. [パラメータ] タブをクリックします。
3. コントロールオブジェクトの中央を選択し、連鎖を設定する次のコントロールオブジェクトの中央にドラッグします。

連鎖を設定するコントロールすべてに対してこの手順を繰り返します。

4. 必要に応じて、連鎖に条件設定を適用し、パラメータの入力方法を指定することができます。

静的コントロールを使用する場合、連鎖のリンクそれぞれに、条件を適用する必要があります。連鎖元コントロールの各値に条件を作成し、それらの値を連鎖の設定先コントロールに表示される値に正しくマッピングする必要があります。

手順

連鎖のリンクを削除するには

1. [パラメータ] タブで、矢印部分を選択します。
2. 右クリックして [バインディングの解除] を選択します。
3. 削除するすべての連鎖で、この手順を繰り返します。

手順 連鎖コントロールの順序を逆にするには

1. [パラメータ] タブで矢じり部分を右クリックし、[バインディングの解除] を選択します。
2. コントロールオブジェクトの中央を選択し、連鎖を設定する次のコントロールオブジェクトの中央にドラッグします。

コントロールオブジェクト間の矢印の方向に注意してください。連鎖内のリンクの方向を変更することで、連鎖の順序を逆にすることができます。

- ❑ 連鎖のリンクの方向を逆にするには、前回の操作と逆の順序でコントロールオブジェクトをドラッグします。
- ❑ 連鎖の順序を逆にするには、コントロールオブジェクトをクリックし、目的の順序にドラッグします。

ヒント：[パラメータ] タブで、連鎖の設定された値の順序を逆にする際に、連鎖の方向が確認しにくい場合は、デフォルト設定の配置を変更します。[パラメータ] タブのオブジェクトを移動しても、[デザイン] 表示のレイアウトに影響はありません。

- ❑ Shift キーを押しながらコントロールオブジェクトとバインドパラメータを選択し、これらのオブジェクトをグループとして移動します。
 - ❑ 複数のコントロールオブジェクトに連鎖を設定します。
3. 必要に応じて、連鎖に条件設定を適用し、パラメータの入力方法を指定することができます。

複数コントロールの整列

複数のパラメータコントロールを作成した後、[新規パラメータ] ダイアログボックスの [コントロールの整列] オプションを使用して、追加手順を必要とせずに、これらのコントロールを整列させることができます。これにより、複数のコントロールの作成後に手動で移動する必要がなくなり、HTML ページのデザイン時の柔軟性が向上します。

下図は、複数コントロールの整列方法を指定する [コントロールの整列] オプションを示しています。

The screenshot shows the 'New Parameters' dialog box. It contains a table with parameters and their settings. The 'BUDDOLLARS' parameter is highlighted with a black border, and its 'Control Type' is set to 'Edit box'. Below the table, there are options for 'Parameter grouping options' and 'Controls arrangement'. The 'Controls arrangement' section has three radio buttons: 'Auto' (selected), 'Row', and 'Column'. There are also several checkboxes for additional options like 'Don't show again and use default selection', 'Auto chain controls in above specified order', 'Don't create run button', 'Add Schedule Button', and 'Add Defer Button'. The 'OK' and 'Cancel' buttons are at the bottom right.

Name	Create control	Control Type	Chain control
REGION	Default	Drop down list	<input type="checkbox"/>
CATEGORY	Default	Drop down list	<input type="checkbox"/>
PRODUCT	Default	Drop down list	<input type="checkbox"/>
BUDDOLLARS	Default	Edit box	<input type="checkbox"/>
Chain Separator			
Line Separator			

Parameter grouping options: New single layer form (v)

Controls arrangement: ☒ Auto ☐ Row ☐ Column

☐ Don't show again and use default selection ☐ Create edit box controls

☐ Auto chain controls in above specified order

☐ Don't create run button

☒ Add Schedule Button

☒ Add Defer Button

OK Cancel

[コントロールの整列] オプションで選択可能な値は次のとおりです。

- ☐ **自動** この値は、[フォームの設定] ダイアログボックスの [列数] プロパティの値に依存します。このダイアログボックスは、[Developer Workbench オプション] ダイアログボックスの [HTML ページ] セクションから表示することができます。複数のコントロールは、この値に基づいて次の行に折り返されます。[列数] プロパティの有効値は 1 から 99 です。デフォルト値は [自動] です。
- ☐ **行** フォーム内で複数のコントロールを横方向に配置します。
- ☐ **列** フォーム内で複数のコントロールを縦方向に配置します。

連鎖への条件適用

連鎖の各リンクには、条件が設定されています。条件は、コントロールオブジェクトで選択された値とリンクしています。複数の条件をリンクに適用することができます。条件の設定により、リンクの動作が定義されます。次のオプションがあります。

- ☐ 連鎖のリンクに [アクション] を適用します。
- ☐ 条件に [値の比較演算子] を適用します。
- ☐ [複数選択演算子] で [選択した値] に条件を適用します。
- ☐ 条件に、[パラメータの解決] の値を適用します。
- ☐ 条件に [比較演算子] を適用します。

静的コントロールを使用する場合、連鎖のリンクそれぞれに、条件を適用する必要があります。連鎖元コントロールの各値に条件を作成し、それらの値を連鎖の設定先コントロールに表示される値に正しくマッピングする必要があります。

参照

設定パネル (条件)

[パラメータ] タブで連鎖リンクの条件を作成すると、[設定] パネルが開きます。連鎖の各リンクには、条件が設定されています。

条件は、コントロールオブジェクトで選択された値とリンクしています。条件の設定では、以前のバインドコントロール値が継承され、別の条件設定を追加することもできます。ここでは、追加の条件設定について説明します。

条件を作成する場合、[設定] パネルには次の項目とオプションが表示されます。

条件

条件リストにより、リンクに複数の条件を作成することができます。初期条件として、常に [デフォルト] が表示されます。

- ☐ 新しい条件を作成するには、[新規作成] アイコンをクリックします。「Conditionn」という条件が作成され、この条件が [条件] ドロップダウンリストに追加されます。ここで、n には番号が割り当てられます。一意の条件名を入力し、[選択した値] を選択して、条件を設定することができます。
- ☐ 選択した条件をリストから除外するには、[削除] ボタンをクリックします。条件名 [デフォルト] を削除することはできません。

アクション

連鎖をコントロールとリンクするアクションを選択します。値の入力、表示、非表示、実行、選択オプションがあります。利用可能なオプションは次のとおりです。

- ☐ **入力、表示** コントロールに入力し、実行時に表示します。すべての条件で、これがデフォルトのアクションです。
- ☐ **入力、非表示** コントロールに入力し、実行時に表示しません。
- ☐ **代替値の入力、表示** プロシジャまたは値リストから継承した代替値をコントロールに入力します。デフォルト設定ではなく、実行時にコントロールを表示します。
- ☐ **代替値の入力、非表示** プロシジャまたは値リストから継承した代替値をコントロールに入力します。デフォルト設定ではなく、実行時にコントロールを表示しません。
- ☐ **表示** コントロールを表示しますが、入力はしません。
- ☐ **非表示** コントロールを非表示にしますが、入力はしません。
- ☐ **実行** バインドされたオブジェクトを実行します。たとえば、コントロールを [実行] ボタンにバインド後、実行時にそのコントロールの値を変更すると、値が変更されたところで、[実行] ボタンをクリックしなくても、レポートまたはグラフが自動的に実行されます。
- ☐ **選択** バインドするオブジェクトを選択します。たとえば、コントロールをタブ項目にバインド後、実行時にそのコントロールの値を選択すると、バインドされたオブジェクト (タブ項目) は、ページのアクティブタブとして、自動的に選択されます。
- ☐ **ターゲットとして使用** このアクションは、値がプロシジャ名または HTML ファイル名のコントロールとともに使用します。このオプションを選択すると、コントロールが出力のフレームにバインドされます。

値の比較演算子

値の比較演算子では、「等しくない」、「より大きい」、「より小さい」などの連鎖論理を使用することができます。このオプションは、リンクされたコントロールに値を入力する方法を設定するものです。

デフォルト設定の値の比較演算子は [等しい] です。

選択した値

[選択した値] により、条件で使用する値を入力することができます。新しい条件を作成する場合、[選択した値] セクションがアクティブになります。[選択した値] は、テキストボックスに入力することや、[...] (参照) ボタンをクリックしてリストから選択することができます。

表示される値リストは、前の連鎖内バインドコントロール値に基づいて入力されます。

選択した値が入力されると、複数選択演算子がアクティブになります。

複数選択演算子

複数選択演算子オプションは、選択した値が条件に入力されたときに有効になります。オプションには、[単一]、[すべて] があります。[単一] には、[選択した値] に表示される、連鎖内の前のコントロールで選択された値の 1 つに基づいて入力されます。[すべて] には、[選択した値] に表示される、連鎖内の前のコントロールで選択されたすべての値に基づいて入力されます。

デフォルト設定の複数選択演算子は [単一] です。

パラメータの解決 ([終了] は必須)

開始 [開始] テキストボックスでは、連鎖元のコントロールが ActiveX コントロールの場合に、[終了] テキストボックスで使用する値の取得元を指定します。

終了 [終了] テキストボックスのパラメータに基づいて、連鎖先のコントロールに値を挿入するための選択リストが動的に生成されます。このテキストボックスには、条件の評価を決定するパラメータが表示されます。デフォルト設定では、連鎖内で前のコントロールにリンクしたパラメータ名が表示されます。[...] (参照) ボタンをクリックすると、ダイアログボックスが開いて、(レポート内で) 解決可能な他のパラメータ値が表示されます。

比較演算子

パラメータの比較演算子では、「等しくない」、「より大きい」、「より小さい」などの連鎖論理を使用することができます。これにより、比較演算子がコントロールに入力されるよう設定されます。

デフォルトの比較演算子は [等しい] です。

手順

新しい条件を作成するには

1. HTML キャンバスで、パラメータ付きレポートを作成します。
2. [パラメータ] タブで、コントロールオブジェクトをドラッグして連鎖を作成します。
[パラメータ] タブでは、連鎖はコントロールオブジェクトを接続する線として表示されます。
複数のコントロールに連鎖を設定すると、実行時に連鎖内の前のコントロールで選択された値に基づいて、次のコントロールにパラメータ値が自動的に挿入されます。
3. 連鎖上のリンクをクリックします。
[設定] パネルに、バインドされたコントロール値と、連鎖内のリンクの [デフォルト] 条件設定が表示されます。
4. [新規作成] アイコンをクリックし、連鎖の複数条件を作成します。

「Conditionnn」という条件が作成されて [条件] ドロップダウンリストに追加され、[選択した値] セクションが有効になります。ここで、n には番号が割り当てられます。一意の条件名を入力できます。

5. 一意の条件名を入力し、選択値を選択して、新しい条件を設定することができます。
6. 必要に応じて、[削除] ボタンをクリックし、リストから選択した条件を除外します。

注意: [デフォルト] (初期条件) を削除することはできません。

手順 条件のアクションを選択するには

1. HTML キャンバスで、パラメータ付きレポートを作成します。
2. [パラメータ] タブで、コントロールオブジェクトをドラッグして連鎖を作成します。
[パラメータ] タブでは、連鎖はコントロールオブジェクトを接続する線として表示されます。
複数のコントロールに連鎖を設定すると、実行時に連鎖内の前のコントロールで選択された値に基づいて、次のコントロールにパラメータ値が自動的に挿入されます。
3. 連鎖上のリンクをクリックします。
4. [設定] パネルの [アクション] ドロップダウンリストから、条件に適用するアクションを選択します。たとえば、連鎖を設定するコントロールを非表示にするには、[非表示] を選択します。

デフォルトオプションは [入力、表示] です。

HTML ページ実行時に、連鎖コントロールのアクションが適用されます。

手順 条件値の比較演算子を選択するには

1. HTML キャンバスで、パラメータ付きレポートを作成します。
2. [パラメータ] タブで、コントロールオブジェクトをドラッグして連鎖を作成します。
[パラメータ] タブでは、連鎖はコントロールオブジェクトを接続する線として表示されます。
複数のコントロールに連鎖を設定すると、実行時に連鎖内の前のコントロールで選択された値に基づいて、次のコントロールにパラメータ値が自動的に挿入されます。
3. 連鎖上のリンクをクリックします。
4. [設定] パネルで、連鎖されたパラメータの連鎖論理を、条件内の [値の比較演算子] ドロップダウンリストから選択します。

デフォルトオプションは「等しい」です。

比較演算子は選択した値に適用されます。

手順

複数選択演算子を含む選択値を条件に適用するには

1. HTML キャンバスで、パラメータ付きレポートを作成します。
2. [パラメータ] タブで、コントロールオブジェクトをドラッグして連鎖を作成します。
[パラメータ] タブでは、連鎖はコントロールオブジェクトを接続する線として表示されません。
連鎖コントロールにより、連鎖の以前のコントロールで選択された値に基づいて、実行時にパラメータに値が入力されます。
3. 連鎖上のリンクをクリックします。
4. [設定] パネルで [新規作成] アイコンをクリックし、連鎖に適用する複数の条件を作成します。
「Conditionn」という条件が作成されて [条件] ドロップダウンリストに追加され、[選択した値] セクションが有効になります。ここで、n には番号が割り当てられます。一意の条件名を入力できます。
5. [選択した値] は、テキストボックスに入力することや、[...] (参照) ボタンをクリックしてリストから選択することができます。
表示される値リストは、前の連鎖内バインドコントロール値に基づいて入力されます。
ヒント: ポップアップアイコンを使用してフィールドを選択し、ポップアップダイアログボックスを閉じることもできます。緑のアイコンは「OK」、赤のアイコンは「キャンセル」を示します。値をダブルクリックすると、ボタンを使用しなくても、その値が選択され、ダイアログボックスが閉じます。Esc キーを押すと、ボタンを使用しなくてもダイアログボックスの選択内容がキャンセルされます。
選択した値が入力されると、複数選択演算子がアクティブになります。
6. [複数選択演算子] ドロップダウンリストで、選択した値の連鎖論理を選択します。
 - ☐ [単一] は、[選択した値] に表示される、連鎖内の前のコントロールで選択された値の 1 つに基づいています。これがデフォルト値です。
 - ☐ [すべて] は、[選択した値] に表示される、連鎖内の前のコントロールで選択された値のすべてに基づいています。

選択値と複数選択演算子が条件に適用されます。

手順 条件のパラメータを決定するには

連鎖を設定する前に、コントロールに値を入力しておくことをお勧めします。あらかじめ値を入力しておく、必要な情報が取得され、[パラメータの解決] として最適な値が決定されます。最初に連鎖を設定してから値を入力する場合、連鎖が確定済みのため、この情報を取得することはできません。最初に連鎖を設定する場合は、[パラメータの解決] を手動で設定する必要があります。

1. HTML キャンバスで、パラメータ付きレポートを作成します。
2. [パラメータ] タブで、コントロールオブジェクトをドラッグして連鎖を作成します。

[パラメータ] タブでは、連鎖はコントロールオブジェクトを接続する線として表示されます。

複数のコントロールに連鎖を設定すると、実行時に連鎖内の前のコントロールで選択された値に基づいて、次のコントロールにパラメータ値が自動的に挿入されます。

3. 連鎖上のリンクをクリックします。
4. [設定] パネルで、[パラメータの解決] の [...] (参照) ボタンをクリックして、解決するパラメータ名を選択します。コントロールの値が、フィルタを含むカスタムプロシジャから入力される場合は、そのフィルタのパラメータが値リストに表示されます。コントロールの値がデータソースから入力される場合は、オブジェクトインスペクタに表示されるデータソースのすべてのフィールドが値リストに表示されます。

[パラメータの解決] テキストボックスには、次のいずれかの値を指定する必要があります。

- ☐ 連鎖内の次のコントロールの値を制限するフィールド名 (コントロールの値がデータソースから入力される場合)。
- ☐ プロシジャのパラメータ名 (コントロールの値がプロシジャから入力される場合)。

ほとんどの場合、デフォルト設定でこの値が入力され、変更する必要はありません。

ヒント：ポップアップアイコンを使用してフィールドを選択し、ポップアップダイアログボックスを閉じることもできます。緑のアイコンは「OK」、赤のアイコンは「キャンセル」を示します。値をダブルクリックすると、ボタンを使用しなくても、その値が選択され、ダイアログボックスが閉じます。Esc キーを押すと、ボタンを使用しなくてもダイアログボックスの選択内容がキャンセルされます。

フィルタが指定されていない場合、パラメータ値は連鎖内で解決されます。

手順 パラメータの比較演算子を選択するには

連鎖論理の適用の例として、フォームで、開始と終了の日付範囲として 2 つの日付リストを提供する場合があります。これらのパラメータに連鎖を設定して、パラメータの比較演算子として「より大きい」を適用することで、ユーザが開始日パラメータの日付を選択した際に、終了日の日付コントロールに開始日以降の日付のみを表示して、無効な日付範囲の選択を回避することができます。

1. HTML キャンバスで、パラメータ付きレポートを作成します。
2. [パラメータ] タブで、コントロールオブジェクトをドラッグして連鎖を作成します。
[パラメータ] タブでは、連鎖はコントロールオブジェクトを接続する線として表示されます。
複数のコントロールに連鎖を設定すると、実行時に連鎖内の前のコントロールで選択された値に基づいて、次のコントロールにパラメータ値が自動的に挿入されます。
3. 連鎖上のリンクをクリックします。
4. [設定] パネルの [比較演算子] ドロップダウンリストから、連鎖の論理オプションを選択します。これにより、比較演算子がコントロールに入力されるよう設定されます。
デフォルトオプションは「等しい」です。

選択したパラメータに、比較演算子が適用されます。

手順 連鎖値のキャッシュ処理を有効にするには

連鎖値のキャッシュ処理は、次の 2 つの方法で有効にすることができます。

- ☐ HTML ページのキャッシュオプションおよびすべてのオブジェクトを有効にします。
- ☐ 動的コントロールまたは条件のキャッシュ実行時データを有効にします。

連鎖の各リンクには、条件が設定されています。条件は、コントロールオブジェクトでバインドされた値とリンクしています。条件のオプションを変更すると、変更はコントロールにも適用されます (逆も同様)。

キャッシュオプションはデフォルト設定でオフになっています。

1. [Developer Workbench オプション] ダイアログボックスで HTML ページ上のすべてのオブジェクトのキャッシュオプションを有効にするには、次の手順を実行します。
 - ☐ [HTML ページ] タブを選択します。
 - ☐ [デフォルトキャッシュオプション] のチェックをオンにします。
 - ☐ [OK] をクリックし、[Developer Workbench オプション] ダイアログボックスを閉じます。

2. 動的コントロールまたは条件のキャッシュオプションを有効にするには、次の手順を実行します。

連鎖の各リンクには、条件が設定されています。条件は、コントロールオブジェクトで連鎖された値とリンクしています。条件のオプションを変更すると、変更はコントロールにも適用されます (逆も同様)。

動的コントロールの場合は、次の手順を実行します。

1. パラメータ値を提供する動的入力コントロールを作成します。

2. [パラメータ] タブで、動的コントロールオブジェクトを選択します。

[設定] パネルに動的コントロールのオプションが表示されます。

3. [実行データをキャッシュ] を選択し、選択した入力コントロールの実行時データをキャッシュすることができます。

注意：この設定は、[Developer Workbench オプション] ダイアログボックスの [HTML ページ] タブで設定された [デフォルトキャッシュオプション] を上書きします。

4. コントロールオブジェクトの中央を選択し、そのコントロールオブジェクトを次のコントロールオブジェクトの中央にドラッグします。

コントロールに連鎖が設定されると、動的コントロールで設定された値が条件に継承されます。

動的条件の場合は、次の手順を実行します。

1. 連鎖上のリンクをクリックして、その条件の [設定] パネルを開きます。

2. [実行データをキャッシュ] を選択し、選択した入力コントロールの実行時データをキャッシュすることができます。このオプションは、動的コントロールでのみ利用可能です。

この設定は、[Developer Workbench オプション] ダイアログボックスの [HTML ページ] タブで設定された [デフォルトキャッシュオプション] を上書きします。

HTML ページ実行中は、パフォーマンス向上のため、連鎖値データはキャッシュされます。

HTML キャンバスページでの JavaScript コードの使用

HTML キャンバスは、JavaScript と完全に統合されていますが、HTML キャンバスが生成したコントロールは、カスタム JavaScript コードを作成して操作しないことをお勧めします。Db2 Web Query は、この種のカスタム JavaScript コードをサポートしません。また、そのような JavaScript コードは、今後のバージョンでの動作保証はされません。

注意

- ❑ HTML キャンバスのランタイムは、一連の JavaScript ファイルです。これらのファイル内の関数を直接呼び出すことは推奨しません。これらの関数を直接呼び出す場合、使用するコードが将来のリリースで機能しなくなる可能性があり、その件に関して IBM は一切の責任を負いません。
- ❑ ページが完全にロードされた後、レポートを実行する前に JavaScript を実行する場合は、onInitialUpdate 関数を作成し、使用するコードをその関数内に追加します (この関数は、以前のバージョンでは「onInitialUpdate()」と呼ばれていました)。その関数に別の関数が存在する場合は、IbComposer_onInitialUpdate() を呼び出すことができます。使用するコードは、HTML ファイルの次の行の後に埋め込む必要があります。

```
//End function window_onload
```

HTML キャンバスのランタイムは、onInitialUpdate() 関数を呼び出します (この関数が存在する場合)。

IbComposer_removeSelectOption 関数

IbComposer_removeSelectOption 関数は、リストボックス、ドロップダウンリスト、またはダブルリストコントロールの 'from' リストボックスから値を削除します。

構文**リストボックスまたはドロップダウンリストの値を削除**

```
IbComposer_removeSelectOption(controlID,arr[]);
```

controlID

文字

値の取得元となるコントロールの一意の識別子です。

arr[]

文字配列

単一値または複数を記述した配列です。

注意: IbComposer_removeSelectOption メソッドが呼び出されると、2 つ目のパラメータ (arr[]) で指定された値が削除されます。

例 リストボックスからの値の削除

```
function button1_onclick(event) {  
    var eventObject = event ? event : window.event;  
    var ctrl = eventObject.target ? eventObject.target :  
        eventObject.srcElement;  
    // TODO: Add your event handler code here  
    var readVals = [];  
    readVals = IbComposer_getCurrentSelection('listbox1');  
    IbComposer_removeSelectOption('combobox1',readVals);  
}
```

IbComposer_runAnimation 関数

IbComposer_runAnimation 関数は、[タスクとアニメーション] パネルで定義されたアニメーションを実行します。

構文 アニメーションの実行

```
IbComposer_runAnimation(name);
```

name

文字

[タスクとアニメーション] パネルで指定されたアニメーション名です。

例 アニメーションの実行

```
function submit1_onclick(event) {  
    IbComposer_runAnimation('animation1');  
}
```

IbComposer_triggerExecution 関数

IbComposer_triggerExecution 関数を使用して、[タスクとアニメーション] パネルの [タスク] セクションで定義された特定のタスクを実行することができます。

構文 特定タスクの実行

```
IbComposer_triggerExecution(taskName,index [,paramName, paramValue]);
```

説明

taskName

文字

[タスクとアニメーション] パネルの [タスク] セクションで指定されたタスク名です。

index

数値

2 つ目のパラメータ (index) は、タスクで最初に実行するアクションの番号です。最後に指定されたアクションを含めて、すべてのアクションが実行されます。

paramName, paramValue

文字

オプションです。タスクの実行時に適用されるパラメータの名前およびパラメータ値です。複数の名前と値の組み合わせを使用して、複数のパラメータを指定することができます。

例 タスクの実行

次の例は、「task1」と呼ばれる最初のタスクを実行します。このタスクは、「submit1」と呼ばれるボタンをクリックすると実行されます。

```
function submit1_onclick(event) {
    IbComposer_triggerExecution('task1',1);
}
```

例 プロシジャからのタスクの実行

次の構文は、レポートプロシジャのスタイルシートセクションを示しています。これは、[Drill to InfoWindow] というメニュー項目から起動する JavaScript ドリルダウンを作成します。この場合、IbComposer_triggerExecution 関数を使用して、「task2」(インデックス値は「1」) と呼ばれるタスクを実行します。「&BUSINESS_SUB_REGION」パラメータ値に、レポートの先頭フィールド (N1) の選択値が設定されます。このレポートは、ページ上で「ib_frameName」と識別されるフレームにロードされ、「report1」という一意の識別子が付けられます。

```
TYPE=DATA,
    COLUMN=N1,
    DRILLMENUITEM='Drill to InfoWindow',
        JAVASCRIPT=parent.IbComposer_triggerExecution( ¥
'task2' ¥
'1' ¥
'BUSINESS_SUB_REGION' ¥
N1 ¥
'ib_frameName' ¥
'report1' ¥
),
        TARGET='_parent',
¥
```

これにより、このレポートは、HTML ページに「report1」という名前のコンポーネントとして追加できるようになります。さらに、[タスクとアニメーション] パネルで、「task2」という名前のタスクを load タスクの直後に作成することができます。トリガタイプに [TBD] を使用して、レポート内のドリルダウンリンクをクリックした際に実行するようタスクを設定します。これにより、ドリルダウンリンクのクリック時に、選択したパラメータ値を使用して実行するリクエストを [リクエスト/アクション] セクションで指定できるようになります。

lbComposer_getRequestRefProcedure 関数

lbComposer_getRequestRefProcedure 関数は、プロシジャを参照するリクエストの一意の識別子から、そのプロシジャの名前を返します。この関数は、以前は myXmlRoot ドキュメントで使用可能でした。

構文 プロシジャ名の取得

```
lbComposer_getRequestRefProcedure(Drilldown);
```

説明

Drilldown

文字

リクエストの名前です。

例 プロシジャ名の取得

```
function button1_onclick(event) {  
    lbComposer_getRequestRefProcedure('Drilldown');  
}
```

lbComposer_getRequestTarget 関数

lbComposer_getRequestTarget 関数は、リクエストで使用されているターゲットフレームすべての名前を返します。この関数は、以前は myXmlRoot ドキュメントで使用可能でした。

構文 ターゲットフレーム名の取得

```
lbComposer_getRequestTarget(Drilldown,bShow);
```

説明

Drilldown

文字

リクエストの名前です。

bShow

真偽値

True に設定して名前を表示し、False に設定して名前を非表示にすることが可能な演算子です。

例 ターゲットフレーム名の取得

```
function button1_onclick(event) {
    IbComposer_getRequestTarget('Drilldown','true');
}
```

IbComposer_populateDynamicCtrl 関数

IbComposer_populateDynamicCtrl 関数を使用して、ターゲットコントロールに値を挿入する際の、値の取得元コントロールを指定することができます。

構文 コントロールへの動的な値の挿入

```
IbComposer_populateDynamicCtrl(controlID,fromControlId);
```

説明

controlID

文字

値の取得元となるコントロールの一意の識別子です。

fromControlId

文字

複数のコントロールがターゲットコントロールに連鎖されている場合に、値の取得元となるコントロールの一意の識別子です。たとえば、listbox1 と listbox2 の両方が listbox3 に連鎖されている場合、デフォルト設定で、listbox3 の値は listbox1 に基づいて決定されます。listbox3 の値を listbox2 に基づいて決定されるよう指定するには、IbComposer_populateDynamicCtrl('listbox3','listbox2') を使用します。この識別子はオプションです。

例 コントロールへの動的な値の挿入

```
function button3_onclick(event) {
    var acc = IbComposer_populateDynamicCtrl('listbox3','listbox2');
    acc.selectNextPage();
}
```

IbComposer_getComponentById 関数

IbComposer_getComponentById 関数は、コンポーネント ID を使用してコンポーネントを取得します。

構文 コンポーネント ID によるコンポーネントの取得

```
IbComposer_getComponentById(controlID);
```

説明

`controlID`

文字

値の取得元となるコントロールの一意の識別子です。

例 コンポーネント ID によるアコーディオンレポートの取得

```
function button3_onclick(event) {  
    var acc = IbComposer_getComponentById('accordion1');  
    acc.selectNextPage();  
}
```

IbComposer_getCurrentSelection 関数

IbComposer_getCurrentSelection 関数は、コントロールから現在の選択値を取得します。

構文 現在選択されているコントロールの値の取得

```
IbComposer_getCurrentSelection(controlID,[layer],[bDateObj]);
```

説明

`controlID`

文字

値の取得元となるコントロールの一意の識別子です。

`layer`

整数

マルチソースツリーコントロールが使用されている場合に、マルチソースツリーコントロール内のレイヤ番号を指定するためのオプションのパラメータです。レイヤ番号は、最初のレイヤの 1 から始まります。

bDateObj

真偽値

True に設定して日付オブジェクトを返し、False に設定して文字列を返すよう設定可能なオプションの演算子です。この演算子の値を指定しない場合、文字列が返されます。

例 現在選択されているドロップダウンリストの値の取得

```
function button1_onclick(event) {
    var values = IbComposer_getCurrentSelection('combobox1');
    for(var i = 0; i < values.length; i++)
        alert(values[i]);
}
```

IbComposer_getCurrentSelectionEx 関数

IbComposer_getCurrentSelectionEx 関数は、コントロールで現在選択されている実際の値および表示値を取得します。この関数を使用して、リストボックス、ドロップダウンリスト、ダブルリストのインデックス値を取得することもできます。

構文 コントロールからの現在選択値、実際値、表示値の取得

```
IbComposer_getCurrentSelectionEx(controlID,[layer]);
```

説明

controlID

文字

値の取得元となるコントロールの一意の識別子です。

layer

整数

マルチソースツリーコントロールが使用されている場合に、マルチソースツリーコントロール内のレイヤ番号を指定するためのオプションのパラメータです。レイヤ番号は、最初のレイヤの 0 から始まります。

例 リストボックスの現在選択値、実際値、表示値の取得

```
function button1_onclick(event) {
    var values = IbComposer_getCurrentSelectionEx('combobox1');
    for(var i = 0; i < values.length; i++)
    {
        alert("Index Value: " + values[i].getIndex() + "¥n" +
            "Actual Value: " + values[i].getValue() + "¥n" +
            "Display Value: " + values[i].getDisplayValue());
    }
}
```

IbComposer_getClickedRow 関数

IbComposer_getClickedRow 関数は、HTML テーブルでクリックされた現在行を取得します。

構文 HTML テーブルでクリックされた行の取得

```
IbComposer_getClickedRow(clickEventTarget);
```

説明

`clickEventTarget`

文字

クリックされた行のイベントを表す名前です。

例 HTML テーブルでクリックされた行の取得

```
function IbComposer_getClickedRow(clickEventTarget) {
    return getCurrentClickedRow(clickEventTarget);
}
```

IbComposer_getClickedColumn 関数

IbComposer_getClickedColumn 関数は、HTML テーブルでクリックされた現在列を取得します。

構文 HTML テーブルでクリックされた列の取得

```
IbComposer_getClickedColumn(clickEventTarget);
```

説明

`clickEventTarget`

文字

クリックされた列のイベントを表す名前です。

例 HTML テーブルでクリックされた列の取得

```
function IbComposer_getClickedColumn(clickEventTarget) {
    return getCurrentClickedColumn(clickEventTarget);
}
```

IbComposer_getClickedCellValue 関数

IbComposer_getClickedCellValue 関数は、HTML テーブルでクリックされた現在セル値を取得します。

構文 HTML テーブルでクリックされたセル値の取得

```
IbComposer_getClickedCellValue(clickEventTarget);
```

説明

`clickEventTarget`

文字

クリックされたセルのイベントを表す名前です。

例 HTML テーブルでクリックされたセル値の取得

```
function IbComposer_getClickedCellValue(clickEventTarget) {
    return getClickedCellValue(clickEventTarget);
}
```

IbComposer_setCurrentSelection 関数

IbComposer_setCurrentSelection 関数は、コントロールパラメータの現在の選択値を設定します。

構文 コントロールの現在選択値の設定

```
IbComposer_setCurrentSelection(controlID,arrValues,bUpdateDependencies);
```

説明

`controlID`

文字

値を設定するコントロールの一意の識別子です。

`arrValues`

配列

設定する値の配列です。

`bUpdateDependencies`

真偽値

True に設定して連鎖コントロールおよびトリガイベントを更新することが可能な演算子です。デフォルト値は false です。

例 リストボックスの現在選択値の設定

次の例は、「listbox1」という複数選択リストボックスから、「ITALY」および「JAPAN」の値を選択します。

```
function button1_onclick(event) {  
    var arr = [];  
    arr.push('ITALY');  
    arr.push('JAPAN');  
    lbComposer_setCurrentSelection('listbox1',arr,'false');  
}
```

lbComposer_setCurrentSelection2 関数

lbComposer_setCurrentSelection2 関数では、インデックス値を使用して、ラジオボタンおよびチェックボックスに現在の選択値を設定します。

構文 ラジオボタンまたはチェックボックスコントロールでの現在選択値の設定

`lbComposer_setCurrentSelection2(controlID,index,bUpdateDependencies);`

説明

`controlID`

文字

値を設定するコントロールの一意の識別子です。

`index`

数値

選択する項目のインデックス値です。コントロールオブジェクトの最初の項目には、インデックス値「0」が付けられます。

`bUpdateDependencies`

真偽値

True に設定して連鎖コントロールおよびトリガイベントを更新することが可能な演算子です。デフォルト値は false です。

例 リストボックスの現在選択値の設定

次の例は、「button1」というボタンを使用して、3 つ目の値を選択します。この値は、「radio1」というラジオボタンコントロールのインデックス値「2」で識別されます。

```
function button1_onclick(event) {
    var eventObject = event ? event : window.event;
    var ctrl = eventObject.target ? eventObject.target :
eventObject.srcElement;
    // TODO: Add your event handler code here
    IbComposer_setCurrentSelection2("radio1",2,false);
}
```

IbComposer_execute 関数

IbComposer_execute 関数は、レポートまたはグラフを実行します。

構文 レポートまたはグラフの実行

```
IbComposer_execute(reportID,[outputTarget]);
```

説明

reportID

文字

実行するレポートまたはグラフの一意の識別子です。

outputTarget

文字

出力のターゲットを設定するオプションのパラメータです。次のいずれかです。

- ☐ フレーム名
- ☐ '_blank'.
- ☐ '_target'.
- ☐ 新規ウィンドウ名

例 **新しいウィンドウでのレポートの実行**

```
function button3_onclick(event) {  
    IbComposer_execute('report1','newwin');  
}
```

IbComposer_isSelected 関数

IbComposer_isSelected 関数は、コントロールまたは値が選択されているかどうかを特定します。

構文 **コントロールまたは値の選択の有無の特定**

```
IbComposer_isSelected(controlID,[testValue]);
```

説明

`controlID`

文字

テストするコントロールの一意の識別子です。

`testValue`

文字

コントロールのテスト対象とするパラメータです (オプション)。

例 **チェックボックスの選択の有無の特定**

```
function checkbox1_onclick(event) {  
    var curValue = IbComposer_isSelected('checkbox1');  
    IbComposer_showHtmlElement('form1',curValue);  
}
```

IbComposer_showHtmlElement 関数

IbComposer_showHtmlElement 関数は、HTML 要素を表示または非表示にします。

構文 **HTML 要素の表示または非表示**

```
IbComposer_showHtmlElement(elementID,bShow);
```

説明

`elementID`

文字

表示または非表示にする要素の一意の識別子です。

`bShow`

真偽値

True に設定して要素を表示し、False に設定して要素を非表示にすることが可能な演算子です。

例 チェックボックスの表示と非表示の切り替え

```
function checkbox1_onclick(event) {
    var curValue = IbComposer_isSelected('checkbox1');
    IbComposer_showHtmlElement('form1',curValue);
}
```

IbComposer_enableHtmlElement 関数

IbComposer_enableHtmlElement 関数は、HTML 要素を有効または無効にします。

構文 HTML 要素の有効化または無効化

```
IbComposer_enableHtmlElement(elementID,bEnable);
```

説明

`elementID`

文字

有効または無効にする要素の一意の識別子です。

`bEnable`

真偽値

True に設定して要素を有効にし、False に設定して要素を無効にすることが可能な演算子です。

例 要素の有効化または無効化

```
function checkbox2_onclick(event) {  
    IbComposer_enableHtmlElement('listbox1',  
    IbComposer_isSelected('checkbox2','country'));  
    IbComposer_enableHtmlElement('combobox1',  
    IbComposer_isSelected('checkbox2','car'));  
    IbComposer_enableHtmlElement('listbox2',  
    IbComposer_isSelected('checkbox2','model'));  
    IbComposer_enableHtmlElement('combobox2',  
    IbComposer_isSelected('checkbox2','dcost'));  
}
```

IbComposer_ResetDownChainControls 関数

IbComposer_ResetDownChainControls 関数は、連鎖内の現在のコントロール以降のコントロールをリセットして、それぞれのコントロールが正しい値を持つようにします。

構文 連鎖コントロールのリセット

```
IbComposer_ResetDownChainControls(ctrl);
```

説明

ctrl

文字

最初のコントロールの一意の識別子です。

例 リストボックス以降の連鎖のリセット

```
function button4_onclick(event) {  
    var arr = [];arr.push('ENGLAND');  
    IbComposer_setCurrentSelection('listbox1',arr,'false');  
    IbComposer_ResetDownChainControls('listbox1');  
}
```

IbComposer_selectTab 関数

IbComposer_selectTab 関数は、tabNumberToSelect で指定されたタブを選択し、そのタブをアクティブタブにします。

構文 タブの選択とアクティブ化

```
IbComposer_selectTab(tabControlID,tabNumberToSelect);
```

説明

`tabControlID`

文字

アクティブにするタブコントロールの一意の識別子です。

`tabNumberToSelect`

整数

アクティブにするタブの番号です。

例 タブのアクティブ化

```
<FORM id=form1 onsubmit="OnExecute(this);
  IbComposer_selectTab('tab1',1) name="form1">
```

IbComposer_selectTemplateTab 関数

IbComposer_selectTemplateTab 関数は、テンプレートページの特定のタブを選択し、そのタブをアクティブタブにします。

構文 テンプレートタブの選択および選択済みタブのアクティブ化

```
IbComposer_selectTemplateTab(tabId);
```

説明

`tabId`

文字

アクティブにするタブコントロールの一意の識別子です。

例 テンプレートタブのアクティブ化

```
function submit1_onclick(event) {
  IbComposer_selectTemplateTab('tab5');
}
```

IbComposer_goToPageOfMultiPageControl 関数

IbComposer_goToPageOfMultiPageControl 関数は、複数ページコントロール (例、タブ、アコーディオン、ウィンドウ) の特定のページを選択します。

構文 複数ページコントロールのページの選択

```
IbComposer_gotoPageOfMultiPageControl(controlID,page)
```

説明

`controlID`

文字

値の取得元となるコントロールの一意の識別子です。

`page`

文字

ページ番号 (例、1、2) を指定するか、True に設定して前ページ、False に設定して次ページを指定します。

例 複数ページコントロールのページの選択

次の例は、[ウィンドウ] 複数ページコントロールの特定のページを選択する方法を示しています。この例では、このコントロールは 3 ページ目から開始されます。

```
function button2_onclick(event) {  
  var eventObject = event ? event : window.event;  
  var ctrl = eventObject.target ? eventObject.target : eventObject.srcElement;  
  // TODO: Add your event handler code here  
  IbComposer_gotoPageOfMultiPageControl('windowPanell', '3');  
}
```

次の例は、ウィンドウ複数ページコントロールの前ページを選択する方法を示しています。

```
function button2_onclick(event) {  
  var eventObject = event ? event : window.event;  
  var ctrl = eventObject.target ? eventObject.target : eventObject.srcElement;  
  // TODO: Add your event handler code here  
  IbComposer_gotoPageOfMultiPageControl('windowPanell', 'true');  
}
```

次の例は、ウィンドウ複数ページコントロールの次ページを選択する方法を示しています。

```
function button2_onclick(event) {  
  var eventObject = event ? event : window.event;  
  var ctrl = eventObject.target ? eventObject.target : eventObject.srcElement;  
  // TODO: Add your event handler code here  
  IbComposer_gotoPageOfMultiPageControl('windowPanell', 'false');  
}
```

IbComposer_getAllAmpersValues 関数

IbComposer_getAllAmpersValues 関数は、ページレイアウト上のすべてのコントロールから、現在選択されている値を取得します。次に、これらの値を連結し、URL 呼び出しの末尾に追加可能な文字列にします。たとえば、REGION コントロールで、[MidEast]、[NorthEast]、[NorthWest] という複数の値が選択されている場合を想定します。これらの選択値は、次のように連結されます。

```
&REGION=%27MidEast%27%20OR%20%27NorthEast%27%20OR%20%27NorthWest%27
```

この関数を、BI Portal で作成したポータルとともに使用することができます。その場合、生成された文字列が、レポートやグラフを実行するポータル呼び出しのすべてに追加されます。これにより、実行時に新しいポータルコンポーネントを追加したり、既存のポータルコンポーネントを削除したりした場合でも、パラメータ値がすべてのポータルコンポーネントに反映されます。

構文 すべてのパラメータ値の取得

```
IbComposer_getAllAmpersValues([verifySelection]);
```

説明

`verifySelection`

真偽値

オプションのパラメータです。このパラメータが `true` で、コントロールの [選択 (必須)] プロパティが [はい] に設定されている場合、この関数は、値が選択されていないパラメータコントロールに対してブランクの文字列を返します。

注意：すべてのコントロールに [選択 (必須)] プロパティがあります。このプロパティは、デフォルト設定で [はい] に指定されています。実行時にコントロールの有効な値が選択されなかった場合、コントロールが赤色のボックスで囲まれ、次のステータスバーメッセージが表示されます。

```
Please make required selections
```

例 レポートで選択済みのすべてのパラメータのリスト取得

```
function button1_onclick(event) {
    var val = IbComposer_getAllAmpersValues();
    alert(val);
    OnExecute(event);
}
```

lbComposer_showLayer 関数

lbComposer_showLayer 関数は、指定したレイヤの表示と非表示を切り替えます。

構文 レイヤの表示と非表示の切り替え

```
lbComposer_showLayer(layerName,bShow);
```

説明

layerName

文字

表示と非表示を切り替えるレイヤの名前です。

bShow

True に設定してレイヤを表示し、False に設定してレイヤを非表示にすることが可能な演算子です。

例 レイヤの表示と非表示の切り替え

```
function button1_onclick(event) {  
    var eventObject = event ? event : window.event;  
    var ctrl = eventObject.target ? eventObject.target :  
    eventObject.srcElement;  
    // TODO: Add your event handler code here  
    lbComposer_showLayer('Customers','true');  
}
```

lbComposer_preventModifyIframeDocument 関数

lbComposer_preventModifyIframeDocument 関数は、onInitialUpdate からこの関数を呼び出すことで、ドキュメント内のあらゆる iframe の CSS 変更を防止することができます。

構文 ドキュメント内の iframe 変更の防止

```
function onInitialUpdate() {  
    lbComposer_preventIframeUpdates();  
}
```

lbComposer_setCalendarDatesRange 関数

lbComposer_setCalendarDatesRange 関数は、ソースカレンダーの日付と、日数の範囲から、ターゲットカレンダーの範囲を設定します。

構文 ターゲットカレンダーの日付範囲の設定

```
IbComposer_setCalendarDatesRange(elementId, fromDate, toDate)
```

説明

`elementID`

文字

日付範囲を設定するターゲットカレンダーコントロールの一意の識別子です。

`fromDate`

日付オブジェクト

ソースカレンダーの日付値です。

注意：この値は、`IbComposer_getCurrentSelection` 関数を使用して取得することができます。この関数の 3 つ目のパラメータを `True` に設定して、日付オブジェクトを返す必要があります。

`toDate`

日付オブジェクト

この値は、範囲を表示するために必要な `fromDate` 値と日数から計算する必要があります。

例 ターゲットカレンダーの日付範囲の設定

```
function button1_onclick(event) {
var eventObject = event ? event : window.event;
var ctrl = eventObject.target ? eventObject.target : eventObject.srcElement;
// TODO: Add your event handler code here
var curDate = IbComposer_getCurrentSelection('calendar1', 0, true);
var fromDate= new Date(curDate);
var toDate = new Date();
var nOfDays= IbComposer_getCurrentSelection('slider1');
if (isNaN (nOfDays-0)&& nOfDays != null) {
    alert("Please enter a numeric value!!");
}
else {
    var time = fromDate.getTime()+(nOfDays*3600000 * 24);
    toDate.setTime(time);
    IbComposer_setCalendarDatesRange("calendar2", fromDate,
    toDate);
}
}
```

lbComposer_gotoPortalPage 関数

lbComposer_gotoPortalPage 関数では、同一のコラボレーションポータル内の特定ページに移動することができます。lbComposer_gotoPortalPage 関数のトリガを使用して HTML ページを作成し、ターゲットポータルページに lbComposer_gotoPortalPage 関数を構成し、ターゲットポータルページと同じコラボレーションポータル内のポータルページに HTML ページを追加します。

参照 コラボレーションポータルページへのナビゲート

```
lbComposer_gotoPortalPage( "Page_Name" );
```

説明

Page_Name

文字

lbComposer_gotoPortalPage 関数を含む HTML ページと同じコラボレーションポータル内の別のポータルページの名前です。二重引用符 (") で囲みます。

タイトルではなく、ポータルページの名前を入力します。[ファイル/フォルダのプロパティ] パネルの [名前] フィールドにポータルページの名前が表示されます。

lbComposer_gotoPortalPage 関数には拡張子 .page を含めません。

例 コラボレーションポータルページへのナビゲート

次の例では、ポータルページで使用可能な、一意の識別子 [button1] で識別されるボタンをクリックすると、同じコラボレーションポータルに含まれる [Page_1] という名前のページが開きます。

```
function button1_onclick(event) {  
  var eventObject = event ? event : window.event;  
  var ctrl = eventObject.target ? eventObject.target : eventObject.srcElement;  
  // TODO: Add your event handler code here  
  lbComposer_gotoPortalPage( "Page_1" );  
}
```

lbComposer_isSelectionRequired 関数

lbComposer_isSelectionRequired 関数では、特定のコントロールで選択が必須かどうかを指定することができます。コントロールで選択が必須の場合、HTML 要素が返されます。選択がオプションの場合、NULL 値が返されます。

参照 選択の必須の指定

```
IbComposer_isSelectionRequired("controlId");
```

説明

`controlId`

文字

ステータスを確認するコントロールの一意の識別子です。

例 選択の必須の指定

次の例では、一意の識別子「button1」で識別されるボタンをクリックすると、`IbComposer_isSelectionRequired` で返される値に基づいて、`combobox1` での選択が必須かどうかのメッセージが表示されます。確認の対象となる項目は HTML 要素であるため、返される値が `[object HTMLSelectElement]` か `NULL` 値かによってメッセージは異なります。

```
function button1_onclick(event) {
var eventObject = event ? event : window.event;
var ctrl = eventObject.target ? eventObject.target : eventObject.srcElement;
// TODO: Add your event handler code here

var required = IbComposer_isSelectionRequired("combobox1")
if (required == "[object HTMLSelectElement]") {
    alert("Selection is required")
}
else if (required == null) {
    alert("No selection required")
}
}
```

IbComposer_getNumberOfRecordsReturned 関数

`IbComposer_getNumberOfRecordsReturned` 関数では、AJAX コールで実行されるリクエストで取得するレコード数が生成されます。`IbComposer_getNumberOfRecordsReturned` 関数を使用するには、AJAX コールを使用するリクエストの実行タスクを作成します。[タスクとアニメーション] パネルの、このタスクの [関数名] テキストボックスの値は、コールバック関数の名前にする必要があります。この関数と `IbComposer_getNumberOfRecordsReturned` 関数は、引数として同一の結果のオブジェクトを使用する必要があります。

参照 リクエストのレコード数の取得

```
IbComposer_getNumberOfRecordsReturned(resultObject);
```

説明

`responseObject`

文字

AJAX コールのコールバック関数の引数と一致する結果のオブジェクトです。

例

リクエストのレコード数の取得

次の例では、[タスクとアニメーション] パネルに、外部プロシジャリクエストを実行するタスクが作成されています。ここでは、ターゲットタイプに AJAX コールが設定されています。AJAX コールは、`showResult` という名前のコールバック関数を使用するように指定されています。次に、`showResult` 関数が、「`result`」という値を `IbComposer_getNumberOfRecordsReturned` 関数に渡します。その結果取得された値がメッセージに表示されます。この値がリクエストのレコード数です。

```
function showResult(result)
{
    alert(IbComposer_getNumberOfRecordsReturned(result));
}
```

`IbComposer_doSelectionByTableRow` 関数

`IbComposer_doSelectionByTableRow` 関数は、テーブル内の選択した行の特定フィールドの値を取得します。別の JavaScript 関数 (例、`IbComposer_setCurrentSelection`) を使用して、テーブルの選択値を有効にすることができます。

参照

テーブルの選択行からの値の取得

```
IbComposer_doSelectionByTableRow("tableId",fieldnames,setSelection,displayOnly);
```

説明

`tableId`

文字

値を取得するテーブルの一意の識別子です。

`fieldnames`

フィールド名の配列です。以下はその例です。

```
["field1", "field2", "field3"]
```

`setSelection`

真偽値

連鎖済みコントロールに値を渡すことができるように値を選択するかどうかを指定します。true の場合、値は選択されません。false の場合、値が選択されます。

`displayOnly`

真偽値

true の場合、値は表示値から選択されます。false の場合、値はデータソースの値から選択されます。

例 テーブルの選択行からの値の取得

次の例では、一意の識別子「button3」で識別されるボタンをクリックした場合、任意の行を選択すると、「tablectrl1」の選択行について [Country] および [Model] フィールドの値を含むメッセージが表示されます。

```
function button3_onclick(event) {
var eventObject = event ? event : window.event;
var ctrl = eventObject.target ? eventObject.target : eventObject.srcElement;
// TODO: Add your event handler code here

var fields = ["CAR.ORIGIN.COUNTRY", "CAR.CARREC.MODEL"];
var values = IbComposer_doSelectionByTableRow("tablectrl1", fields, true, true);

if(values && values.length)
{
for(var i = 0; i < values.length; i++)
    alert(values[i]);
}
}
```

IbComposer_loadNextGroup 関数

IbComposer_loadNextGroup 関数を使用して、テーブル内の次のグループをロードすることができます。

参照 テーブル内の次のグループのロード

```
IbComposer_loadNextGroup("tableId",groupObject,updateDependencies);
```

説明

`tableId`

文字

前のグループをロードするテーブルの一意の識別子です。

`groupObject`

オブジェクトです。

テーブルで表示されるグループを表すオブジェクトです。

`updateDependencies`

真偽値

`true` の場合、テーブルに連鎖済みのコントロールが、`IbComposer_loadNextGroup` 関数の実行時に更新されます。`false` の場合、更新されません。

例 テーブル内の次のグループのロード

次の例では、一意の識別子「next」で識別されるボタンをクリックすると、`IbComposer_loadNextGroup` 関数を使用して、「tablectrl1」というテーブルの次のグループがロードされます。「prev」というボタンは、`IbComposer_loadPrevGroup` 関数を実行しますが、最初に `IbComposer_loadNextGroup` 関数を実行するまで有効になりません。つまり、表示する前のグループが存在する場合のみ使用可能になります。「next」ボタンは、テーブルの最後のグループが表示された場合は使用できません。

正しく実行するためには、「numOfRows」という変数を使用して、表示されるグループの長さを 3 行に設定します。

```
var numOfRows=3;

function tablectrl1_onbeforeload(ctrl,arrValuesToLoad) {
    if(IbComposer_isCompleteReloading("tablectrl1") &&
arrValuesToLoad.length>numOfRows)
    {
        IbComposer_enableHtmlElement("prev",false);
        IbComposer_enableHtmlElement("next",true);
        return numOfRows;
    }
    return false;
}

function next_onclick(event) {
    var eventObject = event ? event : window.event;
    var ctrl = eventObject.target ? eventObject.target : eventObject.srcElement;
    // TODO: Add your event handler code here
    var groupObj = {};
    IbComposer_loadNextGroup("tablectrl1", groupObj, false);
    IbComposer_enableHtmlElement("prev",true);
    if(groupObj.end== groupObj.total)
        IbComposer_enableHtmlElement("next",false);
}
```

lbComposer_loadPrevGroup 関数

lbComposer_loadPrevGroup 関数を使用して、テーブル内の前のグループをロードすることができます。

参照 テーブル内の前のグループのロード

```
lbComposer_loadPrevGroup("tableId",groupObject,updateDependencies);
```

説明

`tableId`

文字

前のグループをロードするテーブルの一意の識別子です。

`groupObject`

オブジェクトです。

テーブルで表示されるグループを表すオブジェクトです。

`updateDependencies`

真偽値

true の場合、テーブルに連鎖済みのコントロールが、lbComposer_loadPrevGroup 関数の実行時に更新されます。false の場合、更新されません。

例 テーブル内の前のグループのロード

次の例では、一意の識別子「prev」で識別されるボタンをクリックすると、lbComposer_loadPrevGroup 関数を使用して、「tablectrl1」というテーブルの前のグループがロードされます。テーブル内の最初のグループが表示されている場合は、「prev」ボタンは使用できません。つまり、表示する前のグループが存在する場合のみ使用可能になります。有効化するには、lbComposer_loadNextGroup function 関数を実行する「next」というボタンをクリックする必要があります。

正しく実行するためには、「numOfRows」という変数を使用して、表示されるグループの長さを 3 行に設定します。

```
var numOfRows=3;

function tablectrl1_onbeforeload(ctrl,arrValuesToLoad) {
    if(IbComposer_isCompleteReloading("tablectrl1") &&
arrValuesToLoad.length>numOfRows)
    {
        IbComposer_enableHtmlElement("prev",false);
        IbComposer_enableHtmlElement("next",true);
        return numOfRows;
    }
    return false;
}

function prev_onclick(event) {
    var eventObject = event ? event : window.event;
    var ctrl = eventObject.target ? eventObject.target : eventObject.srcElement;
    // TODO: Add your event handler code here
    var groupObj = {};
    IbComposer_loadPrevGroup("tablectrl1", groupObj, false);
    IbComposer_enableHtmlElement("next",true);
    if(groupObj.begin== 1)
        IbComposer_enableHtmlElement("prev",false);
}
```

IbComposer_isCompleteReloading 関数

IbComposer_isCompleteReloading 関数は、要素の再ロードが完了したかどうかを確認するために使用されます。この関数は、要素が再ロードされた場合は true、再ロードされていない場合は false を返します。

参照 要素の再ロード完了の確認

```
IbComposer_isCompleteReloading("elementId");
```

説明

elementId

文字

再ロード状況を確認する要素の一意の識別子です。

例 要素の再ロード完了の確認

次の例では、一意の識別子「button1」で識別されるボタンをクリックすると、「tablectrl1」というテーブルの再ロードが完了したかどうかを示すメッセージが表示されます。

```
function button1_onclick(event) {
  var eventObject = event ? event : window.event;
  var ctrl = eventObject.target ? eventObject.target : eventObject.srcElement;
  // TODO: Add your event handler code here
  alert(IbComposer_isCompleteReloading("tablectrl1"))
}
```

IbComposer_setCalendarDate 関数

IbComposer_setCalendarDate 関数を使用して、ターゲットカレンダーに日付を入力することができます。

参照 ターゲットカレンダーの日付の設定

```
IbComposer_setCalendarDate("controlId",dateObject);
```

説明

`controlId`

文字

日付を設定するカレンダーの一意の識別子です。

`dateObject`

JavaScript の日付オブジェクトです。

例 ターゲットカレンダーの日付の設定

次の例では、一意の識別子「button1」で識別されるボタンをクリックすると、「calendar1」というカレンダーコントロールに現在の日付が送信されます。

```
function button1_onclick(event) {
  var eventObject = event ? event : window.event;
  var ctrl = eventObject.target ? eventObject.target : eventObject.srcElement;
  // TODO: Add your event handler code here
  IbComposer_setCalendarDate("calendar1",new Date());
}
```

次の例では、一意の識別子「button1」で識別されるボタンをクリックすると、「calendar 1」というカレンダーコントロールに特定の日付 (June 25, 2015) が送信されます。

注意：JavaScript では、月が「0」(January) から開始します。そのため、次の例の「5」の月は June を表します。

```
function button1_onclick(event) {  
    var eventObject = event ? event : window.event;  
    var ctrl = eventObject.target ? eventObject.target : eventObject.srcElement;  
    // TODO: Add your event handler code here  
    var today= new Date();  
    today.setDate(25);  
    today.setMonth(5);  
    today.setYear(2015);  
  
    IbComposer_setCalendarDate("calendar1",today);  
}
```

IbComposer_saveSelectedFile 関数

IbComposer_saveSelectedFile 関数を使用して、[タイプ] プロパティを [ファイル] に設定したテキストボックスで選択したファイルを、[データサーバ] エリアの特定のアプリケーションフォルダにアップロードすることができます。このアップロード先は、テキストボックスの [ファイルのコピー先] プロパティを使用して指定します。

参照 テキストボックスで選択したファイルのアップロード

```
IbComposer_saveSelectedFile("controlId");
```

説明

controlId

文字

アップロードするファイルを選択したテキストボックスの一意の識別子です。

例 テキストボックスで選択したファイルのアップロード

次の例では、一意の識別子「button1」で識別されるボタンをクリックすると、テキストボックス「edit1」で選択したファイルが、[ファイルのコピー先] プロパティを使用して設定した場所にアップロードされます。「edit1」の [タイプ] プロパティは、[ファイル] に設定されています。

```
function button1_onclick(event) {  
    var eventObject = event ? event : window.event;  
    var ctrl = eventObject.target ? eventObject.target : eventObject.srcElement;  
    // TODO: Add your event handler code here  
    IbComposer_saveSelectedFile("edit1")  
}
```

IbComposer_loadFromSelectedFile 関数

IbComposer_loadFromSelectedFile 関数を使用して、[タイプ] プロパティを [ファイル] に設定したテキストボックスで選択したファイルを、HTML ページのコンテナに表示することができます。

参照 テキストボックスで選択したファイルの表示

```
IbComposer_loadFromSelectedFile(controlId,containerId,callback);
```

説明

`controlId`

文字

アップロードするファイルを選択したテキストボックスの一意の識別子です。

`containerId`

文字

[`controlId`] を使用して選択したファイルを表示するコンテナの一意の識別子です。ブラウザの新しいウィンドウにファイルを表示する場合は、[_blank] を使用します。

`callback`

文字

選択した項目をロードする際に呼び出す関数です。

例 テキストボックスで選択したファイルの表示とアップロード

次の例では、一意の識別子「button1」で識別されるボタンをクリックすると、テキストボックス「edit1」で選択したファイルのプレビューが、「image1」というイメージコンポーネントに表示されます。また、IbComposer_saveSelectedFile 関数を呼び出してこのファイルを指定した場所に保存します。

```
function button1_onclick(event) {
  var eventObject = event ? event : window.event;
  var ctrl = eventObject.target ? eventObject.target : eventObject.srcElement;
  // TODO: Add your event handler code here
  var saveFn = IbComposer_saveSelectedFile("edit1");
  IbComposer_loadFromSelectedFile("edit1", "image1", saveFn)
}
```

関数 - getImageScale

HTML ページにイメージマーカーを使用する ESRI マップを作成する場合、getImageScale 関数を使用して、マップをズームインまたはズームアウトした際に、イメージを拡大、縮小できるようにすることができます。これにより、マップをズームアウトした際に、イメージマーカーが過度に重なり合わないようにしてマップの可読性を高めるとともに、ズームインした際のイメージの適切なサイズを維持することが可能になります。また、イメージの最大および最小サイズを設定することで、マップに含まれるマーカーの数に関わらず、イメージがマップに適切に収まるようにすることができます。

getImageScale 関数にはイベントが必要なく、埋め込み JavaScript に直接追加することができます。

参照 マップズームレベルによるイメージサイズ変更の構成

```
function getImageScale(layerName,scaleObj)
{
    scaleObj.scale=boolean;
    scaleObj.minSz=minSize;
    scaleObj.maxSz=maxSize;
}
```

説明

layerName

設定不要の静的な値です。イメージマーカーを使用するすべてのマップレイヤは、getImageScale 関数の影響を受けます。

scaleObj

この名前 (例、scaleObj) は、scale、minSz、maxSz プロパティのオブジェクト名と一致させる必要があります。

boolean

真偽値

イメージのサイズ変更を有効にする場合は true、無効にする場合は false に設定します。

minSize

整数

イメージの最小の高さをピクセル単位で指定します。最小サイズは、マップから完全にズームアウトした際に使用されます。この値は、[設定] パネルで設定されたイメージマーカーのサイズを上書きしますが、高さとの比率は保持されます。

`maxSize`

整数

イメージの最大の高さをピクセル単位で指定します。最大サイズは、マップから完全にズームインした際に使用されます。この値は、[設定] パネルで設定されたイメージマーカーのサイズを上書きしますが、高さとの比率は保持されます。

例 マップズームレベルでのイメージサイズ変更の構成

次の例では、マップのイメージマーカーの最小サイズはすべて 15 ピクセル、最大サイズは 60 ピクセルに設定されています。HTML ページを実行すると、ズームインした場合にマーカーの高さが最大 60 ピクセルに拡大され、ズームアウトした場合に 15 ピクセルまでに縮小されます。

```
function getImageScale(layerName, scaleObj)
{
    scaleObj.scale=true;
    scaleObj.minSz=15;
    scaleObj.maxSz=60;
}
```

イベントハンドラ

onclick などの標準的なイベントハンドラに加えて、コントロールのロードの前後にアクションを実行する 2 つのイベントハンドラがあります。

- ❑ **onbeforeload** コントロールのロード前に、値で指定するアクションを実行します。
- ❑ **onafterload** コントロールのロード後に、値で指定するアクションを実行します。

例 コントロールロード前の表示値の変更

次の例では、onbeforeload イベントを使用して、値「DATSUN」の表示値を「Modified」に変更します。

```
//Begin function listbox1_onbeforeload
function listbox1_onbeforeload(ctrl,arrValuesToLoad) {
for(var i = 0; i < arrValuesToLoad.length; i++) {
    //alert(arrValuesToLoad[i].dispValue + " " + arrValuesToLoad[i].value
+ " " + arrValuesToLoad[i].selected);
    if (arrValuesToLoad[i].value == 'DATSUN')
    {
        arrValuesToLoad[i].dispValue = 'Modified';
    }
}
//End function listbox1_onbeforeload
```

例 値のロード後にコントロールから別コントロールに値をコピー

次の例では、onafterload イベントハンドラを使用して、コントロールから別のコントロールに値をコピーします。

```
//Begin function listbox1_onafterload
function listbox1_onafterload(ctrl)
{
    IbComposer_getComponentById("listbox2").innerHTML =
IbComposer_getComponentById("listbox1").innerHTML }
//End function listbox1_onafterload
```

注意：コントロールに 101 個以上の値が存在する場合、一度にロード可能な値は 100 個までに制限され、すべての値がロードされるまで、処理が繰り返されます。JavaScript を次のように変更する必要があります。

```
function listbox1_onafterload(ctrl)
{ if (arguments && arguments.length==2 && arguments[1])
IbComposer_getComponentById("listbox2").innerHTML =
IbComposer_getComponentById("listbox1").innerHTML
}
```

この JavaScript は、100 個の項目がリストボックスのドロップダウンコントロールに追加されるたびに、段階的に呼び出されます。追加のパラメータ (true/false arguments[1]) が送信されます。100 個の項目の段階的ロードのそれぞれで false が設定され、最終コールの時点で true が設定されます。

レスポンス Web ページの作成

レスポンス Web デザインは、さまざまなサイズのウィンドウや画面に適合するようにコンテンツのレイアウトが自動的に再調整される、Web ページの作成手法です。この手法を使用すると、単一 HTML ファイルのコンテンツが、デスクトップ、ラップトップ、タブレット、スマートフォンなどの複数のデバイスに適合するように自動的に調整されます。



レスポンスページでは、一般の HTML ページと異なり、画面サイズの変更に反応して各コンテナの配置が自動的に変更されます。画面サイズが変わると、一般の HTML ページではコンテンツの一部と横スクロールバーが表示されますが、レスポンスページではコンテンツ全体が表示された状態で配置が変更され、横スクロールバーは表示されません。

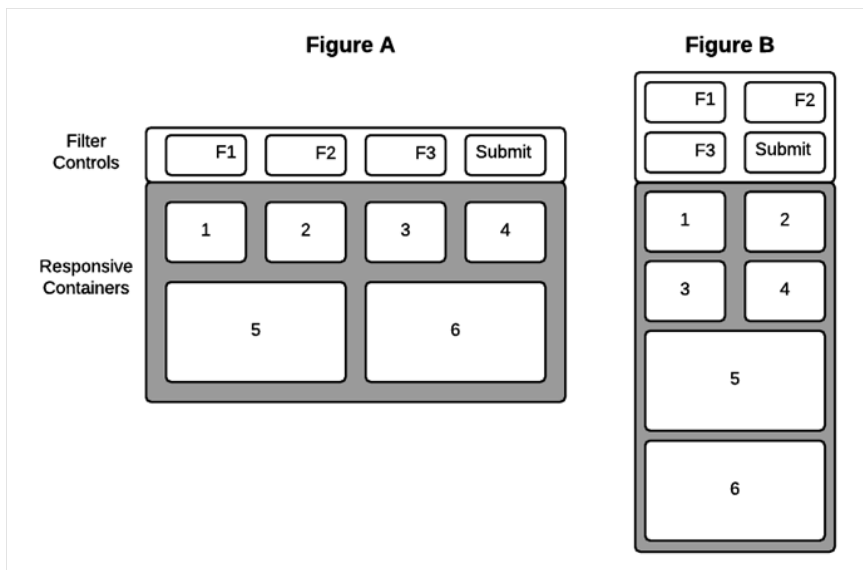
レスポンスコンテナの折り返し動作

レスポンスページが画面サイズの変更に反応する動作は「折り返し」と呼ばれます。ここでは、画面サイズの変更に反応してレスポンスコンテナが折り返し (配置変更) される動作について説明します。下図は、レスポンスコンテナがどのように折り返されるかを示しています。

図 A 行を基準にした 4 列と 2 列のレスポンスレイアウトを示しています。つまり、1 行目に 4 つのコンテナ、2 行目に 2 つのコンテナが配置されています。

図 A には、4 つのコントロールが配置されたフィルタ行も表示されています。このフィルタ行は、実行時に非表示にすることも、表示することもできます。

図 B 画面幅を狭くした際にコンテナがどのように折り返されるかを示しています。各コンテナのコンテンツは、画面幅の変更に応じてサイズが調整されます。



注意：レスポンシブコンテナ内のオブジェクトは、絶対位置に配置されます。つまり、これらのオブジェクトは折り返されません。各レスポンシブコンテナは互いに相対関係で折り返されますが、コンテナ内のオブジェクトの位置は固定されます。

レスポンシブコンテナ内のオブジェクトは、定義された境界まで拡大縮小されます。詳細は、287 ページの「[パネルサイズの最大値および最小値を設定するには](#)」を参照してください。ただし、コンテナ内のオブジェクトは折り返されません。

手順

フロー方向プロパティを使用して折り返しを制御するには

レスポンシブコンテナが自動的に折り返される際の列または行の折り返し方向を制御することができます。

1. レスポンシブ HTML ページ上のコンテナを選択します。
2. [プロパティ] パネルの [レスポンシブデザイン] セクションの [フロー方向] プロパティでドロップダウン矢印をクリックし、次のいずれかを選択します。

☐ **設定しない** 利用可能な領域に応じてコンテナを折り返します (デフォルト)。

□ 行 行を基準にコンテナを横方向に折り返します。

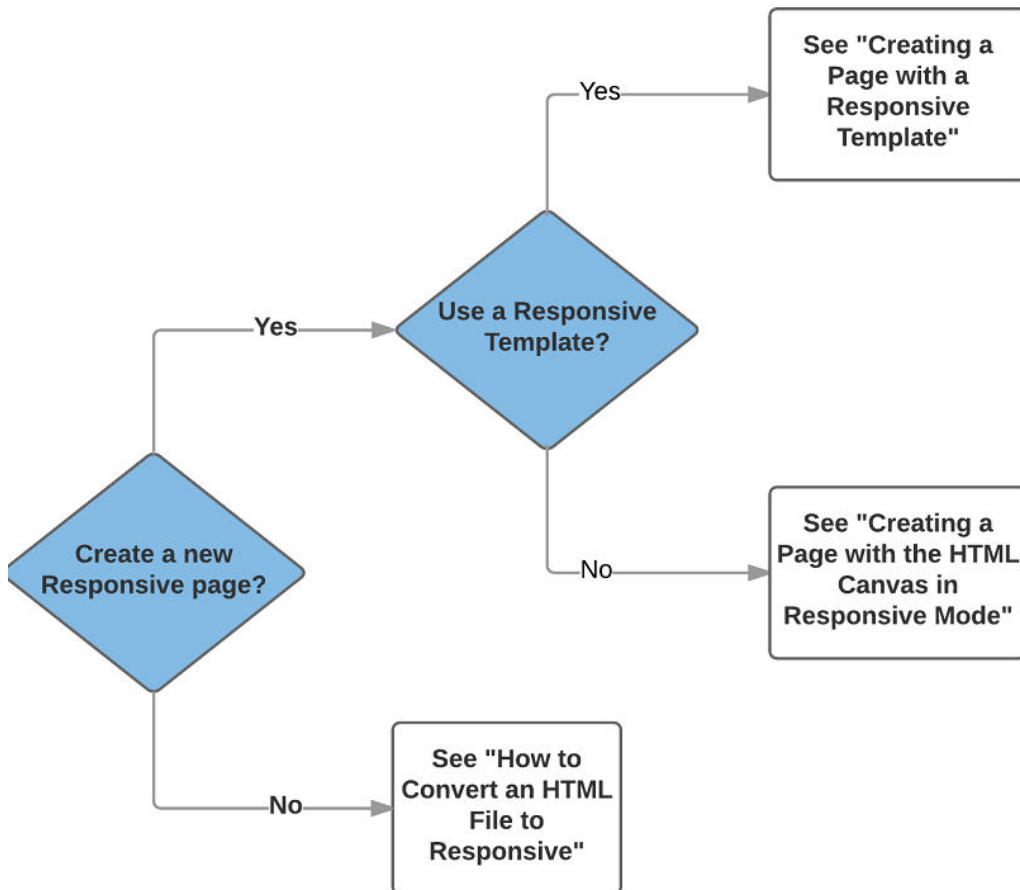
□ 列 列を基準にコンテナを縦方向に折り返します。

注意：[フロー方向] プロパティは、レスポンス非対応の要素が含まれたレスポンスコンテナには表示されません。たとえば、レスポンスパネルにプッシュボタンを配置すると、パネルの [フロー方向] プロパティが無効 (非表示) になります。この制限を回避するには、プッシュボタンを右クリックし、コンテキストメニューから [選択項目を新規コンテナに追加] を選択します。これで、元のパネルをクリックした際に、[フロー方向] プロパティが再び有効になります。

3. ページを実行します。ブラウザのサイズを変更し、折り返し動作を確認します。

レスポンシブページの作成方法の選択

Developer Workbench でレスポンシブページを作成する方法には、レスポンシブテンプレートを使用する方法と、HTML キャンバスでレスポンシブモードを使用する方法があります。下図は、レスポンシブページを作成する際に、最適な方法をすばやく決定するためのフローチャートを示しています。



1. **レポートテンプレートの使用** この方法では、定義済みテンプレートまたはデザイン時に作成したレイアウトにレスポンシブ出力ウィジェットコンテナを挿入することでページを作成することができます。HTML/ドキュメントウィザードを使用して、行基準のレイアウトにするか、列基準のレイアウトにするかを指定します。

主な特徴

下図のように、レスポンシブテンプレートの主な特徴は出力ウィジェットコンテナです。



出力ウィジェットコンテナには、次の機能があります。

- ❑ **タイトルバー** 編集可能なテキストタイトルを表示します。
- ❑ **イメージ** 会社のロゴなどのイメージをタイトルバーの左側に挿入することができます。
- ❑ **矢印ボタン** タイトルバー右側の矢印をクリックして、ウィジェットレベルのコントロールの表示と非表示を切り替えます。
- ❑ **最大化ボタン** タイトルバー右側の最大化ボタンをクリックして、ウィジェットのコンテンツを最大化表示にしたり、元のサイズに戻したりできます。

作成するレスポンシブページに 1 つまたは複数の出力ウィジェットコンテナを配置する場合、レスポンシブテンプレートを使用する方法が最も効率的です。この方法は、新しいレスポンシブ HTML ファイルを作成する場合にのみ使用します。詳細は、276 ページの「[レスポンシブテンプレートによるページの作成](#)」を参照してください。

2. **HTML キャンバスでのレスポンシブモードの使用** この自由形式の方法を使用して、レイアウトが定義されていないレスポンシブページを作成することができます。この手動方法では、テンプレートを使用する手法より時間を要する場合がありますが、種類の異なる多数のコンテナを配置したレスポンシブページを作成する場合に適しています。

この方法は、既存の HTML ファイルをレスポンシブページに変換する場合にも使用できます。詳細は、290 ページの「[レスポンシブモードの HTML キャンバスでのページ作成](#)」を参照してください。

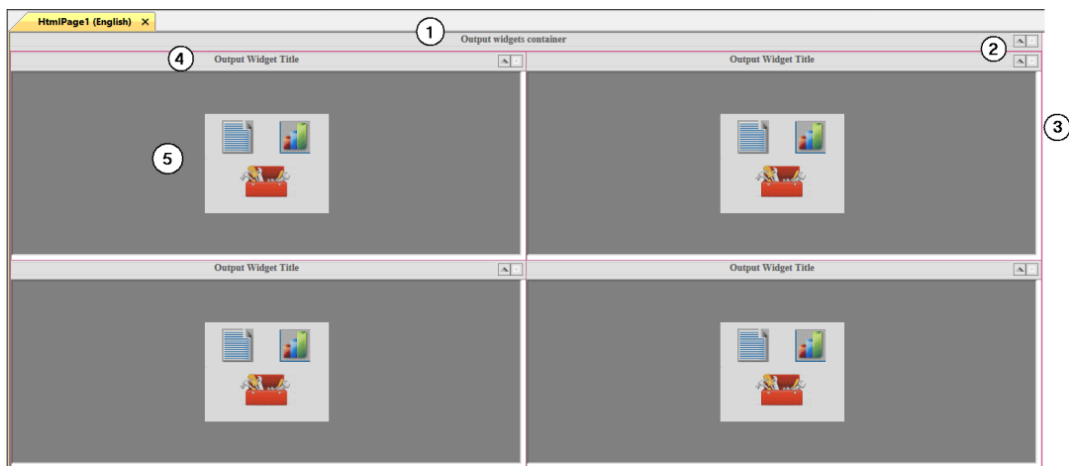
レスポンシブテンプレートによるページの作成

HTML/ドキュメントウィザードでは、6 種類の定義済みレスポンシブテンプレートを選択することができます。これらのテンプレートは、よく使用されるページレイアウトを表しています。テンプレートのレイアウトをそのまま使用することも、テンプレートを使用してレイアウトを作成した後、そのレイアウトを変更することもできます。

定義済みテンプレートを使用する代わりに、HTML/ドキュメントウィザードでカスタムテンプレートを選択し、デザイン時にカスタムページレイアウトを作成する方法もあります。行数および列数を指定し、ページを行基準の方向にするか、列基準の方向にするかを選択することができます。これらのオプションおよび他のページオプションについての詳細は、以下のセクションで説明します。

レスポンシブテンプレートの理解

HTML/ドキュメントウィザードでレスポンシブテンプレートを選択すると、指定された行数(または列数) とウィジェットコンテナ数のレスポンシブレイアウトが生成されます。下図は、[2-2] レスポンシブテンプレートを使用して生成されたレスポンシブレイアウトを構成要素別に示しています。



ドキュメント 上図では注釈番号は付けられていませんが、レスポンシブテンプレートからHTML ドキュメントが生成されます。ドキュメントレベルでは、[プロパティ] パネルで編集可能な次のレスポンシブプロパティが表示されます。

次のプロパティは、DOCUMENT オブジェクトを選択した場合に、[プロパティ] パネルの [レスポンスデザイン] セクションで設定できます。

- ❑ **フロー方向** レスポンシブコンテナのサイズ調整方法を制御することができます。このプロパティを [設定しない] にしておくことも、行で折り返すか列で折り返すかを指定することもできます。
- ❑ **レスポンシブコンテナの作成** [はい] に設定した場合、ドキュメントに追加されたオブジェクトのレスポンス動作が自動的に有効になります。レスポンステンプレートでは、デフォルト設定で有効化されます。
- ❑ **グローバルレスポンスマージン** ページ上のすべてのレスポンスコンテナ周囲の上下左右のマージンをピクセル単位で定義します。テンプレートには、デフォルトでマージンが設定されていません。
- ❑ **RESPONSIVE：最小幅** ページサイズの最小幅 (ピクセルまたはパーセント) を設定します。ページサイズがこの値より縮小されることはなくなります。デフォルト最小幅は 320 ピクセルです。
- ❑ **RESPONSIVE：最大幅** ページサイズの最大幅 (ピクセルまたはパーセント) を設定します。ページサイズがこの値より拡大されることはなくなります。この値で、デザイン時のキャンバスの幅も定義されます。この境界は、上図の項目 3 で示すように、キャンバス右側に黒色の縦線で表されます。デフォルト最大幅は [フルスクリーン] です。

実行時には、ブラウザ全体にレイアウトが表示されます。

次のプロパティは、DOCUMENT オブジェクトを選択した場合に、[プロパティ] パネルの [その他] セクションで設定できます。

- ❑ **iFrame オブジェクトへのロード** BI Portal で使用するために、ページ全体をウィジェット (単一 DIV 項目) としてロードします。このプロパティのデフォルト値は [はい] です。

1 主要ウィジェット [プロパティ] パネルでは「windowPanel1 <DIV>」として定義され、デフォルトタイトルは「出力ウィジェットコンテナ」です。

次のプロパティは、主要ウィジェットのオブジェクトを選択した場合に、[プロパティ] パネルの [レスポンスデザイン] セクションで設定できます。

- ❑ **フレックス拡張** ウィンドウサイズを変更した際に、HTML ページの他の項目と相対した項目の展開順序を数値を使用して指定します。

次のプロパティは、主要ウィジェットオブジェクトを選択した場合に、[プロパティ] パネルの [出力ウィジェット] セクションで設定できます。

- ❑ **テンプレート方向** コンテンツの折り返しを行基準にするか、列基準にするかを指定します。デフォルト方向は [行基準] です。この設定を変更するには、[列基準] を選択します。
- ❑ **ウィジェットタイトル** ウィジェットのデフォルトタイトルを削除し、ページコンテンツ全体の意味を表すタイトルを入力することができます。
- ❑ **イメージの表示** ウィジェットの左上にイメージを表示することができます。デフォルト設定は [はい] です。
- ❑ **イメージソース** 表示するイメージを選択することができます。イメージの選択後、イメージファイルのパスが表示されます。
- ❑ **入力パネルの自動非表示** ページ内のコンテンツにフィルタを適用するコントロールの行をデフォルト設定で非表示にします。コントロールの行を常に表示するには、[いいえ] を選択します。
- ❑ **アニメーションの選択** このウィンドウパネルに設定されているアニメーションを選択することができます。

2 ウィジェット表示ボタン ページの右上、およびページ内の各ウィジェットの右上に矢印ボタンとボックスボタンが表示されます。矢印ボタンをクリックして、コントロールの行の表示と非表示を切り替えます。ボックスボタンをクリックして、ウィジェットを最大表示にするか、元のサイズに戻すかを切り替えます。

3 縦のデザイン境界 キャンバスの右端に表示され、[プロパティ] パネルのドキュメントレベルで設定されたレスポンス最大幅を示す線です。デフォルト値は 1500 ピクセルです。

4 ウィジェットタイトル [プロパティ] パネルでは「windowPanel2 <DIV>」として定義され、デフォルトのウィジェットタイトルは「出力ウィジェットタイトル」です。[プロパティ] パネルでデフォルトタイトルを削除し、別のウィジェットタイトルを入力することができます。デザイン時には、ウィジェットタイトルとコンテンツの周囲に赤色の枠線が表示され、そのコンテナがレスポンスコンテナであることが示されます。

5. ウィジェットコンテンツ [プロパティ] パネルでは「iframe1 <IFRAME>」として定義され (1 つ目のウィジェット)、ウィジェットを右クリックして、次のコンテンツを追加することができます。

- ❑ **既存プロシージャの参照** ウィジェットで既存のプロシージャを参照します。
- ❑ **マップ** このオプションは、Db2 Web Query には適用されません。マップの挿入は、[既存プロシージャの参照] オプションを使用して実行することができます。

- ❑ **ESRI** ウィジェット内に新しい emf オブジェクトを作成します。このオプションは、Db2 Web Query には適用されません。マップの挿入は、[既存プロシジャの参照] オプションを使用して実行することができます。
- ❑ **ツールボックスとして使用** 必要に応じてウィジェットを使用するための一般オプションです。たとえば、特定のアクションを実行するためのボタンを作成する場合があります。

レスポンシブテンプレートから生成されたページのコンテンツは、実行時に左から右、上から下の順序でロードされます。

レスポンシブページに見出しを追加するには、タイトルバーを右クリックし、コンテキストメニューから [ページ見出しの追加] を選択します。別の方法として、HTML/ドキュメントウィザードで [ページ見出しの追加] オプションを選択することもできます。詳細は、次の手順に記載されています。

手順

レポートテンプレートを選択するには

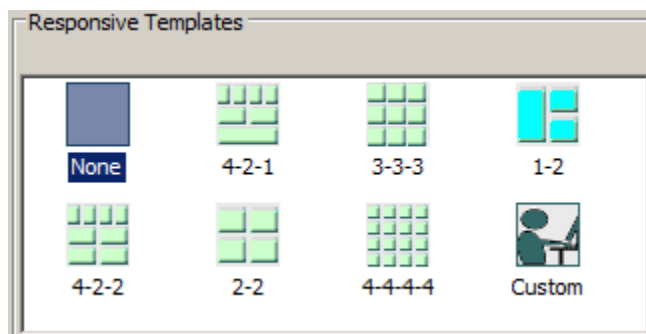
HTML/ドキュメントウィザードでレスポンシブテンプレートを選択するには、次の手順を実行します。

1. 次のいずれかの方法で HTML/ドキュメントウィザードを開きます。
 - a. [ホーム] タブの [コンテンツ] グループで、[HTML/ドキュメント] をクリックします。
 - b. [環境ツリー] パネルでアプリケーションフォルダを右クリックし、[新規作成]、[HTML/ドキュメント] を順に選択します。

HTML/ドキュメントウィザードが開きます。上記の a の方法を使用した場合、HTML/ドキュメントウィザードのナビゲーションウィンドウで、新しいファイルの保存先フォルダを指定することができます。

2. [次へ] をクリックします。

下図のように、[テンプレート、設定、テーマ] ウィンドウが開き、[レスポンシブテンプレート] セクションが表示されます。



3. 使用するレスポンステンプレートを選択します。

- ❑ [なし] を選択すると、レスポンス非対応の一般的な HTML キャンバスが開きます。
- ❑ [カスタム] を選択すると、レスポンステンプレートから提供されるレイアウトと異なるレイアウトをデザインすることができます。詳細は、289 ページの「[カスタムレイアウトを作成するには](#)」を参照してください。

この手順では、[なし] および [カスタム] は選択しないでください。

4. ページ下部の [入力コントロール] セクションで、次のいずれかを選択します。

- ❑ 入力コントロールパネルを非表示にするには、[常に非表示] を選択します。これがデフォルト値です。ユーザは、実行時にタイトルバーの下向き矢印をクリックしてパネルを表示することができます。
 - ❑ 入力コントロールパネルを表示するには、[常に表示] を選択します。実行時にユーザがこのパネルを非表示にするには、タイトルバーの上向き矢印をクリックします。
 - ❑ ページレベルの代わりに (またはページレベルに加えて) ウィジェットレベルのコントロールを使用する場合は、[単一入力コントロールパネルの使用] のチェックをオフにします。
5. ページをはじめて開いた際にすべてのウィジェットのコンテンツをロードするには、[ロード時にリクエストを実行] を選択します。
6. [Panel1 <DIV>] レスポンスコンテナのタイトルバーの上側にブランク領域を追加するには、[ページ見出しの追加] を選択します。たとえば、この領域に会社のロゴなどのイメージを追加することができます。
7. [完了] をクリックして、HTML/ドキュメントウィザードを閉じます。

HTML キャンバスが開き、選択したテンプレートに対応するレスポンスレイアウトが自動的に生成されます。

注意: レスポンスレイアウトをデザインする際のベストプラクティスとして、Developer Workbench の画面をフルスクリーンにすることをお勧めします。これにより、画面をスクロールせずに最大数のウィジェットへのアクセスが可能になります。

参照

レスポンステンプレートのウィジェットへのオブジェクト挿入

レスポンステンプレートから生成されたレイアウトでは、レスポンスコンテナ内にブランクのウィジェットが配置されます。ここでは、ウィジェットへのオブジェクトの追加および編集に関するガイドラインについて説明します。

- ❑ 見出しにコンテンツを追加するには、[コンポーネント] タブで要素をクリックし、見出し領域内でマウスポインタをドラッグして要素を描画します。

ページ見出しの高さを増加するには、タイトルバーをクリックし、下方向にドラッグしてタイトルバー上側の領域を広くします。見出し領域をクリックして、レスポンス赤色枠線をハイライトします。赤色枠線の下境界線をドラッグして、見出しの高さを増加します。

- ❑ ウィジェットのタイトルを変更するには、デフォルトタイトルの [出力ウィジェットタイトル] をクリックして [プロパティ] パネルを開きます。[ウィジェットタイトル] テキストボックスに、新しいウィジェットタイトルを入力します。
- ❑ ウィジェットタイトルバーの左上にイメージを表示するには、[イメージの表示] プロパティ値を [はい] に設定します。[イメージソース] テキストボックスを使用して、表示するイメージファイルを検索します。
- ❑ ウィジェットにオブジェクトを追加するには、ウィジェットを右クリックしてコンテキストメニューを表示します。[既存プロシジャの参照] をクリックします。

注意：レスポンステンプレートから生成されたレイアウトを使用する場合、そのレイアウト外部のキャンバスにオブジェクトを追加することはできません。

- ❑ ウィジェットに複数のオブジェクトを追加するには、リボン上で追加オブジェクトをクリックし、ウィジェット内でオブジェクトを描画します。たとえば、[コンポーネント] タブの [レポート] グループで [レポート] ボタンをクリックし、別のオブジェクトが配置されているウィジェット内でレポートオブジェクトを描画します。新しいレポートオブジェクトを配置するためのボックスが自動的に描画されます。

注意：レスポンスコンテナ内のすべてのオブジェクトは、レスポンスオブジェクトである必要があります。レスポンスオブジェクトと非レスポンスオブジェクトの両方を同一のレスポンスコンテナに挿入することはできません。

- ❑ ウィジェット周囲の上下左右に同一マージンを設定するには、ウィジェットの [<IFRAME>] レベルの [マージン] プロパティにピクセル単位で値を入力します。
- ❑ ウィジェット内のコンテンツを別のウィジェットに移動するには、[配置] タブの [レスポンスデザイン] グループで [選択の切り替え] をクリックします。現在のウィジェットから別のウィジェットにコンテンツをドラッグし、[ユーティリティ] タブの [ランタイムプレビュー] をクリックします。

手順

ウィジェットを追加または削除するには

デザイン時にレスポンスページのレイアウトを変更するには、次の手順に従ってウィジェットを追加または削除します。

1. レスポンス HTML ページを開きます。

2. ウィジェットを追加するには、次のいずれかの方法を使用します。
 - a. 新しいウィジェットの追加先に隣接するウィジェットを選択します。そのウィジェットのタイトルバーを右クリックし、コンテキストメニューから [新規ウィジェットを前に挿入] または [新規ウィジェットを後に挿入] を選択します。

新しいウィジェットが追加されます。
 - b. 別の方法として、HTML ページのタイトルバーを右クリックし、コンテキストメニューから [テンプレートの構成] を選択することもできます。[テンプレートの構成] ダイアログボックスに、行数 (または列数) の構成が表示されます。たとえば、[2-2] と表示されます。

新しいウィジェットを追加するために、行数または列数の構成を変更します。たとえば、新しいウィジェットを 2 行目に追加するには、値を [3-3] に変更します。

新しいウィジェットが追加されます。
3. ウィジェットを削除するには、次のいずれかの方法を使用します。
 - a. 削除するウィジェットを選択します。そのウィジェットのタイトルバーを右クリックし、コンテキストメニューから [削除] を選択します。

ウィジェットが削除されます。
 - b. 別の方法として、HTML ページのタイトルバーを右クリックし、コンテキストメニューから [テンプレートの構成] を選択することもできます。[テンプレートの構成] ダイアログボックスに、行数 (または列数) の構成が表示されます。たとえば、[3-2] と表示されます。

ウィジェットの個数を減らすために、行数または列数の構成を変更します。たとえば、1 行目からウィジェットを削除するには、値を [2-2] に変更します。

ウィジェットが削除されます。

手順

ウィジェットに別のオブジェクトを追加するには

次の手順に従って、出力ウィジェットに複数のオブジェクト (例、レポート、グラフ) を追加することができます。

1. ウィジェットに配置されているオブジェクトをクリックします。
 - ❑ ウィジェットにレポートまたはグラフが配置されている場合、別のレポートまたはグラフを追加することはできませんが、その他のタイプのオブジェクトを追加することはできません。
 - ❑ ウィジェットにツールボックスが配置されている場合、別のレポートまたはグラフを追加することはできませんが、デフォルト設定で [自動サイズ変更] オプションは無効になります。このオプションを手動で設定する必要があります。

[プロパティ] パネルを開き、[iFrame] が選択されていることを確認します。

2. [コンポーネント] タブで、追加するオブジェクトをクリックします。たとえば、[レポート] または [グラフ] をクリックします。

ウィジェットは縦方向に分割することも (2 つのオブジェクトを横に並べて配置)、横方向に分割することもできます (2 つのオブジェクトを縦に並べて配置)。カーソルをウィジェットの右側または左側、あるいは上側または下側に移動します。

既存のコンテンツがカーソルの反対側に自動的に移動します。

3. 新しいオブジェクトを挿入する側をクリックします。

ウィジェットが 2 つの列または行に自動的に均等分割されます。選択した側に、iFrame 内のレポートアイコンまたはグラフアイコンが表示されます。

注意：新しい iFrame を追加した後、その追加操作を取り消す場合は、iFrame を右クリックし、[削除] を選択することができます。ただし、元の iFrame は自動的に拡大されず、ウィジェット内の元の領域全体には戻りません。実行時には、元の iFrame のコンテンツが領域全体に表示されます。デザイン時には、部分的な表示状態のまま残ります。デザイン時のページ外観を実行時と同様の外観にするには、元の iFrame をクリックし、ウィジェットの領域全体に収まるよう手動でドラッグします。

4. アイコンを右クリックし、コンテキストメニューからオプションのいずれかを選択して、新しいオブジェクトを作成します。たとえば、[既存プロシジャの参照] オプションを選択します。
5. ウィジェットのタイトルバーをクリックして [プロパティ] パネルを開きます。[列数] プロパティは、デフォルト設定で [自動] に指定されています。ドロップダウンリストを使用して、ウィジェットに配置する列数を選択します。2 つのオブジェクトを横に並べる場合は [2] を選択します。2 つのオブジェクトを縦に並べる場合は [1] を選択します。

ページを実行して、複数のオブジェクトが配置されたウィジェットをプレビュー表示し、変更後のコンテンツが正しく表示されることを確認します。

手順

レスポンスページでページレベルのコントロールを適用するには

作成するレスポンスページに、同一のコントロールを使用する複数のレポートを配置することがよくあります。たとえば、複数のレポートが配置されているページで、ユーザが特定の地域および月を選択した際に、その地域および月を複数のレポートで表示したい場合があります。この場合、共通のコントロールをページレベルで適用することができます。

また、ページに配置されているレポートで、これらの共通のコントロールとは異なるコントロールが使用されている場合もあります。この場合、285 ページの「[レスポンスページでウィジェットレベルのコントロールを適用するには](#)」の手順に従って、追加のコントロールをウィジェットレベルで適用することができます。

次の手順では、ページレベルでコントロールを適用する方法について説明します。

1. 共通のコントロールを使用する複数のレポートまたはグラフを作成し、279 ページの「[レポートテンプレートを選択するには](#)」の手順に従って、レスポンスレイアウトのウィジェットにこれらのレポートまたはグラフを追加します。

コントロールが含まれたレポートをウィジェットに追加すると、[新規パラメータ] ダイアログボックスが開きます。このダイアログボックスを使用して、複数のコントロールに連鎖を設定します。連鎖を設定すると、連鎖内の 1 つ目のコントロールから選択された値に基づいて、2 つ目のコントロールの値がフィルタされます。たとえば、State コントロールと City コントロールに連鎖が設定されている場合、州の値が選択された時点で、その州に属する都市名のみが City コントロールに表示されます。

詳細は、218 ページの「[HTML キャンバスでの連鎖の設定](#)」を参照してください。

2. ページを実行します。次の点に注意してください。

❑ コントロールの名前および値は、タイトルバーのページタイトル末尾に追加されます。

❑ コントロール入力パネルは表示されません。これがデフォルト値です。

3. タイトルバー右上の下向き矢印をクリックして、コントロールの入力パネルを表示します。

HTML 出力を閉じ、HTML キャンバスに戻ります。

4. ページを開いた際にコントロールの入力パネルが表示されるよう設定するには、次の手順を実行します。

- a. タイトルバーをクリックして [プロパティ] パネルを開きます。

[windowPanel1 <DIV>] レベルのプロパティが表示されます。

- b. [入力パネルの自動非表示] の値を [いいえ] に変更します。

- c. ページを実行します。コントロール入力パネルが表示されます。

5. 入力パネルの左側にコントロールを表示するには、次の手順を実行します。

- a. コントロール入力パネルをクリックして [プロパティ] パネルを開きます。

- b. [コントロールパネル] の値を [はい] に変更します。

- c. ページを実行し、ページを拡大してフルスクリーンにします。入力パネル内の複数のコントロールすべてがパネルの左側 (ユーザが期待する位置) に表示されます。

[コントロールパネル] の値を [はい] に設定していない場合、ページサイズが大きくなると、これらのコントロールが自動的に右側に展開され、ページ幅全体が使用されます。

ユーザがコントロール入力パネルで値を選択すると、選択した値が、そのコントロールを共有するレポートのすべてに適用されます。

手順

レスポンスページでウィジェットレベルのコントロールを適用するには

作成するレスポンスページに、同一のコントロールを使用する複数のレポートを配置することがよくあります。たとえば、複数のレポートが配置されているページで、ユーザが特定の地域および月を選択した際に、その地域および月を複数のレポートで表示したい場合があります。この場合、283 ページの「[レスポンスページでページレベルのコントロールを適用するには](#)」の手順に従って、共通のコントロールをページレベルで適用することができます。

また、ページに配置されているレポートで、これらの共通のコントロールとは異なるコントロールが使用されている場合もあります。この場合、追加のコントロールをウィジェットレベルで適用することができます。

次の手順では、ページレベルで別のコントロールが使用されている場合に、ウィジェットレベルでコントロールを適用する方法について説明します。

1. ページレベルのコントロールを使用するレスポンス HTML ファイルを開きます。たとえば、283 ページの「[レスポンスページでページレベルのコントロールを適用するには](#)」の手順に従って作成したファイルを開きます。

281 ページの「[ウィジェットを追加または削除するには](#)」の手順に従って、新しいウィジェットを行に追加します。

2. コントロールを使用するレポートまたはグラフを作成し、新しいウィジェットに追加します。この手順の目的から、このページの他のレポートで使用されているコントロールと異なるコントロールを使用します。

コントロールが含まれたレポートをウィジェットに追加すると、[新規パラメータ] ダイアログボックスが開きます。このダイアログボックスでは、デフォルト設定でコントロールを作成するよう指定されています。[OK] をクリックします。

3. ページを実行します。デフォルト設定では、新しいウィジェットにコントロール入力パネルが表示されます。
4. 新しいウィジェットでコントロール入力パネルを非表示にするには、次の手順を実行します。
 - a. 281 ページの「[ウィジェットを追加または削除するには](#)」の手順に従って、新しいウィジェットを行に追加します。手順 2 で作成したレポートを新しいウィジェットに追加します。

[新規パラメータ] ダイアログボックスが表示されます。

- b. [パラメータグループ化オプション] ドロップダウンリストから [新規シングルレイアウト] を選択し、[OK] をクリックします。

[新規パラメータ] ダイアログボックスが閉じます。入力パネルが非表示になります。

ユーザがページレベルのコントロール入力パネルで値を選択すると、選択した値が、ページ上でそのコントロールを共有するウィジェットのすべてに適用されます。さらに、コントロールを共有しない独立したウィジェットで値を選択することができます。

手順

コントロール入力パネルをアニメーション化するには

レスポンステンプレートを使用してページを作成した場合、ユーザが実行時にコントロール入力パネルを開いたり閉じたりする際に表示されるアニメーションを追加することができます。次の手順に従って、アニメーションを作成して名前を付けた後、そのアニメーションを入力コントロールに対応するウィンドウパネルに適用します。

1. レスポンステンプレートを使用して作成され、入力コントロールが配置されている HTML ページを開きます。
2. [タスクとアニメーション] パネルを開きます。[jQuery アニメーション] セクションで、[新規作成] ボタンをクリックします。

新しいアニメーションが作成され、デフォルト名が自動的に割り当てられます。たとえば、「アニメーション 1」という名前が付けられます。アニメーションの名前を変更するには、デフォルト名をクリックして新しい名前を入力します。

注意: アニメーションのターゲットを [選択済みターゲット] ボックスで指定する必要はありません。このボックスはブランクにします。

3. [効果] セクションで、[タイプ] ドロップダウンリストからアニメーションを選択します。必要に応じて、[オプション] および [値] ドロップダウンリストから値を選択し、指定したアニメーションに適用します。
4. パネルの最下部で、[アニメーションの切り替え] のチェックをオンにします。
これで、アニメーションをウィンドウパネルに適用する準備ができました。
5. レスポンスレイアウトで、コントロール入力パネルを表示するウィジェットのタイトルバーをクリックします。
6. [プロパティ] パネルを開きます。[出力ウィジェット] セクションで、[アニメーションの選択] テキストボックスをクリックします。ドロップダウンリストからアニメーション名を選択します。たとえば、[アニメーション 1] を選択します。
7. HTML ページを実行します。タイトルバーの上下の矢印ボタンをクリックして、コントロール入力パネルを開いたり閉じたりした際のアニメーションを確認します。

手順

パネルサイズの最大値および最小値を設定するには

レスポンシブパネルのサイズは、画面ウィンドウの拡大縮小に応じて自動的に変更されますが、レスポンシブパネルにはデフォルトの最小サイズおよび最大サイズは設定されていません。次の手順に従って、パネルコンテンツが適合するよう最小サイズおよび最大サイズをピクセル単位またはパーセント単位で設定することができます。

注意：レスポンシブページ内のパネルは、最小ページ幅と最大ページ幅の範囲内でサイズ変更されます。これらの値を表示または編集するには、[プロパティ] パネルを開き、パネル上部のドロップダウンリストから [DOCUMENT] を選択します。[RESPONSIVE：最小幅] プロパティのデフォルト値は 320px です。[RESPONSIVE：最大幅] プロパティのデフォルト値は [フルスクリーン] です。

1. コントロールが配置されているレスポンシブパネルをクリックするか、ウィジェットのタイトルバーをクリックして、[プロパティ] パネルを開きます。

[プロパティ] パネルの [windowPanel <DIV] レベルには、[最小幅]、[最大幅]、[最小高さ]、[最大高さ] プロパティがあります。デフォルト設定では、これらの値はブランクです。

2. ピクセル数またはパーセント値を直接入力することができます。たとえば、「50px」や「50%」と入力します。

別の方法として、次の手順のようにコンテキストメニューを使用することもできます。

3. コントロールが配置されているレスポンシブパネルを右クリックするか、ウィジェットのタイトルバーを右クリックします。コンテキストメニューから [サイズの更新] を選択します。

[サイズの更新] のサブメニューが表示されます。

[最小サイズの更新] を選択すると、現在選択されているコンテナのサイズ (ピクセル数またはパーセント値) が [最小幅] および [最小高さ] プロパティに挿入されます。この場合、このコンテナは、レスポンシブレイアウトに表示されているサイズより小さくなることはありません。

注意：[最小サイズの更新] を選択した場合、デザイン時にオブジェクトサイズは変更されませんが、実行時にはサイズが変更されます。

[現在の値を使用] を選択すると、現在選択されているコンテナのサイズが次のように適用されます。

❑ **最小サイズ** [最小幅] および [最小高さ] プロパティに、選択したコンテナで使用されているピクセル数が挿入されます。

❑ **最大サイズ** [最大幅] および [最大高さ] プロパティに、選択したコンテナで使用されているピクセル数が挿入されます。

- **最小高さ** [最小高さ] プロパティに、選択したコンテナで使用されているピクセル数が挿入されます。
- **最小幅** [最小幅] プロパティに、選択したコンテナで使用されているピクセル数が挿入されます。
- **最大高さ** [最大高さ] プロパティに、選択したコンテナで使用されているピクセル数が挿入されます。
- **最大幅** [最大幅] プロパティに、選択したコンテナで使用されているピクセル数が挿入されます。

手順 実行時にウィジェットをロードするには

状況によっては、ウィジェットに追加したコンテンツが実行時にロードされず、ウィジェットがブランクになる場合があります。この状況は、HTML/ドキュメントウィザードで [ロード時にリクエストを実行] オプションを選択しなかった場合や、新しいウィジェットをレイアウトに追加した場合に発生することがあります。

実行時にウィジェットのコンテンツをロードするよう指定するには、次の手順を実行します。

1. [タスクとアニメーション] パネルを開き、[load] タスク、[ロード時] トリガタイプを順に選択します。
2. [リクエスト/アクション] セクションで、[リクエストの選択] ボタン横の下向き矢印をクリックします。
コンテキストメニューが表示されます。
3. [リクエストの実行] を選択し、iframe を選択します (例、iframe2)。
選択した iframe が [リクエスト/アクション] ボックスに追加され、ハイライト表示されます。
4. [ターゲットタイプ] ドロップダウンリストから [フレーム] を選択します。[ターゲットフレーム] ドロップダウンリストから、ハイライト表示されているフレームに対応する iframe を選択します (例、iframe2)。
5. ページを実行します。
実行時にコンテンツがロードされます。
6. ページ内で実行時にロードされない iframe のすべてに対して上記の手順を繰り返します。

手順 カスタムレイアウトを作成するには

HTML/ドキュメントウィザードの [テンプレート、設定、テーマ] ウィンドウには、6 種類のレスポンシブテンプレートが表示されます。これらは、よく使用されるレイアウトを表しています。これらのレイアウトをそのまま使用することも、いずれかのレイアウトを開始点として使用し、ウィジェット数を増減させたカスタムレイアウトを作成することもできます。詳細は、281 ページの「[ウィジェットを追加または削除するには](#)」を参照してください。

テンプレートを使用する代わりにカスタムレイアウトを作成するには、次の手順を実行します。

1. 次のいずれかの方法で HTML/ドキュメントウィザードを開きます。
 - a. [ホーム] タブの [コンテンツ] グループで、[HTML/ドキュメント] をクリックします。
または
 - b. [環境ツリー] パネルでアプリケーションフォルダを右クリックし、[新規作成]、[HTML/ドキュメント] を順に選択します。

HTML/ドキュメントウィザードが開きます。上記の a の方法を使用した場合、HTML/ドキュメントウィザードのナビゲーションウィンドウで、新しいファイルの保存先フォルダを指定することができます。
2. [次へ] をクリックします。
[テンプレート、設定、テーマ] ウィンドウが開き、[レスポンシブテンプレート] セクションが表示されます。
3. [レスポンシブテンプレート] セクションで [カスタム] を選択します。
4. [完了] をクリックします。
レイアウトが開き、[テンプレートの構成] ダイアログボックスが表示されます。
5. [方向] エリアで、[行基準] または [列基準] を選択します。
6. [行番号の選択] および [行あたりのコンテナ数] テキストボックスで、次のように値を指定します。
 - a. [行番号の選択] テキストボックスに [1] が表示された状態で、[行あたりのコンテナ数] テキストボックスの上下の矢印ボタンを使用して、1 行目に配置するウィジェットの個数を指定します。
注意: ドロップダウンリストを使用します。テキストボックスに値を直接入力することはできません。
 - b. [行番号の選択] ドロップダウンリストから [2] を選択します。

- c. [行あたりのコンテナ数] テキストボックスの上下の矢印ボタンを使用して、2 行目に配置するウィジェットの個数を指定します。
 - d. 必要に応じて上記の手順を繰り返して、カスタムレイアウトを定義します。
[テンプレートの構成] ダイアログボックスを閉じます。
7. 入力コントロールのページレベルの動作を定義には、次の手順を実行します。
- ❑ [プロパティ] パネルの [windowPanel1 <DIV>] レベルで、[入力パネルの自動非表示] プロパティを [はい] に設定します。実行時にユーザがこのパネルを表示するには、タイトルバーの下向き矢印をクリックします。これにより、ページレベルの動作が制御されます。
 - ❑ [プロパティ] パネルの [windowPanel2 <DIV>] レベルで、[入力パネルの自動非表示] プロパティを [はい] に設定します。実行時にユーザがこのパネルを表示するには、タイトルバーの下向き矢印をクリックします。これにより、ウィジェットレベルの動作が制御されます。ウィジェットレベルのコントロールを使用するウィジェットごとに、この手順を繰り返します。
 - ❑ コントロール入力パネルを表示するには、[いいえ] を選択します。実行時にユーザがこのパネルを非表示にするには、タイトルバーの上向き矢印をクリックします。
8. ページ見出しを追加するには、ページのタイトルバーを右クリックし、コンテキストメニューから [ページ見出しの追加] を選択します。たとえば、この領域に会社のロゴなどのイメージを追加することができます。

レスポンシブモードの HTML キャンバスでのページ作成

この自由形式の手法では、未定義のレイアウトでレスポンシブページを作成することができます。この手動方法では、テンプレートを使用する手法より時間を要する場合がありますが、種類の異なる多数のコンテナを配置したレスポンシブページを作成する場合に適しています。この方法は、既存の HTML ファイルをレスポンシブページに変換する場合にも使用することができます。

次のコンテナは、デフォルト設定でレスポンシブオブジェクトです。

- ❑ レポート
- ❑ グラフ
- ❑ フォーム (シングルレイヤ、マルチレイヤ)
- ❑ タブ (上揃え、下揃え、左揃え、右揃え)
- ❑ アコーディオン (縦、横)

- ☐ ウィンドウ
- ☐ 出力ウィジェット
- ☐ グループボックス
- ☐ パネル
- ☐ フレーム

手順

レスポンスモードで新しいコンテンツを作成するには

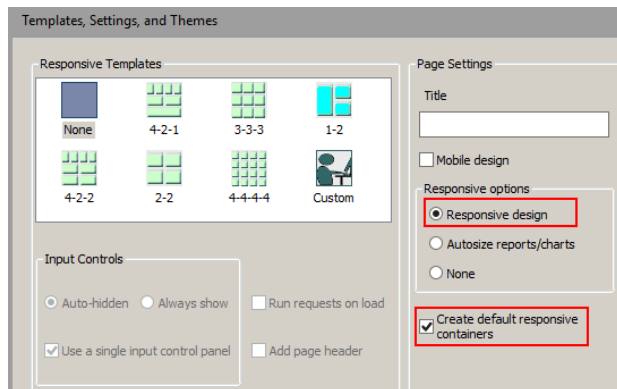
次の手順に従って、レスポンスモードの HTML キャンバスで新しいレスポンスコンテンツを作成することができます。

1. 次のいずれかの方法で HTML/ドキュメントウィザードを開きます。
 - a. [ホーム] タブの [コンテンツ] グループで、[HTML/ドキュメント] をクリックします。
 - b. [環境ツリー] パネルでアプリケーションフォルダを右クリックし、[新規作成]、[HTML/ドキュメント] を順に選択します。

HTML/ドキュメントウィザードが開きます。

2. [次へ] をクリックします。

下図のように、[テンプレート、設定、テーマ] ウィンドウが開き、[ページ設定] セクションが表示されます。



3. [ページ設定] セクションで [レスポンスデザイン] を選択します。

注意

- ❑ デフォルト設定では、[デフォルトレスポンシブコンテナの作成] オプションが選択されています。[新規パラメータ] ダイアログボックスを使用してコントロールを作成すると、レスポンシブコンテナとともにフォームおよびコントロールが作成されます。
 - ❑ [デフォルトレスポンシブコンテナの作成] のチェックをオフにすると、フォームオブジェクトのレスポンシブコンテナは作成されません。
 - ❑ デフォルト設定では、コントロールはレスポンシブ対応ではありません。コントロールを描画し、そのコントロールを右クリックして [選択項目を新規コンテナに追加] を選択すると、コントロールの周囲にレスポンシブコンテナが描画されます。
 - ❑ 非レスポンシブコンテナをレスポンシブコンテナに変更するには、そのコンテナを選択し、[プロパティ] パネルで [レスポンシブ有効] プロパティを [はい] に設定します。
4. [完了] をクリックします。

HTML キャンバスが開きます。[プロパティ] パネルの [DOCUMENT] レベルのプロパティで、[レスポンシブデザイン] プロパティ値が [はい] に設定されます。

HTML/ドキュメントウィザードを使用する代わりに、HTML キャンバスでファイルを開き、[レスポンシブデザイン] プロパティ値を手動で [はい] に設定することもできます。

コンテンツは、[レスポンシブデザイン] プロパティを [はい] に設定する前に HTML キャンバスに追加することができます。ただし、コンテンツを追加する前に [レスポンシブデザイン] プロパティを [はい] に設定にしておくと、次のような利点があります。デザイン時の利点は次のとおりです。

- ❑ レスポンシブの最小幅と最大幅が設定される。 をクリックします。
- ❑ キャンバスの右端に最大幅を視覚的に示す縦線が表示される。
- ❑ [ランタイムプレビュー] 機能を使用して実行時の外観をプレビュー表示できる。

手順

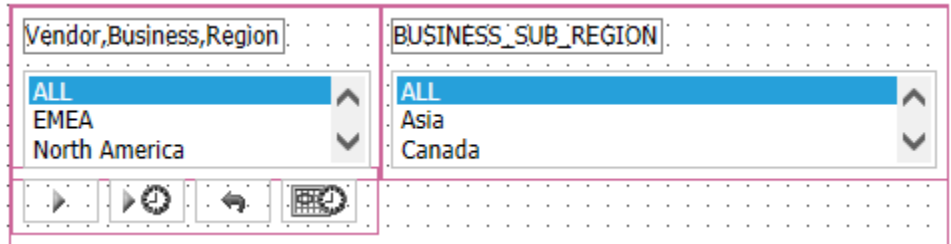
HTML ファイルをレスポンシブに変換するには

1. 既存の HTML ファイルでレスポンシブ動作を有効にするには、[環境ツリー] パネルでファイルをダブルクリックするか、ファイルを右クリックして [開く] を選択します。

HTML キャンバスに HTML ファイルが開きます。

2. [プロパティ] パネルで、ドロップダウンリストから [DOCUMENT] を選択します。
ドキュメントのプロパティが表示されます。

3. [レスポンスデザイン] プロパティで、ドロップダウンリストから [はい] を選択します。
各コントロール要素をそれぞれ個別のレスポンスコンテナに配置するかどうかを確認するメッセージが表示されます。
4. 次のいずれかを選択して、レスポンスコンテナの追加方法を指定します。
 - a. [はい] をクリックすると、下図のようにコントロール領域に複数のコンテナが追加されます。



3 つのコンテナが 4 つ目の大きいサイズのコンテナ内に配置されています。これらのコンテナの赤色の枠線は、これらがレスポンスコンテナであることを示しています。

- b. [いいえ] をクリックすると、コンテナは追加されません。このオプションは、ページ上にネストされたオブジェクトが多数ある場合に役立ちます。このオプションを使用しない場合、各オブジェクトにそれぞれ独自のコンテナが配置されます。

後から別のコンテナを追加することもできます。

1. コンテナ内でグループ化する複数のコントロールオブジェクトを選択します。
2. 選択したオブジェクトのいずれかを右クリックし、コンテキストメニューから [HTML オブジェクトの操作] を選択します。
3. [コンテナの結合] を選択します。
4. フレームをレスポンスにするには、フレームを選択して [プロパティ] パネルを開きます。[レスポンス有効] プロパティ値を [はい] に設定します。

これで、HTML キャンバスがレスポンスモードになります。HTML キャンバス上のフレームおよびコントロールがレスポンスコンテナ内に配置され、赤色の枠線で示されます。

注意：HTML ファイルで [子要素の自動サイズ変更] オプションを有効にしていた場合、そのオプションは新しいレスポンス動作 (コントロールのサイズを自動的に変更) で置き換えられます。

次のプロパティが、DOCUMENT オブジェクトの [プロパティ] パネルの [レスポンシブデザイン] セクションに表示されます。これらの値は変更することができます。

- ❑ **レスポンシブ有効** HTML ページのレスポンシブ動作を有効にします。[はい] に設定すると、その他のレスポンシブデザインのプロパティが使用可能になります。
- ❑ **フロー方向** レスポンシブコンテナのサイズ調整方法を制御することができます。このプロパティを [設定しない] にしておくことも、行で折り返すか列で折り返すかを指定することもできます。
- ❑ **レスポンシブコンテナの作成** [はい] に設定した場合、ドキュメントに追加されたオブジェクトのレスポンシブ動作が自動的に有効になります。
- ❑ **グローバルレスポンシブマージン** ページ上のすべてのレスポンシブコンテナ周囲の上下左右のマージンをピクセル単位で定義します。テンプレートには、デフォルトでマージンが設定されていません。
- ❑ **RESPONSIVE：最小幅** コンテナ幅がこの最小値 (ピクセルまたはパーセントで指定) より小さくなった場合、要素の位置が変更されることも、サイズが変更されることもありません。
- ❑ **RESPONSIVE：最大幅** コンテナ幅がこの最大値 (ピクセルまたはパーセントで指定) より大きくなった場合、要素の位置が変更されることも、サイズが変更されることもありません。

レスポンシブコンテナを選択すると、次のプロパティが、[プロパティ] パネルの [レスポンシブデザイン] セクションに表示されます。

- ❑ **レスポンシブ有効** デフォルトで [はい] に設定されています。この場合、パネルがレスポンシブ動作を示します。
- ❑ **フレックス拡張** コンテナのサイズを変更した際に、HTML ページの他の項目と相対した項目の展開順序を数値を使用して指定します。
- ❑ **コンテンツの配置** レスポンシブコンテナのオブジェクトの実行時の配置を制御します。次のオプションのいずれかを選択します。
 - ❑ **ブランク <設定しない>** 複数のオブジェクトは、デフォルト設定でコンテナの左端寄りで位置が揃えられます。
 - ❑ **開始** 複数のオブジェクトは、コンテナの左端で位置が揃えられます。
 - ❑ **終了** 複数のオブジェクトは、コンテナの右端で位置が揃えられます。
 - ❑ **中央揃え** 複数のオブジェクトは、コンテナの中央で位置が揃えられます。

- ❑ **間隔** 複数のオブジェクトは、幅に基づいて均等配分されます。最初のオブジェクトは左端に近い位置、最後のオブジェクトは右端に近い位置、その間の複数のオブジェクトは間隔が均等配分されます。
- ❑ **余白** 複数のオブジェクトは、幅と高さに基づいて均等配分されます。
- ❑ **フロー方向** レスポンシブコンテナのサイズ調整方法を制御することができます。このプロパティを [設定しない] にしておくことも、行で折り返すか列で折り返すかを指定することもできます。
- ❑ **レスポンシブ幅** オブジェクトの幅を実行時にレスポンシブ調整するかどうかを指定します。デザイン時に設定した幅をキャンバスで保持する場合は、[いいえ] を選択します。
- ❑ **レスポンシブ高さ** オブジェクトの高さを実行時にレスポンシブ調整するかどうかを指定します。デザイン時に設定した幅をキャンバスで保持する場合は、[いいえ] を選択します。

キャンバスで、レポートコンポーネントやグラフコンポーネントなどの iFrame オブジェクトを選択した場合は、次のプロパティが、[プロパティ] パネルの [レスポンシブデザイン] セクションに表示されます。

- ❑ **レスポンシブ有効** オブジェクトがレスポンシブ動作を示すかどうかを指定します。
- ❑ **フレックス拡張** コンテナのサイズを変更した際に、HTML ページの他の項目と相対した項目の展開順序を数値を使用して指定します。
- ❑ **レスポンシブ幅** オブジェクトの幅を実行時にレスポンシブ調整するかどうかを指定します。デザイン時に設定した幅をキャンバスで保持する場合は、[いいえ] を選択します。
- ❑ **レスポンシブ高さ** オブジェクトの高さを実行時にレスポンシブ調整するかどうかを指定します。デザイン時に設定した幅をキャンバスで保持する場合は、[いいえ] を選択します。

レスポンシブモードでは、HTML キャンバスの右端に黒色の縦線が表示されますが、これはレスポンシブ最大幅を視覚的に示す線です。この線を確認するには、右方向にスクロールします。

5. コンテナ内のコンテンツを別のコンテナに移動するには、[配置] タブの [レスポンシブデザイン] グループで [選択の切り替え] をクリックします。現在のコンテナから別のコンテナにコンテンツをドラッグし、[ユーティリティ] タブの [ランタイムプレビュー] をクリックします。

6. クイックアクセスツールバーの [実行] ボタンをクリックして、HTML 出力をフルスクリーンで表示します。画面の幅を徐々に狭くして、コンテンツが折り返される様子を観察します。

手順 先頭行をコントロールのみに制限するには

レスポンステンプレートを使用してページを作成した場合、ページの見出し行は自動的に入力コントロールのみに制限されます (入力コントロールが使用されている場合)。レポートやグラフなどのコンテンツは、実行時にブラウザウィンドウが最大幅まで拡張された場合でも、折り返されて見出し行に配置されることはありません。

レスポンスモードの HTML キャンバスでページを作成する際は、この制限は自動的に適用されません。そのため、ブラウザウィンドウの幅が拡張された際に、レポートやグラフが折り返されて見出し行に配置される可能性があります。この動作が望ましくない場合があります。

見出し行を入力コントロールのみに制限するには、次の手順を実行します。

1. 次の要件を満たす HTML ページを開きます。
 - ❑ レスポンスモードの HTML キャンバスで作成された HTML ページ。
 - ❑ 入力コントロールが配置されている HTML ページ。
2. 複数の入力コントロールがすべて単一コンテナ内でグループ化されていることを確認します。グループ化されていない場合は、次の手順を実行します。
 - a. Ctrl キーを押しながら、すべてのコントロールを順に選択します。
 - b. コントロールのいずれかを右クリックし、[HTML オブジェクトの操作] を選択します。
 - c. コンテキストメニューから [選択項目を新規コンテナに追加] を選択します。

選択したコントロールすべてを囲む枠線が表示されます。この赤色の枠線は、コンテナがレスポンスであることを示します。
3. 入力パネルの左側にコントロールを表示するには、次の手順を実行します。
 - a. コントロール入力パネルをクリックして [プロパティ] パネルを開きます。
 - b. [コントロールパネル] の値を [はい] に変更します。
 - c. ページを実行し、ページを拡大してフルスクリーンにします。見出し行にコントロールのみが表示されます。また、入力パネル内の複数のコントロールすべてがパネルの左側 (ユーザが期待する位置) に表示されます。

[コントロールパネル] の値を [はい] に設定していない場合、ページサイズが大きくなると、これらのコントロールが自動的に右側に展開され、ページ幅全体が使用されます。

手順

ポータルで使用するレスポンスページを作成するには

Db2 Web Query BI Portal では、ユーザはさまざまな BI コンテンツにアクセスすることができます。たとえば、ダッシュボード、レポート、グラフ、マップ、インタラクティブ InfoApps などのコンテンツがあります。ポータルを使用すると、ユーザが重要な情報をすばやく分析できるほか、レポートなどの複数のコンテンツを関連付けたり、要求に応じた情報を簡単にカスタマイズしたりすることができます。

次の手順は、レスポンスポータルで使用するレポートを作成する手順と、HTML キャンバスを使用してレスポンス HTML ページを作成する手順で構成されています。

1. 次の要件を満たす既存のレポートを選択するか、新しいレポートを作成します。

- ☐ WHERE 句で動的パラメータが指定されている。
- ☐ デフォルトとして _FOC_NULL が使用されている。
- ☐ [複数選択 OR] タイプのパラメータが含まれている。
- ☐ [ファイル/フォルダのプロパティ] パネルで [パラメータ実行] プロパティ値が [いいえ] に設定されている。

2. 次の手順に従って、レスポンス HTML ページを作成します。

- a. [ホーム] タブの [コンテンツ] グループで [HTML/ドキュメント] をクリックするか、[環境ツリー] パネルでフォルダを右クリックし、[新規作成]、[HTML/ドキュメント] を順に選択して、HTML/ドキュメントウィザードを起動します。
- b. [次へ] をクリックします。

[テンプレート、設定、テーマ] ウィンドウが開きます。

- c. [ページ設定] エリアで [レスポンスデザイン] を選択し、[完了] をクリックします。

HTML キャンバスが開きます。[プロパティ] パネルの [DOCUMENT] レベルで、[レスポンスデザイン] プロパティが [はい] に設定され、[iFrame オブジェクトへのロード] プロパティが [はい] 設定されていることを確認します。

[iFrame オブジェクトへのロード] プロパティを有効にすると、ポータル内のオブジェクトをコンテナの端に重ね合わせることが可能になります。たとえば、日付フィールドに値を挿入するポップアップカレンダーが配置されている場合、ユーザが日付を選択するためのカレンダーをコントロールコンテナに重ね合わせることができます。

注意：[iFrame オブジェクトへのロード] プロパティを有効にすると、ページに <IFrame> タグの代わりに <DIV> タグが作成されます。ポータルは、<DIV> タグで囲まれた単一 HTML キャンバスページに制限されます。

[RESPONSIVE：最小幅] は [320px] に設定され、[RESPONSIVE：最大幅] は [フルスクリーン] に設定されています。これらのデフォルト値は、ピクセル単位またはパーセント値で編集することができます。

- d. [リクエストとデータソース] パネルで [新規作成] アイコン横の下向き矢印をクリックし、[リクエスト -> パラメータ -> フィルタパネル] を選択します。

[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。

- e. 手順 1 で指定したプロシジャを選択し、[OK] をクリックします。

[新規パラメータ] ダイアログボックスが表示されます。

- f. [上記の順序でコントロールに自動連鎖を設定する] を選択し、[OK] をクリックします。

[新規パラメータ] ダイアログボックスが閉じ、HTML キャンバス上のコンテナ内にコントロールが表示されます。赤色の枠線は、レスポンシブデザインが有効であることを示します。

- g. [タスクとアニメーション] パネルを開き、送信ボタン (task2) の [リクエスト/アクション] 値が [リフレッシュ 1]、[ターゲットタイプ] が [BI Portal のリフレッシュ] に設定されていることを確認します。

- h. キャンバスを右クリックして [ランタイムプレビュー] を選択するか、[ユーティリティ] タブの [ランタイムプレビュー] をクリックします。コンテンツが最大幅にまで拡張されます。キャンバス右端の黒色の縦線は、指定したフルスクリーン最大幅を視覚的に示す線です。

- i. HTML ページを保存します。

参照

レスポンシブデザイン使用時のヒント

以下は、レスポンシブデザインを有効にしてレスポンシブ HTML ページを作成する際のベストプラクティスの一部を示しています。

❑ 新しいレスポンシブ HTML ページを作成する際は、次の方法を使用します。

- ❑ レスポンシブテンプレートを使用して、複数のウィジェットが配置されたレイアウトを生成する。HTML/ドキュメントウィザードを使用すると、行数および 1 行あたりのウィジェット数の制御、入力コントロールの表示方法の指定、ページ見出しの追加、実行時にページをロードする際のリクエスト自動実行の指定を行えます。
- ❑ HTML キャンバスでのレスポンシブデザインを使用して、ウィジェットが配置されていないレイアウトを生成する。ポータル用のページは、この方法でデザインすることができます。

- [配置] タブの [配置] グループに表示される [均等幅]、[均等な高さ]、[均等なサイズ] コマンドは、レスポンシブデザインモードでは次のように動作します。

- **均等幅** 最小幅および最大幅をコントロールオブジェクト (最後に選択したオブジェクト) の幅に設定します。
- **均等な高さ** 最小高さおよび最大高さをコントロールオブジェクト (最後に選択したオブジェクト) の高さに設定します。
- **均等なサイズ** 幅と高さの最小値および最大値をコントロールオブジェクト (最後に選択したオブジェクト) の幅と高さに設定します。

これらのコマンドを使用するには、次の手順を実行します。

1. サイズ変更するオブジェクトをクリックします。
2. Ctrl キーを押しながら、サイズ変更の基準とするオブジェクトをクリックします。
3. [配置] グループで、実行するコマンドをクリックします。

- [レスポンシブデザイン] グループには、[選択の切り替え] および [レイアウトの更新] コマンドがあります。これらのコマンドは、レスポンシブデザインモードで有効になります。

- **選択の切り替え** コンテンツが含まれているレスポンシブコンテナを別の位置にドラッグする操作を可能にするかどうかを切り替えます。これらのコンテナの移動を禁止するには、このコマンドをオフにします。
- **レイアウトの更新** このコマンドは、[子要素の自動サイズ変更] の [有効] プロパティが [はい] に設定されている場合に有効になります。コンテナの位置を変更した後に HTML キャンバスをリフレッシュして、各コンテナが折り返された際にどのように積み重なるかを確認します。

- [コンテンツの配置] プロパティを使用して、レスポンシブコンテナ内のコンテンツを実行時にどのように配置するかを制御することができます。このプロパティは、複数のレスポンシブオブジェクトが含まれた親レスポンシブコンテナに表示されます。

下向き矢印をクリックして、次のプロパティ値を表示することができます。

- **ブランク <設定しない>** 複数のオブジェクトは、デフォルト設定でコンテナの左端寄りで位置が揃えられます。
- **開始** 複数のオブジェクトは、コンテナの左端で位置が揃えられます。
- **終了** 複数のオブジェクトは、コンテナの右端で位置が揃えられます。
- **中央揃え** 複数のオブジェクトは、コンテナの中央で位置が揃えられます。

□ **間隔** 複数のオブジェクトは、幅に基づいて均等配分されます。最初のオブジェクトは左端に近い位置、最後のオブジェクトは右端に近い位置、その間の複数のオブジェクトは間隔が均等配分されます。

□ **余白** 複数のオブジェクトは、幅と高さに基づいて均等配分されます。

[コンテンツの配置] プロパティ値を指定した後でも、HTML キャンバス上での配置は変更されません。クイックアクセスツールバーの [実行] をクリックして、指定した配置をブラウザで確認します。

□ レスポンシブモードでは、HTML キャンバスの右端に黒色の縦線が表示されますが、これはデスクトップ表示でのレスポンシブ最大幅を視覚的に示す線です。レスポンシブコンテナの動作を制御するには、HTML キャンバスのこの線の左側にコンテナを配置します。この線の右側に配置されたコンテンツは、任意に折り返されます。

□ [モバイルデザイン] と [レスポンシブデザイン] の両方を有効にした場合、コンテンツをスマートフォンで表示した際は、モバイルデザインが優先されます。モバイルデザインでは、jQuery モバイルコントロールが使用されます。レスポンシブデザインでは、ブラウザ生成のコントロールが使用されます。

スマートフォン向けコンテンツの作成

スマートフォン専用のコンテンツをデザインすることができます。この方法でデザインしたコンテンツは、自動的にサイズが変更され、スマートフォンのページスワイプ操作やタッチスクリーン機能を最大限に活用することができます。

注意：タブレットでは、ネイティブ Developer Workbench HTML コンテンツを編集せずに表示することができます。ここでは、スマートフォン専用の HTML コンテンツのデザイン方法について説明します。

次の手順は、スマートフォン向け HTML コンテンツのデザイン方法の概要を示しています。

1. ネイティブ Developer Workbench HTML キャンバスでコンテンツを作成し、HTML ファイルに保存します。
2. [モバイルを有効にする] プロパティを使用して、HTML ファイルのモバイルレイアウトを有効にします。

詳細は、306 ページの「[HTML ファイルでのモバイルレイアウトの有効化](#)」を参照してください。

3. ベーシックモバイルレイアウトまたはアドバンスドモバイルレイアウトのいずれかを選択します。

詳細は、307 ページの「[ベーシックおよびアドバンスドモバイルレイアウトの使用](#)」を参照してください。

4. スマートフォンページに HTML コンテンツを追加します。
5. スマートフォンに出力結果を表示します。

詳細は、313 ページの「[スマートフォンでのモバイル出力の表示](#)」を参照してください。

モバイルレイアウト機能によるスマートフォン向け出力のデザイン

モバイルレイアウト機能を使用する前に、ネイティブ HTML キャンバスでコンテンツを作成し、保存しておく必要があります。下図の例では、タイトルを表示するテキストボックス、ドロップダウンリストコントロール、レポートを表示するフレーム、グラフを表示するフレームの 4 つのオブジェクトが配置されています。



フレーム

モバイルレイアウトでは、HTML コンテンツ内にフレームが自動的に表示されます。ベーシックモバイルレイアウトでは、各フレームがそれぞれ別のページに表示されます。アドバンスドモバイルレイアウトでは、すべてのフレームが単一ページに同時に表示されます。これらのモバイルレイアウトを切り替えることで、各フレームをページに表示する方法を変更することができます。

スマートフォンで表示した際のページ順序は、[タスクとアニメーション] パネルの [タスク] エリアで指定したフレーム順序に基づいて決定されます。モバイルレイアウトに表示されるページの順序は、必要に応じて変更することができます。

モバイルレイアウト内のフレームをターゲットにしたアニメーションは、スマートフォンでも実行されます。

コントロール

タッチスクリーン機能を最大限に活用するために、単一選択コントロールと複数選択コントロールの両方がリストボックス jQuery モバイルコントロールになり、一方のリストボックスでは単一選択、他方のリストボックスでは複数選択が可能になります。

注意: jQuery モバイルコントロールは、モバイルレイアウトで HTML ページをデザインする際は表示されませんが、スマートフォンでページを実行した際には表示されます。

その他のオブジェクト

HTML キャンバスに追加したオブジェクトの中には、モバイルレイアウトのページに自動的に組み込まれないオブジェクトがあります。これらのオブジェクトは、テキストボックスおよびイメージです。

ページに自動的に組み込まれないオブジェクトは、ページプレビュー領域下の横線の下側に表示されます。必要に応じて、オブジェクトを横線の上側のページ上にドラッグすることができます。横線の下側に残されたオブジェクト、およびこれらのオブジェクトをターゲットとするアニメーションはすべて、スマートフォンでページを実行した際には表示されません。

注意: ページにドラッグしたオブジェクトのサイズはページ内で正確にプレビュー表示されるため、オブジェクトのサイズ変更が必要かどうかを判断することができます。その場合は、HTML キャンバスでオブジェクトのサイズを変更する必要があります。

横線の下側のオブジェクトをページ上にドラッグすると、モバイルレイアウトの手動変更と見なされます。この場合、「モバイルレイアウトを手動で変更すると、デフォルトのページ生成は実行できなくなります。今後、このページの保守は、ユーザが手動で行う必要があります。」というメッセージが表示されます。

このメッセージを承諾すると、元のデータに加えられた変更がモバイルページに自動的に反映されなくなります。HTML ファイルを開き、キャンバスを右クリックして [レイアウトの更新] を選択する必要があります。

モバイルページのデフォルト生成機能を最大限に活用するには、手動で変更しないことをお勧めします。

注意：モバイルレイアウトの手動変更を元に戻すには、キャンバスを右クリックし、[モバイルをデフォルトに戻す] を選択します。これにより、HTML ページの自動更新が元の状態に戻り、手動変更がすべて削除されます。

モバイルレイアウトのページは、下図のように表示されます。この例では、ページコンテンツがフレーム内に表示され、スマートフォンで表示した際にスクロール操作が可能になります。フレームの下側には、ナビゲーションエリアが表示されます。

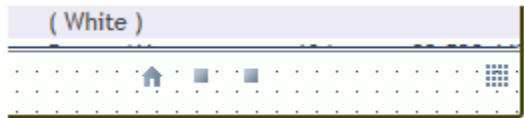
mobile1 * x

Product Category	Product Name	Quantity Sold	Revenue
Stereo Systems	Audio Technica ATH-W5000 Dynamic Headphones	175	117,003.25
	BOSE Acoustimass IV Home Entertainment 10 Speaker System (Black)	319	307,092.60
	BOSE Acoustimass IV Home Entertainment 10 Speaker System (White)	342	327,821.85
	BOSE Acoustimass Home Entertainment 16 Speaker Surround System (White)	315	386,842.20

モバイルレイアウトのコンポーネントのスタイルは、カスケードスタイルシートで制御されます。詳細は、314 ページの「[モバイルコンポーネントの CSS クラスマッピングリスト](#)」を参照してください。

ナビゲーションエリア


下図は、ページコンテンツの下側に表示されるナビゲーションエリアを示しています。



上図の例では、ホームページを表示するためのホームアイコンと、2つの追加ページを表示するための四角アイコンが2つ配置されています。また、複数のページを横に並べて表示するためのアイコンもあります。

ページ順序では、デフォルトのホームページが最初に表示されます。ホームページは、必要に応じて変更することができます。

四角アイコン  とホームアイコン  を使用して、ページ間を移動することができます。

並べて表示アイコン  を使用して、1ページに複数のオブジェクトが配置されている場合に、これらのオブジェクトを統合し、横に並べて表示することができます。タイルアイコンを再度クリックすると、横に並べたオブジェクトの統合が解除されます。

ページの追加/削除

モバイルレイアウトキャンバスで使用可能なコンテキストメニューオプションには、次のものがあります。これらのオプションを使用して、ページの追加や削除を行えます。

- ❑ **すべてのページを表示** モバイルレイアウトキャンバス上のページをすべて表示します。デフォルト設定では、ベーシックモバイルレイアウトおよびアドバンスドモバイルレイアウトには1ページが表示されます。
- ❑ **ブランクページの追加** モバイルレイアウトキャンバスにブランクページを追加します。追加したページにコンテンツをドラッグすることができます。
- ❑ **ブランクページの削除** モバイルレイアウトキャンバス上のブランクページを削除します。
- ❑ **選択したページの削除** コンテンツが配置されているページを削除します。この操作は、モバイルレイアウトの手動変更と見なされます。この場合、「モバイルレイアウトを手動で変更すると、デフォルトのページ生成は実行できなくなります。今後、このページの保守は、ユーザが手動で行う必要があります。」というメッセージが表示されます。

このメッセージを承諾すると、元のデータに加えられた変更がモバイルページに自動的に反映されなくなります。HTML ファイルを開き、HTML キャンバスを右クリックして [レイアウトの更新] を選択する必要があります。


- ❑ **モバイルをデフォルトに戻す** HTML ページの自動更新を元の状態に戻し、手動変更をすべて削除します。

注意：HTML キャンバスからコンテンツを削除する場合は、そのコンテンツをモバイルレイアウトからも手動で削除する必要があります。HTML キャンバスから削除したコンテンツをモバイルレイアウトからも削除する操作は手動変更と見なされず、デフォルトのページ生成が保持されます。

ページ間でのコンテンツの移動

ページの順序を変更したり、1 ページに複数のオブジェクトを表示したりできます。

1 ページに複数のオブジェクトを縦に並べて表示するには、オブジェクトを選択し、別のオブジェクトが配置されているページにドラッグします。

1 ページに複数のオブジェクトを横に並べて表示するには、タイルアイコン  を使用します。タイルアイコンを再度クリックすると、横に並べたオブジェクトの統合が解除されます。

横線の下側に表示されたコントロールまたはオブジェクトを移動するには、オブジェクトを特定のページにドラッグします。この操作は、モバイルレイアウトの手動変更と見なされます。この場合、「モバイルレイアウトを手動で変更すると、デフォルトのページ生成は実行できなくなります。今後、このページの保守は、ユーザが手動で行う必要があります。」というメッセージが表示されます。

このメッセージを承諾すると、元のデータに加えられた変更がモバイルページに自動的に反映されなくなります。HTML ファイルを開き、HTML キャンバスを右クリックして [レイアウトの更新] を選択する必要があります。

注意：モバイルレイアウトの手動変更を元に戻すには、キャンバスを右クリックし、[モバイルをデフォルトに戻す] を選択します。これにより、HTML ページの自動更新が元の状態に戻り、手動変更がすべて削除されます。

ページのデフォルト生成機能を最大限に活用するには、手動で変更しないことをお勧めします。

HTML ファイルでのモバイルレイアウトの有効化

HTML ファイルの [モバイルを有効にする] プロパティを [はい] に設定すると、モバイル出力用の HTML ファイルとして指定されます。この指定により、モバイルレイアウトオプションが有効になり、モバイル出力の編集およびプレビュー表示が可能になります。

注意：モバイルレイアウトを有効にした HTML ファイルは、デスクトップやタブレットで表示することも可能です。その場合、ページデザインは HTML キャンバスから取得され、モバイルレイアウトキャンバスでのページデザインは無視されます。これにより、出力デバイスごとに同一ページのコピーを作成し、保守管理する必要がなくなります。

既存の HTML ファイルでモバイル出力を有効することも、モバイル出力を有効にした新しい HTML ファイルを作成することもできます。

手順

既存の HTML ファイルでモバイル出力を有効にするには

1. HTML ファイルを開きます。

HTML キャンバスが開きます。

2. [プロパティ] パネルを開きます。
3. [モバイル] プロパティを [いいえ] から [はい] に変更します。

これで、HTML キャンバスのコンテキストメニューにモバイル出力オプションが表示されます。

手順

モバイル出力を有効にした新規 HTML ファイルを作成するには

1. [ホーム] タブの [コンテンツ] グループで、[HTML/ドキュメント] をクリックします。別の方法として、コンテンツの作成がサポートされるフォルダを選択し、[アプリケーション] メニューまたは [環境ツリー] パネルのコンテキストメニューを使用して、新しい HTML ファイルを作成することもできます。

HTML/ドキュメントウィザードが開きます。

2. HTML ページの作成先ディレクトリに移動し、[次へ] をクリックします。
HTML/ドキュメントウィザードの [テーマと設定] ウィンドウが開きます。
3. [モバイルデザイン] のチェックをオンにします。

このオプションを選択すると、[プロパティ] パネルの [モバイル] プロパティが自動的に [はい] に設定されます。

4. [完了] をクリックします。

HTML キャンバスが開きます。これで、キャンバスのコンテキストメニューにモバイル出力オプションが表示されます。

ベーシックおよびアドバンストモバイルレイアウトの使用

スマートフォン向け HTML 出力をデザインする際は、ベーシックとアドバンストの 2 種類のレイアウトを使用することができます。

- **ベーシックモバイルレイアウト** グラフィカルアイコンとページスワイプ操作でナビゲート可能な単純なスマートフォンページを作成できます。ベーシックモバイルレイアウトを使用すると、デフォルト設定で、HTML キャンバスで作成した各フレームが、それぞれ個別のモバイルページに表示されます。この設定は、必要に応じて変更することができます。
- **アドバンストモバイルレイアウト** ベーシックモバイルレイアウトと同一の機能が提供されるほか、追加機能としてロゴ付きまたはロゴなしの目次を追加したり、各ページにロゴを追加したりできます。

アドバンスドモバイルレイアウトでは、デフォルト設定で、HTML キャンバスのフレームのすべてが単一のモバイルページに同時に表示されます。この設定は、必要に応じて変更することができます。

一方のモバイルレイアウトを選択した後でも、必要に応じて他方のモバイルレイアウトに切り替えることができます。詳細は、309 ページの「[ベーシックモバイルレイアウトとアドバンスドモバイルレイアウトの切り替え](#)」を参照してください。

手順

ベーシックモバイルレイアウトの使用

HTML キャンバスで作成したコンテンツを保存した後、[モバイルを有効にする] プロパティを[はい]に設定すると、ベーシックモバイルレイアウトを使用することができます。

1. HTML キャンバスを右クリックし、[モバイルレイアウトの表示 (ベーシック)] を選択します。

ベーシックモバイルレイアウトが表示されます。

モバイルレイアウトのコンポーネントのスタイルは、カスケードスタイルシートで制御されます。詳細は、314 ページの「[モバイルコンポーネントの CSS クラスマッピンググリスト](#)」を参照してください。

2. 次の方法でモバイルコンテンツを編集します。

❑ すべてのページのプレビューを表示するには、モバイルレイアウトキャンバスを右クリックし、[すべてのページを表示] を選択します。すべてのページが横に並んで表示されます。

❑ ナビゲーションエリアの下側に横線が表示されます。この横線の下に表示されるオブジェクトはすべて、HTML キャンバスに配置されたオブジェクトの中で、モバイルレイアウトに自動的に追加されなかったオブジェクトです。

モバイルレイアウトにオブジェクトを追加するには、横線の下からオブジェクトをドラッグし、レイアウト内の任意の位置にドロップします。

この操作は、モバイルレイアウトの手動変更と見なされます。この場合、「モバイルレイアウトを手動で変更すると、デフォルトのページ生成は実行できなくなります。今後、このページの保守は、ユーザが手動で行う必要があります。」というメッセージが表示されます。

このメッセージを承諾すると、元のデータに加えられた変更がモバイルページに自動的に反映されなくなります。HTML ファイルを開き、HTML キャンバスを右クリックして[レイアウトの更新]を選択する必要があります。

注意：モバイルレイアウトの手動変更を元に戻すには、キャンバスを右クリックし、[モバイルをデフォルトに戻す]を選択します。これにより、HTML ページの自動更新が元の状態に戻り、手動変更がすべて削除されます。

ページのデフォルト生成機能を最大限に活用するには、手動で変更しないことをお勧めします。

- ❑ 複数のページを統合し、縦に並べて表示するには、ページを選択し、別のページにドラッグします。
- ❑ ホームページを変更するには、特定のページを選択した上でモバイルレイアウトキャンバスを右クリックし、[現在のページをホームページとして使用]を選択します。

別の方法として、特定のページをホームページ画面にドラッグすることもできます。必要に応じて、古いページを別の画面にドラッグします。

注意：モバイルレイアウトでページをドラッグし、ページ順序を手動で変更した場合、そのページ順序は、[タスクとアニメーション]パネルで指定したページ順序より優先されます。

- ❑ プレビューにブランクページが存在する場合は、キャンバスを右クリックし、[ブランクページの削除]を選択します。

3. HTML ファイルを保存します。

これで、HTML ファイルをスマートフォンで表示することができます。その場合、レイアウトはモバイルレイアウトキャンバスから取得されます。詳細は、313 ページの「[スマートフォンでのモバイル出力の表示](#)」を参照してください。

また、HTML ファイルをデスクトップまたはタブレットで表示することもできます。その場合、レイアウトは HTML キャンバスから取得されます。

手順

ベーシックモバイルレイアウトとアドバンスドモバイルレイアウトの切り替え

ベーシックモバイルレイアウトとアドバンスドモバイルレイアウトを切り替えるには、次の手順を実行します。

1. 現在のモバイルレイアウトキャンバスを右クリックし、[モバイルをデフォルトに戻す]を選択します。
これにより、モバイルレイアウトが元の状態に戻ります。
2. 現在のモバイルレイアウトキャンバスを右クリックし、[デスクトップに戻る]を選択します。

HTML キャンバスが開きます。

3. HTML キャンバスを右クリックし、[モバイルレイアウトの表示 (ベーシック)] または [モバイルレイアウトの表示 (アドバンスト)] を選択します。

手順

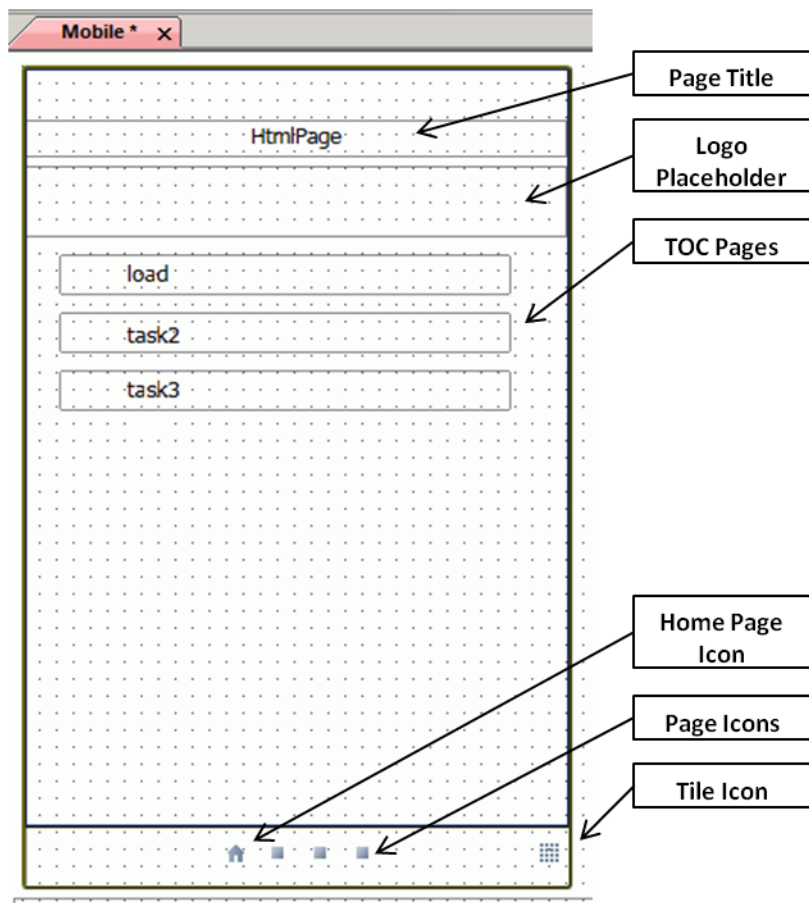
モバイル出力の目次を作成するには

アドバンストモバイルレイアウトでは、ページ間の移動を容易にするための目次ページを追加することができます。目次ページは、モバイル出力のページ数が多い場合に役立ちます。

スマートフォン向けモバイル出力に目次を追加するには、次の手順を実行します。

1. HTML ページを作成します。
2. HTML キャンバスを右クリックし、[モバイルレイアウトの表示 (アドバンスト)] を選択します。

下図のように、モバイルレイアウトが開き、目次のプレビューが表示されます。



モバイルレイアウトのデフォルト表示で、スマートフォンフォーマットの目次の外観が単一ページにプレビュー表示されます。

上図の例では、このページの枠内に「HtmlPage」というタイトルが表示されています。

モバイルレイアウトのコンポーネントのスタイルは、カスケードスタイルシートで制御されます。詳細は、314 ページの「[モバイルコンポーネントの CSS クラスマッピンググリスト](#)」を参照してください。

3. 次の方法でレイアウトを編集します。

- ❑ タイトルを変更するには、[プロパティ] パネル上部のドロップダウンリストから [目次] を選択します。[タイトル] テキストボックスに、新しいタイトルを入力します。

新しいタイトルが目次プレビューに表示されます。

- ❑ スマートフォンで目次を表示するかどうかを選択することができます。デフォルト設定では、目次は表示されます。

スマートフォンで目次を非表示にするには、[実行時に表示] プロパティを [いいえ] に変更します。

プレビューでは、各ページの矩形が目次のハイパーリンクを表し、各ハイパーリンクをクリックすると、対応するページが開きます。この例では、「task2」および「load」というページタイトルのハイパーリンクがあります。

- ❑ 各ページのタイトルを変更するには、指定したページの [タイトル] プロパティに新しいタイトルを入力します。

新しいタイトルがページの上部および目次に表示されます。

4. HTML ファイルを保存します。

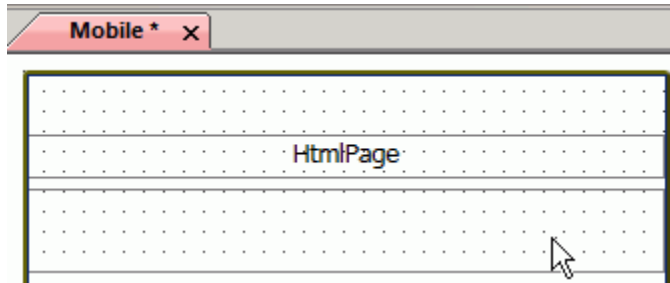
ここで、目次が含まれた HTML ファイルをスマートフォンで表示することができます。詳細は、313 ページの「[スマートフォンでのモバイル出力の表示](#)」を参照してください。

手順 モバイル目次にロゴを追加するには

モバイルレイアウトの目次ページにロゴを追加することができます。

1. 目次が含まれた HTML ファイルのアドバンスドモバイルレイアウトを開きます。

下図は、ロゴのプレースホルダを示しています (マウスポインタで示された部分)。



2. [プロパティ] パネル上部のドロップダウンリストから [目次] を選択します。

目次のプロパティが表示されます。

3. [ロゴ] テキストボックスの [...] (参照) ボタンをクリックします。

[開く] ダイアログボックスが表示されます。

4. ロゴファイルを選択し、[OK] をクリックします。

ロゴが目次プレビューに表示されます。

注意: ロゴのプレースホルダには、スマートフォンでロゴを表示した際の正確なプレビューが表示されます。これにより、選択したグラフィックファイルのサイズ変更が必要かどうかを判断することができます。

5. HTML ファイルを保存します。

ここで、目次が含まれた HTML ファイルをスマートフォンで表示することができます。詳細は、313 ページの「[スマートフォンでのモバイル出力の表示](#)」を参照してください。

手順

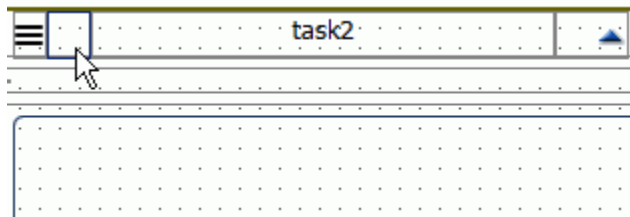
コンテンツの各ページにロゴを追加するには

モバイルレイアウトの目次の各ページにロゴを追加することができます。

1. 目次が含まれた HTML ファイルのアドバンスドモバイルレイアウトを開きます。

2. 目次ページ以外のページを開きます。

下図のように、ロゴのプレースホルダは、ページの左上付近の小さい正方形で表されます (マウスポインタで示された部分)。



3. [プロパティ] パネル上部のドロップダウンリストから [目次] を選択します。

目次のプロパティが表示されます。

4. [すべてのスワイプのロゴ] テキストボックスの [...] (参照) ボタンをクリックします。

[開く] ダイアログボックスが表示されます。

5. ログファイルを選択し、[OK] をクリックします。

ロゴが各ページのプレビューに表示されます。

注意：各ページのロゴのプレースホルダは、小さい正方形で表されます。ロゴのプレースホルダには、スマートフォンで表示した際のロゴの正確なプレビューが表示されます。これにより、選択したグラフィックファイルのサイズ変更が必要かどうかを判断することができます。

6. HTML ファイルを保存します。

ここで、目次が含まれた HTML ファイルをスマートフォンで表示することができます。詳細は、313 ページの「[スマートフォンでのモバイル出力の表示](#)」を参照してください。

スマートフォンでのモバイル出力の表示

Developer Workbench で作成されたモバイル出力は、複数の方法でスマートフォンに表示することができます。これらの方法は、現在の環境の構成に応じて異なります。次の方法があります。

❑ Mobile Faves アプリケーション

これらの方法についての詳細は、次のセクションで説明します。

注意：モバイル出力の最適な表示方法については、システム管理者に問い合わせてください。

Mobile Faves

Mobile Faves アプリケーションをインストールすると、インターネット上のサーバからコンテンツを取得できるよう自動的に設定され、サンプルのビジネスコンテンツが表示可能になります。モバイル出力を有効にした HTML ファイルが格納されているサーバを含め、リストにはユーザー独自の Db2 Web Query サーバを追加することができます。選択したサーバ接続に対して保存されている利用可能なフォルダのリストが表示されます。これらのフォルダには、Db2 Web Query BI Portal で「Mobile Favorites」として選択済みのコンテンツがすべて表示されます。項目を Mobile Faves アプリケーションで表示するには、FAVES タグを適用します。

iPhone または Android ユーザは、App Store または Google Play Store から無料の Mobile Faves アプリケーションをダウンロードすることができます。

モバイルコンポーネントの CSS クラスマッピングリスト

下表は、さまざまなコンポーネントおよびモバイルデザインのコントロールのスタイル設定に使用される IBI クラス、およびモバイルデザインのリストです。

コンポーネント/コントロール	使用されるクラス
スマートフォンコンテナの境界色	<code>.IBI_SmartPhoneContainer { border-color: #4C5E76; }</code>
コントロールパネルの境界色	<code>.IBI_MobileControlPanel { border-top-color: #4C5E76; }</code>
コントロールパネルのフォント	<code>.IBI_MobileControlPanel { font-size: small; color: green; }</code>
ページコンテンツのフォント	<code>.IBI_MobilepageContent { font-size: large; color: Red; }</code>
TOC コンテンツのフォント	<code>.IBI_MobileTocContent { font-size: large; color: Blue; }</code>
ラベルのフォント	<code>.IBI_MobileLabel { font-size: large; color: Azure; }</code>
HTML タイトル	<code>.IBI_MobileTocTitle { font-size: x-large; color: BlueViolet; }</code>
TOC のタスク名	<code>.IBI_MobileTocItem { font-size: x-large; color: ForestGreen; }</code>

コンポーネント/コントロール	使用されるクラス
コントロールパネルのテキスト	<pre><code>.IBI_MobileSwipeHeaderText { font-size: small; color: Crimson; }</code></pre>

カスケードスタイルシートクラスのマッピングリスト

下表は、さまざまなコンポーネントおよびコントロールのスタイル設定に使用される IBI クラスのリストです。

コンポーネント/コントロール	使用されるクラス
本文	IBI_PageBg
レポート	IBI_Report-iFrame; IBI_rounded_m
グラフ	IBI_Report-iFrame; IBI_rounded_m
ハイパーリンク	IBI_LinkItem
ボタン	IBI_button
リセット	IBI_button
ラベル	IBI_ReportControlLabel
フォーム	IBI_ReportControlPanel; IBI_rounded_m
実行ボタン	IBI_button; IBI_btn-run
リセットボタン	IBI_button; IBI_btn-reset
選択項目を保存ボタン	IBI_btn-saveselection
ディファードボタン	IBI_btn-defer
スケジュールボタン	IBI_btn-schedule
パネル	IBI_Panel; IBI_rounded_m

コンポーネント/コントロール	使用されるクラス
フレーム	IBI_rounded_m
テキストボックス	IBI_ReportControlTarget; IBI_rounded_s
ドロップダウンリスト	IBI_ReportControlTarget; IBI_rounded_s
リストボックス	IBI_ReportControlTarget; IBI_rounded_s
ダブルリストコントロール	IBI_ReportControlTarget, IBI_btn-up, IBI_btn-down, IBI_btn-left, IBI_btn-right
ラジオボタン	IBI_ReportControlTarget; IBI_Radio
チェックボックス	IBI_ReportControlTarget; IBI_CheckBox
テキスト領域	IBI_rounded_m
シングルソースツリーコントロール	IBI_ReportControlTarget
マルチソースツリーコントロール	IBI_ReportControlTarget
横方向スライダ	IBI_ReportControlTarget; IBI_rounded_s; IBI_SliderInput; IBI_buttonSliderNav; IBI_btn-left; IBI_btn-right; IBI_SliderTrack; IBI_SliderHandle
縦方向スライダ	IBI_ReportControlTarget; IBI_rounded_s; IBI_SliderInput; IBI_buttonSliderNav; IBI_buttonSliderNavVert; IBI_btn-up; IBI_btn-down; IBI_SliderTrack; IBI_SliderTrackVert; IBI_SliderHandle; IBI_SliderHandleVert
情報ウィンドウ	IBI_InfoWnd; IBI_InfoWndTitleBar; IBI_InfoWndFrame
タブ	IBI_MultiContentPlugin
タブヘッダ	IBI_pageHeader
タブヘッダ - タブ上揃え	IBI_pageHeaderTab_TopBottom
タブヘッダ - タブ下揃え	IBI_pageHeaderTab_Bottom
タブヘッダ - タブ左揃え	IBI_pageHeaderTab_Left

コンポーネント/コントロール	使用されるクラス
タブヘッダ - タブ右揃え	IBI_pageHeaderTab_Right
タブ選択時	IBI_pageHeader_Selected
縦方向のタブ/アコーディオン/ウィンドウヘッダ	IBI_pageHeader_Vertical
縦方向のタブ/アコーディオン/ウィンドウ選択時	IBI_pageHeaderVertical_Selected
タブ見出しテキスト	IBI_pageHeaderText
タブ見出しテキスト - タブ左揃え	IBI_textVerticalTopToBottom
タブ見出しテキスト - タブ右揃え	IBI_textVerticalBottomToTop
タブ/ウィンドウ/アコーディオンコンテンツ	IBI_pageContent
タブ/ウィンドウ/アコーディオンコンテンツ - 上	IBI_pageContentTab_Top
タブ/ウィンドウ/アコーディオンコンテンツ - 下	IBI_pageContentTab_Bottom
タブ/ウィンドウ/アコーディオンコンテンツ - 左	IBI_pageContentTab_Left
タブ/ウィンドウ/アコーディオンコンテンツ - 右	IBI_pageContentTab_Right
タブ/ウィンドウ/アコーディオンの最小化/最大化ボックス	IBI_windowNavBox
タブ/ウィンドウ/アコーディオンのイメージ	IBI_windowMaxRestore; IBI_windowMaximize; IBI_windowMinimize; IBI_windowTiles; IBI_windowFlipRight; IBI_windowFlipLeft
モバイルコンポーネント	

コンポーネント/コントロール	使用されるクラス
スマートフォンコンテナの境界色	IBI_SmartPhoneContainer
コントロールパネル	IBI_MobileControlPanel
ページコンテンツ	IBI_MobilepageContent
TOC コンテンツ	IBI_MobileTocContent
ラベル	IBI_MobileLabel
TOC タイトル	IBI_MobileTocTitle
TOC タスク名	IBI_MobileTocItem
コントロールパネルのテキスト	IBI_MobileSwipeHeaderText

6

ソース構文の編集

Developer Workbench では、アプリケーションの作成に必要なプロシジャ、プロシジャコンポーネント、その他のファイルタイプのソース構文を編集することができます。

ここでは、プロシジャ、プロシジャコンポーネント、その他のファイルタイプのソース構文を編集する際に使用可能なテキストエディタについて説明します。

注意：新規コンポーネントの作成には、テキストエディタの使用はお勧めできません。各種キャンバスの使用をお勧めします。テキストエディタは、キャンバスを使用しても不可能なトラブルシューティングまたはコードの作成のみに使用します。

トピックス

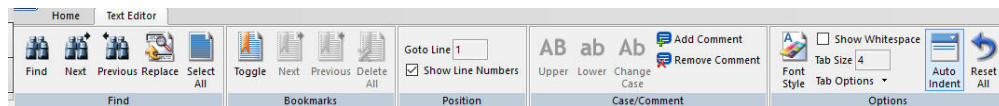
□ テキストエディタへのアクセス

テキストエディタへのアクセス

Developer Workbench には、完全に統合されたテキストエディタが用意されています。このテキストエディタを使用して、アプリケーションに必要なプロシジャ、プロシジャコンポーネント、その他のファイルタイプのソース構文を編集することができます。

[テキストエディタ] タブにアクセスするには、[環境ツリー] パネルでプロシジャを右クリックし、[テキストエディタで開く] をクリックします。また、HTML キャンバスの [埋め込み JavaScript] または [埋め込み CSS] 表示タブを選択することで、[テキストエディタ] タブにアクセスすることもできます。一部のコマンドは、JavaScript または CSS の [テキストエディタ] タブでは使用できません。

下図は、[テキストエディタ] タブを示しています。



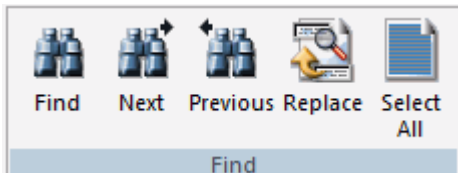
さらに、次の機能を利用することができます。

- プロシジャの記述、編集、デバッグを簡単に行えるようにした構文の色分け表示を活用する。
- ファイルの特定の行にブックマークを追加して、行をすばやく特定して編集する。

- ❑ テキストを検索して置換する。
- ❑ プロシジャまたはプロシジャコンポーネントをエディタから直接実行する。

テキストの検索と置換 - 検索グループの使用

[検索] グループには、テキストを検索または置換するオプションがあります。下図は、[検索] グループを示しています。



このグループには、次のコマンドがあります。

検索

指定したテキストを検索します。Ctrl+F キーを押して [検索] ダイアログボックスを表示することもできます。

次へ

指定したテキストの次のインスタンスを検索します。

戻る

指定したテキストの前のインスタンスを検索します。

置換

特定のテキストを別のテキストに置換します。

すべて選択

プロシジャ内のすべてのテキストを選択します。

参照

検索ダイアログボックス

[検索] ダイアログボックスの各オプションを使用して、文字列を検索する方法を指定します。

[検索] ダイアログボックスには、次のオプションが表示されます。

検索する文字列

このテキストボックスに、検索する文字列を入力します。必要に応じて、下向き矢印をクリックし、以前に入力した検索文字列を選択することもできます。

単語単位で検索

このオプションを選択すると、単語単位で検索が実行されます。

大文字と小文字の区別

このオプションを選択すると、大文字と小文字が区別され、[検索する文字列] テキストボックスに入力したとおりの文字列が検索されます。

方向

テキストエディタで検索する方向を選択します。

次を検索

検索した文字列の次のインスタンスへ移動します。

すべてマーク

テキストエディタで検索されたすべてのインスタンスにマークを付けます。

キャンセル

現在の検索をキャンセルして、[検索] ダイアログボックスを閉じます。

参照**置換ダイアログボックス**

[置換] ダイアログボックスの各オプションを使用して、文字列を検索して別の文字列に置換する方法を指定します。

[置換] ダイアログボックスには、次のオプションが表示されます。

検索する文字列

このテキストボックスに、検索する文字列を入力します。必要に応じて、下向き矢印をクリックし、以前に入力した検索文字列を選択することもできます。

置換後の文字列

このテキストボックスに、検索した文字列を置換する文字列を入力します。必要に応じて、下向き矢印をクリックし、以前に入力した置換文字列を選択することもできます。

単語単位で検索

このオプションを選択すると、単語単位で検索が実行されます。

大文字と小文字の区別

このオプションを選択すると、大文字と小文字が区別され、[検索] および [置換] テキストボックスに入力したとおりの文字列で検索と置換が実行されます。

対象

置換の対象範囲を指定します。オプションは、[選択範囲] または [ファイル全体] です。

次を検索

検索した文字列の次のインスタンスへ移動します。

置換

[検索する文字列] テキストボックスに入力した文字列を検索し、検索された文字列を [置換後の文字列] テキストボックスに入力した文字列で置換します。

すべて置換

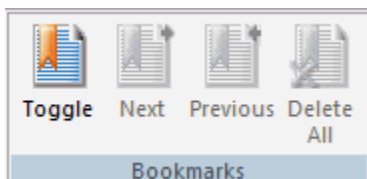
[検索する文字列] テキストボックスに入力した文字列を検索し、検索された文字列のすべてを [置換後の文字列] テキストボックスに入力した文字列で置換します。

キャンセル

現在の検索および置換をキャンセルして、[置換] ダイアログボックスを閉じます。

ブックマークの操作 - ブックマークグループの使用

[ブックマーク] グループでは、ブックマークのオンとオフの切り替え、次のブックマークの検索、前のブックマークの検索、すべてのブックマークの削除を行えます。HTML キャンバスの [埋め込み JavaScript] または [埋め込み CSS] 表示タブを選択して [テキストエディタ] タブにアクセスした場合、[ブックマーク] グループは使用できません。下図は、[ブックマーク] グループを示しています。



次のコマンドがあります。

切り替え

ブックマークのオンとオフを切り替えます。

次へ

次のブックマークに移動します。

戻る

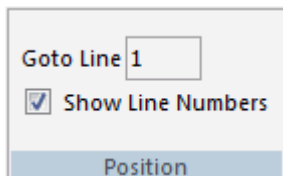
前のブックマークに移動します。

すべて削除

すべてのブックマークを削除します。

カーソルの配置 - 位置グループの使用

[位置] グループを使用して、指定した行にカーソルを移動したり、行番号を非表示にしたりできます。下図は、[位置] グループを示しています。



次のコマンドがあります。

行番号へ移動

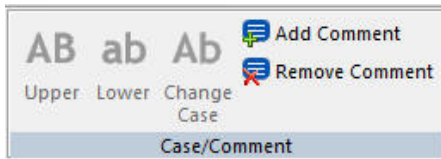
現在のカーソルの位置が行番号で表示されます。テキストボックスに別の行番号を指定して、その行にカーソルを移動することができます。

行番号の表示

このオプションを選択すると、行番号が表示されます。このオプションは、デフォルト設定で選択されています。

テキストの大文字と小文字の変換 - 大文字小文字/コメントグループの使用

[大文字小文字/コメント] グループには、選択したテキストを大文字または小文字に変換するオプションがあります。HTML キャンバスの [埋め込み JavaScript] または [埋め込み CSS] 表示タブを選択して [テキストエディタ] タブにアクセスした場合、[大文字小文字/コメント] グループは使用できません。下図は、[大文字小文字/コメント] グループを示しています。



次のコマンドがあります。

大文字

選択したテキストをすべて大文字に変換します。

小文字

選択したテキストをすべて小文字に変換します。

文字種の変換

選択したテキストの先頭文字の文字種に応じて、そのテキストを大文字または小文字に変換します。キャンバス上でテキストを右クリックし、コンテキストメニューから [文字種の変換] を選択することもできます。

コメントの追加

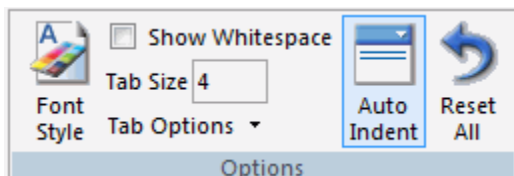
カーソルを新しい行に置いた場合、新しいコメント行を挿入します。現在のテキスト行に置いた場合、その行をコメント行に変更します。キャンバス上で右クリックし、コンテキストメニューから [コメントの追加] を選択することもできます。

コメントの削除

コメント行の指定を解除します。このオプションは、クイックアクセスツールバーの [元に戻す] コマンドに類似しています。キャンバス上で右クリックし、コンテキストメニューから [コメントの削除] を選択することもできます。

テキストのフォーマット設定 - オプショングループの使用

[オプション] グループには、プロシジャ内のテキストのフォーマット設定に使用するコマンドがあります。HTML キャンバスの [埋め込み JavaScript] または [埋め込み CSS] 表示タブを選択して [テキストエディタ] タブにアクセスした場合、[オプション] グループは使用できません。下図は、[オプション] グループを示しています。



注意: [埋め込み JavaScript] または [埋め込み CSS] 表示タブからテキストエディタにアクセスした場合、[オプション] グループで使用可能なオプションは [フォントスタイル] のみです。

次のコマンドがあります。

フォントスタイル

[フォントと色の設定] ダイアログボックスを開き、プロシジャ内の構文の外観を変更することができます。

ブランクの表示

文字間のブランクを視覚的なインジケータに置換します。

タブサイズ

Tab 文字に使用するブランク数を制御します。

タブオプション

Tab 文字を制御するオプションが表示されます。構文内の Tab 文字の代わりにブランクを使用するか、Tab 文字を保持するかを選択することができます。

自動インデント

プロシジャ内の構文に自動的にインデントを追加します。

すべてリセット

すべてのオプションをデフォルト設定に戻します。

テキストエディタステータスバーでのコンテキスト情報の表示

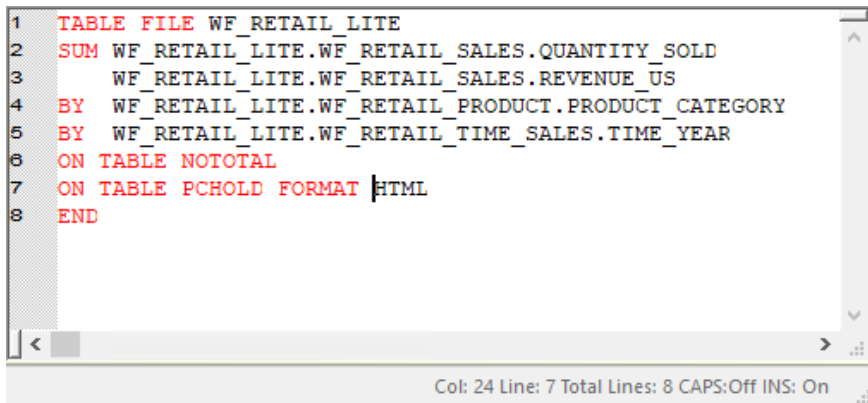
テキストエディタのステータスバーに、カーソルの位置、ファイル内の行数、キーボード入力モードなどのコンテキスト情報が表示されるようになりました。

ステータスバーを表示するには、[ホーム] タブの [表示] グループで [ステータスバー] のチェックをオンにします。[ステータスバー] のチェックをオフにすると、ステータスバーが非表示になります。

ステータスバーには、次の値が表示されます。

- ❑ **桁** 現在行のカーソルの位置を左から右への桁数で示します。
- ❑ **行** カーソルの位置を示す行番号です。行の左側には、その行の番号が示されます。
- ❑ **合計行数** 現在開いているファイルの総行数を示します。
- ❑ **CAPS** Caps Lock キーがオンとオフのどちらに設定されているかを示します。この設定は、キーボードの Caps Lock キーで制御されます。
- ❑ **INS** 挿入モードと上書きモードのどちらがアクティブであるかを示します。INS の値が [オン] の場合、キーボードは挿入モードに設定されています。既存テキストの前にカーソルを合わせて文字を入力すると、そのテキストが後方へ移動します。INS の値が [オフ] の場合、キーボードは上書きモードに設定されています。既存テキストの前にカーソルを合わせて文字を入力すると、テキストが後方へ移動する代わりに、そのテキストが上書きされます。この設定を制御するには、キーボードの Insert キーを使用します。

下図は、ステータスバーに表示された値の例を示しています。



```

1  TABLE FILE WF_RETAIL_LITE
2  SUM WF_RETAIL_LITE.WF_RETAIL_SALES.QUANTITY_SOLD
3      WF_RETAIL_LITE.WF_RETAIL_SALES.REVENUE_US
4  BY  WF_RETAIL_LITE.WF_RETAIL_PRODUCT.PRODUCT_CATEGORY
5  BY  WF_RETAIL_LITE.WF_RETAIL_TIME_SALES.TIME_YEAR
6  ON TABLE NOTOTAL
7  ON TABLE PCHOLD FORMAT HTML
8  END

```

Col: 24 Line: 7 Total Lines: 8 CAPS: Off INS: On

Legal and Third-Party Notices

SOME TIBCO SOFTWARE EMBEDS OR BUNDLES OTHER TIBCO SOFTWARE. USE OF SUCH EMBEDDED OR BUNDLED TIBCO SOFTWARE IS SOLELY TO ENABLE THE FUNCTIONALITY (OR PROVIDE LIMITED ADD-ON FUNCTIONALITY) OF THE LICENSED TIBCO SOFTWARE. THE EMBEDDED OR BUNDLED SOFTWARE IS NOT LICENSED TO BE USED OR ACCESSED BY ANY OTHER TIBCO SOFTWARE OR FOR ANY OTHER PURPOSE.

USE OF TIBCO SOFTWARE AND THIS DOCUMENT IS SUBJECT TO THE TERMS AND CONDITIONS OF A LICENSE AGREEMENT FOUND IN EITHER A SEPARATELY EXECUTED SOFTWARE LICENSE AGREEMENT, OR, IF THERE IS NO SUCH SEPARATE AGREEMENT, THE CLICKWRAP END USER LICENSE AGREEMENT WHICH IS DISPLAYED DURING DOWNLOAD OR INSTALLATION OF THE SOFTWARE (AND WHICH IS DUPLICATED IN THE LICENSE FILE) OR IF THERE IS NO SUCH SOFTWARE LICENSE AGREEMENT OR CLICKWRAP END USER LICENSE AGREEMENT, THE LICENSE(S) LOCATED IN THE "LICENSE" FILE(S) OF THE SOFTWARE. USE OF THIS DOCUMENT IS SUBJECT TO THOSE TERMS AND CONDITIONS, AND YOUR USE HEREOF SHALL CONSTITUTE ACCEPTANCE OF AND AN AGREEMENT TO BE BOUND BY THE SAME.

This document is subject to U.S. and international copyright laws and treaties. No part of this document may be reproduced in any form without the written authorization of TIBCO Software Inc.

TIBCO, the TIBCO logo, the TIBCO O logo, FOCUS, iWay, Omni-Gen, Omni-HealthData, and WebFOCUS are either registered trademarks or trademarks of TIBCO Software Inc. in the United States and/or other countries.

Java and all Java based trademarks and logos are trademarks or registered trademarks of Oracle Corporation and/or its affiliates.

All other product and company names and marks mentioned in this document are the property of their respective owners and are mentioned for identification purposes only.

This software may be available on multiple operating systems. However, not all operating system platforms for a specific software version are released at the same time. See the readme file for the availability of this software version on a specific operating system platform.

THIS DOCUMENT IS PROVIDED "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, OR NON-INFRINGEMENT.

THIS DOCUMENT COULD INCLUDE TECHNICAL INACCURACIES OR TYPOGRAPHICAL ERRORS. CHANGES ARE PERIODICALLY ADDED TO THE INFORMATION HEREIN; THESE CHANGES WILL BE INCORPORATED IN NEW EDITIONS OF THIS DOCUMENT. TIBCO SOFTWARE INC. MAY MAKE IMPROVEMENTS AND/OR CHANGES IN THE PRODUCT(S) AND/OR THE PROGRAM(S) DESCRIBED IN THIS DOCUMENT AT ANY TIME.

THE CONTENTS OF THIS DOCUMENT MAY BE MODIFIED AND/OR QUALIFIED, DIRECTLY OR INDIRECTLY, BY OTHER DOCUMENTATION WHICH ACCOMPANIES THIS SOFTWARE, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO ANY RELEASE NOTES AND "READ ME" FILES.

This and other products of TIBCO Software Inc. may be covered by registered patents. Please refer to TIBCO's Virtual Patent Marking document (<https://www.tibco.com/patents>) for details.

Copyright © 2021. TIBCO Software Inc. All Rights Reserved.